



# LUCICAM ネットワークレコーダー

Ver.4.7.2 対応

---

LC-NV5004/5008/5016/5032/5064 ユーザーマニュアル

バージョン：V 1.0  
2025.12.23 改定

# 法的通知

## 商標に関する声明 :

VGA は IBM Corporation の商標です。

Windows ロゴおよび Windows は Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

本文書に記載されるその他の商標または会社名は、それぞれの所有者に帰属します。

## 責任に関する声明 :

適用される法律で許可される範囲内において、本書の内容および記載されている製品に起因する特別損害、付随的損害、または結果的損害について、会社は一切の補償を行いません。また、利益の損失、データの損失、信用の損失、文書の紛失または期待される節約の損失に対する補償も行いません。 本書に記載されている製品は「現状のまま」提供されており、適用される法律で義務付けられている場合を除き、会社はいかなる保証も提供しません。また、明示的または黙示的な保証（商品性、品質の満足度、特定の目的への適合性、第三者の権利の侵害などを含みますが、これらに限定されません）も提供いたしません。

## プライバシー保護に関する注意喚起 :

当社の製品を使用する場合、顔、指紋、ナンバープレート、メール、電話番号、GPS などの個人情報が収集される可能性があります。製品の使用にあたっては、地域または国のプライバシー保護に関する法律および規制を遵守し、他者の正当な権利と利益を保護する必要があります。例えば、明確で目立つ標識を設置し、ビデオ監視エリアの存在を関連する権利者に通知し、対応する連絡先情報を提供してください。

## 本書について :

- ・ 本書は複数のモデルを対象としています。製品の外観および機能は実際の製品に準じます。
- ・ 本書の指示に従わなかったことにより生じた損失は、ユーザーの責任となります。
- ・ 本書は関連地域の法令に基づき隨時更新されます。詳細は製品の紙媒体、電子 CD、QR コード、または公式ウェブサイトをご参照ください。紙媒体と電子ファイルに不一致がある場合は、電子ファイルを優先してください。
- ・ 当社は本書の情報を隨時変更する権利を留保します。
- ・ 改訂内容は事前通知なく新版ドキュメントに追加されます。
- ・ 本資料には技術的な不正確さ、製品機能・操作との不一致、または誤植が含まれる可能性があり、これらは当社の最終解釈に従うものとします。

# ネットワークセキュリティに関するアドバイス

## 機器の基本的なネットワークセキュリティを確保するために必要な対策：

パスワードを定期的に変更し、強固なパスワードを設定してください。

パスワードを定期的に変更しない、または脆弱なパスワードを使用しているデバイスは、ハッキングのリスクが高まります。デフォルトのパスワードを変更し、可能な限り強固なパスワード（大文字、小文字、数字、記号を含む最低 6 文字以上）を使用することを推奨します。

## ファームウェアの更新

NVR、DVR、および IP カメラのファームウェアは最新バージョンに更新し、機器の最新機能とセキュリティを確保してください。

以下の推奨事項により、デバイスのネットワークセキュリティを強化できます：

### 1. パスワードを定期的に変更する

ログイン認証情報を定期的に変更することで、権限のあるユーザーのみがデバイスにログインできるようになります。

### 2. デフォルトの HTTP ポートとデータポートを変更する

リモート通信や映像閲覧に使用されるデフォルトの HTTP ポートとデータポートを変更してください。

これらのポートは 1025～65535 の範囲で任意の番号に設定可能です。デフォルトポートの変更により、侵入者が使用ポートを推測するリスクを低減します。

### 3. HTTPS/SSL 暗号化を使用する

SSL 証明書を設定し、HTTPS 暗号化通信を有効化します。フロントエンドデバイスと録画デバイス間の情報伝送が完全に暗号化されます。

### 4. IP フィルタリングを有効化

IP フィルタリングを有効化すると、指定された IP アドレスを持つデバイスのみがシステムにアクセスできます。

### 5. 使用必須ポートのみを転送

使用する必要があるネットワークポートのみを転送し、長いポートエリアの転送を避けてください。また、デバイスの IP を DMZ に設定しないでください。カメラが NVR にローカル接続されている場合、各カメラのポートを転送する必要はなく、NVR のポートのみを転送してください。

### 6. 監視システム用に異なるユーザー名とパスワードを使用する

万が一、SNS アカウントや銀行口座、メールなどの情報が漏洩した場合でも、アカウント情報を入手した者が監視システムに侵入することはできません。

### 7. 一般アカウントの権限を制限する

システムが複数ユーザーに対応している場合、各ユーザーが自身の権限範囲のみにアクセスできることを確認してください。

### 8. UPnP をサポートする

UPnP プロトコルを有効にすると、ルーターが自動的にインターネットポートをマッピングします。この機能はユーザーフレンドリーですが、対応するポートのデータが自動的に転送されるため、本来制限されるべきデータが他者に盗まれる可能性があります。ルーターで HTTP および TCP ポートマッピングを手動で設定している場合、この機能を無効にすることを強くお勧めします。実際の使用シナリオでも、この機能を有効にしないことを強く推奨します。

## **9.SNMP のサポート**

SNMP を使用しない場合は、無効にすることを強く推奨します。SNMP 機能はテスト目的の一時的な使用に限定されます。

## **10.マルチキャストのサポート**

マルチキャスト技術は、複数のビデオストレージデバイスでビデオデータを伝送するための技術手段に適しています。現在までに、マルチキャスト技術に関連する既知の脆弱性は報告されていませんが、この機能を使用していない場合は、ネットワーク上のマルチキャスト再生を無効にすることをお勧めします。

## **11.ログの確認**

デバイスのセキュリティ状態を確認したい場合は、ログを確認して異常なアクセス操作を発見できます。デバイスログには、ログインを試みた IP アドレスやユーザーの操作内容が記録されます。

## **12.デバイスの物理的保護**

デバイスの安全性を確保するため、不正な物理的操作から保護することを強く推奨します。施錠可能な部屋に設置し、施錠可能なキャビネットやボックス内に収納してください。

IP カメラを NVR に接続する際は PoE の使用を強く推奨します。

PoE 経由で NVR に接続された IP カメラは他のネットワークから隔離されるため、直接アクセスされることはありません。

## **13.NVR と IP カメラ間のネットワーク分離**

NVR と IP カメラをコンピュータネットワークから分離することを推奨します。これにより、コンピュータネットワーク上の不正ユーザーがこれらのデバイスにアクセスするのを防げます。

# この文書について

## 目的

この文書では、NVR（ネットワークビデオレコーダー）デバイスのインストール、使用方法、およびインターフェース操作について説明します。

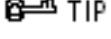
## 変更ログ

V1.0 : 初回リリース

V2.0 : UI の変更、機能の追加

## シンボルの規約

この文書内で使用される記号は、以下の通り定義されます

シンボル	説明
 DANGER	生命を脅かす可能性がある危険または危険な状況がある場合に警告します。
 WARNING	避けなければならない中程度または低リスクの危険を警告し、それを避けなければ中程度または軽度の怪我を引き起こす可能性があります。
 CAUTION	避けなければならない潜在的に危険な状況を警告し、それを避けなければ機器の損傷、データ損失、性能の低下、または予期しない結果を引き起こす可能性があります。
 TIP	問題を解決したり、時間を節約したりするのに役立つヒントを提供します。
 NOTE	本文中の重要なポイントを強調または補足するための追加情報を提供します。

# 安全上の注意

以下の内容は本製品の正しい使用方法です。危険や物的損害を防ぐため、本装置を使用する前に本マニュアルをよくお読みいただき、使用時には厳守してください。お読みになった後はマニュアルを保管してください。

## 設置要件

- POE 機器：POE 対応のフロントエンド機器は屋内に設置してください。
- 卓上設置：NVR 機器は壁掛け設置に対応していません。
- 直射日光・熱源回避・直射日光が当たる場所や発熱機器の近くに設置しないでください。
- 環境条件：高湿度・粉塵・煤煙の発生する場所への設置は避けてください。
- 落下防止：装置は水平に設置するか、安定した場所に設置し、製品が落下しないよう注意してください。
- 乾燥保持：装置に液体をこぼしたり、液体の入った物品を置いたりせず、液体が装置内部に流入しないようにしてください。
- 換気確保：通気性の良い場所に設置し、本体の通気口を塞がないでください。
- 適正使用：定格入力・出力範囲内で使用してください。
- 分解禁止：無断で分解しないでください。
- 輸送・保管：許可された湿度・温度範囲内で輸送・使用・保管してください。

## 電源要件

- 必ず指定メーカーのモデルバッテリーを使用してください。爆発の危険があります！
- 必ず規定通りにバッテリーを使用してください。バッテリーの発火、爆発、または燃焼の危険があります！
- バッテリー交換時は同一モデルのバッテリーのみを使用してください！
- 使用済みバッテリーは必ずバッテリーの指示に従って廃棄してください！
- 本装置の規格に適合した電源アダプターを使用してください。不適合の場合、ユーザーによる人身事故や機器損傷の責任はユーザーが負います。
- 限定電源に従い、SELV（安全超低電圧）要件を満たす電源を使用し、IEC60950-1 の定格電圧に従って給電してください。具体的な電源要件は機器ラベルを参照してください。
- クラス I 製品は、保護接地付き電源コンセントに接続してください。
- 本装置はポートユニットに接続されています。正常使用のため適切な角度を保ってください。

## 重要なお知らせ

ユーザーは、関連法規を厳守し、映像監視製品の合法的傍受（LI）インターフェースを有効化・維持する必要があります。企業または個人が、現地法の許可範囲を超えて従業員の行動や作業効率を監視するためにオフィスエリアに監視装置を設置すること、および違法な目的で盗聴のために映像監視装置を使用することは、違法な傍受行為に該当します。

このマニュアルは参考用であり、情報が実際の製品と一致することを保証するものではありません。一致を確認するには、実際の製品を参照してください。

# 目次

法的通知.....	2
商標に関する声明： .....	2
責任に関する声明： .....	2
プライバシー保護に関する注意喚起： .....	2
本書について： .....	2
ネットワークセキュリティに関するアドバイス.....	3
機器の基本的なネットワークセキュリティを確保するために必要な対策： .....	3
ファームウェアの更新 .....	3
この文書について .....	5
目的.....	5
変更ログ .....	5
シンボルの規約 .....	5
安全上の注意.....	6
設置要件 .....	6
電源要件 .....	6
重要なお知らせ .....	6
1 前書き .....	14
1.1 製品概要.....	14
1.2 製品特徴.....	14
2 製品構造 .....	16
2.1 フロントパネル.....	16
2.2 バックパネル .....	17
2.3 NVR の接続 .....	19
2.4 重要事項 .....	21
2.5 本取扱説明書について .....	21
2.6 設置環境と注意事項 .....	21
設置環境.....	21
設置上の注意事項 .....	21
その他の注意事項.....	22
3 デバイスのインストール.....	23
3.1 手順.....	23
3.2 開梱検査.....	24

3.3 ハードディスクの取り付け .....	24
3.3.1 1台または2台のハードディスクの取り付け .....	24
3.3.2 4台のハードディスクの取り付け .....	26
3.3.3 8台のハードディスクの取り付け .....	26
4 基本操作 .....	28
4.1 デバイスの電源を入れる .....	28
4.2 初期設定 .....	29
4.3 ウィザード .....	32
4.4 デバイスの電源を切る .....	38
4.5 システムへのログイン .....	38
5 クイックナビゲーション .....	40
5.1 クイックバー .....	40
5.2 リアルタイム映像バー .....	47
5.3 再生 .....	49
5.3.1 時間検索 .....	51
5.3.2 画像グリッド .....	52
5.3.3 イベント録画 .....	53
5.3.4 バックアップリスト .....	54
5.4.1 AI ビデオ検索 .....	54
5.4.2 アーカイブ .....	58
5.5 勤怠（一部モデルのみ） .....	60
5.5.1 勤怠データ .....	60
5.5.2 勤怠管理 .....	61
5.6 サーマル .....	63
5.6.1 温度パラメーター .....	63
5.6.2 温度領域 .....	65
5.6.3 スケジュール連携 .....	68
5.6.4 詳細設定 .....	69
5.6.5 検索 .....	69
5.7 チャンネル情報 .....	70
5.8 メインメニュー .....	70
6 システム設定 .....	71
6.1 チャンネル管理 .....	71

6.1.1 カメラ .....	71
6.1.2 エンコードパラメーター .....	76
6.1.3 イメージ設定 .....	77
6.1.4 OSD 設定 .....	79
6.1.5 プライバシーマスク .....	80
6.1.6 ROI .....	81
6.1.7 音声（一部モデルのみ） .....	82
6.1.8 オートトラッキング（一部モデルのみ） .....	85
6.2 スピーカー .....	87
6.2.1 スピーカー管理 .....	87
6.3 録画設定 .....	89
6.3.1 録画スケジュール .....	89
6.3.2 ディスク管理 .....	91
6.3.3 ストレージモード .....	92
6.3.4 S.M.A.R.T .....	93
6.3.5 RAID（一部モデルのみ） .....	94
6.3.6 HDD 診断 .....	95
6.3.7 録画日数計算 .....	96
6.3.8 FTP .....	96
6.4 イベント管理 .....	97
6.4.1 一般 .....	97
6.4.2 モーション検出 .....	98
6.4.3 ビデオロス .....	101
6.4.4 アラーム入力 .....	102
6.4.5 異常アラーム（モデルにより異なります） .....	103
6.4.6 アラーム出力 .....	103
6.5 AI 分析 .....	107
6.5.1 AI 検出対象 .....	107
6.5.2 AI 分析（一部モデルのみ） .....	109
6.5.3 行動分析 .....	112
6.5.4 ES 分析 .....	116
6.5.5 顔認証 .....	119
6.5.6 LPR（ナンバープレート認識） .....	121

6.5.7 ローカル AI 分析 .....	125
6.6 ネットワーク管理 .....	128
6.6.1 ネットワーク .....	129
6.6.2 802.1X .....	133
6.6.3 DDNS .....	134
6.6.4 ポートマッピング .....	134
6.6.5 E メール .....	136
6.6.6 P2P .....	138
6.6.7 IP アドレスフィルタ .....	139
6.6.8 SNMP .....	140
6.6.9 : 3G/4G .....	141
6.6.10 PPPOE .....	142
6.6.11 POE ステータス (一部モデルのみ) .....	143
6.6.12 ネットワーク帯域幅 .....	143
6.6.13 プラットフォームアクセス .....	144
6.6.14 故障切換 .....	145
6.7 システム管理 .....	147
6.7.1 システム設定 .....	147
6.7.2 一般 .....	149
6.7.3 ユーザーアカウント .....	153
6.7.4 セキュリティセンター .....	156
6.7.5 レイアウト .....	159
6.7.6 補助スクリーン (一部モデルのみ) .....	160
6.7.7 ログ .....	161
6.7.8 .....	162
メンテナンス .....	162
6.7.8.1 クラウドアップデート .....	164
6.7.9 自動再起動 .....	164
7 WEB クイックスタート .....	165
7.1 アクティベーション .....	165
7.2 ログインとログアウト .....	166
7.2.2 ライブビュー .....	171
7.2.3 チャンネル操作 .....	172

7.2.4 PTZ 制御と設定	172
7.2.5 イメージ設定	176
7.2.6 レイアウト	177
7.3 再生	177
7.3.1 録画再生	177
7.4 アラーム検索	179
7.4.1 イベント録画	179
7.5 勤怠管理（一部モデルのみ）	180
7.5.1 勤怠データ	180
7.5.2 勤怠管理	181
7.6 サーマル	183
7.7 AI 応用（一部モデルのみ）	184
7.7.1 AI ビデオ検索	184
7.7.2 アーカイブ	186
8 システム設定	188
8.1 チャンネル	188
8.1.1 カメラ	188
8.1.2 エンコード	190
8.1.3 画像	191
8.1.4 OSD	192
8.1.5 プライバシーマスク	192
8.1.6 ROI	193
8.1.7 音声（一部モデルのみ）	193
8.1.8 オートトラッキング（一部モデルのみ）	194
8.2 スピーカー	194
8.2.1 スピーカー管理	194
8.2.2 ローカル音声ファイル	194
8.3 録画	195
8.3.1 録画スケジュール	195
8.3.2 HDD	195
8.3.3 ストレージモード	196
8.3.4 RAID（一部モデルのみ）	197
8.3.5 S.M.A.R.T	198

8.3.6 録画日数計算 .....	199
8.3.7 FTP .....	199
8.4 イベント .....	199
8.4.1 一般 .....	199
8.4.2 モーション検出 .....	200
8.4.3 ビデオロス .....	201
8.4.4 アラーム入力 .....	201
8.4.5 異常アラーム .....	202
8.4.6 アラーム出力 .....	202
8.5 AI 分析 .....	203
8.5.1 AI 検出対象 .....	203
8.5.2 AI 分析（一部モデルのみ） .....	203
8.5.3 行動分析 .....	203
8.5.4 ES 分析 .....	204
8.5.5 顔認証 .....	205
8.5.6 LPR .....	206
8.5.7 ローカル AI 分析 .....	207
8.6 ネットワーク .....	208
8.6.1 ネットワーク .....	208
8.6.2 DDNS .....	209
8.6.3 E メール .....	210
8.6.4 ポートマッピング .....	210
8.6.5 P2P .....	211
8.6.6 IP フィルタ .....	212
8.6.7 802.1X .....	213
8.6.8 SNMP .....	214
8.6.9 Web モード .....	215
8.6.10 CMS .....	216
8.6.11 3G/4G .....	216
8.6.12 PPPOE .....	216
8.6.13 POE ステータス（一部モデルのみ） .....	217
8.6.14 プラットフォームアクセス .....	217
8.6.15 故障切換 .....	217

8.7 システム.....	218
8.7.1 デバイス情報.....	218
8.7.2 一般.....	220
8.7.3 ユーザーアカウント .....	222
8.7.4 セキュリティセンター .....	223
8.7.5 ログ.....	225
8.7.6 メンテナンス.....	226
8.7.7 自動再起動.....	226
9 HDD の互換性 .....	228

# 1 前書き

## 1.1 製品概要

本製品は高性能 NVR デバイスです。ローカルプレビュー、映像マルチ画面分割表示、映像ファイルのローカルリアルタイム保存機能を備え、マウス操作、リモート管理・制御をサポートしています。

本製品は、中央集中型ストレージ、フロントエンドストレージ、クライアントストレージの 3 種類の保存方式をサポートします。フロントエンド監視ポイントは地理的制約なくネットワーク内の任意の場所に設置可能です。ネットワークカメラ、ネットワークビデオサーバー構築、専門的な映像監視システムなどの他のフロントエンド機器と組み合わせることで、強力なセキュリティ監視ネットワークを構築します。

本製品のネットワーク展開システムでは、中央拠点と監視拠点の接続にネットワークケーブル 1 本のみで対応。映像・音声ケーブルの接続が不要なため、操作が簡便で配線・保守コストが低減されます。

本製品は公安、交通、電力、教育などの業界で幅広く活用されています。

## 1.2 製品特徴

クラウドアップグレード：インターネット接続可能なデバイスに対し、オンラインでのソフトウェア更新を実現。

リアルタイム監視：VGA (Video Graphics Array) ポートと HDMI (High Definition Media Interface) ポートを装備。モニターやディスプレイを介した監視機能を実現し、VGA と HDMI の同時出力をサポート。

再生機能：各チャンネルは独立したリアルタイム録画機能と、検索・再生・ネットワーク監視・映像照会・ダウンロードなどの多機能を備えています。詳細は「再生」章をご参照ください。

- 録画再生時にイベント発生の正確な時刻を表示可能
- 画面任意の領域を選択して部分拡大表示が可能

ユーザー管理：各ユーザーグループには権限管理セットが設定され、自律的に選択可能です。総権限セットはサブセットであり、グループ内のユーザー権限はユーザーグループの権限管理セットを超えることはできません。

ストレージ機能：ユーザーの構成とポリシー（アラームまたは時間設定）に基づき、遠隔デバイスから送信される対応する音声・映像データを NVR デバイスに保存します。詳細は「ストレージ管理」章を参照してください。

ユーザーは必要に応じて WEB モードで録画できます。動画ファイルはクライアントが設置されているコンピュータに保存されます。詳細は「ストレージ」章を参照してください。

警報機能：外部警報入力へのリアルタイム対応、ユーザーの事前設定した連動設定に基づく適切な処理、および対応する通知を行います。

中央警報受信サーバーの設定オプションを提供し、警報情報を能動的かつ遠隔で通知できるようにします。警報入力は接続された各種外部デバイスから取得可能です。

警報情報はメールまたは APP プッシュ通知でユーザーへ通知可能です。

ネットワーク監視：ネットワーク経由で、NVR 装置の IP カメラまたは NVS (ネットワークビデオサーバー) の音声・映像データをネットワーク端末へ伝送し、復号・再生を行います。

本装置は最大 8 台の同時オンラインユーザーによるストリーミング操作をサポートしています。

音声・映像データは HTTP (Hyper Text Transfer Protocol)、TCP (Transmission Control Protocol)、UDP (User Datagram Protocol)、マルチキャスト、RTP (Real-time Transport Protocol)、RTCP (Real Time Streaming Protocol) などのプロトコルで伝送されます。

一部の警報データや情報には SNMP (Simple Network Management Protocol) を使用します。

WAN 環境および LAN 環境でシステムにアクセスするための WEB モードをサポートします。

分割画面：画像圧縮とデジタル化技術により、複数画像を同一スケールで圧縮し、1台のモニター画面に表示します。プレビュー時は1/4/8/9/16/32分割、再生時は1/4/9/16分割に対応。

録画機能：通常録画、動体検知録画、アラーム録画、インテリジェント録画をサポート。録画ファイルはハードディスク装置、USB（ユニバーサルシリアルバス）装置、クライアントPC（パソコンコンピュータ）に保存されます。WEB端末、USB装置、ローカル装置に接続可能。保存された動画ファイルの検索・再生が可能です。

バックアップ機能：USB、eSATAによる動画バックアップ、NAS（ネットワーク接続ストレージ）をサポートしています。

外部デバイス制御：周辺機器制御機能をサポートし、各周辺機器の制御プロトコルと接続インターフェースを必要に応じて設定可能です。

RS232やRS485など複数インターフェースの透過データ伝送をサポートしています。

アクセシビリティ：

- 映像 NTSC（全米テレビジョン規格委員会）方式および PAL（位相変調ライン）方式をサポート。
- システムリソース情報の表示と稼働状態のリアルタイム表示をサポート。
- ログ記録をサポート。
- ローカル GUI（グラフィカルユーザーインターフェース）出力とマウスによるクリックメニュー操作をサポート。
- リモート IPC または NVS デバイスからの音声・動画再生をサポート。

その他の機能については、以下の本文をご参照ください。

## 2 製品構造

### 2.1 フロントパネル

図 2.1-1：モデル A

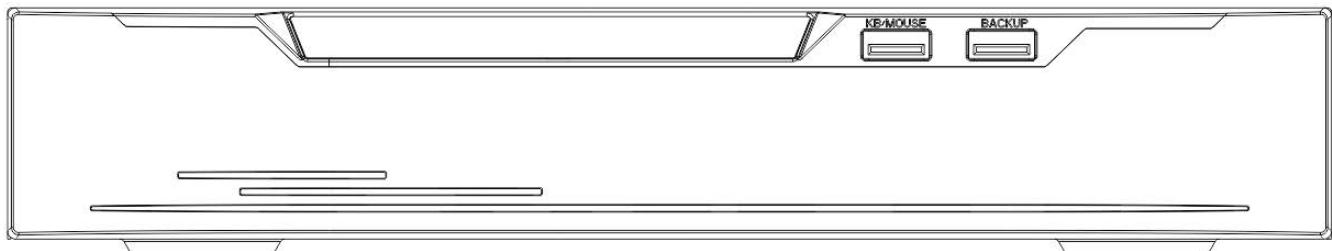


表 2.1-1 フロントパネルの機能(モデル A)

	説明
PWR	NVR が動作中は、PWR インジケータが点灯します。 NVR をシャットダウンすると PWR インジケータが消灯します。
HDD	ハードディスク状態インジケータ。 データ転送中は点滅します
POE	PoE ネットワーク状態インジケータ。 データ転送中は点滅します。
KB/MOUSE	USB マウスのみ接続できます。
BACKUP	USB メモリのみ接続できます。

図 2.1-2 モデル B

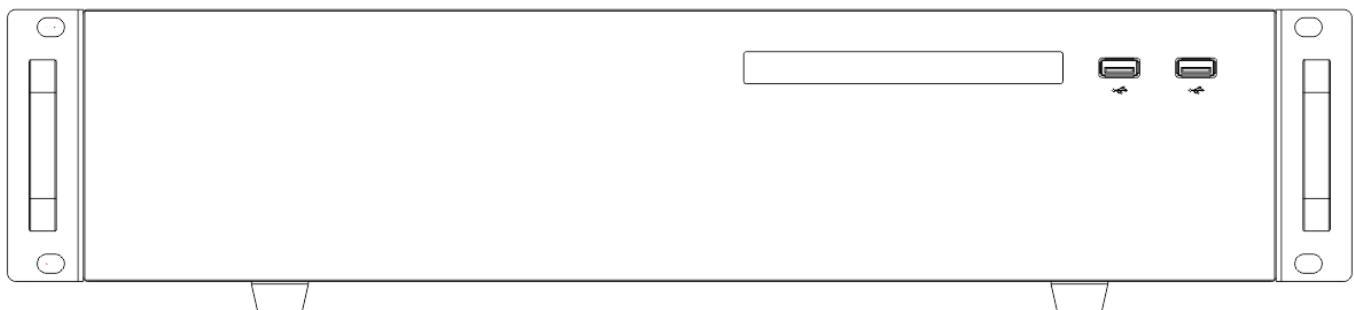


表 2.1-2 フロントパネルの機能(モデル B)

	説明
PWR	NVR が動作中は、PWR インジケータが点灯します。 NVR をシャットダウンすると PWR インジケータが消灯します。
HDD	ハードディスク状態インジケータ データ転送中は、このインジケータが点滅します。
USB	USB マウスのみ接続できます。

## 2.2 バックパネル

各モデルにより背面パネルが異なります。本章では全てのインターフェースの機能について説明しますが、ご購入いただいた機器に全ての機能が搭載されていることを保証するものではありません。実際の製品をご確認ください。画像は参考用です。

図 2.2-1

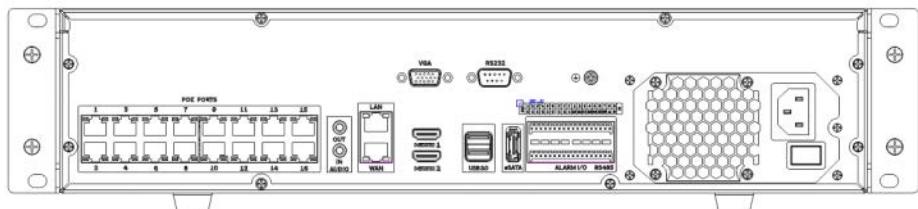


図 2.2-2

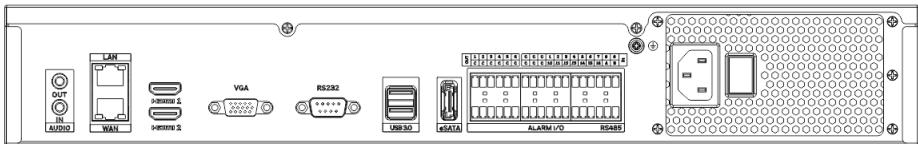
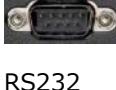
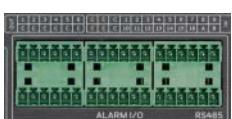
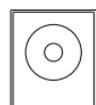


表 2.2-1 バックパネルの機能

	説明
 LAN	RJ45 10/100/1000 Mbps 自動設定対応イーサネットインターフェース。 スイッチまたはルーターに接続され、カメラは同一のローカルエリアネットワークに接続され、NVR に追加可能です。機器に LAN インターフェースしか搭載されていない場合は、LAN を外部広域ネットワークにも接続可能です。
 WAN	RJ45 10/100/1000 Mbps 自動認識イーサネットインターフェース。 スイッチまたはルーターに接続され、外部広域ネットワーク（WAN）に接続します。これは複数のユーザーが NVR を管理するためのものです。
 Audio output / Audio input	オーディオ出力は、スピーカーなどのオーディオ出力デバイスに接続できます。 オーディオ入力は、マイクなどのオーディオ入力デバイスに接続できます。 これらのインターフェースは、インターホンに必要なものです。
 HDMI/HDMI1/HDMI2	HDMI/HDMI1/HDMI2、ビデオ出力インターフェース ユーザーは HDMI ケーブルを使用してモニターに接続できます。
 VGA	ビデオ出力インターフェース ユーザーは VGA ケーブルを使用してモニターに接続できます。デバイスに補助スクリーン機能がある場合、VGA には補助スクリーンの内容が表示されます。
 RS232	本機器の標準 RS232 シリアル通信インターフェース。

	USB 3.0 接続の USB メモリのみ接続できます。
	外付けハードディスクインターフェース。
ESATA port	
	アラーム出力/アラーム入力および RS485。 C は COM 端子を、 OUT はアラーム出力端子を表し、 警報灯やブザーなどの警報出力装置に接続できます。 IN はアラーム入力端子を表し、 ドアベルやスイッチなどの警報入力装置に接続できます。 A/B は RS485 の 2 つの端子を表します。
GND	GND、安全アース用ネジ。
	POE ネットワークインターフェース カメラを直接接続でき、 POE 給電にも対応しています。
POE port	
	電源スイッチ
Power switch	
	DC12V の外部電源アダプターに接続されます。
Power socket	
	AC 110V/220V 電源入力インターフェース
Power socket	
	外部電源アダプターDC48V に接続されます。
Power socket	



Power socket

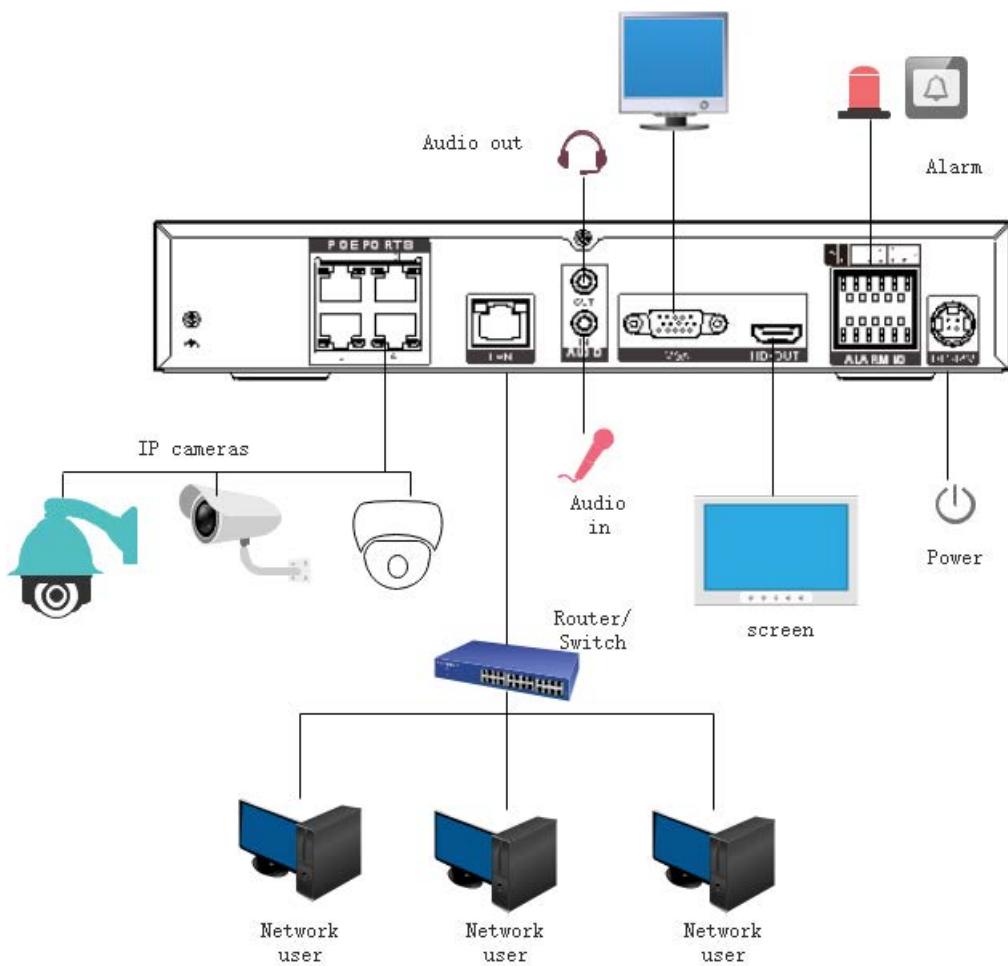
冗長電源.

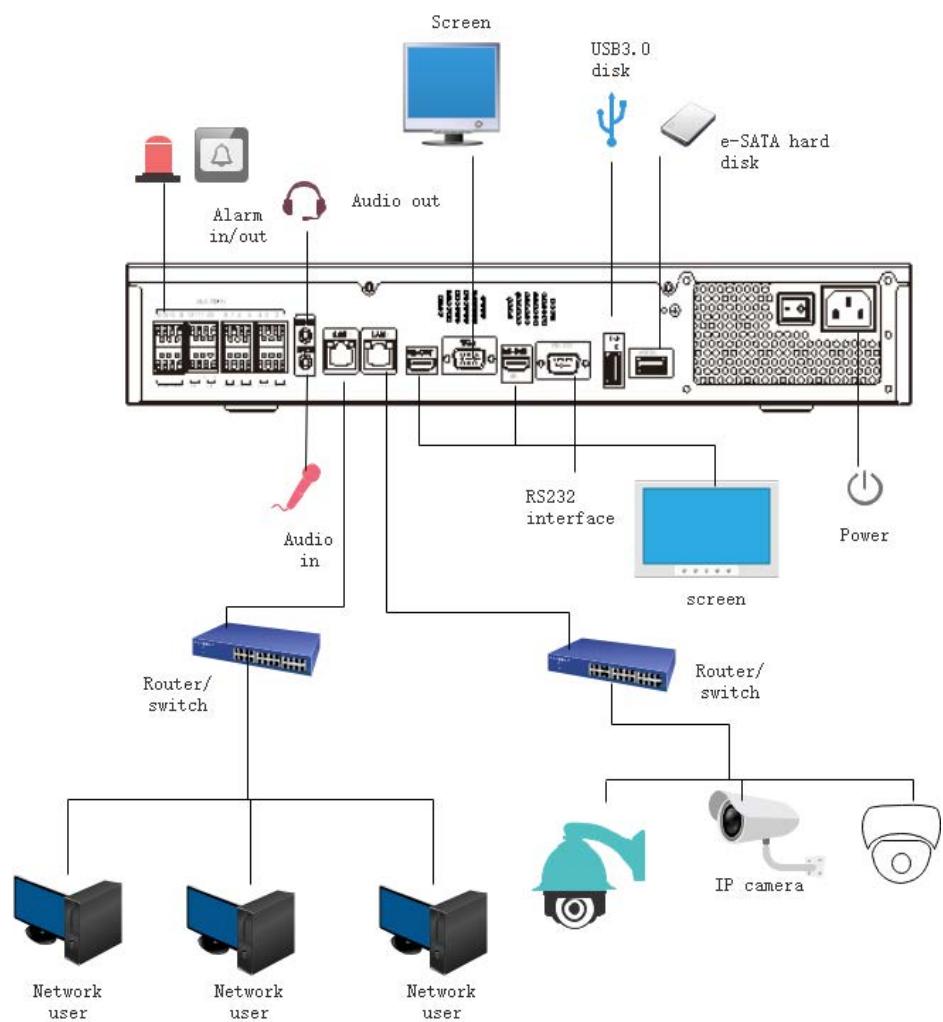
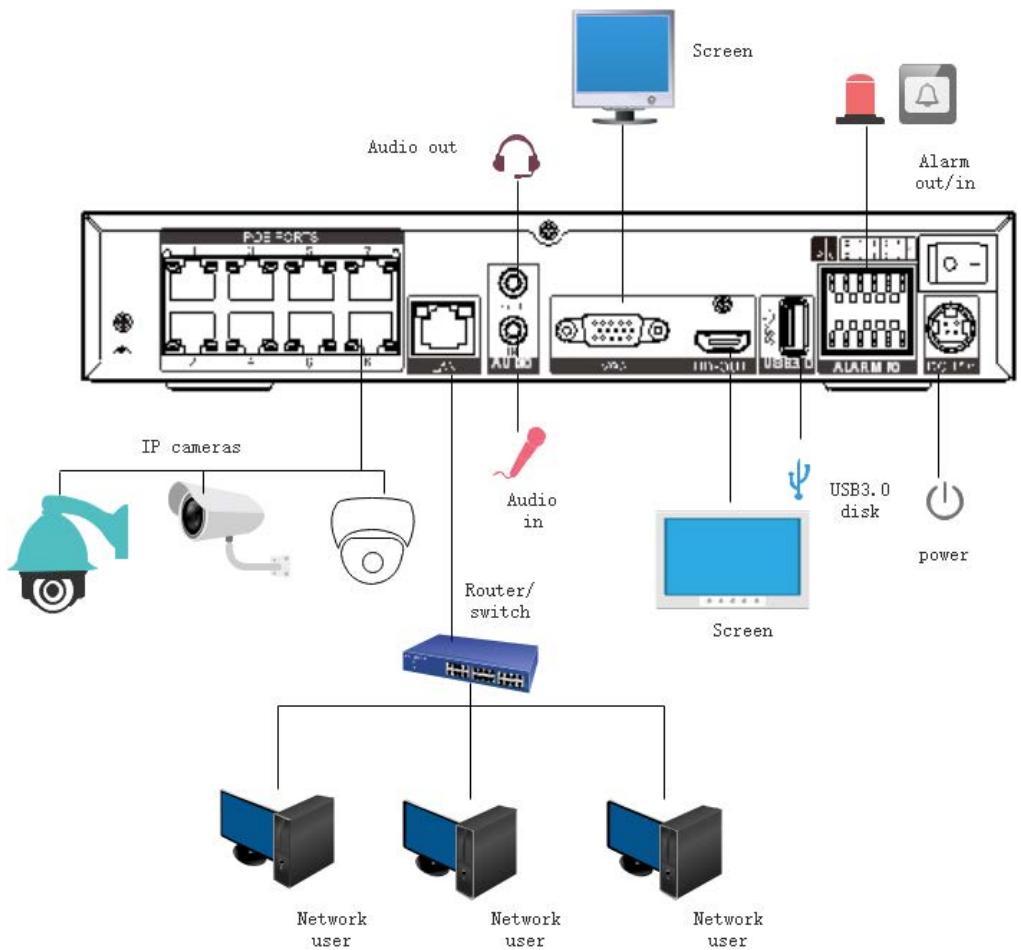
## 2.3 NVR の接続

### NOTE

以下の画像は参考用です

図 2.3-1:NVR の接続





## 2.4 重要事項

NVRをご購入いただきありがとうございます。本製品をご使用になる前に、必ず取扱説明書をよくお読みください。

NVRは複雑なシステムベースの機器です。設置・調整・運用時の環境要因や人的要因による誤操作や故障を避けるため、本製品の設置・使用時には以下の点にご注意ください：

- 本製品の設置・使用前に取扱説明書をよくお読みください。
- NVRのストレージデバイスには、安定性が高くコストパフォーマンスに優れた監視専用ハードディスクをご使用ください（市販ハードディスクはブランド・モデルにより品質に大きな差があります）。
- 損傷や感電を防ぐため、専門技術者以外による本製品筐体の開封は絶対に行わないでください。
- 不適切な設置・設定・操作、またはハードディスクの故障による映像データの損失について、当社は一切の責任を負いかねます。
- 本資料内の画像はすべて参考用です。実際の製品をご確認ください。

## 2.5 本取扱説明書について

本取扱説明書をご利用になる前に、以下の点にご注意ください。

- 本取扱説明書は、NVRを操作・使用する方を対象としています。
- 本取扱説明書の記載内容は、全シリーズのNVRに適用されます。
- NVRをご使用になる前に本マニュアルをよくお読みいただき、NVRの使用時には本マニュアルに記載されている方法に従ってください。
- NVRの使用中に疑問が生じた場合は、製品販売店にお問い合わせください。
- 当社の製品は継続的な改良の対象となるため、当社は予告なく製品マニュアルを変更する権利を留保し、いかなる義務も負わないものとします。

## 2.6 設置環境と注意事項

### 設置環境

表2-4はNVRの設置環境を定義します。

表2.6-1:設置環境

	説明
電磁気	NVRは電磁放射に関する国家基準に準拠しており、人体に害を及ぼしません。
温度	-10°C～+50°C
湿度	相対湿度 90%未満
気圧	86kPa～106kPa
電源	DC 12V 2A (1 HDD、非POE) DC 48V 2A (1 HDD) またはAC110/220V 4A (2 HDD以上) ※実際の製品を参照のこと
消費電力	<15W (not including the hard disk)

### 設置上の注意事項

NVRの設置および操作時には、以下の点に注意してください：

- 電源アダプターの入力電圧は正しく設定してください。電圧は±20%を超えてはいけません。電圧が高すぎたり低すぎたりする場合は、NVRを使用しないでください。
- NVRは水平に設置してください。
- NVRに直射日光が当たらないようにし、熱源や高温環境から遠ざけてください。

- 設置時は NVR を他の機器に正しく接続してください。
- NVR は出荷時、ハードディスクが未搭載です。初回使用時には 1 台以上のハードディスクを取り付けてください。

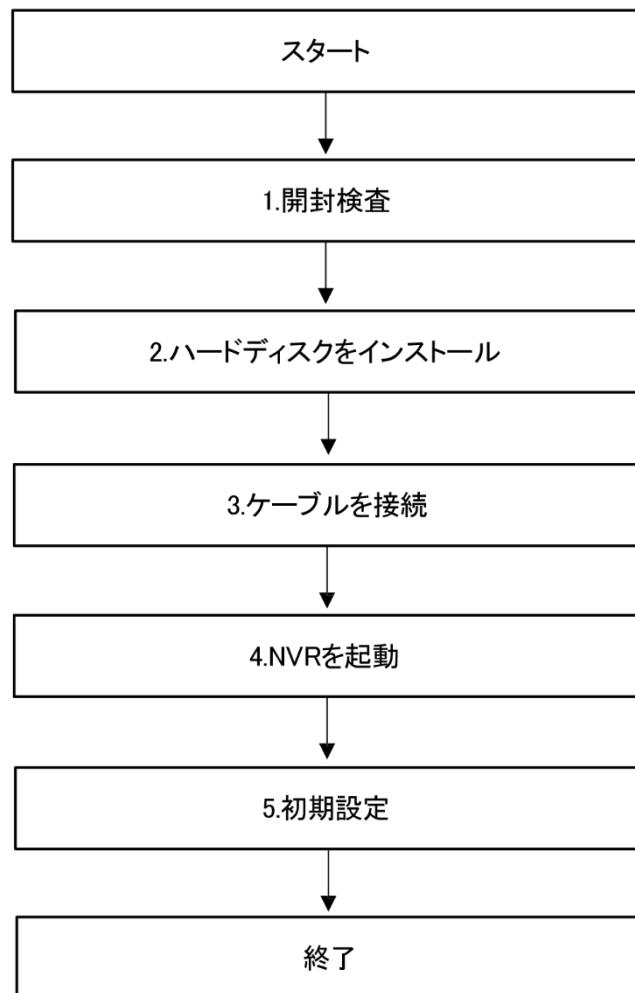
NVR はハードディスク容量を自動認識し、主流のハードディスクモデルに対応しています。安定した動作のためには高品質なハードディスクの使用を推奨します。詳細は第 9 章「ディスク互換性」を参照してください。

## その他の注意事項

- NVR の清掃には柔らかく乾いた布を使用してください。化学溶剤は使用しないでください。
- NVR の上に物を置かないでください。
- 本 NVR は国家の電磁放射基準を満たしており、人体に電磁放射を発生させることはできません。

### 3 デバイスのインストール

#### 3.1 手順



**ステップ 1** デバイスの外観、梱包、ラベルを確認し、損傷がないことを確認します。

**ステップ 2** ハードディスクを取り付け、デバイスブラケットに固定します。

**ステップ 3** デバイスケーブルを接続します。

**ステップ 4** 装置が正しく接続されていることを確認します。電源を入れ、装置を起動します。

**ステップ 5** 装置の初期パラメーターを設定します。セットアップウィザードにはネットワーク設定、カメラの追加、ディスク管理が含まれます。詳細は「ウィザード」章を参照してください。

## 3.2 開梱検査

ビデオレコーダーを受け取ったら、以下の表と照合して確認してください。

問題がある場合は、お気軽に弊社アフターサービスまでご連絡ください。

表 3-1 開梱検査項目

No	項目		確認内容
1	外装全体	外観	明らかな損傷の有無
		パッケージ	衝撃痕の有無
		付属品	数量
2	ラベル	デバイスラベル	機器モデルが注文契約と一致しているか? ラベルが破れていないか  <b>NOTE</b> ラベルは破ったり廃棄したりしないでください。保証サービスが受けられなくなります。販売担当者にご連絡いただく際は、ラベルに記載の製品シリアル番号をご提示ください。
3	筐体	梱包	明らかな損傷の有無
		データケーブル、電源ケーブル、ファン電源、マザーボード	接続が緩んでいないか  <b>NOTE</b> 緩んでいる場合は、当社のアフターサービス担当者までご連絡ください。

## 3.3 ハードディスクの取り付け

初回設置時にハードディスクが取り付けられているか確認してください。推奨ハードディスクモデルをご使用ください。詳細は第9章「ディスク互換性」を参照してください。PC専用ハードディスクの使用は推奨されません。

### CAUTION

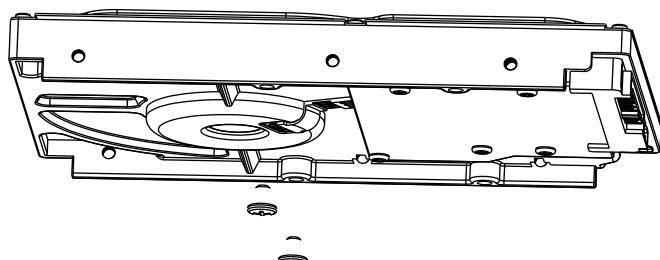
- ハードディスク交換時は、電源を切ってから装置を開けて交換してください。
- ハードディスクメーカーが推奨する監視専用 SATA ハードディスクを使用してください。
- 記録要件に応じてハードディスク容量を選択してください。

### 3.3.1 1台または2台のハードディスクの取り付け

ステップ1 上部カバー固定ネジを外し、カバーを取り外します。

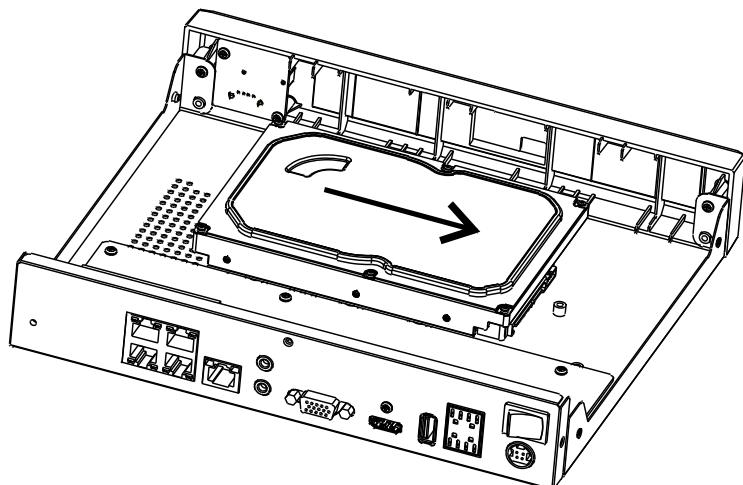
ステップ2 ネジとシリコンクッションを取り出し、ネジをシリコンクッションに通し、図 3-1 のようにネジ穴に固定します。

図 3-1 ハードディスク用ネジの取り付け



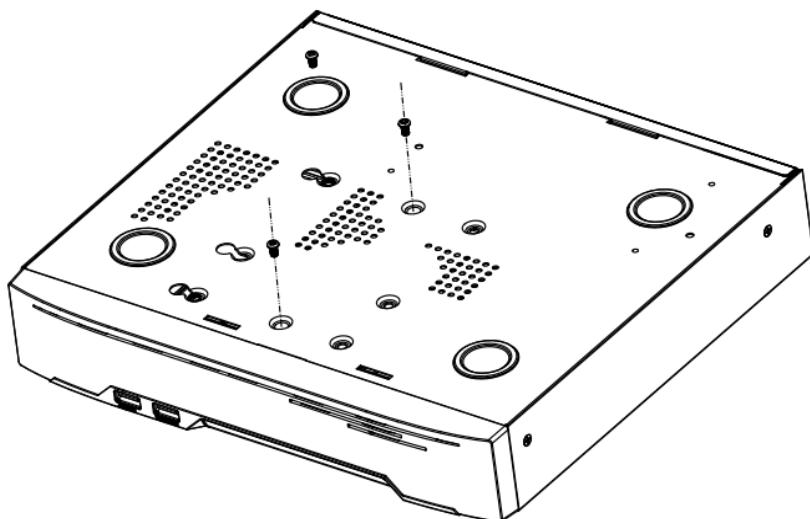
**ステップ 3** ネジをベースの穴に通し、図 3-2 のようにハードディスクを所定の位置に設置します。

図 3-2 ハードディスクの設置



**ステップ 4** デバイスを裏返し、残りの 2 本のネジを固定します（図 3-3 参照）。

図 3-3 ハードディスクの取り付け



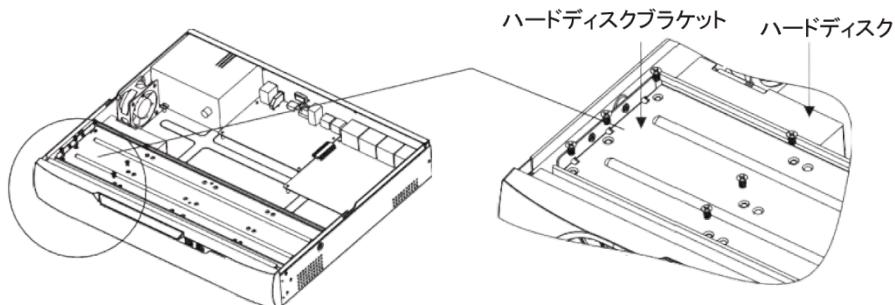
**ステップ 5** ハードディスクのデータケーブルと電源ケーブルを接続し、上部カバーを元に戻して固定ネジを締めます。

### 3.3.2 4台のハードディスクの取り付け

ステップ 1 ネジを緩めて上部カバーを取り外します。

ステップ 2 ハードディスクをハードディスクブラケットの下に置き、片手でハードディスクを持ち、ハードディスクの穴をブラケットの穴に合わせ、ネジを締めて固定します（最初にファンに近いハードディスクを取り付けます）。図 3-4 を参照してください。

図 3-4 ハードディスクの取り付け



ステップ 3 ステップ 2 に従って、他のハードディスクを取り付けます。

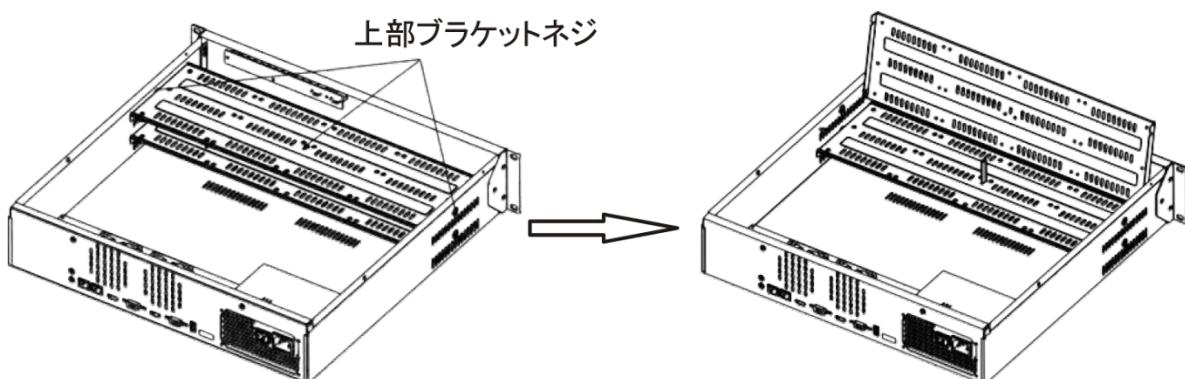
ステップ 4 ハードディスクのデータケーブルと電源ケーブルを接続し、上部カバーを戻して固定ネジを締めます。

### 3.3.3 8台のハードディスクの取り付け

ステップ 1 上部カバー固定ネジを外し、カバーを取り外します。

ステップ 2 両側のネジを緩め、図のように上部ブラケットを持ち上げます。

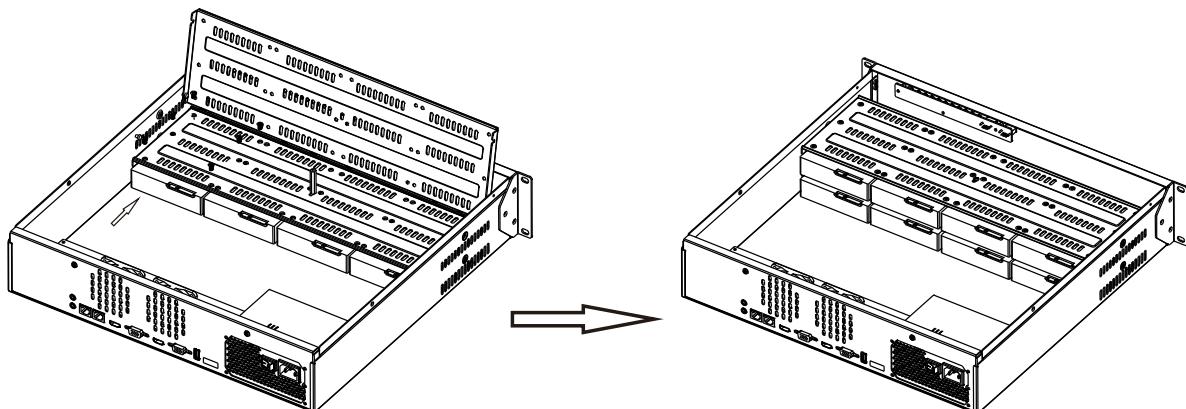
図 3-5 ネジを緩めて上部ブラケットを持ち上げる



ステップ 3 ハードディスクを下部ブラケットの下に置き、片手でハードディスクを持ち、ハードディスクの穴をブラケットの穴に合わせ、図 3-6 に示すようにハードディスクの固定ネジを締めます。

**ステップ 4** 上部ブラケットを引き下げ、ネジを締めて固定します。その後、図 3-6 の右図に示すように、ステップ 3 に従って上層に他のハードディスクを取り付けます。

図 3-6 ネジを外し上部ブラケットを持ち上げる



**ステップ 5** ハードディスクのデータケーブルと電源ケーブルを接続し、上部カバーを戻して固定ネジを締めます。

**NOTE**

NVR にはハードディスクが必要です。デバイス起動時にハードディスクは自動的に検出されます。検出に失敗した場合、以下の原因が考えられます。

- ハードディスクが新品でフォーマットされていない。システムにログインし、ハードディスクをフォーマットしてください。
- ハードディスクはフォーマット済みだが、NVR がサポートするファイルシステムと一致しない。ハードディスクをフォーマットしてください。
- ハードディスクが損傷している。

## 4 基本操作

### 4.1 デバイスの電源を入れる



- 電源を入れる前に、NVR が電源に正しく接続されていること、およびディスプレイが NVR の高精細マルチメディアインターフェース (HDMI) またはビデオグラフィックスアレイ (VGA) ポートに正しく接続されていることを確認してください。
- 一部の環境では、電源異常により NVR が正常に動作しない場合があり、深刻な場合には NVR が損傷する可能性があります。このような環境では、安定化電源を使用して NVR に電源を供給することを推奨します。

NVR を電源に接続すると、電源インジケータが常時点灯します。NVR が起動すると、図 4-1 に示すように、ログイン画面が表示されます。

図 4-1 ログイン画面



## 4.2 初期設定

初回ユーザー：プロンプトに従いパスワードを作成後、図 4-2 に示す初期設定画面へ進みます。パスワードは下表に従って設定してください。

図 4-2 初期設定画面



表 4-1 初期設定項目說明

項目	説明
ユーザー名	デフォルトユーザー名は admin。 admin はスーパー管理者権限です。
パスワード	有効なパスワードは 6~32 文字。
パスワード確認	数字、小文字、大文字、特殊文字を少なくとも 2 種類含むこと。 サポートされる特殊文字は以下の通り ! @ # & * + = - % & " ` ( ) , / . ; < > ? ^   ~ [ ] { } . チャンネルのデフォルトパスワード制限は空欄不可です。
チャンネルパスワード	NVR チャンネル接続パスワードはカメラログインパスワードです。

ユーザーは図 4-3 に示すように、デバイスログインにパターンロックを設定できます。

図 4-3 パターンロック設定



#### NOTE

- パターンロック解除を設定すると、システムのデフォルトログインはパターンロック解除ログインになります。パターンロック解除を設定しない場合は、パスワードを入力してログインする必要があります。
- パターンロック解除を設定する必要がない場合は、「この手順をスキップ」をクリックしてください。

メールボックスで認証コードの受信を許可します。パスワードを忘れた場合にパスワードをリセットできます（図 4-4 参照）。

図 4-4 メール設定



## NOTE

- メールアドレスを設定します。パスワードを忘れた場合、このメールアドレスで認証コードを受信し、パスワードをリセットできます。
- メールアドレスを設定しない場合、セキュリティ質問に回答するか、QRコードを販売者に送信して一時パスワードを取得し、デバイスにログインできます。
- メールアドレスの設定が不要な場合は「この手順をスキップ」をクリックしてください。

ユーザーがパスワードを忘れた場合に備え、新しいパスワードを作成するためのセキュリティ質問を設定します。

図 4-5 質問の設定



## NOTE

- ユーザーは3つの質問を設定でき、パスワードを忘れた場合に質問に回答することでパスワード再設定画面に進めます。
- 設定可能な質問例：
  - ・好きな動物
  - ・最初の職場の会社名
  - ・初めて好きになった男の子/女の子の名前
  - ・今まで見た中で最悪のセキュリティ質問
  - ・今まで見た中で最もおかしな最悪のデザイン
  - ・好きなチーム
  - ・好きな都市
- 3つの質問オプションは同一の内容に設定できません。
- 回答は4文字以上32文字以下で入力してください。
- パスワード質問を設定しない場合は「この手順をスキップ」をクリックできます。

## 4.3 ウィザード

NVRにログインし、ライブ映像画面でセットアップウィザードが表示されたら「ウィザードを開始」をクリックすると、図4-6のポップアップウィンドウが表示されます。

図4-6 ウィザード



図4-7 ネットワークウィザード



**ステップ 1** パラメーターの詳細は表 4-1 を参照してください。

表 4-1 ネットワークパラメーター

パラメーター	説明	設定方法
DHCP	DHCP を有効化。 デバイスは DHCP サーバーから IP アドレスを取得します。	[設定方法] 有効
IP アドレス	DHCP 無効時のデバイスの IP を設定	[設定方法] 手動
サブネットマスク	デバイスのサブネットマスクを設定	[設定方法] 手動 [デフォルト値] 255.255.255.0
ゲートウェイ	デバイスにアクセスする場合に設定が必要	[設定方法] 手動 [デフォルト値] 192.168.0.1
DNS を自動取得	DNS アドレスを自動取得する機能を有効にします。 ローカル DNS サーバーの IP を知っている場合は、優先 DNS サーバーと代替 DNS サーバーを手動で入力できます。	[設定方法] 有効
優先 DNS サーバー	優先 DNS 欄に DNS の IP アドレスを入力します。	[設定方法] 手動 [デフォルト値]192.168.0.1
代替 DNS サーバー	代替 DNS 欄に、代替 DNS の IP アドレスを入力してください。	[設定方法] 手動 [デフォルト値]8.8.8.8
ポートマッピングを有効化	HTTP、HTTPS、RTSP、および制御ポートを設定するために有効にします。 自動：デバイスが Web ポート、データポート、クライアントポートを取得します。 手動：ユーザーがポートを手動で設定します。	[設定方法] ドロップダウンリストからタイプを選択 [デフォルト値] 自動
HTTP ポート	デフォルト値は 80 です。実際の状況に応じて値を入力できます。	[設定方法] ポートマッピングが手動の場合、これらを設定する必要があります。
HTTPS ポート	別の値（例：443）を入力する場合、ブラウザでデバイスにログインする際、IP アドレスの後に 443 を入力する必要があります。	
RTSP ポート	リアルタイムストリーミングプロトコル。デフォルト値は 554 です。実際の状況に応じて値を選択できます。	
制御ポート	デフォルト値は 30001 です。実際の状況に応じて値を入力できます。	

**ステップ 2** 「次へ」をクリックして基本デバイス情報を表示します（図 4-9 参照）。

図 4-9 日付と時刻のウィザード



ドロップダウンリストから日付形式と時刻形式を選択します。

**NTP を有効にする :**

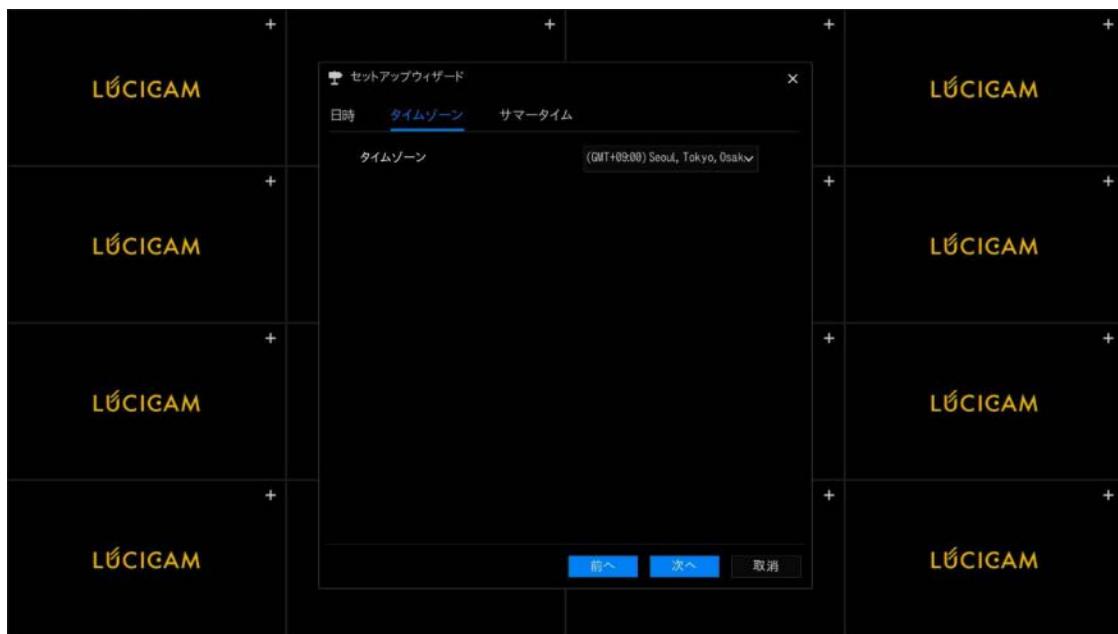
- をクリックし、ネットワークから時刻を同期します。

**NTP 同期を無効にし、手動で時刻を設定します。**

- 日付をクリックすると、マウスをスクロールして年、月、日を選択します。
- 時刻をクリックすると、マウスをスクロールして時、分、秒を選択します。
- 「時刻を更新」をクリックして時刻を保存します。

**ステップ 3** 「タイムゾーン」をクリックし、図 4-10 に示すようにドロップダウンリストから現在のタイムゾーンを選択します。

図 4-10 タイムゾーンウィザード



**ステップ 4** 「DST」をクリックし、夏時間有効にして開始時間と終了時間を設定します。ドロップダウンリストからオフセット時間を選択します。

図 4-11 夏時間ウィザード



**ステップ 5** 「次へ」をクリックし、図 4-12 に示すカメラ追加ウィザードに入ります。

図 4-12 カメラ追加ウィザード



カメラ追加の詳細については、第 6.1 章を参照してください。

**ステップ 6** 「次へ」をクリックし、図 4-13 に示すディスクウィザードに入ります。

図 4-13 ディスクウィザード



ディスクに関する基本情報を表示できます。また、ディスクのフォーマットも可能です。ディスクをデバイスに初めて接続する場合は、必ずフォーマットを行ってください。

**ステップ 7** 「次へ」をクリックし、図 4-14 に示す P2P ウィザードに入ります。

図 4-14 P2P



**ステップ 8** P2P を有効にします。これにより、モバイル端末や遠隔 PC ソフトに登録することが可能になります。(App Store または Google Play でアプリを検索してください)。

**ステップ 9** 「次へ」をクリックし、図 4-15 に示す解像度ウィザードに入ります。ドロップダウンリストから解像度を選択します。

(最高解像度は 3840\*2160 です。解像度はモニターの解像度と一致させる必要があります。設定解像度がモニターより高い場合、動画は表示されますが画面は空白になります。解像度を変更するには Web インターフェースにログインする必要があります。)

図 4-15 解像度設定ウィザード



**ステップ 10** 「完了」をクリックしてウィザードを終了し、「次回から設定ウィザードを表示しない」にチェックを入れると次回表示されなくなります。ウィザードを再表示するには「システム > ユーザー > 詳細設定」からアクセスしてください。

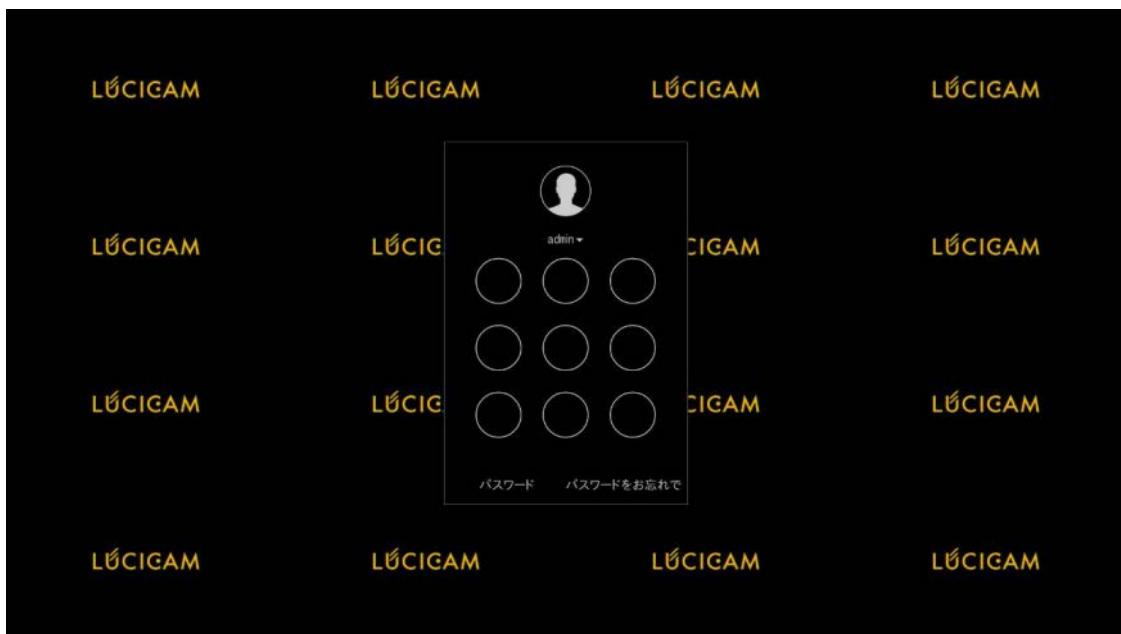
## 4.4 デバイスの電源を切る

メインメニューをクリックし、システム > メンテナンスを選択します。メンテナンス設定ページが表示されたら、シャットダウンをクリックして NVR の電源を切れます。NVR の背面パネルに電源スイッチがある場合は、電源スイッチを切って NVR の電源を遮断することもできます。

## 4.5 システムへのログイン

ステップ 1 デバイスにログインします（2つのログインモードがあります）。パターンロックの解除は図 4-16 に示されています。

図 4-16 パターン認証ログイン画面



ステップ 2 NVR ログイン画面で「パスワード」をクリックし、パターン認証画面へ移行します。パターン認証を設定していない場合、直接パスワード入力画面が表示されます。図 4-17 のように言語を選択してください。

図 4-17 パスワードログイン画面



**ステップ3 ユーザー名とパスワードを入力します。**

 **NOTE**

- パスワードを3回以上間違えた場合、5分後に再度ログインしてください。または電源をオフにしてからオンにし、デバイスを再起動して正しいパスワードを入力すれば、5分待つ必要はありません。
  - パスワードを忘れた場合は「パスワードを忘れた場合」をクリックしてください。新しいパスワードを作成する方法を選択できます：
    1. QRコードをスキャンし、販売者にQRコードを送信してください。販売者から新しいパスワード作成用の認証コードが送信されます。
    2. セキュリティ質問に回答して新しいパスワードを作成します。
    3. メールでユーザーパスワード回復用の認証コードを受け取ります。

**ステップ 4** 「ログイン」をクリックしてメインユーザーインターフェース（UI）にアクセスします。図 4-18 に示すようにデフォルトパスワードを変更します。

図 4-18 デフォルトパスワードの変更



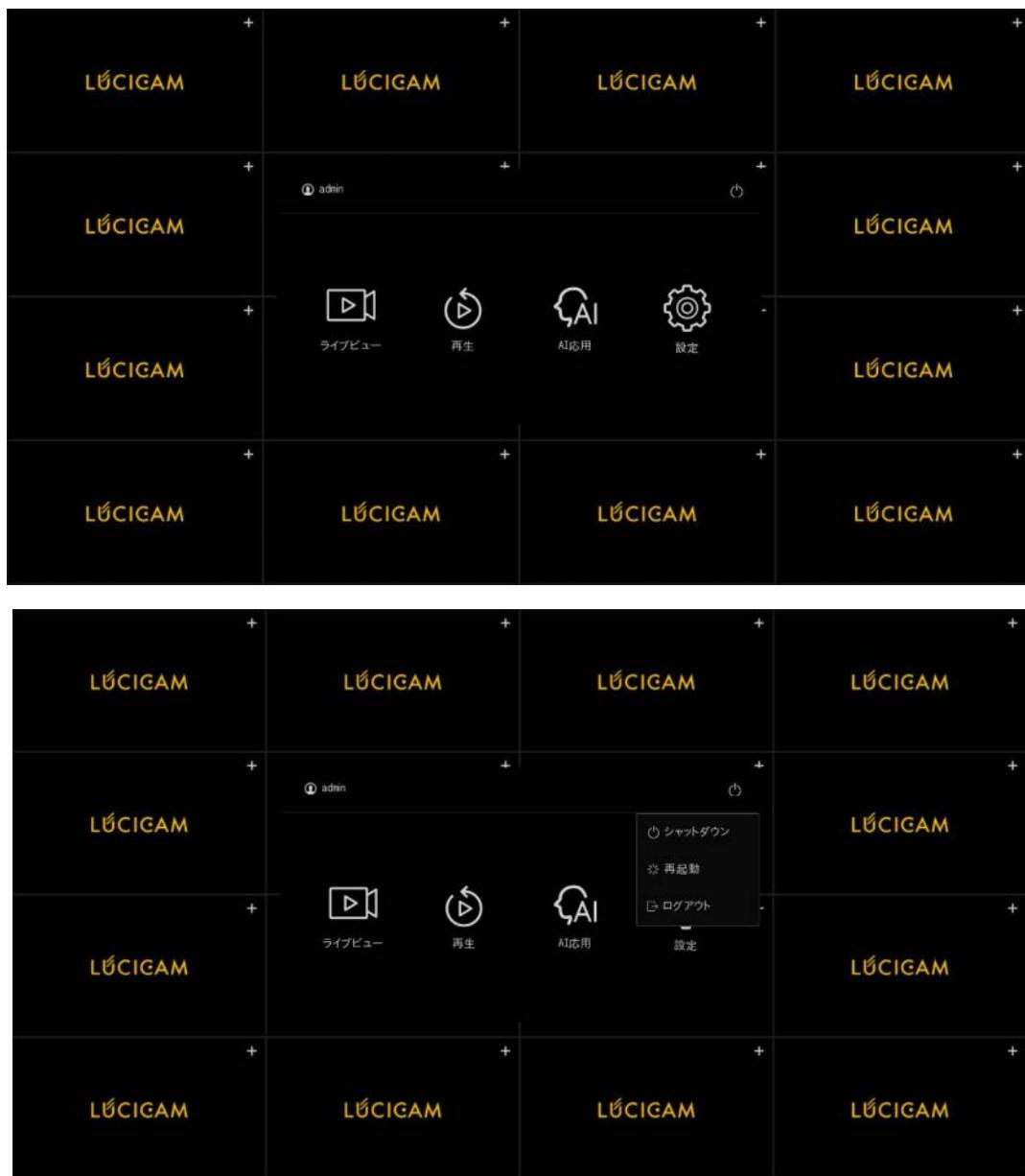
# 5 クイックナビゲーション

## 5.1 クイックバー

NVR 操作画面が表示された後、カーソルを NVR 画面の最下部まで移動させます。NVR フローティングメニューが表示されます。

NVR フローティングメニューの左側にある をクリックします。クイックホームメニューが表示されます。クイックホームメニューには、図 5-1 に示すように、再生、システム、電源（シャットダウン、再起動、ログアウト）が含まれます。

図 5-1 クイックホームメニュー

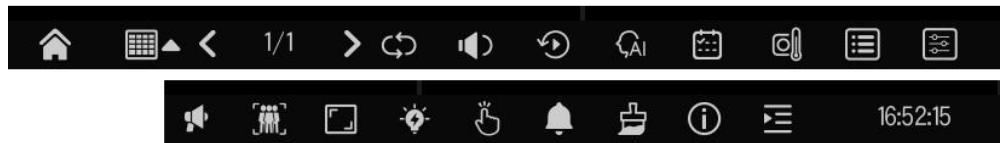


NVR フローティングメニューバーの中央には、図 5-2 に示すように、ビデオツールバーが配置されており、ビデオウィンドウの切り替え、自動シーケンス、音量、再生、チャンネル情報が表示されます。

図 5-2 リアルタイムビデオツールバー



図 5-3 ツールバー（認識モード）



レイアウト：ユーザーはレイアウトを選択し、図 5-4 に示すように新しいレイアウト戦略を追加できます。画面分割形式の右側にある をクリックし、ビデオを表示するチャンネルを選択します。「+」をクリックして新しいレイアウトを追加します。

図 5-4 レイアウトの追加



レイアウト名を入力し、表示時間を設定し、分割形式を選択します。画面に追加するチャンネルを 1 つまたは複数選択します。



**自動シーケンス:**アイコンをクリックすると、映像表示の自動切換えが有効になります。表示設定方法については第 6.7.5 章を参照してください。



**オーディオ:**アイコンをクリックするとオーディオ設定画面が表示され、音量調整が可能です。



**再生:**アイコンをクリックすると再生インターフェースに入ります。



**AI アプリケーション:**アイコンをクリックすると AI アプリケーションインターフェースに入ります。「アラーム > ローカル AI 分析 > 一般」項目が検知モードに設定されている場合は非表示になります。



**勤怠管理:**アイコンをクリックすると勤怠管理インターフェースに入ります。



**サーマル:**アイコンをクリックするとサーマルインターフェースに入ります。



**チャンネル情報:**チャンネルまたはエンコーダーにチェックを入れると、ライブ映像にチャンネル情報が表示されます。



**プレビュー戦略:**ネットワーク状況に応じてリアルタイムプレビューモードを切り替え可能。

3つのモード：滑らかさ優先、バランス、リアルタイム。

NVR フローティングメニューバー右側にはクリックツールバーが配置されています。図 5-5 に示す通り、手動アラーム、アラーム情報、アラームクリーン、情報、時刻が表示されます。

図 5-5 クリックツールバー





**ブロードキャスト**：ユーザーはスピーカーを NVR に追加し、放送するスピーカーを選択します。ドロップダウンリストから音声ファイルを選択します。「放送開始」をクリックして音声ファイルを再生します。「放送停止」をクリックして再生を終了します。

図 5-6 ブロードキャスト



図 5-7 スピーカー追加



音声ファイルは「設定 > スピーカー > ローカル音声ファイル」インターフェースで設定できます。

**人流計測**：クリックで計測データを表示します。再度クリックで画面を閉じます。表示スタイルは設定>AI分析>行動分析>人流計測インターフェースで設定です。

図 5-8 人流計測



**オリジナル比率を開く**：アイコンをクリックするとオリジナル画面比率が開き、分割画面は元の縦横比でライブ映像を再生され、それ以外の場合は16:9比率で再生されます。

**手動調光ライト**：ライト付きカメラ（フラッシュライト、赤青ライト、白色ライト）の場合、[開始]をクリックするとライトを手動で点灯、[停止]をクリックすると消灯します。

図 5-9 手動制御ライト





**手動アラーム**：アイコンをクリックすると、ユーザーは異なるチャンネルを設定し、アラーム出力を選択できます。図 5-10 のウィンドウが表示されます。

図 5-10 手動アラーム

手動アラーム				
ソース	アラーム出力	稼働	未稼働	X
ローカル	1	▼ ► 稼働	■ 未稼働	
チャンネル01	1	▼ ► 稼働	■ 未稼働	
チャンネル02	1	▼ ► 稼働	■ 未稼働	
チャンネル04	1	▼ ► 稼働	■ 未稼働	



**アラームメッセージ**：アイコンをクリックすると詳細が表示されます（図 5-11 参照）。

図 5-11 アラームメッセージ

ポップアップメッセージ		
チャンネル	タイプ	開始日時
Channel4	侵入	10/12/2025 17:13:37
Channel1	モーション検出	10/12/2025 17:13:33
Channel2	ラインクロス	10/12/2025 17:13:33
Channel1	モーション検出	10/12/2025 17:13:22
Channel2	ラインクロス	10/12/2025 17:13:16
Channel1	ラインクロス	10/12/2025 17:13:15
Channel1	モーション検出	10/12/2025 17:13:09
Channel2	ラインクロス	10/12/2025 17:13:05
Channel1	モーション検出	10/12/2025 17:12:58
Channel2	ラインクロス	10/12/2025 17:12:46
Channel1	モーション検出	10/12/2025 17:12:46
Channel1	モーション検出	10/12/2025 17:12:34



**アラームクリア**：アイコンをクリックすると、音声アラームや外部アラーム出力などの現在のアラーム動作を解除します。



**情報**：アイコンをクリックすると、ネットワーク/システム/チャンネル/ディスク/アラームなどの基本情報が表示されます（図 5-12 参照）。



赤いアイコンはディスクのフォーマットが必要であることを示します。

図 5-12 情報

ネットワーク	
状態	接続中
IPアドレス	192.168.0.58
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
MACアドレス	8C:A6:82:00:01:2E
DHCPを有効にする	オフ
DNS1	8.8.8.8
代替DNSサーバー	8.8.4.4
総帯域幅	100.00 Mbps
受信パケット	26,74 Mbps

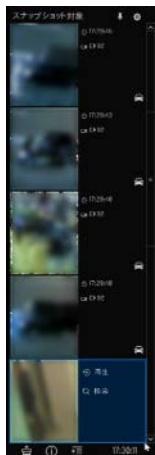
**スナップショットリストを無効化**：スナップショットリストはデフォルトで有効です。人顔のスナップショットを表示したくない場合は無効化できます。カメラは顔検出/ナンバープレート認識（LPR）などの機能に対応している必要があります。

図 5-13 AI マルチオブジェクト



再生するスナップショットを1つ選択し、画像で結果を検索してリストに追加します。

図 5-14 スナップショットリスト



顔、車両、ナンバープレート、人物などの検知タイプにチェックを入れます。図 5-15 に示すように、イベントタイプとチャネルを選択します。

図 5-15 ターゲットスナップショットフィルター



## 5.2 リアルタイム映像バー

ライブ画像上で右クリックすると、クイック設定が表示されます。



**録画**：アイコンをクリックすると録画が開始されます。再度クリックすると録画を終了します。

**即時再生**：アイコンをクリックすると、5分前の映像が再生されます。



**音声**：音声のオン/オフを切り替えます。

**PTZ**：本機能は PTZ カメラ専用です。監視カメラのフォーカス・ズーム・絞り調整をこのポップアップウィンドウで行えます。

図 5-16 に示す各パラメーターを調整可能です。

図 5-16 PTZ 調整画面



カメラの方向を調整します。



クリックでマルチ画面/シングル画面切替。ホームプリセットをクリックで設定したホーム位置へ移動します。



この部分では、詳細設定、スキャン、ツアー設定を行います。



**3D**：この機能は高速ドームカメラでのみ使用可能です。アイコンをクリックしてカメラのライブ映像画面に入り、マウスでカメラを移動したりレンズのズームイン/アウトを行います。ポイントをクリックするとズームインします。領域をドラッグして描画すると描画領域がズームインし、逆方向にドラッグするとズームアウトします。



**ズームイン**：ズームインをクリックし、マウスホイールを回転させて拡大・縮小します。右クリックでズームを終了します。



**イメージ**：アイコンをクリックすると図 5-17 に示すウィンドウが表示されます。シーンを選択し、カーソルをドラッグして明るさ、シャープネス、コントラスト、彩度の値を調整します。

図 5-17 カメラ画像パラメーター



**双方向音声**：NVR とカメラ間で音声通信が可能です。



**スナップショットパノラマ**：NVR に USB ストレージデバイスが接続されている場合、クリックするとパノラマスナップショットを直接保存します。



**フィッシュアイ**：フィッシュアイツールバーが開きます（図 5-18）。現在のチャンネルの魚眼モードを切り替えるにはクリックします。取り付けモードを選択し、表示モードを選択します。

図 5-18 魚眼モード



現在のチャンネルが録画中であることを示します。



**アラーム**：現在のチャンネルに動体検知アラームが発生しています。

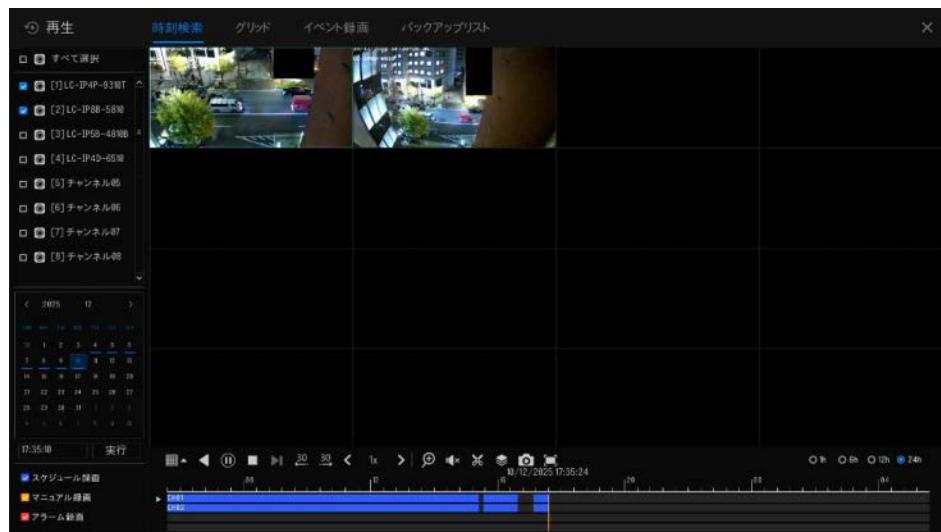
### 5.3 再生

再生とは、動画の再生、固定ポイント再生、または検索タイプの再生を指します。



クリックナビゲーションバーの をクリックすると、図 5-19 に示す再生画面にアクセスできます。

図 5-19 再生画面



チャンネルリストからチャンネルを選択し、再生したい日付をクリックします（日付に青い線が表示されている場合、その日に録画動画があることを示します。すべてのチャンネルに動画があることを意味するわけではありません）。

タイムバーには 3 色のバーが表示される場合があります：青はスケジュール録画、黄は手動録画、赤はアラーム録画を示します。

再生画面下部のツールバー機能説明：



レイアウト切替

再生方向反転、一時停止/再生、停止

30秒巻き戻し、30秒早送り

倍速再生。最大32倍速まで対応：数字をクリックで速度切替。

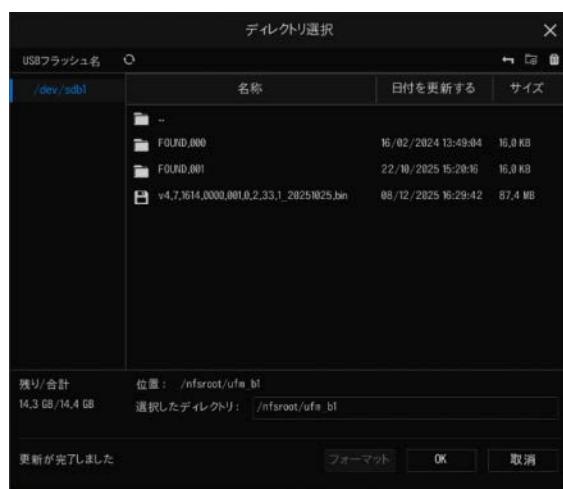
ズーム：マウスホイールで拡大/縮小。

オーディオ

バックアップ開始と終了：アイコンをクリックすると動画バックアップが開始されます。動画を選択し、再度アイコンをクリックします。バックアップタイプが表示されます。「保存」をクリックすると、図5-20のようにファイル保存のポップアップが表示されます。「OK」をクリックして保存します。

この機能は、USBディスクをデバイスに接続した後に利用可能です。

図5-20 ディレクトリの選択



一括バックアップ

1. 図5-21のようにアイコンをクリックし、複数チャンネルをバックアップします。
2. 保存先フォルダを選択します。
3. ドロップダウンリストからストリーム情報を選択します。
4. 開始時間と終了時間を設定し、チャンネルを選択します。
5. [OK]をクリックしてバックアップします。

ユーザーが NAS アカウントを追加した場合、バックアップ録画を NAS に保存できます。

図 5-21 一括バックアップ



**スナップショットパノラマ**：クリックすると NVR の USB ストレージデバイスに保存されます。

**フィッシュアイ**：クリックするとフィッシュアイモードを選択し、録画動画を再生できます。

1h  6h  12h  24h タイムバーの種類。録画動画を表示できます。

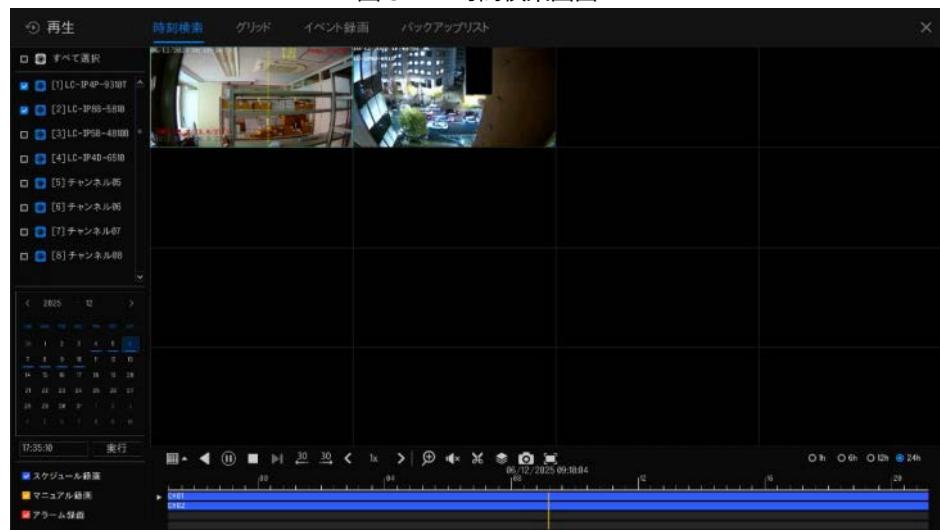
### 5.3.1 時間検索

検索とは、日時による映像の検索を指します。

#### 操作説明

「時刻検索」をクリックすると、図 5-22 に示す検索画面が表示されます。

図 5-22 時間検索画面



#### 操作手順

**ステップ 1** 検索画面左側のカメラリストからカメラを選択します。選択したカメラの映像が再生ウィンドウに表示されます。

**ステップ 2** 検索画面左側のカレンダーから日付を選択します。

**ステップ 3** 記録タイプを選択し、動画を素早く検索します。

**ステップ 4** 適切なボタンを選択して動画を調整します。

### 5.3.2 画像グリッド

画像グリッドとは、チャンネルの映像を時間範囲で均等に分割し、時間範囲ごとに分割されたサムネイルに基づいて映像を検索する機能です。

「グリッド」をクリックすると、図 5-23 に示す画像グリッド画面が表示されます。

図 5-23 グリッド画面



### 操作手順

**ステップ 1** ピクチャーグリッド画面左側のカメラリストからカメラを選択します。選択したカメラで撮影された、当日最も早い時間帯の動画が右側のウィンドウにサムネイル表示されます。

**ステップ 2** カレンダーから日付を選択します。

**ステップ 3** 1 日が 12 グリッドに分割され、2 時間ごとに 1 グリッドとなります。画像をクリックすると間隔を変更できます。

**ステップ 4** 必要なサムネイルを選択しダブルクリックすると、時間を 10 分単位または 1 分単位で分割表示できます。右クリックでタイムバーの表示時間間隔が変更されます。

**ステップ 5** 「再生」をクリックすると、グリッド単位で個別再生します。

図 5-24 再生画面



### 5.3.3 イベント録画

「イベント録画」を選択すると、図 5-25 に示すアラームイベント画面が表示されます。

図 5-25 イベント画面

ID	開始日時	チャンネル	状態タイプ	情報	操作
1	10/12/2025 17:35:31	チャンネル#4	侵入	LC-IP4B-6510	⌚ ⌂
2	10/12/2025 17:35:26	チャンネル#1	モーション検出	LC-IP4B-9310T	⌚ ⌂
3	10/12/2025 17:35:15	チャンネル#1	モーション検出	LC-IP4B-9310T	⌚ ⌂
4	10/12/2025 17:35:14	チャンネル#2	ラインクロス	LC-IP8B-5810	⌚ ⌂
5	10/12/2025 17:35:14	チャンネル#1	ラインクロス	LC-IP4B-9310T	⌚ ⌂
6	10/12/2025 17:35:02	チャンネル#2	ラインクロス	LC-IP8B-5810	⌚ ⌂
7	10/12/2025 17:35:02	チャンネル#1	モーション検出	LC-IP4B-9310T	⌚ ⌂
8	10/12/2025 17:35:02	チャンネル#1	ラインクロス	LC-IP4B-9310T	⌚ ⌂
9	10/12/2025 17:34:55	チャンネル#2	ラインクロス	LC-IP8B-5810	⌚ ⌂
10	10/12/2025 17:34:55	チャンネル#1	モーション検出	LC-IP4B-9310T	⌚ ⌂
11	10/12/2025 17:34:39	チャンネル#2	ラインクロス	LC-IP8B-5810	⌚ ⌂
12	10/12/2025 17:34:39	チャンネル#1	モーション検出	LC-IP4B-9310T	⌚ ⌂
13	10/12/2025 17:34:26	チャンネル#1	モーション検出	LC-IP4B-9310T	⌚ ⌂
14	10/12/2025 17:34:16	チャンネル#1	ラインクロス	LC-IP4B-9310T	⌚ ⌂
15	10/12/2025 17:34:15	チャンネル#1	モーション検出	LC-IP4B-9310T	⌚ ⌂
16	10/12/2025 17:34:01	チャンネル#2	ラインクロス	LC-IP8B-5810	⌚ ⌂

### 操作手順

**ステップ 1** 左側のカメラリストからカメラを選択します。

**ステップ 2** 開始時刻と終了時刻を設定します。

**ステップ 3** アラームタイプ（例：アラームイン、カメラアラームイン、動体検知、映像消失、インテリジェント分析、異常検知）にチェックを入れます。

**ステップ 4** 「検索」をクリックしてイベントを照会します。結果がウィンドウに表示されます。

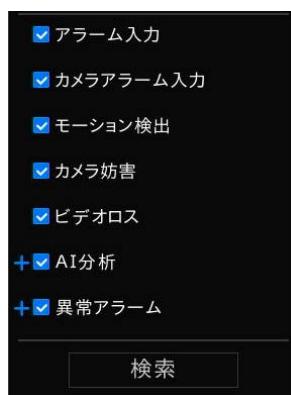
**ステップ 5** イベントに関する動画を再生するにはダブルクリックします。録画された動画が再生されます。



録画動画を再生します。



録画動画をバックアップします。



AI 分析と異常アラームの種類は細分化されており、ユーザーは「詳細警報」にチェックを入れて表示できます。

インテリジェント分析には侵入検知、ラインクロス、二重ラインクロス、複数徘徊、逆走、違法駐車、登録者、不審者、登録車番、未登録車番、しきい値警告、しきい値アラーム、温度差警告、温度差アラーム、温度セクションアラーム、人数カウントしきい値アラーム、人数カウントしきい値アラーム(IPC)、喫煙検出、火災検知、火災点検知、AI モーション。

異常アラームには HDD エラーアラーム、ディスク容量、IP アドレス競合、ネットワーク切断、ファンアラーム、電源アラーム、故障復旧正常化アラーム、故障切替待機アラームが含まれます。

ユーザーは検索対象となる正確なアラームイベントを選択できます。

### 5.3.4 バックアップリスト

クイックナビゲーションバーの  をクリックし、「バックアップリスト」を選択すると、図 5-26 に示すバックアップ画面にアクセスできます。

図 5-26 バックアップ画面

ID	チャンネル	開始日時	終了日時	サイズ	ストリーム	パス	進捗	操作
1	チャンネル04	10/12/2025 17:34:31	10/12/2025 17:36:31	0.0 MB	メインストリーム	/nfsroot/ufa.bl	<div style="width: 75%;">75%</div>	

バックアップの詳細情報を表示します。削除をクリックするとダウンロードを終了します。

## 5.4 AI 応用（一部モデルのみ）

AI 応用画面では、AI ビデオ検索とアーカイブライブラリを設定できます。

すべてのスナップショットは必要に応じてライブラリに追加可能です。

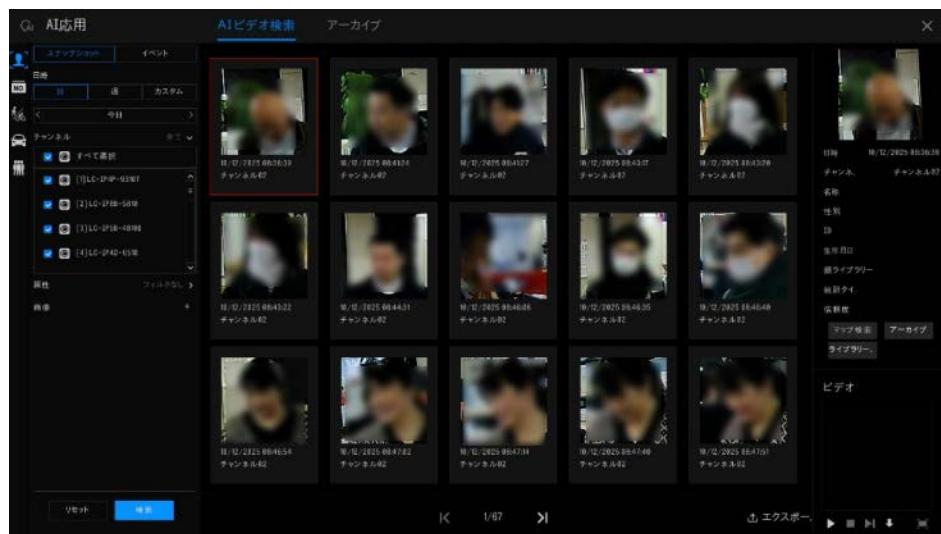
### 5.4.1 AI ビデオ検索

AI ビデオ検索画面では、顔、車両ナンバープレート、全身、自動車を検索できます。

最大 1000 枚の画像を表示可能。クリックで詳細表示・検索結果のエクスポートが可能です。

#### 5.4.1.1 顔検索

図 5-27 人物顔検索



ステップ 1 AI ビデオ検索画面の左側で「顔検索」アイコンを選択します。

ステップ 2 カメラチャンネルにチェックを入れ、開始時刻と終了時刻を設定します。

ステップ 3 条件（画像による検索／属性による検索）を選択します。画像は USB メモリから選択可能です。

ステップ 4 「検索」をクリックし、人物顔のスナップショットを検索します。

**ステップ 5** 検索結果がページ中央に表示されます。画像をクリックすると、詳細情報がページ右上に表示されます。

**ステップ 6** 画像はライブラリに追加するか、検索に使用できます。

**ステップ 7** 動画の再生ボタンをクリックするとスナップショットの録画が再生され、「バックアップ」をクリックすると録画動画をバックアップできます。

図 5-28 バックアップ



**ステップ 8** 「エクスポート」をクリックして結果をエクスポートし、画像または動画のエクスポート形式を選択します。

図 5-29 エクスポート



スナップショットの動画を再生します。スナップショットの前後 30 秒間の動画が再生されます。



リアルタイム動画でのスナップショット：画像（例：）にカーソルを合わせると、顔ライブラリへの追加や顔検索が可能になります。カーソルはスナップショット領域上にあり、画像は更新されません。マウスを動かすと、画像がリアルタイムで表示されます。

#### 5.4.1.2 車両ナンバープレート検索

図 5-30 車両ナンバープレート検索

**ステップ 1** スマート検索インターフェースで車両ナンバープレートを選択します。

**ステップ 2** 車両ナンバープレート認識カメラチャンネルにチェックを入れ、開始時刻と終了時刻を設定します。

**ステップ 3** 任意でナンバープレートを入力します。

**ステップ 4** 「検索」をクリックし、ナンバープレートのスナップショットを検索します。

**ステップ 5** 結果がページに表示されます。「+」をクリックしてライブラリに追加します。

**ステップ 6** 「再生」をクリックして録画動画を視聴し、「バックアップ」をクリックして動画をバックアップします。

**ステップ 7** 「エクスポート」をクリックして結果をエクスポートします。

#### 5.4.1.3 人物検索

図 5-31 人物検索

**ステップ 1** AI ビデオ検索インターフェースで「人物検索」アイコンを選択します。

**ステップ 2** カメラチャンネルにチェックを入れ、開始時刻と終了時刻を設定します。

**ステップ 4** 「検索」をクリックしてスナップショットを検索します。

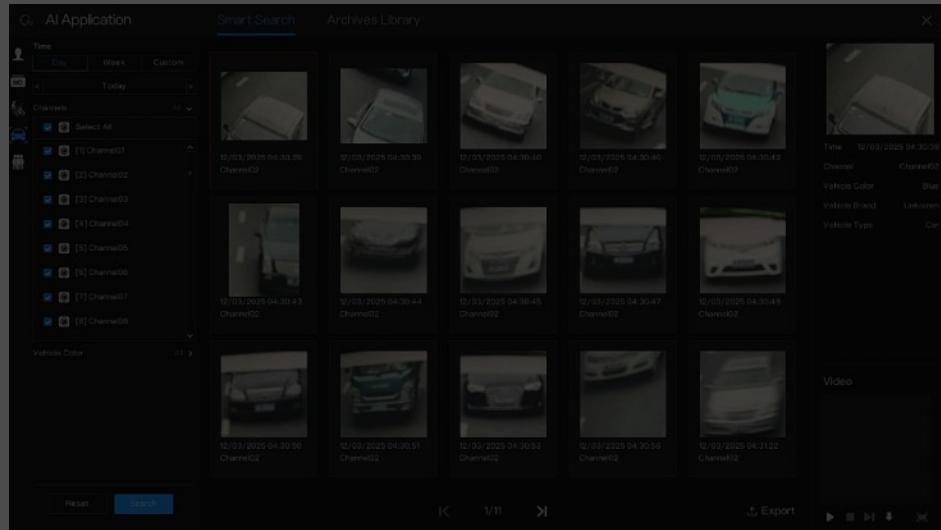
**ステップ 5** 結果がページ中央に表示されます。画像をクリックすると、詳細情報がページ右上に表示されます。

**ステップ 6** 動画の再生ボタンをクリックしてスナップショットの録画を再生し、「バックアップ」をクリックして動画をバックアップします。

**ステップ 7** 「エクスポート」をクリックして結果をエクスポートします。

#### 5.4.1.4 車両検索

図 5-32 車両検索



ステップ 1 スマート検索インターフェースで「車両検索」を選択します。

ステップ 2 AI 認識カメラチャンネルにチェックを入れ、開始時刻と終了時刻を設定します。

ステップ 3 色にチェックを入れます。

ステップ 4 「検索」をクリックして人物顔のスナップショットを検索します。

ステップ 5 結果がページ中央に表示されます。画像をクリックすると、ページ右上に詳細情報が表示されます。

ステップ 6 動画の再生ボタンをクリックしてスナップショットの録画を再生し、「バックアップ」をクリックして動画をバックアップします。

ステップ 7 「エクスポート」をクリックして結果をエクスポートします。

#### 5.4.1.5 人数カウント

図 5-33 人数カウント



ステップ 1 AI ビデオ検索インターフェースで「人数カウント」を選択します。

ステップ 2 カメラチャンネルにチェックを入れ、統計タイプと日付を設定します。

ステップ 3 「検索」をクリックして統計データを表示します。

ステップ 4 「エクスポート」をクリックして統計データを USB メモリにエクスポートします。

ステップ 5  をクリックして、異なるデータテーブルでデータを表示します。

## 5.4.2 アーカイブ

アーカイブでは、ユーザーが顔ライブラリとナンバープレートライブラリを追加・編集できます。

ナンバープレートライブラリは IP カメラとの間でインポート/エクスポートが可能です。

### 5.4.2.1 顔ライブラリ



NVR は顔ライブラリに 5000~10000 件の人物顔を保存できます。正確な件数はデバイスの性能を参照してください。

図 5-34 顔ライブラリ



	名前	性別	生年月日	ID	顔ライブラリ	統計タイ	有効期限	操作
1	sgr	女性	10/12/2025	0	Default Lib	Default	無期限	  
2	kkcsan	男性	10/12/2025	1	Default Lib	Default	無期限	  
3	rttman	男性	10/12/2025	2	Default Lib	Default	無期限	  

「+」をクリックして新しい顔ライブラリを追加します。

「追加」をクリックして人物の顔を登録します。

図 5-35 人物登録



+ 人物登録

名称:

性別:

ID:

生年月日:

顔ライブラリ:

統計タイプ:

無期限

画像:

+

ファイルの選択

OK 取消

人物にチェックを入れ、「削除」をクリックすると人物を削除できます。

「インポート」をクリックすると人物を一括追加できます。

「エクスポート」をクリックするとライブラリ内の人物をすべてエクスポートできます。

「フィルター」をクリックすると、図 5-36 のようにライブラリ内の人物をすべてフィルタリングできます。

図 5-36 フィルター



操作アイコンをクリックすると、選択した人物を編集または削除できます。

#### 5.4.2.2 ナンバープレートライブラリ

ナンバープレートライブラリインターフェースでは、ライブラリの追加・削除・操作が可能です。ライブラリに応じたホワイトリストとブラックリストをサポートし、ライブラリのエクスポートと IP カメラへのインポートが可能です。

図 5-37 ナンバープレートライブラリ

	License Plate	License Plate Lib	Expire date	Remark	Operate
□	2648SR	EUP	Never expire	002	编辑 Q
□	2648SR	US	Never expire	002	编辑 Q
□	2649SR	US	Never expire	003	编辑 Q
□	2650SR	US	Never expire	004	编辑 Q
□	2651SR	US	Never expire	005	编辑 Q
□	2652SR	US	Never expire	006	编辑 Q
□	2653SR	US	Never expire	007	编辑 Q
□	2654SR	US	Never expire	008	编辑 Q
□	2655SR	US	Never expire	009	编辑 Q
□	2656SR	US	Never expire	010	编辑 Q
□	2657SR	US	Never expire	011	编辑 Q
□	2658SR	US	Never expire	012	编辑 Q
□	2659SR	US	Never expire	013	编辑 Q
□	2660SR	US	Never expire	014	编辑 Q
□	2661SR	US	Never expire	015	编辑 Q
□	2662SR	US	Never expire	016	编辑 Q
□	2663SR	US	Never expire	017	编辑 Q
□	26645R	US	Never expire	018	编辑 Q

「+」をクリックして新しいナンバープレートライブラリを追加します。

「追加」をクリックしてライブラリにプレートを追加します。

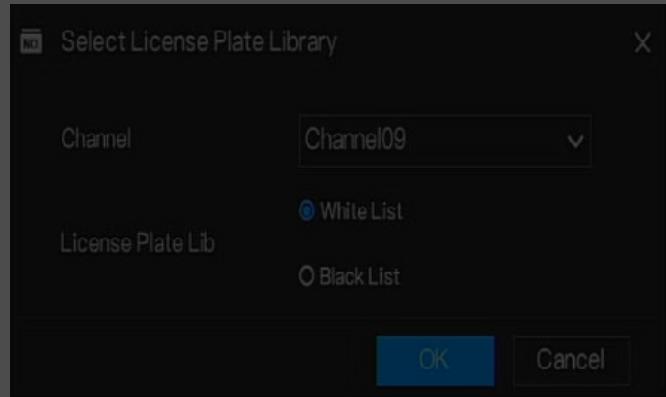
ナンバープレートにチェックを入れ、「削除」をクリックするとナンバープレートを削除できます。

「インポート」をクリックするとナンバープレートをバッチ追加できます。

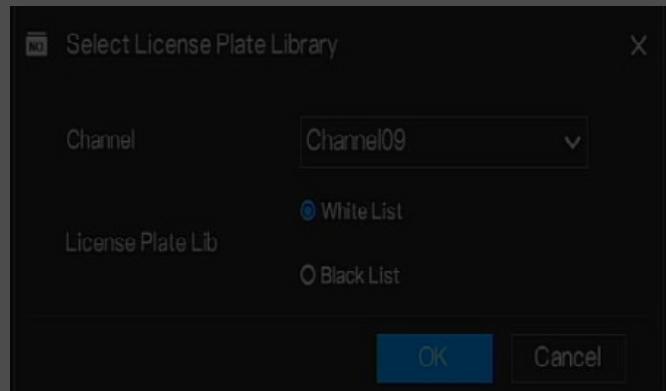
「エクスポート」をクリックするとライブラリ全体をエクスポートできます。

操作アイコンをクリックすると、選択したナンバープレートの編集または削除が可能です。

「カメラからインポート」をクリックすると、チャンネル用のナンバープレートライブラリを選択できます。



「カメラへエクスポート」をクリックすると、ナンバープレート番号をカメラに追加できます。



## 5.5 勤怠 (一部モード) 現在この機能は使えません

### 5.5.1 勤怠データ

図 5-38 に示す勤怠データ画面へ進むにはサブメニューの「勤怠」アイコンをクリックします。

図 5-38 勤怠データ



#### 操作手順

ステップ 1 勤怠ライブラリにチェックを入れます。勤怠管理>勤怠ライブラリページで勤怠ライブラリを追加してください。

ステップ 2 日時を選択します（例：今日、今週、今月、カスタム）。

ステップ 3 検索タイプを選択します。

ステップ4 「検索」をクリックすると、結果がインターフェースに表示されます。

ステップ5 「エクスポート」をクリックして結果をエクスポートします。

## 5.5.2 勤怠管理

### 5.5.2.1 勤怠規則沿設定

勤怠管理では、図 5-39 に示すように、勤怠規則設定、勤怠ライブラリ、勤怠設定を設定できます。

図 5-39 勤怠ルール設定



現在この機能は使えません

### 操作手順

ステップ1 始業時刻と終業時刻を設定します。

ステップ2 勤務日をチェックします。

ステップ3 出社有効時間・退社有効時間を設定します。

ステップ4 [適用]をクリックして設定を保存します。

### 5.5.2.2 勤怠ライブラリ

ステップ 1 [勤怠ライブラリ]をクリックしてライブラリを追加します。勤怠ライブラリは顔データベースを直接呼び出せます。

図 5-40 勤怠ライブラリ



ステップ 2 ライブラリにチェックを入れ、[追加]をクリックして勤怠ライブラリに追加します。

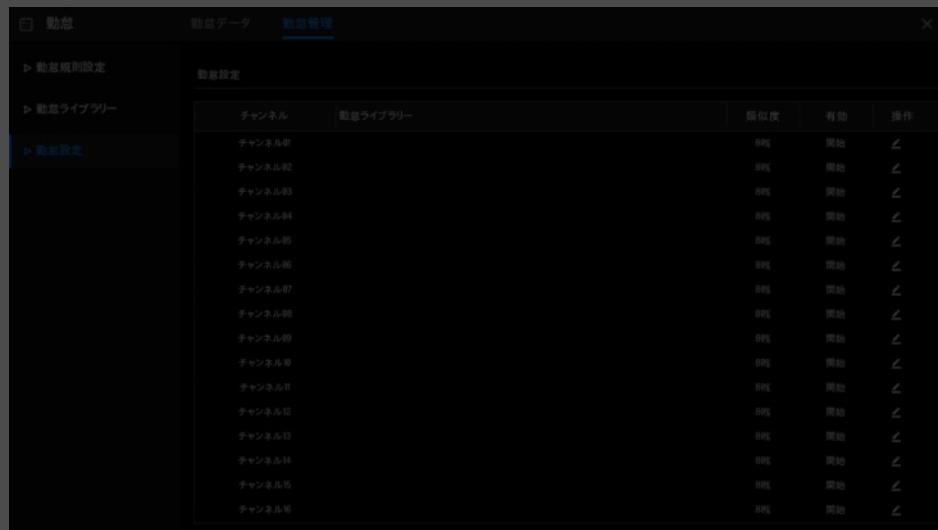
ステップ 3 「ライブラリ管理」をクリックして顔データベース管理画面に入り、パラメーターを変更します。

ステップ 4 「適用」をクリックして設定を保存します。

### 5.5.2.3 勤怠設定 現在この機能は使えません

ステップ 1 図 5-41 に示すように、[勤怠設定]をクリックしてポイントを設定します。

図 5-41 出席チェックポイント設定



ステップ 2  をクリックしてポイント設定を編集します（図 5-42 参照）

図 5-42 チェックポイント



ステップ 3 機能を有効化し、類似度を設定し、ライブラリにチェックを入れます。すべての顔検出カメラでチェックポイントを設定できます。

ステップ 4 OK をクリックして設定を保存します。

## 5.6 サーマル

### NOTE

サーマル機能は一部のデバイスでのみ利用可能です。現在のデバイスにこの機能がない場合は無視してください。

### 5.6.1 温度パラメーター

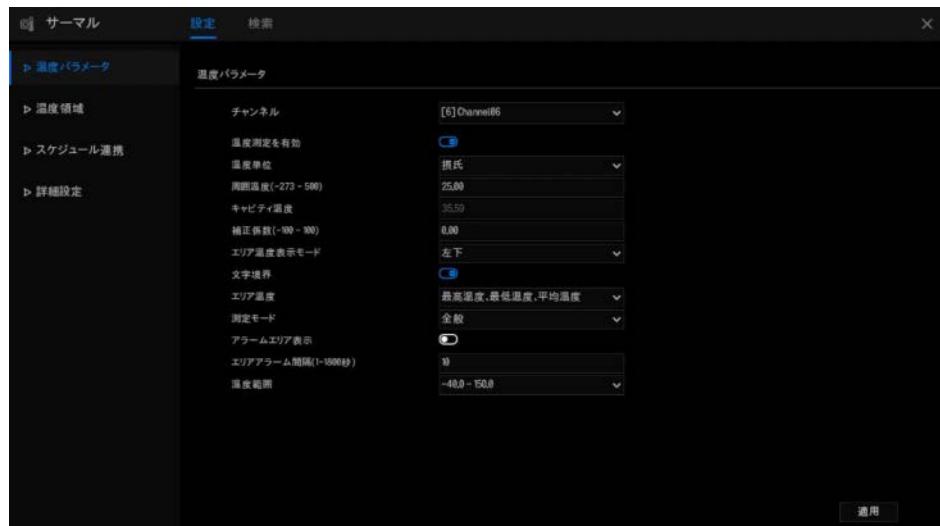
温度パラメーターには、温度単位、環境タイプ、環境温度、キャビティ温度、補正係数、エリア温度表示モードが含まれます。

#### 操作手順

ステップ 1 热 > 温度パラメーターを選択します。

図 5-43 に示すように、温度パラメーターぺージが表示されます。

図 5-43 温度パラメーターインターフェース



ステップ 2 表 5-1 に従って設定を行います。

表 5-1 温度パラメーター

パラメーター	説明	設定
チャンネル	設定するチャンネルを 1 つ選択します。	[設定方法] ドロップダウンリストボックスからチャンネルを選択します
温度測定を有効	温度測定を有効にします。	-
温度単位	摂氏と華氏から選択できます	[設定方法] ドロップダウンリストボックスから値を選択します。 [デフォルト値] 摂氏
周囲温度	カメラの周囲温度です。屋外にいる場合に設定されます。	[設定方法] 手動で値を入力します。
キャビティ温度	カメラのキャビティ温度。	-
補正係数 (-100 ~ 100)	補正係数とは、測定対象物の温度と実際の温度の偏差を指します。  例: 1. 測定対象物の温度が 30°C で、実際の温度が 37°C の場合、補正係数は 7 となります。 2. 測定対象物の温度が 37°C で、実際の温度が 30°C の場合、補正係数は -7 となります	[設定方法] 手動で値を入力します。 [デフォルト値] 0.00
エリア温度表示モード	ライブ映像上の温度情報の表示位置。	[設定方法] ドロップダウンリストボックスから値を選択します。 [デフォルト値]
文字境界	フォントが太字になります。	[設定方法] 有効/無効 [デフォルト値] 無効
エリア温度	エリア温度には 3 つの種類があります。	[設定方法] ドロップダウンリストボックスから値を選択します。 [デフォルト値] 最高温度
測定モード	測定モードには 2 種類あります。	[設定方法] ドロップダウンリストボックスから値を選択します。 [デフォルト値] 全般

パラメーター	説明	設定
アラームエリアの表示	-	[設定方法] 有効または無効 [デフォルト値] 無効
エリアアラーム間隔	-	[設定方法] 1~1800 の範囲で手動で値を入力します。 [デフォルト値] 10
温度範囲	ドロップダウンリストから選択してください。モデルによって範囲が異なります。カメラの性能に応じて、-40~150°C、または-20~120°Cとなります。	デフォルト値が表示されます。

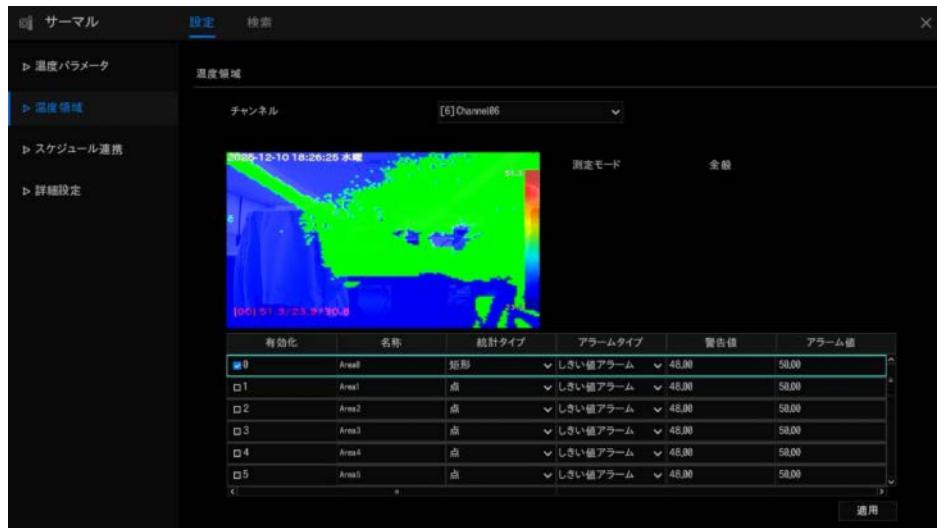
## 5.6.2 温度領域

### 操作手順

ステップ 1 「サーマル」 > 「温度領域」を選択します。

図 5-44 のような、「温度領域」ページが表示されます。

図 5-44 温度エリアとアラームの設定



ステップ 2 表 5-2 に従ってパラメーターを設定します。

表 5-2 温度エリアとアラームの設定

パラメーター	説明	設定
チャンネル	-	[設定方法] ドロップダウンリストボックスから値を選択します。 [デフォルト値] 1

パラメーター	説明	設定
測定モード	温度パラメーターインターフェースで設定します。PTZ バイスペクトルカメラの場合は、プリセットと一般を選択できます。	-
PTZ エリア (PTZ カメラのみ)	プリセットを選択または設定し、PTZ キーボードでカメラを調整します。 すべてのプリセットで、アラームの対象エリアを 20 箇所設定できます。	プリセットを手動で設定するか、ドロップダウンリストから既存のプリセットを選択してください。
有効化	アラーム領域を有効にするにはチェックを入れます。	-
ID	範囲は 0 から 19 です。	-
名称	温度エリアのエリア名。	[設定方法] 手動で値を入力します。
統計タイプ	温度エリアのタイプ。 ID 0 はデフォルトの長方形エリアで、全画面表示となります。 0 から 19 までの 20 個のエリアを設定できます。	[設定方法] ドロップダウンリストボックスから値を選択します。 [デフォルト値] 矩形／点
アラームタイプ	アラームの種類には、しきい値アラーム、温度差アラーム、セクションアラーム、温度上昇警報があります。	[設定方法] ドロップダウンリストボックスから値を選択します。 [デフォルト値] 閾値アラーム
警告値	監視対象の温度が警告値に達すると、カメラは警告を発します。	[設定方法] 手動で値を入力します。 [デフォルト値] 48.00
アラーム値	監視対象の温度がアラーム値に達すると、カメラはアラームを発します。	[設定方法] 手動で値を入力します。 [デフォルト値] 50.00
最大アラーム値	アラーム範囲の最大値です。この値を超えてアラームは発生しません。	設定方法 手動で値を入力します。 [デフォルト値] 60.00
排出率	排出率は、物体がエネルギーを放出または吸収する能力です。 排出率は、対象が特殊な物質である場合にのみ設定してください。	[設定方法] 手動で値を入力します。 [デフォルト値] 0.95

パラメーター	説明	設定
距離(m)	カメラと対象物間の距離。	<p>[設定方法] 手動で値を入力します。</p> <p>[デフォルト値] 15</p> <p> <b>NOTE</b> カメラと対象物間の距離が 15m 未満の場合は、実際の距離を入力します。カメラと対象物間の距離が 15m 以上の場合は、15 を入力します。</p>
アラーム	エリアのアラーム出力と連動をオン/オフにします。	[設定方法] アラームエリアにチェックを入れます

### ステップ 3 溫度領域を設定します。

1. エリア ID にチェックを入れます。
2. ドロップダウンリストからタイプを選択します。
3. マウスの左ボタンを押したまま、ビデオエリア内をドラッグして温度エリアを描画します。右クリックしてエリアの選択を終了します。
4. 「適用」をクリックすると、「適用成功」というメッセージが表示され、温度エリアの設定が完了します。

### 温度エリアの削除:

1. エリア ID を選択します。
2. 温度エリアをクリックし、右クリックします。
3. エリア ID の選択を解除します。
4. 「適用」をクリックすると、「適用成功」というメッセージが表示され、温度エリアの削除が完了します。

### 5.6.3 スケジュール連携

#### 操作手順

ステップ 1 : [サーマル] > [スケジュール連携] を選択します。

図 5-45 のようなスケジュール連携ページが表示されます。

図 5-45 スケジュール連携



ステップ 2 : チャンネルを選択します。

ステップ 3 : アラームの種類選択し、任意の連動イベントを有効にします。

ステップ 4 : スケジュールを設定します。

図 5-46 スケジュール



方法 1 : 図 5-45 に示すように、マウスの左ボタンをクリックして、月曜日から日曜日までの 0:00~24:00 の間の任意の時刻を選択します。

方法 2 : マウスをドラッグして、日曜日から土曜日までの 0:00~24:00 の間のアラーム時刻を選択します。

#### NOTE

カーソルをドラッグして時刻を選択する場合、カーソルを時刻領域外に移動することはできません。そうしないと、時刻を選択できません。

方法 3 : スケジュールページの をクリックして、日全体または週全体を選択します。

アラーム時刻の削除 : 選択したアラーム時刻を削除するには、もう一度 をクリックするか、選択範囲を反転します。

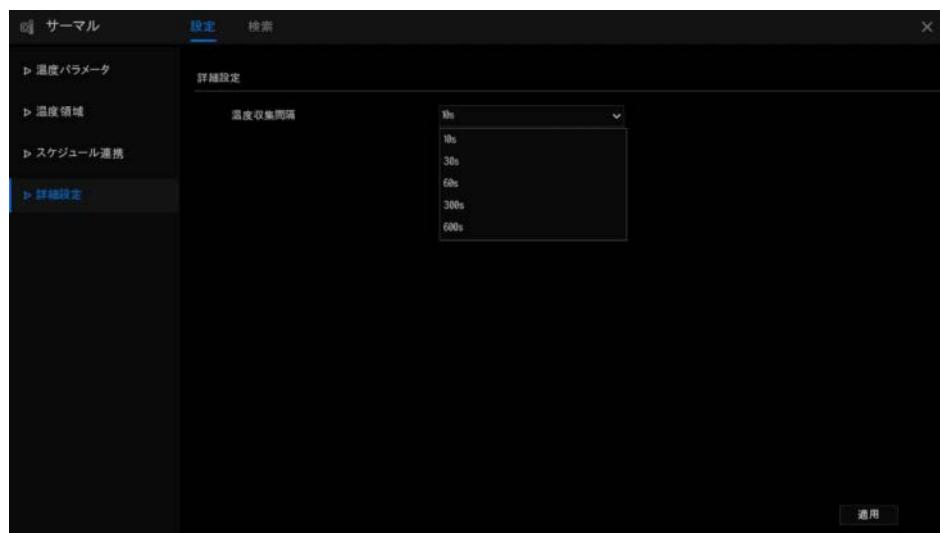
**ステップ 5** 「適用」をクリックします。「適用成功」というメッセージが表示され、設定が保存されます。

#### 5.6.4 詳細設定

##### 操作手順

**ステップ 1** 図 5-47 に示すように、「サーマル」>「詳細設定」を選択し、詳細設定画面に入ります。

図 5-47 詳細設定



**ステップ 2** ドロップダウンリストから温度収集間隔を選択します。NVR は設定された間隔で温度を収集します。

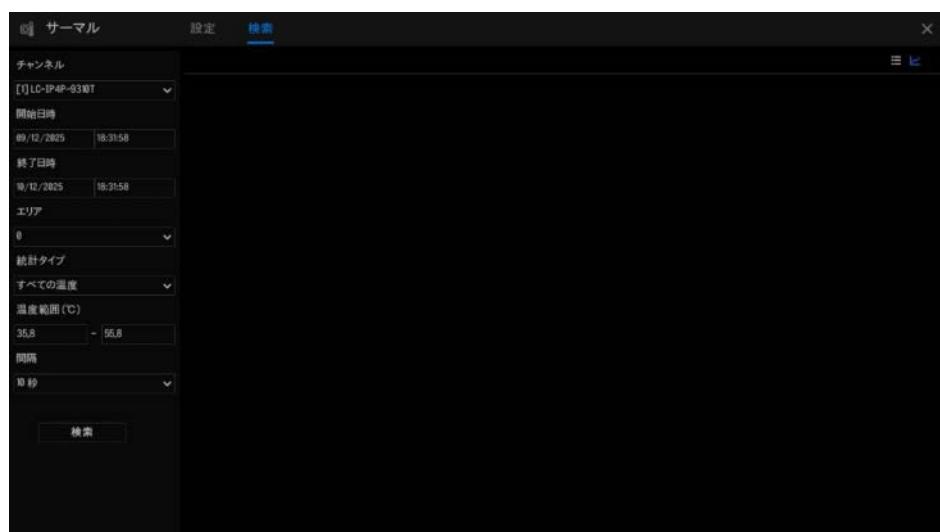
**ステップ 3** 「適用」をクリックします。「適用成功」というメッセージが表示され、設定が保存されます。

#### 5.6.5 検索

##### 操作手順

**ステップ 1** 図 5-48 に示すように、「サーマル」>「検索」を選択し、検索画面に入ります。

図 5-48 照会



**ステップ 2** サーマルカメラのチャンネルを選択します。

**ステップ 3** 開始時刻と終了時刻を設定します。

**ステップ 4** 溫度領域画面で設定したエリアを選択します。デフォルトのエリアは 0（全画面）です。

**ステップ 5** 統計タイプを選択し、温度範囲を設定します。

**ステップ 6** 表示間隔を選択し、「検索」をクリックして結果を表示します。結果の表示形式はリストと画像の 2 種類があります。

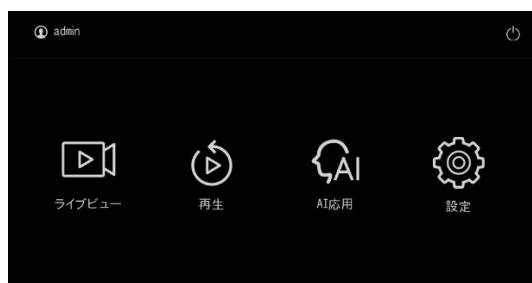
## 5.7 チャンネル情報

■をクリックし「チャンネル番号」と「ストリーム番号」にチェックマークを付けると、ライブ映像に情報が表示されます。

## 5.8 メインメニュー

UI 画面を右クリックすると、図 5-50 のようなメインメニューが表示されます。

図 5-50 NVR メインメニュー



「設定」を選択して、チャンネル、スピーカー、録画、イベント、AI 分析、ネットワーク、システムを設定します。

**チャンネル**：カメラ、エンコード、イメージ設定、OSD、プライバシーマスク、ROI、音声、オートトラッキング。

**スピーカー**：スピーカー管理、ローカル音声ファイル。

**録画**：録画スケジュール、ディスク管理、ストレージモード、S.M.A.R.T、HDD 診断、録画日数計算、FTP。

**イベント**：一般、モーション検出、ビデオロス、アラーム入力、異常アラーム、アラーム出力。

**AI 分析**：AI 検出対象、AI 分析、行動分析、ES 分析、顔認識、車番検出、ローカル AI 分析。

**ネットワーク**：ネットワーク、802.1X、DDNS、ポートマッピング、E メール、P2P、IP アドレスフィルター、SNMP、3G/4G、PPPoE、ネットワーク帯域幅、プラットフォームアクセス、故障切換。

**システム設定**：情報、一般、ユーザー アカウント、セキュリティセンター、レイアウト、補助スクリーン、ログ、メンテナンス、自動再起動

図 5-51 設定



# 6 システム設定

## NOTE

デバイスによって機能が異なる場合があります。実際の製品をご参照ください。

## 6.1 チャンネル管理

IP カメラは、PoE ポートに接続することで NVR の入力チャンネルに直接接続できます。IP カメラの台数が不足している場合、NVR は IP カメラを自動で検索して追加するか、同じローカルエリアネットワーク（LAN）内のカメラを手動で追加できます。チャンネル管理には、カメラの追加または削除、エンコード、画像、OSD、プライバシーマスク、ROI、音声、オートトラッキングが含まれます。

### 6.1.1 カメラ

#### 操作説明

「システム設定」メニューの「チャンネル」をクリックすると、図 6-1 に示すカメラ管理画面が表示されます。カメラの追加には、手動追加、一括追加、検索追加、POE 追加、自動追加の 4 つのモードがあります。

図 6-1 チャンネル管理画面





デバイスのパラメーターを変更します。リモートチャンネルはカメラに基づいています（人体温度計には2つのリモートチャンネルがあり、魚眼カメラには4つのリモートチャンネルがあります）。図6-2を参照してください。

図6-2 デバイスパラメーターの変更



**デバイスの追加**：カメラを自動的に追加します。

**削除**：カメラを選択し、「削除」ボタンをクリックして削除します。

リスト上のオンラインの非 ONVIF チャンネルにチェックを入れ、「FW アップデート」をクリックしてファームウェアが格納されたディレクトリにアクセスします。チャンネルのカメラのファームウェアバージョンがすぐに更新されます。

#### 6.1.1.1 カメラの自動追加

NVR はカメラリストにカメラを自動的に追加できます。

##### 操作方法

**方法1**：「検索開始」クリックすると、レコーダーと同じネットワーク上にあるカメラがリストに表示されます。検索は 20 秒間続きます。ユーザー名とパスワード（デフォルト値はどちらも admin）を入力し、「デバイスの追加」をクリックすると、デバイスリストの上位にあるカメラがチャンネルに直接追加されます。

オンラインデバイス		検索開始			
	IPアドレス	型番	プロトコル	ファームウェアバージョン	IP変更
□	192.168.0.182:80		ONVIF	v4.5.1205.1006.366.0.111.6	⚡
□	192.168.0.181:80		ONVIF	v4.5.1205.1006.366.0.111.5	⚡
□	192.168.0.76:30001	LC-IP4D-3510F	Private	v4.5.1205.1006.366.0.111.6	⚡
□	192.168.0.75:30001	LC-IP4D-3510F	Private	v4.5.1205.1006.366.0.111.5	⚡
□	192.168.0.74:30001	LC-IP4B-3810S	Private	v4.5.1205.1006.366.0.111.6	⚡
□	192.168.0.72:30001	LC-IP5P-9305	Private	v5.1.1603.2412.366.0.110.3	⚡

ユーザー名 admin パスワード \*\*\*\*\* 追加

**方法2**：追加するカメラを選択し、「追加」をクリックすると、選択したカメラがカメラリストに追加されます。

##### NOTE

- カメラ管理画面で、カメラリストのチャンネルのステータスを確認します。チャンネルのステータスが ● の場合、このカメラはオンラインです。チャンネルのステータスが ● の場合、このカメラはオフラインです。
- 追加するカメラは、NVR と同じネットワーク上にある必要があります。WAN および LAN の場合、LAN は内部ネットワークとして使用されます。LAN ポートはカメラの接続のみが許可されており、インターネットに接続することはできません。WAN はインターネットに接続し、ユーザーは WAN 経由でカメラを管理できます。

### 6.1.1.2 カメラの手動追加

#### 操作手順

ステップ1：図6-3に示すように、デバイスを追加するには $+$ をクリックします。

図6-3 カメラ追加画面



ステップ2：カメラのIPアドレス、ポート、ユーザー名、パスワードを入力します。オンラインカメラのIPをダブルクリックすると、設定がコピーされます。他のチャンネルのパラメーターを素早く変更できます。

ステップ3：ドロップダウンリストからプロトコルを選択します（ONVIF、プライベート、カスタムプロトコル）。リモートチャンネルは、サーマルカメラや魚眼カメラなどのマルチチャンネルカメラでのみ使用されます。

ステップ4：「OK」をクリックすると、カメラが正常に追加されます。

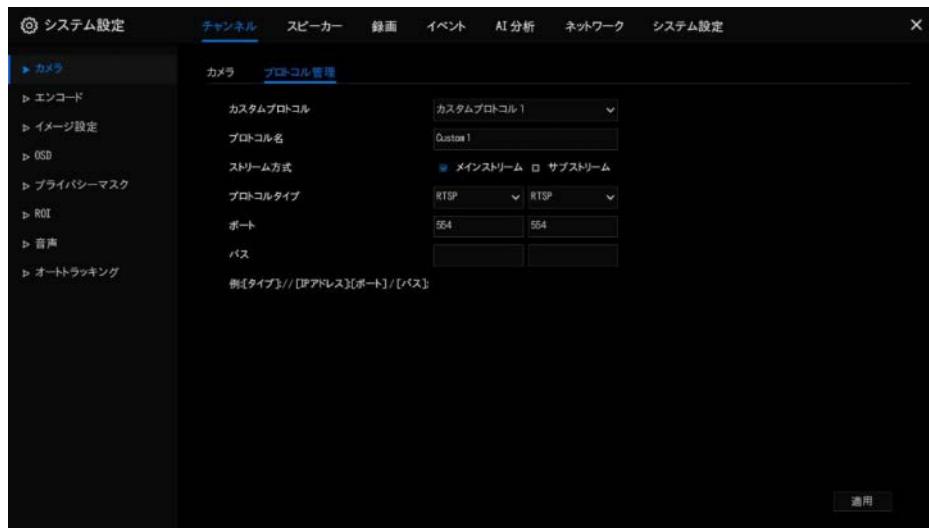
#### NOTE

- NVRのすべてのチャンネルにカメラが接続されている場合は、不要なカメラを削除して、カメラを追加できるようにしてください。
- IPカメラを手動で追加する場合は、オンラインデバイスリストの下にあるカメラの正しいユーザー名とパスワードを入力してください。カメラは正常に追加されます。追加されていない場合は、カメラはリスト上でオフラインとして表示されます。
- プロトコルはカスタムプロトコルで選択できます。これらはプロトコルインターフェースで設定します。
- バイスペクトルカメラには2つのチャンネルがあります。両方のチャンネルを追加する必要があります。追加されたチャンネルをクリックして情報をコピーすれば時間を節約できます。リモートチャンネルなどの異なる情報を変更するだけで済みます。リモートチャンネルがCH-1の場合、可視チャンネルが追加されます。リモートチャンネルがCH-2の場合、サーマルチャンネルが追加されます。DVRチャンネルをNVRに追加する場合は、IPアドレス、ユーザー名、パスワードをコピーし、リモートチャンネルのみを変更することで、NVRに異なるチャンネルを追加できます。

### 6.1.1.3 RSTPによるカメラの追加

異なるプロトコルのカメラをNVRに追加する場合は、図6-4に示すように、プロトコル管理を設定し、カメラを1台ずつ追加できます。

図6-4 プロトコル管理



**ステップ1**：「設定」>「チャンネル」>「カメラ」>「プロトコル管理」をクリックします。

**ステップ2**：ドロップダウンリストからカスタムプロトコルを選択します。16種類のプロトコルを設定できます。

**ステップ3**：プロトコル名を入力します。

**ステップ4**：メインストリームとサブストリームにチェックを入れます。メインストリームはライブビデオのフルスクリーン表示に映像を表示します。サブストリームは分割画面に映像を表示します。メインストリームのみにチェックを入れた場合、チャンネルは分割画面に映像を表示しません。

**ステップ5**：プロトコルの種類を選択します。デフォルト値はRTSPです。

**ステップ6**：IPカメラのポートを入力します。

**ステップ7**：パスを入力します（カメラのモデルによって異なる場合があります）。

**ステップ8**：「適用」をクリックして設定を保存します。

#### NOTE

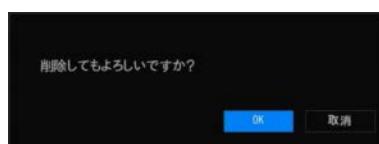
ドロップダウンリストからプロトコルを選択します。プロトコルはプロトコル管理インターフェースで設定されます。カメラはプロトコルに基づいて動作確認する必要があります。

### 6.1.1.4 カメラの削除

#### 操作手順

**ステップ1**：カメラリストから削除するカメラを選択し、をクリックします。図6-5に示すように、削除確認メッセージ画面が表示されます。

図6-5：削除確認メッセージ



**ステップ2**：「OK」をクリックすると、カメラが正常に削除されます。

POE カメラはオンライン状態のため、直接削除することはできません。ユーザー名またはパスワードを変更してオフラインに

してから、をクリックして削除してください。POE チャンネルが削除されています。カメラを一度取り外し、再度接続して接続してください。

#### 6.1.1.5 カメラの操作

図 6-6 に示すように、カメラリストで  をクリックすると、カメラを操作できます。ユーザーはカメラのアップデート、再起動、リセットを行うことができます。

図 6-6 : その他の操作



**アップデート**：「アップデート」をクリックします。図 6-7 に示すように、ソフトウェアを選択するためのポップアップウィンドウが表示されます。

ディレクトリを設定し、「OK」をクリックしてカメラをアップデートします。

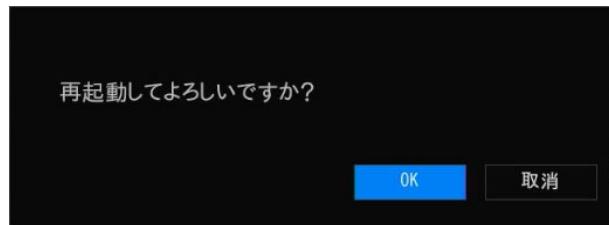
図 6-7 : ソフトウェアのディレクトリを選択します。



**一括更新**：ONVIF プロトコル非対応でオンライン状態のカメラにチェックを入れ、「更新」をクリックすると、すべてのカメラが一括更新されます。

**再起動**：「再起動」をクリックすると、「再起動しますか？」というメッセージが表示されます。「OK」をクリックしてカメラを再起動します。

図 6-8 カメラの再起動



**リセット**：「リセット」をクリックすると、「リセットしますか？」というメッセージが表示されます。IP アドレス保持機能を有効にし、「OK」をクリックしてカメラを再起動します。

図 6-9 カメラのリセット



**IP アドレスの変更**：オンライン状態のカメラの IP アドレスを変更できます。「IP アドレスの変更」をクリックして、次の図のように変更し、新しい IP アドレスとサブネットマスクを入力します。

図 6-10 IP アドレスの変更



#### NOTE

アップデートには、フラッシュドライブを使用してファームウェアをアップロードする必要があります。

### 6.1.2 エンコードパラメーター

エンコードパラメーター画面では、チャンネル内のカメラのストリーム情報、エンコードタイプ、解像度、フレームレート、ビットレート制御、ビットレート、品質を設定できます。

## 操作説明

図 6-11 に示すように、「設定」>「チャンネル」>「エンコード」に移動します。

図 6-11 エンコード画面



## 操作手順

**ステップ 1 :** チャンネルのドロップダウンリストからチャンネルを選択します。

**ステップ 2 :** ドロップダウンリストから、ビデオ形式、音声エンコードタイプ、解像度、フレームレート、ビットレート制御、ビットレート、ビデオ品質を設定します。

**ステップ 3 :** 「コピー」をクリックして、表示されたウィンドウでチャンネルを選択するか、「すべて」にチェックを入れます。

「OK」をクリックすると選択したチャンネルのカメラにパラメーター設定を適用されます。「適用」をクリックしてエンコードパラメーター設定を保存します。

### 6.1.3 イメージ設定

イメージ設定とは、画像の基本的な属性を指し、明るさ、シャープネス、コントラスト、彩度などが含まれます。シーンに応じて、各チャンネルのパラメーターを設定できます。

## 操作説明

図 6-12 に示すように、「設定」>「チャンネル」>「イメージ設定」に移動します。

図 6-12 画像画面



イメージ設定は、モード、画像、シーン、露出、ホワイトバランス、デイ/ナイト、ノイズ除去、画像強調、ズームフォーカス（監視対象レンズに適用されます）です。

サーマルカメラの場合、モード、画像、シーン、疑似カラー、FFC 制御、ノイズ低減、画像強調を設定できます。

- 明るさ：画像の明るさまたは暗さを示します。
- シャープネス：画像の鮮明度を示します。
- コントラスト：画像の中で最も明るい白と最も暗い黒を示します。
- 彩度：画像の色の鮮やかさを示します。

その他のパラメーターには、IP カメラの画像設定があり、シーン、露出、ホワイトバランス、デイ/ナイト、ノイズ低減、画像強調があります。

- シーン：屋内、屋外から選択します。ミラーでは通常、水平、垂直、水平+垂直から選択します。
- 露出：露出モード、最大シャッター速度、測光エリア、最大ゲインを設定します。
- ホワイトバランス：自動、白熱灯、蛍光灯、日光、影、手動から選択します。
- デイ/ナイト：昼から夜への切り替え設定を行います。
- ノイズ除去：2DNR と 3DNR の設定を行います。
- 画像強調：WDR、HLC、BLC、デフォッギングの設定を行います。

## 操作手順

**ステップ 1：**「チャンネル」のドロップダウンリストからチャンネルを選択します。「モード」のドロップダウンリストからデバッグモードを選択して設定を変更します。4つのシナリオを設定できます。デフォルトのシナリオはシナリオ 1 です。

**ステップ 2：**ドロップダウンリストからシーンを選択します。パラメーターのデフォルト値は、状況によって異なります。

**ステップ 3：**パラメーターを設定します。

**ステップ 4：**設定を無効する場合は、「工場出荷時の設定」クリックして変更内容をリセットします。「適用」をクリックして変更した設定を保存します。

## 6.1.4 OSD 設定

### 6.1.4.1 OSD

図 6-13 に示すように、「設定」>「チャンネル」>「OSD」に移動します。

図 6-13 OSD 設定画面



#### 操作手順

ステップ 1 : 「チャンネル」のドロップダウンリストからチャンネルを選択します。

ステップ 2 : 「日時」の横にある をクリックし、OSD 時間設定を有効または無効にします。

ステップ 3 : 「チャンネル名」の横にある をクリックし、OSD チャンネル設定を有効または無効にします。

ステップ 4 : チャンネル名を設定します。

ステップ 5 : ビデオウィンドウで、日時またはチャンネルをクリックしてドラッグし、目的の場所に移動します。

ステップ 6 : 「コピー」をクリックします。表示されたウィンドウでチャンネルを選択し、「OK」をクリックして選択したチャンネルのカメラに OSD 設定を適用します。 「適用」をクリックして OSD 設定を保存します。

### 6.1.4.2 ローカル OSD

図 6-14 に示すように、「設定」>「チャンネル」>「OSD」>「ローカル OSD」に移動します。これは OSD のない IPC 用に NVR がローカル OSD を設定します。

図 6-14 ローカル OSD



## 操作手順

**ステップ 1 :**「チャンネル」のドロップダウンリストからチャンネルを選択します。

**ステップ 2 :**「時間」の横にある  をクリックして、OSD の時間設定を有効または無効にします。

**ステップ 3 :**「カスタム OSD」の横にある  をクリックして、カスタム OSD を有効または無効にし、テープルにカスタム文字を入力します。入力した文字はライブビデオに表示されます。

**ステップ 4 :**ドロップダウンリストからフォントサイズと OSD の色を設定します。

**ステップ 5 :**「コピー」をクリックします。表示されたウィンドウでチャンネルを選択し、「OK」をクリックして選択したチャンネルのカメラに OSD 設定を適用します。「適用」をクリックして OSD 設定を保存します。

## 6.1.5 プライバシーマスク

システムでは、プライバシーマスクによって特定のゾーン内の画像をマスクすることができます。

### 操作説明

図 6-15 に示すように、「設定」>「チャンネル」>「プライバシーマスク」に移動します。

図 6-15 プライバシーマスク画面



## 操作手順

**ステップ 1 :**「チャンネル」のドロップダウンリストからチャンネルを選択します。

**ステップ 2 :**ビデオウィンドウで、マウスの左ボタンを押したままドラッグしてプライバシーマスクを描画します。プライバシーマスクをダブルクリックしてマスクを削除できます。

**ステップ 3 :**「適用」をクリックして設定を保存します。

## 6.1.6 ROI

- 図 6-16 に示すように、「設定」>「チャンネル」>「ROI (関心領域)」に移動します。

図 6-16 ROI



表 6-1 ROI パラメーター

パラメーター	説明	設定
ストリーム	ストリーム ID	[設定方法] ドロップダウンリストボックス から値を選択します。 [デフォルト値] メインストリーム
有効化	ROI を有効にする	[設定方法] ボタンをクリックします。 [デフォルト値] オフ
エリア ID	ROI エリア ID (8 つのエリ アがあります)	[設定方法] ドロップダウンリストボックス から値を選択します。 [デフォルト値] 1
レベル	ROI の測定結果です。レベ ルが高いほど、ROI 内部の 領域は鮮明になり、ROI 外 部の領域はぼやけます。レ ベルは 5 段階です。	[設定方法] ドロップダウンリストボックス から値を選択します。 [デフォルト値] 5

パラメーター	説明	設定
エリア名	チェックされたエリア名が使用されます。	[設定方法] 手動で値を入力します。値は32バイト以内です。

2. 「適用」をクリックして設定を保存します。

## 6.1.7 音声（一部モデルのみ）

### 6.1.7.1 音声入力

マイクなどの音声入力デバイスのパラメーターを設定します。

- 図 6-17 に示すように、「設定」>「チャンネル」>「音声」>「音声入力」に移動します。
- 表 6-2 に従ってパラメーターを調整します。

図 6-17 音声入力

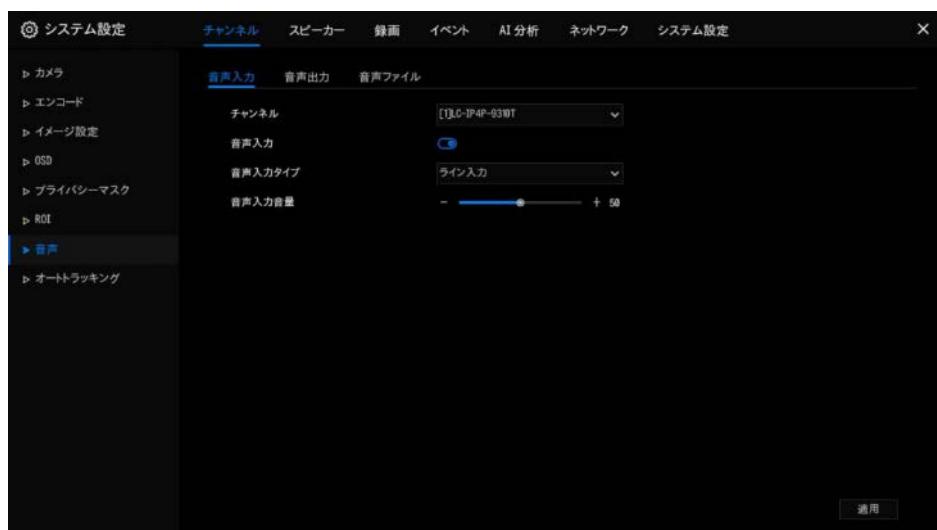


表 6-2 音声入力

パラメーター	説明	設定
チャンネル	設定するチャンネルを 1 つ選択します。	[設定方法] ドロップダウンリストボックスからチャンネルを選択します。
音声入力	音声入力機能を有効にするかどうかを示します。	[設定方法] ボタンをクリックして音声入力を有効にします。

パラメーター	説明	設定
音声入力タイプ	音声入力タイプには以下のものがあります。 ・ライン入力：有効なオーディオ入力が必要です ・内蔵：マイク内蔵カメラのみ対応	[設定方法] ドロップダウンリストボックスから値を選択します。
音声入力音量	音量を調整できます。	[デフォルト値] 50 注：値の範囲は0～100です。

3. 「適用」をクリックして設定を保存します。

#### 6.1.7.2 音声出力

- 「設定」>「チャンネル」>「音声」>「音声出力」に移動します。
- 表 6-3 に従ってパラメーターを調整します。

図 6-18 オーディオ出力

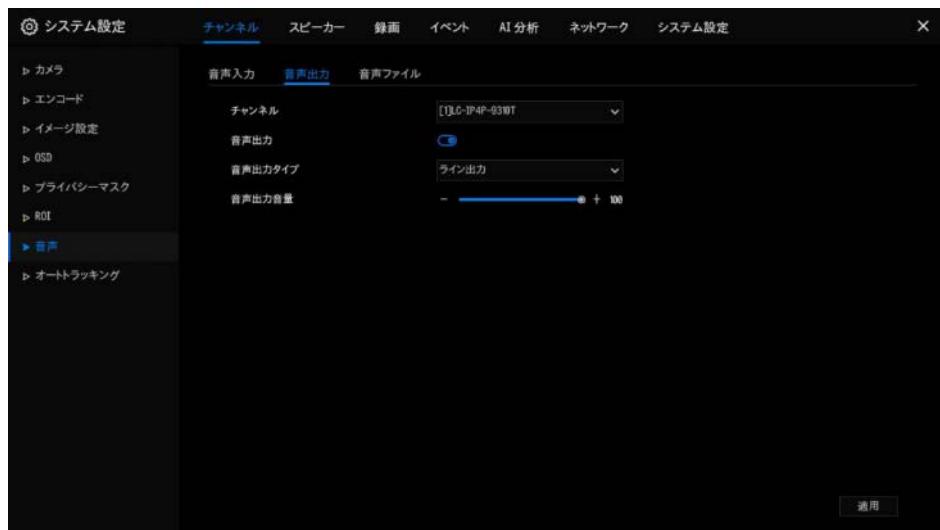


表 6-3 オーディオ出力

パラメーター	説明	設定
チャンネル	設定するチャンネルを1つ選択します。	[設定方法] ドロップダウンリストボックスからチャンネルを選択します。
音声出力	音声出力機能を有効にするかどうかを示します。	[設定方法] ボタンをクリックしてマイクを有効にします。

パラメーター	説明	設定
音声出力タイプ	オーディオ出力タイプには以下のものがあります。 ・ライン入力：アクティブなオーディオ出力が必要です。 ・内蔵スピーカー：スピーカー内蔵カメラのみ対応。	[設定方法] ドロップダウンリストボックスから値を選択します。
音声出力音量	音量を調整できます。	[設定方法] スライダーを左右にスライドします。 [デフォルト値] 50 注：値の範囲は0～100です。

- 「適用」をクリックして設定を保存します。

### 6.1.7.3 音声ファイル

- 「設定」>「チャンネル」>「音声」に移動します。
- 「音声ファイル」を選択し、音声ファイルを設定します。ユーザーは音声ファイルをアップロードでき、アラームがトリガーされた際に音声アラームが警告音を再生するように設定できます。

図 6-19 音声ファイル



- ドロップダウンリストからチャンネルを選択します。
- 音声ファイルを1つ選択し、サイクル番号（再生回数）を設定して喇叭アイコンをクリックします。
- ユーザーは再生する音声ファイルをカスタマイズできます。▲をクリックしてアップロードするファイルを選択します。
- 「適用」をクリックして設定を保存します。

## NOTE

- ファイル形式は WAV、ファイルサイズは 250KB 未満、ビットレートは 128kbps にする必要があります。

図 6-20 音声ファイルのアップロード

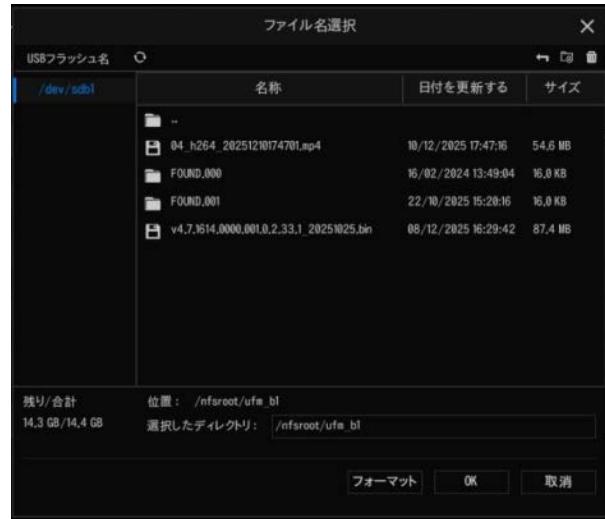
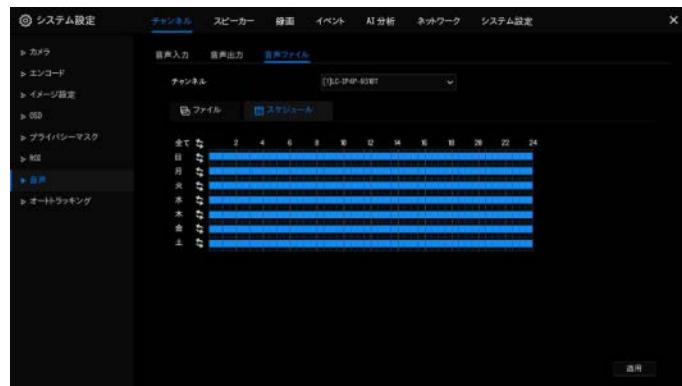


図 6-21 音声ファイルのスケジュール



### 6.1.8 オートトラッキング（一部モデルのみ）

## NOTE

この機能は PTZ カメラで利用できます。

オートトラッキング機能は、カメラがあらかじめ設定されたシーン内の移動対象を継続的に追跡し、移動対象までの距離に応じてカメラのズームフォーカスを自動調整します。移動対象が消えると、ドームカメラは自動的に設定されたシーンに戻ります。

1. 図 6-22 に示すように、「設定」>「チャンネル」>「オートトラッキング」に移動します。
2. 表 6-4 に従ってパラメーターを調整します。
3. 「適用」クリックして設定を保存します。

図 6-22 オートトラッキング



表 6-4 オートトラッキングパラメーター

パラメーター	説明	設定
チャンネル	設定するチャンネルを 1 つ選択してください。	[設定方法] ドロップダウンリストボックスからチャンネルを選択します。
オートトラッキング	オートトラッキングを有効にするには、ボタンを有効にします。	[設定方法] 「有効」をクリックして有効にします。 [デフォルト値] オフ
補正係数	これは制御係数に相当し、リアルタイムトラッキングの倍加率と非線形正相関があります。通常、設置高さが高いほど補正係数の値も大きくなります。範囲は 1~30 です。	[設定方法] スライダーをドラッグします。 [デフォルト値] 1
拡大追跡	レンズズームの値で、リアルタイムトラッキングの倍率に大きく影響します。	[設定方法] スライダーをドラッグします。 [デフォルト値] 7

追跡時間（秒）	追跡時間は 0~300 秒で設定できます。	[設定方法] スライダーをドラッグします。 [デフォルト値] 120
開始ポイント	トラッキングの開始点では、プリセットまたはなしを選択できます。プリセットは事前に設定しておく必要があります。	[設定方法] ドロップダウンリストから選択します。 [デフォルト値] なし
追跡タイプ	追跡タイプ（人、車両）を選択します。	[設定方法] ドロップダウンリストから選択します。 [デフォルト値] 人

## 6.2 スピーカー

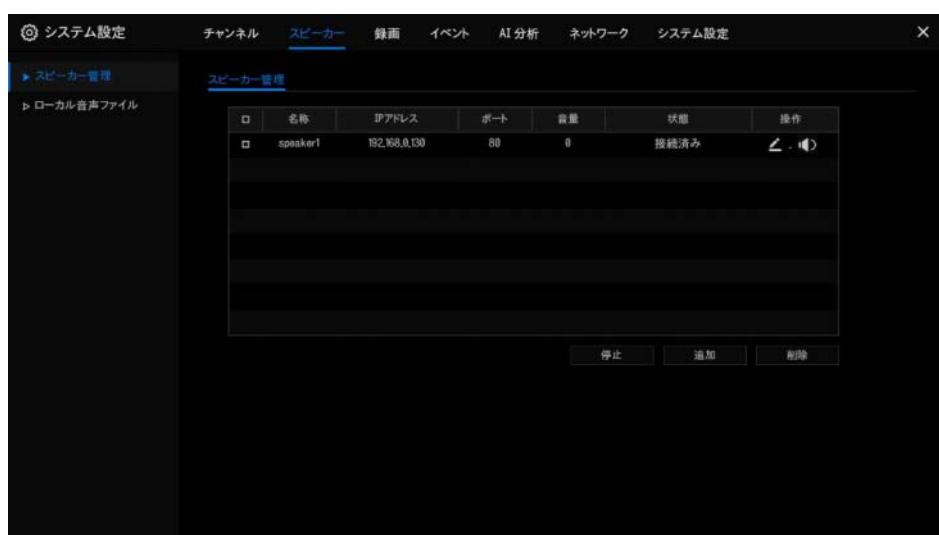
NVR にネットワークスピーカーを追加して、NVR 内蔵の音声ファイルやマイク等の音声入力を放送できます。

「設定」>「スピーカー」の「スピーカー管理」をクリックし、スピーカー画面にアクセスします。

### 6.2.1 スピーカー管理

**ステップ 1：**図 6-23 に示すように、「設定」>「スピーカー」に移動します。

図 6-23 スピーカー管理



**ステップ 2 :**「追加」をクリックして、NVR にスピーカーを追加します。スピーカーのパラメーターを入力します。「OK」をクリックして追加します。

図 6-24 スピーカーの追加



**ステップ 3 :**追加に成功しました。🔊をクリックして音量を調整します。

**ステップ 4 :**スピーカーにチェックを入れ、「削除」をクリックして選択したスピーカーを削除します。イベントアラームによってスピーカーがトリガーされたら、「停止」をクリックしてブロードキャストを終了します。

**ステップ 5 :**✍️をクリックしてスピーカーを編集します。

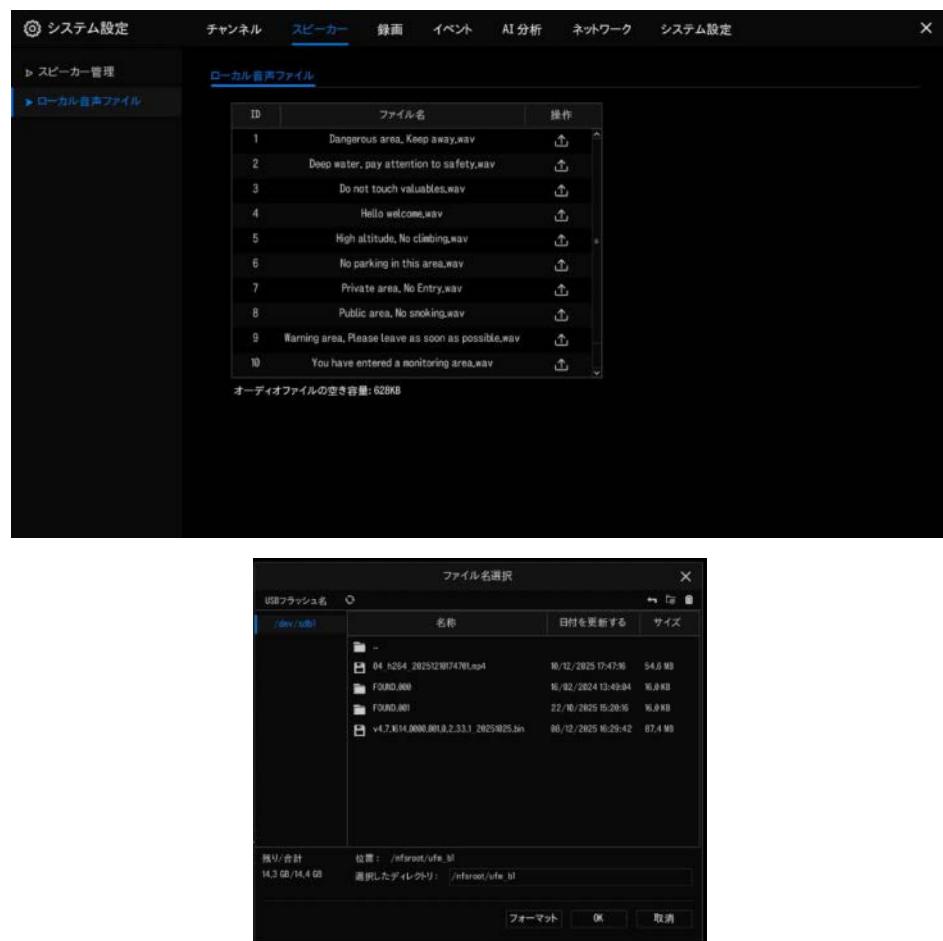
図 6-25 スピーカーの編集



### 6.2.1.2 ローカル音声ファイル

ユーザーは 11 個のオーディオファイルを個別にアップロードするか、デフォルトのオーディオファイルを使用できます。すべてのファイルの合計サイズは 1MB を超えることはできません。アップロードするオーディオファイルは WAV 形式である必要があります。

図 6-26 ローカルオーディオファイル



## 6.3 録画設定

録画スケジュール、HDD、ストレージモード、S.M.A.R.T、HDD 検出、HDD 計算、FTP などを設定します。

### 6.3.1 録画スケジュール

#### 操作説明

図 6-27 に示すように、「設定」>「録画」>「録画スケジュール」に移動します。

図 6-27 録画スケジュール画面



## 操作手順

**ステップ 1 :**「チャンネル」のドロップダウンリストからチャンネルを選択します。

**ステップ 2 :**録画を有効にします。

**ステップ 3 :**録音を有効にします。

**ステップ 4 :**ANR を有効にします。カメラに SD カードが取り付けられている場合、カメラがネットワークから切断された場合でも、ネットワークが回復すると、NVR はカメラの録画を読み取り、SD カードから失われたビデオをコピーできます。

**ステップ 5 :**録画するメインストリームまたはサブストリームを選択します。

**ステップ 6 :**録画スケジュールを設定します。

- **方法 1:** マウスの左ボタンを押したままドラッグし、マウスを放して、月曜日から日曜日までの 00:00 から 24:00 の間で録画開始時刻を選択します。

### NOTE

- カーソルをドラッグして時刻を選択した場合、カーソルは時刻エリアから移動した場合は時刻が選択されません。
- 選択エリアは青色で表示されます。デフォルトは全週全日です。
- アラーム録画を選択すると、アラームが発生した時刻のみ録画されます。これにより、HDD を効率的に使用することができます。
- ANR 機能は、補助録画機能を備えたカメラでのみ使用できます。

- **方法 2:** 録画スケジュールページの  をクリックして、全日または全週を選択します。

**手順 7 :** 録画スケジュールの削除: 選択した録画スケジュールを削除するには、もう一度  をクリックするか、逆順にクリックします。

**ステップ 8 :**「コピー」をクリックします。表示されたウィンドウでチャンネルを選択するか「すべて」にチェックを入れ、「OK」をクリックして選択したチャンネルに設定を適用します。「適用」をクリックして設定を保存します。

## 6.3.2 ディスク管理

### 6.3.2.1 ディスク管理

HDD の総容量、HDD の状態、HDD のシリアル番号、および HDD のストレージ容量を表示します。HDD をフォーマットし、録画の有効期限を設定できます。

#### 操作の説明

**ステップ 1 :** 図 6-28 に示すように、「録画」>「ディスク管理」に移動します。

図 6-28 HDD 画面



**ステップ 2 :** 「フォーマット」をクリックします。「HDD をフォーマットしますか？ データは失われます」というメッセージが表示されます。

**ステップ 3 :** HDD グループを選択します。グループは 4 つあります。

**ステップ 4 :** 「OK」をクリックすると、HDD がフォーマットされます。

**ステップ 5 :** 録画を「上書き」に設定すると、HDD は自動的に上書きされます。

**ステップ 6 :** 録画の有効期限設定；録画有効期限のドロップダウンリストから、録画の有効期限日数を選択します。有効期限が 0 でない場合、設定値を超えると録画は削除されます。

**ステップ 7 :** 「適用」をクリックして設定を保存します。

#### NOTE

- HDD グループは、チャンネルの録画を異なる HDD に保存できるため、ストレージ効率が向上します。
- 有効期限の 0 は、HDD がいっぱいになった場合にのみ HDD が書き換えられることを意味します。

### 6.3.2.2 NAS

ユーザーが NAS アカウントをお持ちの場合は、バックアップ録画を保存するための NAS の設定を行います。

図 6-29 NAS



**ステップ 1 :** [録画] > [ディスク管理] > [NAS] に移動し、NAS インターフェースに入ります。

**ステップ 2 :** [追加] をクリックしてアカウントを追加し、NAS アドレスを入力します (NAS プロトコルはデフォルトで NFS です)。アカウントとパスワードを入力します。匿名ログオンがオンになっている場合、アカウントとパスワードは無効です)。NAS パスを入力します (パスは NAS インターフェースで確認できます)。

**ステップ 3 :** [テスト] をクリックしてパラメーターの検証を行います。テストが成功した場合は、[OK] をクリックして設定を保存します。

### 6.3.3 ストレージモード

ユーザーは、チャンネルを異なる HDD グループに分散させ、HDD 容量を効率的に使用する必要があります。

#### 操作手順

**ステップ 1 :** 図 6-30 に示すように、[設定] > [録画] > [ストレージモード] に移動します。

図 6-30 ストレージモード



**ステップ 2 :** HDD グループを選択します。

ステップ3：HDD グループに録画するチャンネルを選択します。

ステップ4：設定を保存するには、「適用」をクリックします。

ステップ5：グループリストに詳細情報が表示されます。

#### NOTE

- チャンネルがリストに表示されていない場合、NVR はこれらのチャンネルを録画しません。すべてのチャンネルがリストに含まれていることを確認してください。
- チャンネル数を選択します。HDD グループの容量を考慮する必要があります。

## 6.3.4 S.M.A.R.T

### 6.3.4.1 S.M.A.R.T

S.M.A.R.T は、図 6-31 に示すように HDD の状態をチェックできる機能です。

図 6-31 S.M.A.R.T



### 6.3.4.2 WDDA

Western Digital の HDD には WDDA 機能が搭載されており、NVR は HDD の情報を読み取ることで、図 6-32 に示すように HDD の状態を確認できます。

図 6-32 WDDA



### 6.3.5 RAID（一部モデルのみ）

NVR は RAID の構築、編集、削除をサポートしています。ユーザーは録画の重要度に応じて RAID の種類を選択できます。

#### NOTE

- HDD はエンタープライズレベルの HDD である必要があります。効率的な使用のため、HDD の容量は均一です。
- RAID0/1/5/6/10 をサポートしています。
- RAID の最大容量は 80TB を超えることはできません。
- RAID5 では少なくとも 3 台の HDD を作成できます。RAID6 では少なくとも 4 台の HDD を作成できます。RAID10 では少なくとも 4 台の HDD を作成できます。複数の HDD、またはベーシック HDD の 2 台を必要とするホットスペア HDD を作成してください。

図 6-33 RAID



#### 操作手順

ステップ 1：「設定」 > 「録画」 > 「RAID」に移動します。

ステップ 2：「作成」をクリックし、新しい RAID を作成する HDD を選択します。

ステップ 3：HDD が故障した場合に備えてバックアップするホットスペア HDD にチェックを入れます。HDD の数は 2 台以上である必要があります。

ステップ 4：「OK」をクリックして作成を保存し、新しい RAID をフォーマットします。

### 6.3.6 HDD 診断

図 6-34 に示すように、ビデオを録画する前に HDD を検出し、データの安全性を確保します。

図 6-34 HDD 診断



#### 操作手順

ステップ 1：「設定」 > 「録画」 > 「HDD 診断」に移動します。

ステップ 2：「HDD」のドロップダウンリストから HDD を選択します。

ステップ 3：「すべて」または「キーエリア」にチェックを入れて HDD を検出します。検出には数分かかる場合があります。

ステップ 4：「スキャン」をクリックして HDD をスキャンします。

ステップ 5：HDD の検出結果がインターフェースに表示されます。

#### NOTE

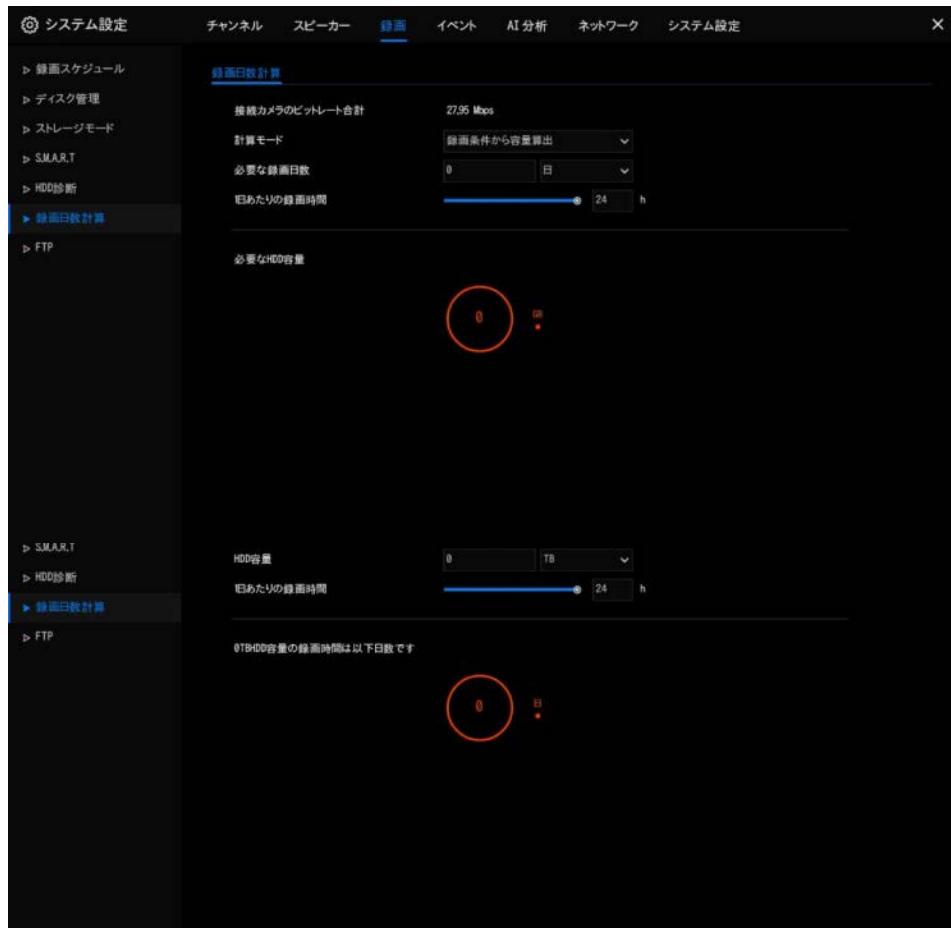
- 緑のブロックは正常、赤のブロックは不良を意味します。赤のブロックが多すぎる場合、またはキーエリアにある場合は、すぐに HDD を交換してください。
- HDD が検出される前に録画を停止してください。そうしないと、録画が失われる可能性があります。

### 6.3.7 録画日数計算

図 6-35 に示すように、ユーザーは HDD 使用量を計算し、適切な録画ポリシーを設定できます。

「容量計算」と「時間計算」の 2 つのモードを設定できます。

図 6-35 HDD 容量計算（録画条件から容量算出）



### 6.3.8 FTP

FTP アップロードを有効にすると、アラーム発生時に FTP アップロードにリンクしてアラーム録画を保存できます。

図 6-37 FTP



## 操作手順

ステップ 1 : [設定] > [録画] > [FTP]に移動します。

ステップ 2 : FTP アップロードを有効にします。

ステップ 3 : FTP アドレスとポートを入力します。

ステップ 4 : アカウント、パスワード、FTP パスを入力します。

ステップ 5 : アップロードファイルのサイズを 0~64MB の範囲で設定します。

ステップ 6 : [テスト]をクリックしてパラメーターをテストします。テストが成功したら、[適用]をクリックして設定を保存します。

## 6.4 イベント管理

イベント画面で、一般、モーション検出、ビデオロス、アラーム入力、異常アラーム、アラーム出力を設定します。

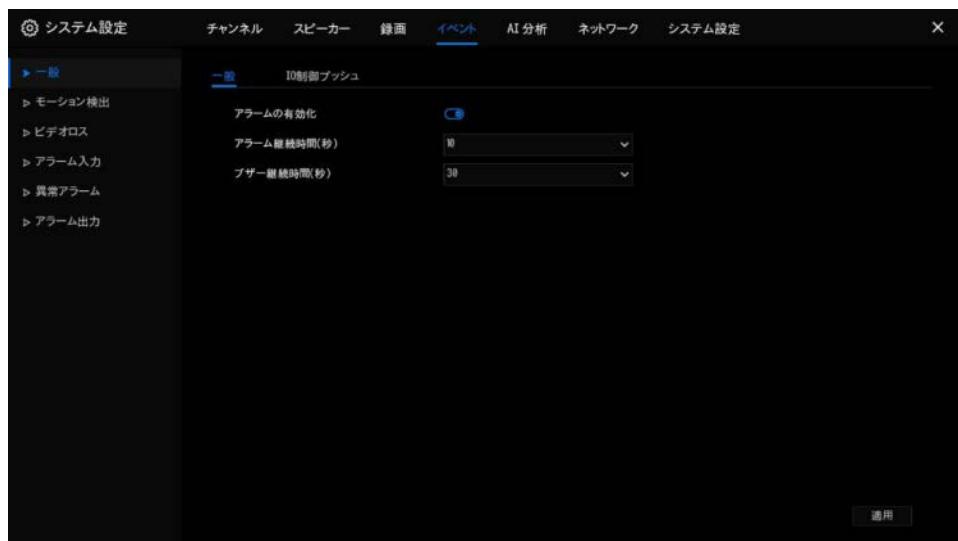
### 6.4.1 一般

#### 6.4.1.1 一般

## 操作手順

ステップ 1 : 図 6-38 に示すように、「設定」>「イベント」>「一般」に移動します。

図 6-38 アラーム管理画面



ステップ 2 : アラームを有効にするにはスイッチボタンを ON にします。

ステップ 3 : 「アラーム継続時間」と「ブザー継続時間」のドロップダウンリストから値を選択します。

ステップ 4 : アラーム設定を保存するには「適用」をクリックします。

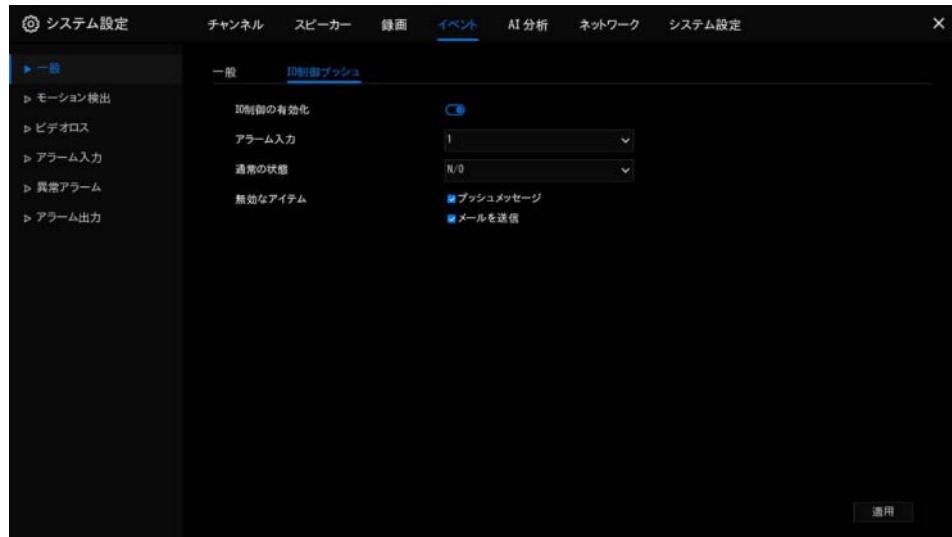
#### 6.4.1.2 IO 制御プッシュ

IO 制御プッシュは、NVR 背面パネルの IO ポートを使用します。IO ポートが一致信号を受信すると、プッシュメッセージが送信されます。例えば、「N/O」を選択し、「無効なアイテム」の項目にチェックを入れると、アラーム入力 1 はメッセージをプッシュしません。アラーム入力 1 が「N/C」の場合のみ、アラームメッセージをプッシュできます。

ステップ 1 : [設定] > [イベント] > [一般] > [IO 制御プッシュ] に移動します。

ステップ 2 : [IO 制御プッシュ] を有効にします。

図 6-39 IO 制御プッシュ



**ステップ 3 :** [アラーム入力 ID] を 1 つ選択します。通常状態 (N/C、N/O) を選択します。

**ステップ 4 :** [無効] 項目にチェックを入れます (無効にした項目はすべてのアラームに影響します。このプッシュ項目は無効になり、アラームはアプリやメールにメッセージを送信しません)。

**ステップ 5 :** [適用] をクリックして設定を保存します。

#### 6.4.2 モーション検出

NVR は、設定エリア内での動きを検出して、モーション検出アラームを送信します。

##### 操作の説明

**ステップ 1 :** [設定] > [イベント] > [モーション検出] に移動します (図 6-40 を参照)。

図 6-40 モーション検出画面



##### 操作手順

**ステップ 1 :** チャンネルのドロップダウンリストからチャンネルを選択します。

**ステップ 2 :** [モーション検出] をクリックして有効にします。

パラメーター	説明
アプリへのプッシュメッセージ	動きを検知すると、遠隔アプリに通知が届きます。
メール	モーションがトリガーされると、指定されたメールアドレスに通知が送信されます。注：このオプションを有効にする前に、ネットワーク設定（セクション 6.6.5 「メール」を参照）でメール設定を行う必要があります。
ブザー	動きを感知するとレコーダーからブザーが鳴ります。
アラーム録画の有効化	動きを検知すると、アラーム発生時に録画を開始します。事後録画（秒）：アラーム映像を録画する他のチャンネルの録画時間を選択します。録画チャンネル：録画するチャンネルを選択します。
FTP	モーションが検知されると、スナップショットが FTP 経由で保存されます。注：このオプションを有効にする前に、「録画設定」（セクション 6.3.8 「FTP」を参照）で FTP 設定を行う必要があります。
PTZ	モーションを検知すると、指定された PTZ カメラが指定されたプリセット機能を実行します。このオプションを有効にする前に、PTZ カメラの設定でプリセット操作を設定する必要があります（プリセット操作は PTZ カメラのプリセットに関連します）。対応カメラが必要です。
アラーム出力の有効化	動きを検知すると、背面パネルのアラーム出力ポートが有効になります。
カメラアラーム出力の有効化	動きを検知すると、カメラのアラーム出力ポートとの連携を有効にします。
全画面表示	動きを検知すると、NVR のライブ映像は当該カメラを全画面表示します。
スピーカー	動きを検知すると、選択したアナウンスポイントでスピーカーが設定した音声ファイルを再生します。

**ステップ 3：**モーション分析を有効にします。カメラがエリア内の動きを検知すると、図 6-41 に示すように、モーションエリアのブロックが反応します。

**ステップ 4：**運動イベント（アプリへのプッシュメッセージ、メール送信、ブザー、FTP、PTZ、全画面表示、アラーム出力、カメラアラーム出力、アラーム録画など）を有効にします。表 6-5 に従って設定を行います。

**ステップ 5 :** 図 6-41 に示すように、「検出エリア」ページをクリックしてモーション検出エリア設定にアクセスします。

図 6-41 モーション検出エリア設定画面



#### 検出エリア :

1. マウスの左ボタンを押したままドラッグして、モーション検出エリアを描画します。複数のエリアを設定できます。デフォルトのエリアは全画面です。
2. 描画したエリア内で動きを検知した場合、設定したチャンネルでモーション検出アラームが作動します。
3. 「感度」のドロップダウンリストから値を選択します。感度は「低」、「中」、「高」、「最高」の 4 段階から選択でき、感度を高く設定するほど、アラームが作動しやすくなります。
4. カメラにスピーカーが内蔵されている場合は、音声警告を有効にできます。カメラにフラッシュライトが搭載されている場合は、フラッシュライトアラームを有効にすることができます。

**ステップ 6 :** スケジュールページをクリックして設定画面にアクセスします。詳細については、セクション 6.3.1 「録画スケジュール」を参照してください。

**ステップ 7 :** 「コピー」をクリックします。チャンネルを選択するか、「全て」にチェックを入れ、「OK」をクリックすると、選択したチャンネルのカメラに設定が適用されます。「適用」クリックして設定を保存します。

#### NOTE

- ダブルクリックすると、選択したエリアが削除されます。
- デフォルト設定のエリアは全体です。
- 適用せずにページを離れるとき、「保存しますか?」というメッセージが表示されます。設定を保存するには「保存」をクリックします。設定を終了するには「キャンセル」をクリックします。
- アラーム出力を有効にするには、アラーム時間と出力 ID を設定する必要があります。4 つの ID は、背面パネルのアラーム出力に対応しており、1A と 1B、2A と 2B、3A と 3B、4A と 4B です。
- チャンネルアラーム出力は、カメラのアラームポートに対応しています。

図 6-42 アラームスケジュール



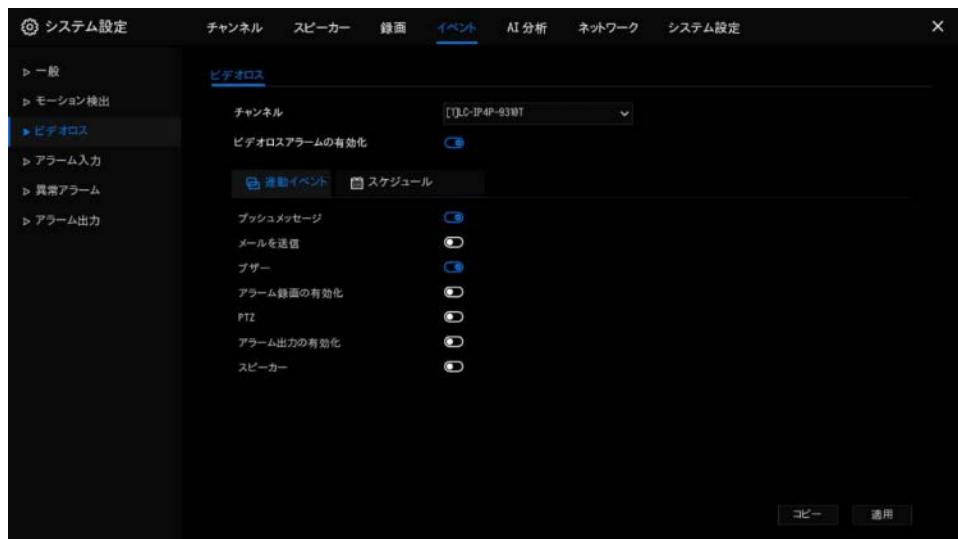
### 6.4.3 ビデオロス

カメラが NVR から切断されると、ビデオロスアラームが作動します。

#### 操作説明

図 6-43 に示すように、「設定」>「イベント」>「ビデオロス」に移動します。

図 6-43 ビデオロス画面



#### 操作手順

**ステップ 1 :** チャンネルのドロップダウンリストからチャンネルを選択します。

**ステップ 2 :** をクリックしてビデオロスアラームを有効にします。

**ステップ 3 :** 運動イベント（アプリへのプッシュメッセージ、メール送信、ブザー、FTP、PTZ、アラーム出力、アラーム録画、スピーカーなど）を有効にします。

**ステップ 4 :** スケジュールをクリックして、設定画面にアクセスします。詳細は、6.3.1 章「録画スケジュール」を参照してください。

**ステップ 5 :** 「コピー」をクリックします。チャンネルを選択するか、「全て」にチェックを入れ、「OK」をクリックすると、選択したチャンネルのカメラに設定が適用されます。「適用」クリックしてモーション設定を保存します。

#### 6.4.4 アラーム入力

この機能を使用するには、デバイスを外部アラームに接続する必要があります。

アラームには2種類あります。1つはNVRのアラーム、もう1つはカメラチャンネルのアラームです。

##### 操作説明

図6-44に示すように、「設定」>「イベント」>「アラーム入力」に移動します。

図6-44 アラーム入力



図6-45 カメラアラーム入力



##### 操作手順

ステップ1：「設定」>「イベント」>「アラーム入力」>「アラーム入力」に移動します。

ステップ2：「アラーム入力」でチャンネルを選択します。

ステップ3：( )をクリックして有効または無効にします。

ステップ4：ドロップダウンリストからアラームの種類を選択します。

##### NOTE

- NC：ノーマルクローズアラーム
- NO：ノーマルオープンアラーム

**ステップ5**：名前を設定します。

**ステップ6**：アプリへのプッシュメッセージ、メール送信、ブザー、FTP、PTZ、全画面表示、アラーム出力、カメラアラーム出力、アラーム録画、スピーカーなど、連動イベントを有効にします。詳細な操作については、6.4.2章「モーション検出」を参照してください。

**ステップ7**：スケジュールページをクリックして、設定画面にアクセスします。詳細については、6.3.1章「録画スケジュール」を参照してください。

**ステップ8**：「適用」をクリックしてアラーム入力の設定を保存します。

#### 6.4.5 異常アラーム（モデルにより異なります）

異常アラームには、HDD アラーム、IP アドレス競合、ネットワーク切断、故障切換が含まれます。

##### 操作説明

**ステップ1**：図 6-46 に示すように、「設定」>「イベント」>「異常アラーム」に移動します。

図 6-46 異常アラーム画面



**ステップ2**：異常時のアクションにチェックを入れます。

**ステップ3**：連動イベントを有効にします。「アプリへのプッシュメッセージ」、「メール送信」、「ブザー」、「アラーム出力」、「スピーカー」などです。詳細な操作については、6.4.2章「モーション検出」を参照してください。

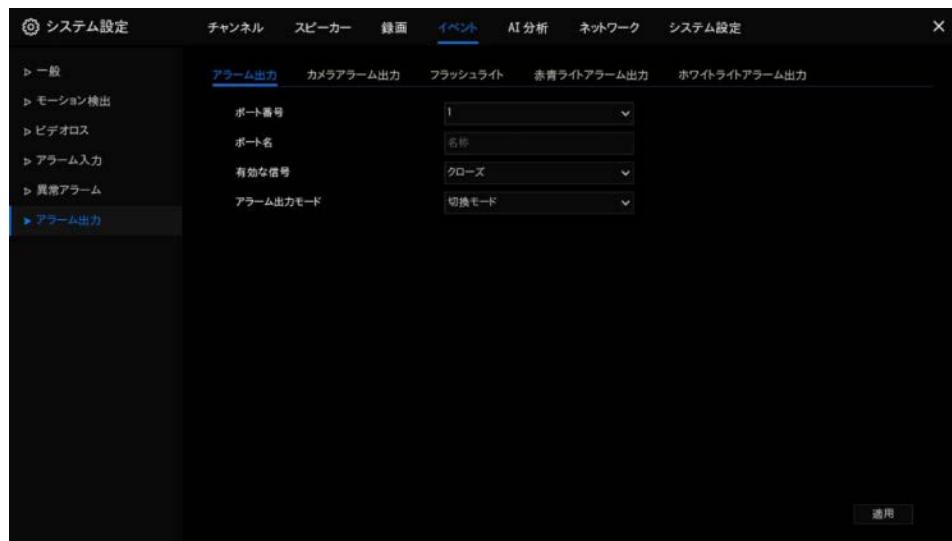
**ステップ4**：「適用」をクリックして異常アラーム設定を保存します。

#### 6.4.6 アラーム出力

##### 6.4.6.1 アラーム出力

1. 「設定」>「イベント」>「アラーム出力」に移動します。
2. 各項目を設定します。
3. 適用をクリックして設定を保存します。

図 6-47 アラーム出力



#### 6.4.6.2 カメラアラーム出力

##### NOTE

この機能は、外部アラーム出力デバイスに接続されたカメラへのアクセスを必要とします。

図 6-48 カメラアラーム出力



表 6-6 カメラアラーム出力

パラメーター	説明	設定
アラーム出力	アラーム出力チャンネルの ID。 注：アラーム出力チャンネル数はデバイスモデルによって異なります。	[設定方法] ドロップダウンリストボックスから値を選択します。  [デフォルト値] 1
名前	アラーム出力チャンネル名	[値の範囲] 0~32 バイト

パラメーター	説明	設定
有効信号	<p>設定可能なオプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>クローズ</b>：外部アラーム信号を受信した場合にアラームを発生します。</li> <li>● <b>オープン</b>：外部アラーム信号を受信していない場合にアラームを発生します。</li> </ul>	<p>[設定方法] ドロップダウンリストボックスから値を選択します。</p> <p>[デフォルト値] クローズ</p>
アラーム出力モード	<p>デバイスが I/O アラーム信号を受信すると、このパラメーターで指定されたモードで外部アラーム機器にアラーム情報を送信します。切替モードとパルスモードを選択できます。</p> <p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 切換モードを使用する場合、デバイスのアラーム周波数は外部アラーム機器のアラーム周波数と同じである必要があります。</li> <li>● パルスモードを使用する場合、外部アラーム機器のアラーム周波数を設定できます。</li> </ul>	<p>[設定方法] ドロップダウンリストボックスから値を選択します。</p> <p>[デフォルト値] 切替モード</p>
警報時間(ms) (0: 連続)	<p>アラーム出力の持続時間。値 0 は、アラームが連続して有効な状態であることを示します。</p>	<p>[設定方法] 手動で値を入力します。</p> <p>[デフォルト値] 0</p> <p>[値の範囲] 0~86400 秒</p>

#### 6.4.6.3 ライトアラーム出力

ライト（フラッシュライト、赤青ライト、または白色ライト）付きのカメラでは、図に示すようにアラーム設定を行うことができます。

図 6-49 フラッシュライト



図 6-50 赤青ライトアラーム出力



図 6-51 白色ライトアラーム出力



表 6-7 カメラアラーム出力

パラメーター	説明	設定
チャンネル	設定するライトのチャンネルを1つ選択します。	[設定方法] ドロップダウンリストボックスからチャンネルを選択します。
アラーム継続時間	フラッシュライトカメラの場合、アラームが作動すると、設定された時間だけライトが点灯します。	[設定方法] 手動で値を入力します。
フリッカー間隔 (100~10000ms)	フラッシュライト搭載カメラの場合、フラッシュライトの点滅間隔を設定します。	[設定方法] 手動で値を入力します。
アラーム継続時間 (10~60秒)	ライトアラームの持続時間。	[値の範囲] 10~60秒
手動制御時間 (0~43200秒)	手動でライトを有効にすると、設定された時間点灯します。	[設定方法] 手動で値を入力します。
フリッカーモード	白色光には、点滅モードと常時点灯モードの2つの点滅モードがあります。点滅モードは光が点滅し、常時点灯モードは光が常時点灯します。	[設定方法] ドロップダウンリストボックスからいずれかを選択します。

## 6.5 AI 分析

AI 分析画面で、AI 検出対象、AI 分析、行動分析、ES 分析、顔認証、車番検出、ローカル AI 分析を設定します。

### 6.5.1 AI 検出対象

1. 図 6-52 に示すように、「設定」>「AI 分析」>「AI 検出対象」に移動します。

図 6-52 AI 検出対象



2. チャンネルのドロップダウンリストからカメラを選択します。

3. 表 6-8 に従ってパラメーターを設定します。

表 6-8 AI マルチオブジェクト

パラメーター	説明	設定方法
顔検出	ライブ映像に人物が登場すると、カメラが顔を認識しスナップショットを撮影します。	有効にする
全身検出	ライブ映像に人物が登場すると、カメラが全身を認識しスナップショットを撮影します。	有効にする
車両検出	ライブ映像に車両が映ると、カメラが車両を認識しスナップショットを撮影します。	有効にする
トレース情報表示	この機能を有効にすると、ライブ映像にターゲットフレームが表示されます。(ストリーム 1 のみ適用)	ドロップダウンリストから選択します。
検出エリアを表示	検出エリアを設定すると、ライブ映像にフレームが表示されます。	有効にする
信頼度	スナップショットに対しての信頼度は、低、中、低の 3 種類があります。信頼度が高いほど、スナップショットの精度が向上するため、撮影枚数が少なくなります。	ドロップダウンリストから選択してください
顔検出最小ピクセル	ピクセルを小さく設定するほど、より多くの顔を捉えやすくなりますが、誤認識される可能性があります。	各カメラの設定範囲の値を入力してください。
全身検出ピクセル	ピクセルを小さく設定するほど、より多くの全身を捉えやすくなりますが、誤認識される可能性があります。	各カメラの設定範囲の値を入力してください。
車両検出最小ピクセル	ピクセルを小さく設定するほど、より多くの車両を捉えやすくなりますが、誤認識される可能性があります。	各カメラの設定範囲の値を入力してください。
スナップショット品質	スナップショットの品質は、低い、中、高い、最高の 4 つのモードから選択できます。	ドロップダウンリストから選択してください。
スナップショットモード	スケジュール、検出時の 2 つのモードを選択できます。	ドロップダウンリストから選択してください。
画像のアップロード間隔（1～10 秒）	スケジュールモードでは、アップロードする画像の間隔を設定します。	1～10 秒の範囲で値を入力してください。

パラメーター	説明	設定方法
FTP 切取転送	設定 > ネットワークサービス > FTP で FTP 関連のパラメーターを設定すると、キャ プチャした画像は設定された FTP の場所に 送信されます。	有効にする
FTP パノラマ 転送	写真を撮影し、画像全体を送信します。	有効にする

図 6-53 スケジュール



## 6.5.2 AI 分析（一部モデルのみ）

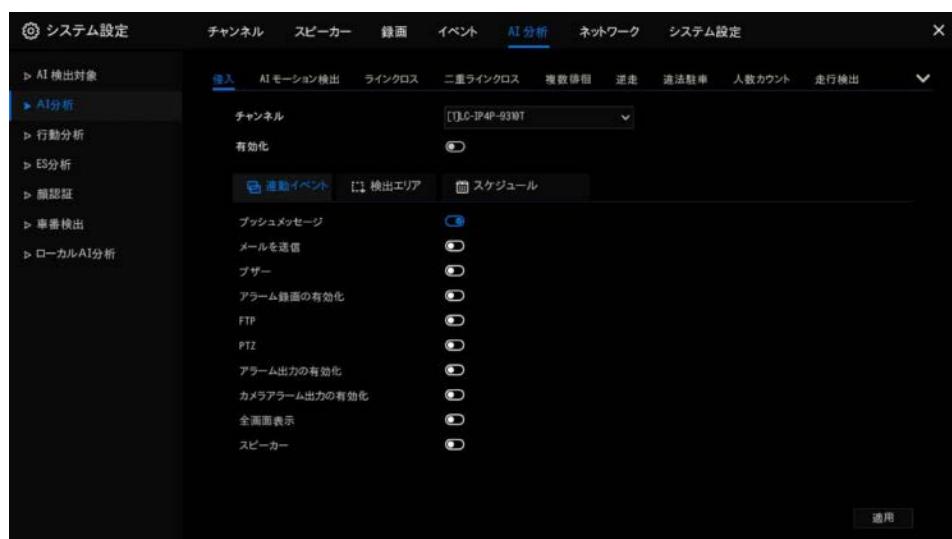
### NOTE

カメラの機種によって対応可能な AI 分析を設定できます。

### 操作説明

ステップ 1：図 6-54 に示すように、「設定」>「AI 分析」>「AI 分析」に移動します。

図 6-54 AI 分析画面



**ステップ 2 :** AI 分析から機能を 1 つ選択します。(侵入、AI モーション検出、ラインクロス、二重ラインクロス、複数徘徊、逆走、違法駐車、人数カウント、走り検出、転倒検出、喧嘩検出)

**ステップ 3 :** チャンネルのドロップダウンリストからチャンネルを選択します。

**ステップ 4 :**  をクリックして有効化します。

**ステップ 5 :** アプリへのプッシュメッセージ、メール送信、ブザー、FTP、PTZ、全画面表示、アラーム出力、カメラアラーム出力、アラーム録画などの連動イベントを有効にします。詳細な操作については、6.4.2 章「モーション検出」を参照してください。

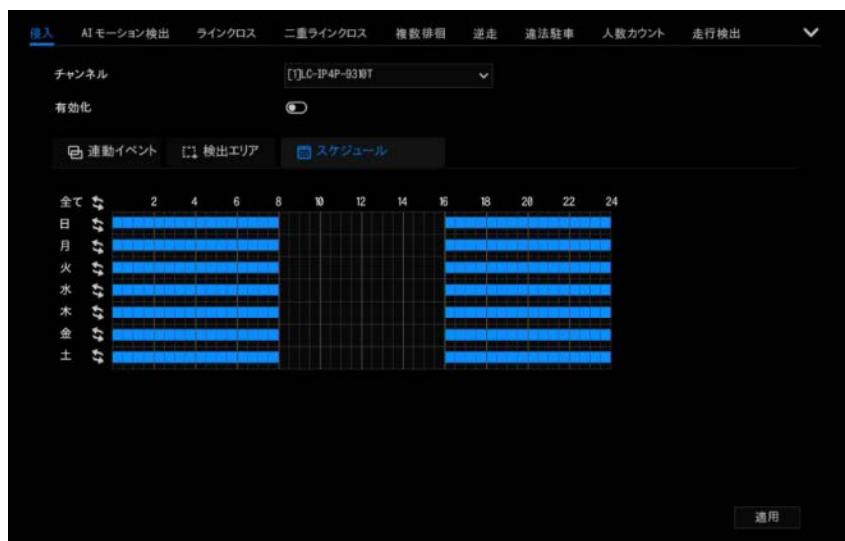
**ステップ 6 :** 検出エリアページをクリックして検出エリアを設定します。マウスを使って、検出エリアを描画します。

図 6-55 : 検出エリア



**ステップ 7 :** スケジュールページをクリックして設定画面にアクセスします。詳細については、6.3.1 章「録画スケジュール」を参考してください。

図 6-56 : スケジュールの設定



**ステップ 8 :** 適用をクリックして設定を保存します。

### 6.5.2.2 AI モーション検出

AI 検出カメラが NVR に接続されている場合、検出するターゲット（人または車両）で絞り込むことができます。

図 6-57 AI モーション検出



ステップ 1：チャンネルのドロップダウンリストからチャンネルを選択します。

ステップ 2： をクリックして AI モーション検出を有効にします。

ステップ 3：連動イベントを有効にします。詳細な操作については、6.4.2 章「モーション検出」を参照してください。

ステップ 4：検出エリアを設定します。

カーソルをライブ映像画面に移動し、クリックして点を生成します。カーソルを移動して線を描き、クリックして別の点を生成します。このようにして、任意の形状を形成するために線を描き続け、右クリックして描画を終了します。

ステップ 5：感度を選択し、ターゲットの種類を制限します。

表 6-9 : AI モーション検出

パラメーター	説明
感度	各チャンネルの各領域には個別の感度値があります。範囲は 0~5 です。値が大きいほど、アラームが作動しやすくなります。
タイプ	人 : 人のみ検知 車 : 車のみ検知 人または車 : 人と車を同時に検知

ステップ 6：適用をクリックして設定を保存します。

**人数カウント**：この機能はカメラに対して設定されます。

図 6-58 人数カウント



表 6-10 人数カウントパラメーター

パラメーター	説明	設定
有効化	人数カウントを有効にするには、ボタンをクリックします。	[設定方法] 有効にするには、「有効にする」をクリックします。 [デフォルト値] オフ
OSD 有効	有効にすると、人数カウントの統計データが OSD に表示されます。	[設定方法] 「有効」をクリックして有効にします。 [デフォルト値] オフ
カウントリセット間隔	10 分、30 分、1 時間、12 時間、1 日、カスタム時間の 7 つのモードから選択できます。	[設定方法] ドロップダウンリストから選択 [デフォルト値] 7
エリアタイプ	進入と退出を区別するエリア。	[デフォルト値] 線

### 6.5.3 行動分析

行動分析画面では、人数カウント、ヒートマップ設定、ヒートマップ統計を設定できます。

ヒートマップは、一部カメラのみ対応できます。

### 6.5.3.1 人数カウント

この機能は NVR に設定され、NVR の全チャンネルからデータが取得され、ライブ映像に OSD が表示されます。

#### 操作説明

ステップ 1：図 6-61 に示すように、「設定」>「AI 分析」>「行動分析」>「人数カウント」に移動します。

図 6-61 人数カウント画面



ステップ 2：クリックして人数カウントとアラームを有効にします。

ステップ 3：パラメーターを設定します。

表 6-11 パラメーター設定

機能	手順	説明
カウントリセット周期	ユーザーはドロップダウンリストからクリア間隔を選択できます。「なし」、「10 分」、「30 分」、「1 時間」、「12 時間」、「1 日間」です。	ドロップダウンリストから選択してください。
補正值を設定	カウント補正值を有効にして設定します。正または負の値を指定できます。例えば、カウント開始前に 30 人がエリアに入ってきた場合は、補正值として 30 を入力します。30 人がエリアから出していく場合は、-30 を入力します。	ドロップダウンリストから選択してください。
上限人数	カウント数が上限人数を超えるとアラームが鳴ります。 アラームを作動させるしきい値です。	値を入力してください
OSD 文字色	OSD フォントカラーを設定します。デフォルトは黄色です。	ドロップダウンリストから選択します。
OSD 文字サイズ	OSD フォントのサイズを選択します。小/正常 / 大から選択できます。デフォルトは正常サイズです。	ドロップダウンリストから選択してください。

機能	手順	説明
左上 OSD	有効。ライブビデオに表示するコンテンツとデータソースを選択します。	1~10 の範囲の値を入力してください
左上 OSD コンテンツ		
左上 OSD データソース		
右上 OSD		
右上 OSD コンテンツ		
右上 OSD データソース		
左下 OSD		
左下 OSD コンテンツ		OSD を表示できるようにし、コンテンツを図のようにカスタマイズできます。
左下 OSD データソース		
右下 OSD		
右下 OSD コンテンツ		
右下 OSD データソース		
OSD カウントチャネル	デフォルトではすべてのチャンネルがカウントされます。	

#### ステップ 4：運動イベントを設定します。

図 6-62：運動イベント



**ステップ 5 :** 人数カウントのスケジュールを設定します。

図 6-63 : スケジュールの設定



**ステップ 6 :** 適用をクリックして設定を保存します。

#### 6.5.3.2 : ヒートマップ設定

ヒートマップは、設定エリア内にいる人の滞留状況をカウントし、行動傾向を色で可視化する機能です。

ヒートマップを有効にすると、設定エリア内にいる人の動きを自動的に検出し、色の濃淡によって視覚的に表示することができます。

**ステップ 1 :** 図 6-64 に示すように、「設定」 > 「AI 分析」 > 「行動分析」 > 「ヒートマップ設定」に移動します。

図 6-64 : ヒートマップ設定



**ステップ 2 :** ヒートマップ機能を有効にします。この機能はデフォルトで無効になっているため、手動で有効にする必要があります。

**ステップ 3 :** タイプを設定します。統計タイプは、時間（1 日あたり 24 件のデータ）または日（1 日あたり 1 件のデータ）の 2 対応を選択できます。タイプを切り替えると元のデータは消去されます。操作にはご注意ください。

**ステップ 4 :** 「適用」をクリックします。「適用成功！」というメッセージが表示され、設定が保存されます。

## ヒートマップ統計

「設定」>「AI 分析」>「行動分析」で「ヒートマップ統計」を選択すると、図 6-65 に示すヒートマップ画面が表示されます。

図 6-65 ヒートマップ統計



表 6-12 ヒートマップ統計のパラメーター

パラメーター	説明	設定
統計タイプ	年/月/日/時間を選択できます。	[設定方法] ドロップダウンリスト から選択してください
日時	ヒートマップデータを検索またはダウンロードするには、対象日時を選択してください。	[設定方法] ドロップダウンリスト から選択してください
ヒートマップバー	異なる度合いを異なる色で区別します。 最大値は、現在の設定時間におけるヒートマップ内の単一エリアの最大データです。	無効

検索する時間を設定し、関連するヒートマップ統計を「検索」または「ダウンロード」します。

「検索」をクリックして直接表示するか、「ダウンロード」をクリックして CSV 形式でデータをローカルフォルダにダウンロードします。

### 6.5.4 ES 分析

ES 分析インターフェースでは、喫煙検出、火災検出、火災点検出のパラメーターを設定できます。各種運動イベントを有効にすると、アラーム情報が発信されます。

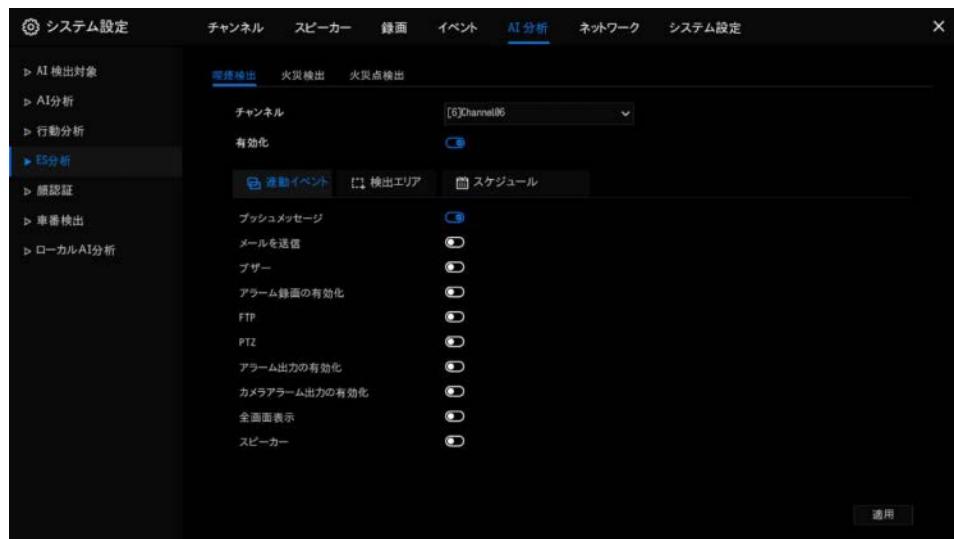
#### 6.5.4.1 喫煙検出

喫煙検出は、検出エリア内で人を認識したうえで一定温度以上の高温ポイントを同時に検出した場合に、アラームを発する機能です。

ステップ 1：図 6-66 に示すように、「設定」>「AI 分析」>「ES 分析」>「喫煙検出」に移動します。

ステップ 2：喫煙検出を有効にするカメラを選択します。

図 6-66 嘸煙検出



ステップ 3：連動イベントを有効にします。

ステップ 4：検出エリアを設定します。マウスを使用してエリアを描画します。

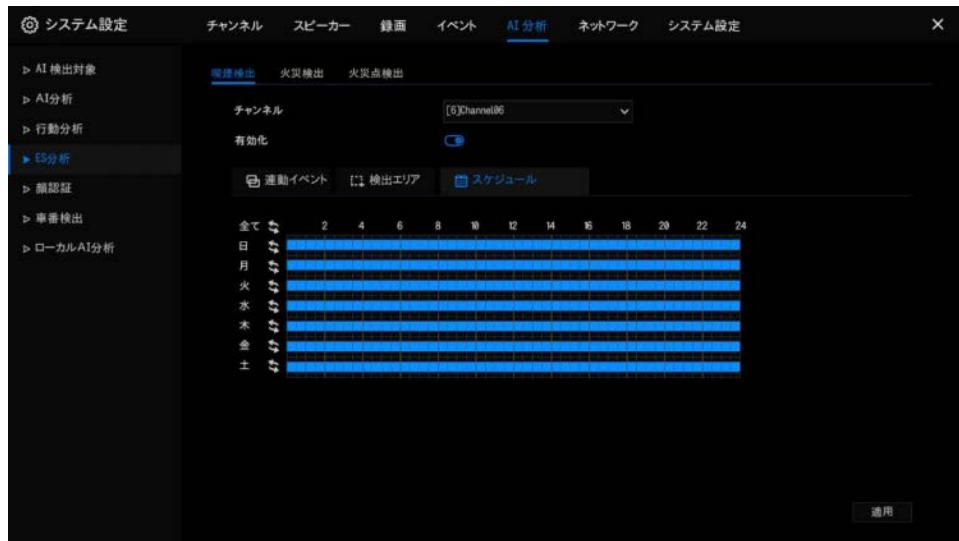
ステップ 5：カメラごとに、音声アラーム、フラッシュライトアラーム、または「設定エリア表示」を有効にするように選択できます。

図 6-67 嘴煙検出 - 検出エリア



ステップ 6：スケジュールを設定して作動させます。

図 6-68 噫煙検出 - スケジュール



ステップ 7：「適用」をクリックします。「適用成功！」というメッセージが表示され、設定が保存されます。

#### 6.5.4.2 火災検出

火災検出は、検出エリア内で煙や炎を認識した場合にアラームを発する機能です。

1. 図 6-69 に示すように、「設定」>「AI 分析」>「ES 分析」>「火災検出」に移動します。

図 6-69 火災検出



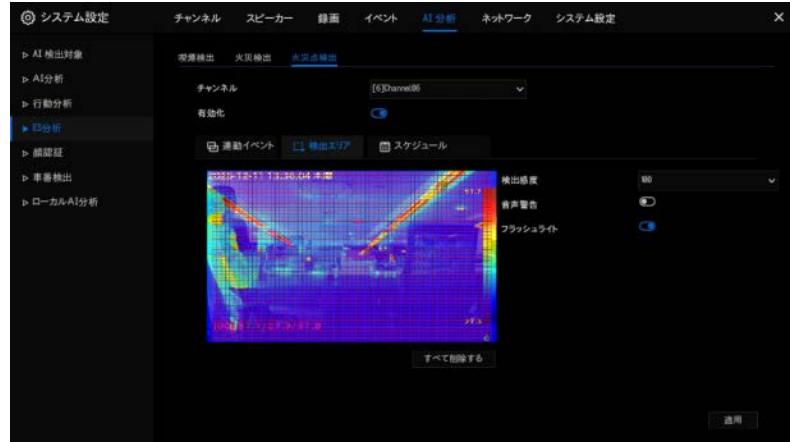
2. 詳細な設定については、6.5.4.1 章「喫煙検出」を参照してください。

### 6.5.4.3 火災点検出

火災点検出は、検出エリア内で一定温度以上の高温ポイントが発生した場合にアラームを発する機能です。

図 6-70 に示すように、「設定」>「AI 分析」>「ES 分析」>「火災点検出」に移動します。

図 6-70 火災点検出



詳細な設定については、6.5.4.1 章「喫煙検出」を参照してください。

### 6.5.5 顔認証

顔認証インターフェースでは、類似度、比較結果の表示、顔ライブラリ、アラームの有効化、連動イベント、アーミング時間など、様々なチャンネルのストラテジーを設定できます。

図 6-71 に示すように、「設定」>「AI 分析」>「顔認証」に移動します。

図 6-71 顔認証

The screenshot shows the 'AI Analysis' tab selected in the top navigation bar. Under the 'Face Recognition' section, the 'Face Recognition' tab is active. On the left, a sidebar lists categories like 'AI Detection Object', 'AI Analysis', 'Action Analysis', and 'Face Recognition'. The main area displays a table of 16 channels, each with '登録者検出' (Registered Person Detection) and '未登録者検出' (Unregistered Person Detection) columns, both set to 'Default Lib'. Columns for '類似度' (Similarity) and '操作' (Operation) show values of 80% and icons for edit and delete respectively. A large 'Delete All' button is visible at the bottom of the table.

図 6-72 ストラテジー編集

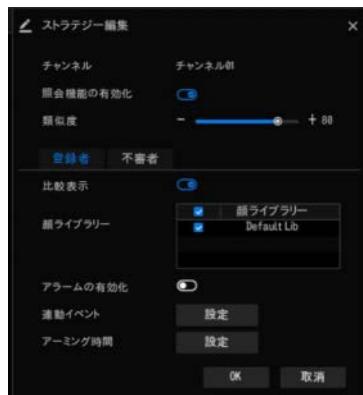
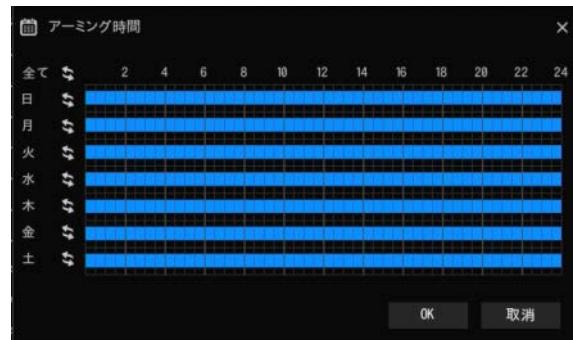


図 6-73 連動イベント



図 6-74 アーミング時間

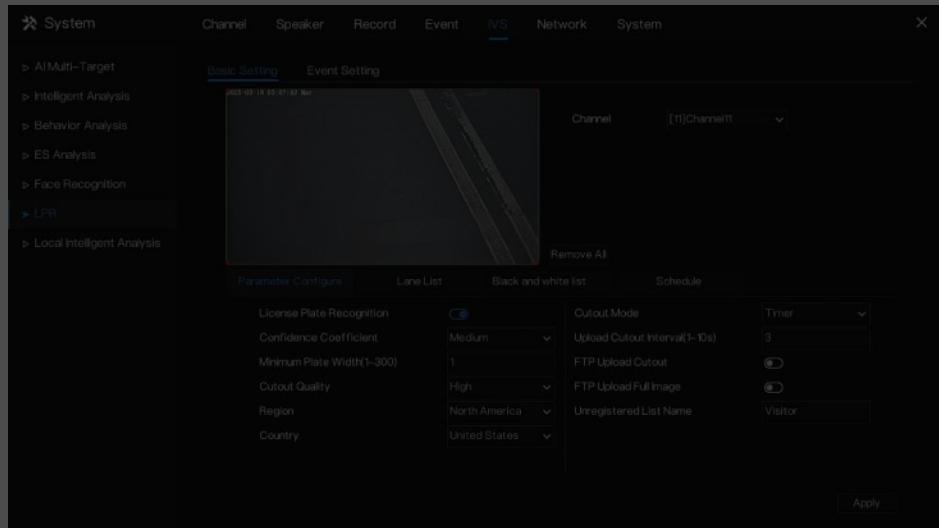


## 6.5.6 LPR (ナンバープレート認識)

### 6.5.6.1 基本設定

- 図 6-75 に示すように、「設定」>「AI 分析」>「LPR 基本設定」に移動します。
- 以下の表 6-13 に示すように基本設定を行います。

図 6-75 ナンバープレート認識



## 現在この機能は使えません

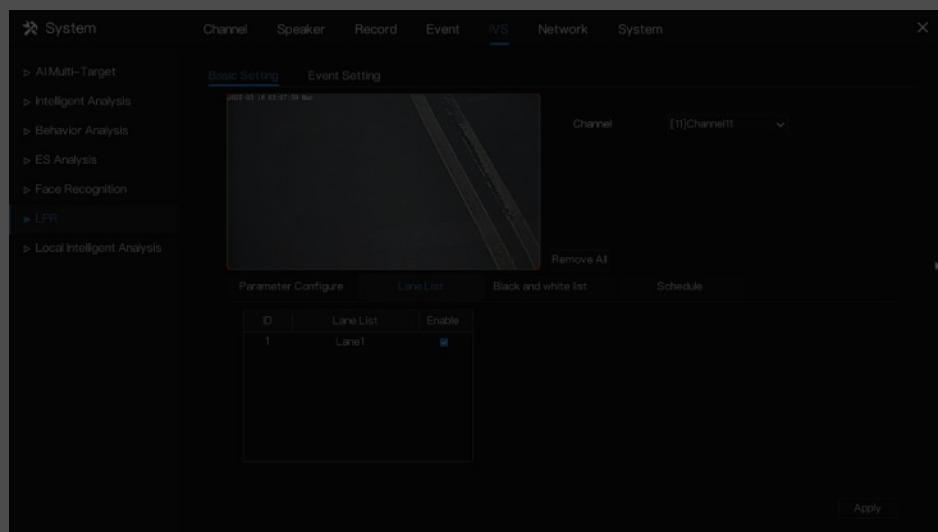
表 6-13 ナンバープレート認識

機能	手順	説明
ナンバープレート検出	ライブ映像に車が映ると、カメラがナンバープレートを撮影します。	[設定方法] 有効
信頼度係数	スナップショット画像の範囲には、高、中、低の 3 種類があります。信頼度が高いほど、スナップショットの品質は向上し、スナップショットの枚数は少なくなります。	[設定方法] ドロップダウンリストから選択します。
最小プレート幅	ピクセルを小さく設定するほど、より多くのプレートをキャプチャできますが、誤認識が発生する可能性があります。	[設定方法] 1~300 の範囲で値を入力します。
切り抜き品質	スナップショット画像の品質は、低、中、高の 3 つのモードから選択できます。	[設定方法] ドロップダウンリストから選択します。
地域	ナンバープレートの地域と国。	[設定方法]

機能	手順	説明
国		カスタマイズ可能です
切り出しモード	タイマーと最適の2つのモードを選択できます。 タイマーモードでは、画像のアップロード間隔を設定します。	切り出しモード タイマーと最適の2つのモードを選択できます。 タイマーモードでは、画像のアップロード間隔を設定します。 [設定方法] ドロップダウンリストから選択します。
FTP アップロード 画像マッティング	設定 > ネットワークサービス > FTPでFTP関連のパラメーターを設定すると、撮影した画像は設定されたFTPの保存先に送信されます。	[設定方法] 有効
FTP アップロード で画像全体をアップロード	写真を撮影し、画像全体を送信します。	[設定方法] 有効にする
未登録リスト名	未登録リスト名のライセンスの場合、ユーザーは表示名を自由に設定できます。デフォルトは「訪問者」です。	[設定方法] カスタマイズ可能です

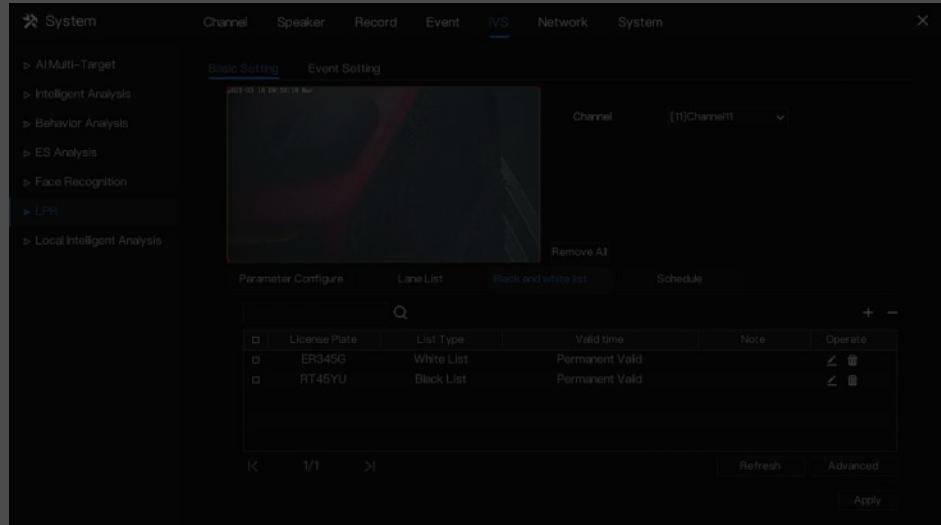
- 複数のレーンを実際のシーンとして設定できます。

図 6-76 レーンリスト



2. ライセンスをリストに1つずつ追加すると、図6-77に示すように、リストに表示されます。

図6-77 ブラックリストとホワイトリスト

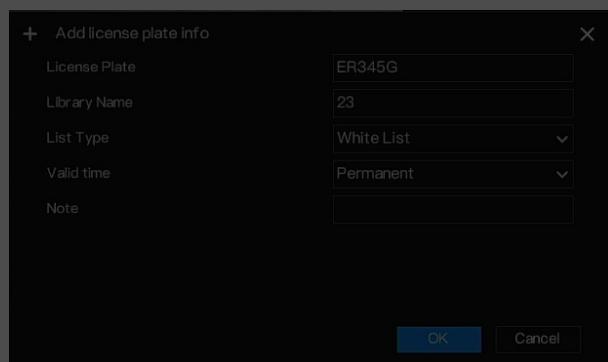


3. + をクリックして、ライセンスセットをホワイトリストまたはブラックリストに追加します。ナンバープレートにチェックを入れ、- をクリックして削除します。

4. をクリックしてナンバープレートを編集します。 をクリックして現在のナンバープレートを削除します。

## 現在この機能は使えません

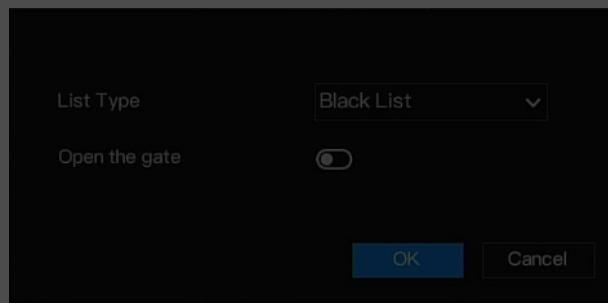
図6-78 ナンバープレートの追加



1. 「更新」をクリックしてリストを更新します。

2. 「詳細」をクリックしてゲートを操作します。

図6-79 詳細



### 6.5.6.2 ライセンス比較

ナンバープレートインターフェースでは、図 6-80 に示すように、ナンバープレート認識カメラの様々なチャンネルに対して、登録・登録解除、アラームの有効化、イベントアクション、作動時間などの戦略を設定できます。

図 6-80 ライセンス比較

Channel	Register Detect Library	Stranger Detect Library	Operate
Channel01	Default Lib	Default Lib	↙
Channel02	Default Lib	Default Lib	↙
Channel03	Default Lib	Default Lib	↙
Channel04	Default Lib	Default Lib	↙
Channel05	Default Lib	Default Lib	↙
Channel06	Default Lib	Default Lib	↙
Channel07	Default Lib	Default Lib	↙
Channel08	Default Lib	Default Lib	↙
Channel09	Default Lib	Default Lib	↙
Channel10	Default Lib	Default Lib	↙
Channel11	Default Lib	Default Lib	↙
Channel12	Default Lib	Default Lib	↙
Channel13	Default Lib	Default Lib	↙
Channel14	Default Lib	Default Lib	↙
Channel15	Default Lib	Default Lib	↙
Channel16	Default Lib	Default Lib	↙

図 6-81 戰略



図 6-82 イベントアクション

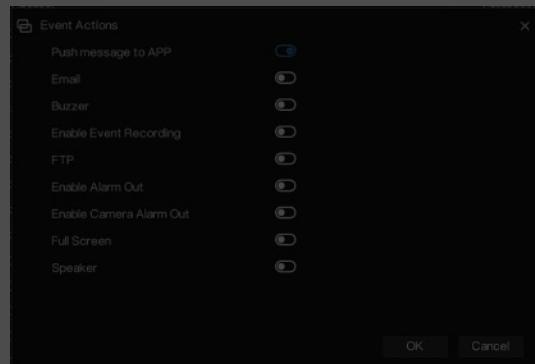


図 6-83 作動時間

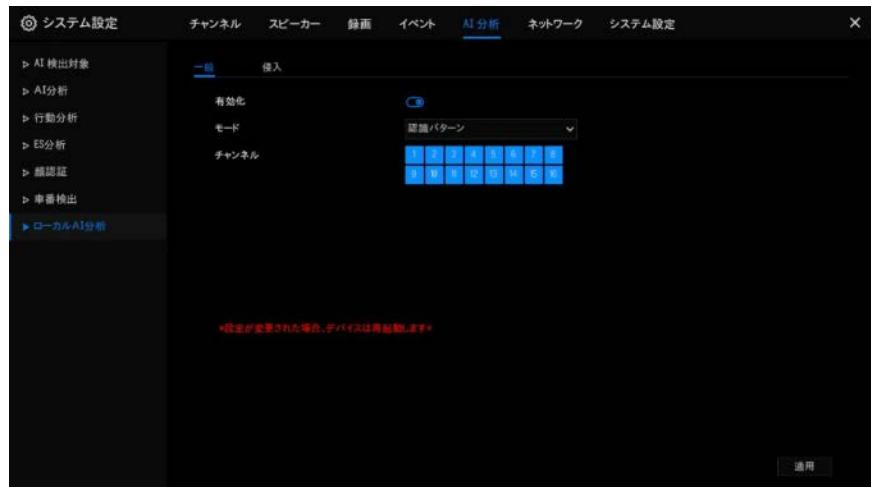


## 6.5.7 ローカル AI 分析

### 6.5.7.1 全般

1. 図 6-84 に示すように、「設定」>「AI 分析」>「ローカル AI 分析」>「一般」に移動します。

図 6-84 ローカル AI 分析 - 一般



2. アラームを有効化します。
3. 「矩形描画」を有効にすると、ライブ映像に侵入の検出エリアが表示されます。
4. チャンネルを選択します。最大 4 チャンネルまで選択できます。

#### NOTE

- 侵入を有効または無効にし、チャンネルを変更すると、デバイスが再起動します。
- モードは「認識パターン」を選択し、チャンネル（AI 検出対応カメラの場合は全チャンネルを選択できます）を選択してこの機能を有効にすると、クリックメニューで AI 応用および出退勤インターフェースが有効になります。詳細については、セクション 5.4 を参照してください。

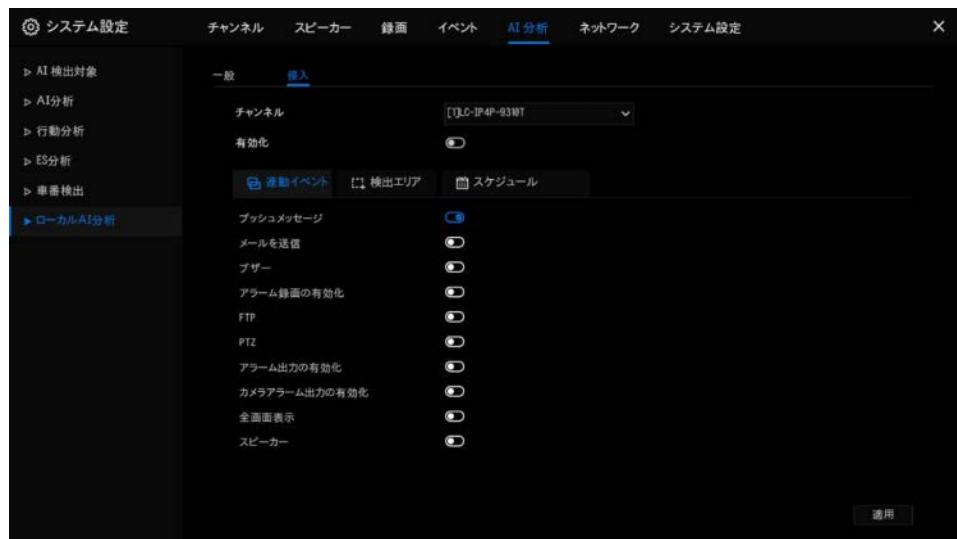
## 6.5.7.2 侵入

[設定] > [AI分析] > [ローカルAI分析] > [侵入] に移動します。モードを「検出モード」にする必要があります。



侵入とは、指定された種類のターゲット（人、車両、人と車の両方など）が検出エリアに入ったときに生成されるアラームを指します。これは NVR 上における侵入であり、カメラとは関係ありません。これは NVR のアルゴリズムであり、NVR はカメラからのデータを分析します。

図 6-85 侵入



## 運動イベント：

侵入を有効にするチャンネルを選択し、運動イベント（アプリへのプッシュメッセージ、メール、ブザー、FTP、PTZ、全画面表示、アラーム出力、カメラアラーム出力、アラーム録画など）を有効にします。詳細な操作については、セクション 6.4.2「モーション検出」を参照してください。

「適用」をクリックして設定を保存します。

図 6-86 検出エリア



## 検出エリア：

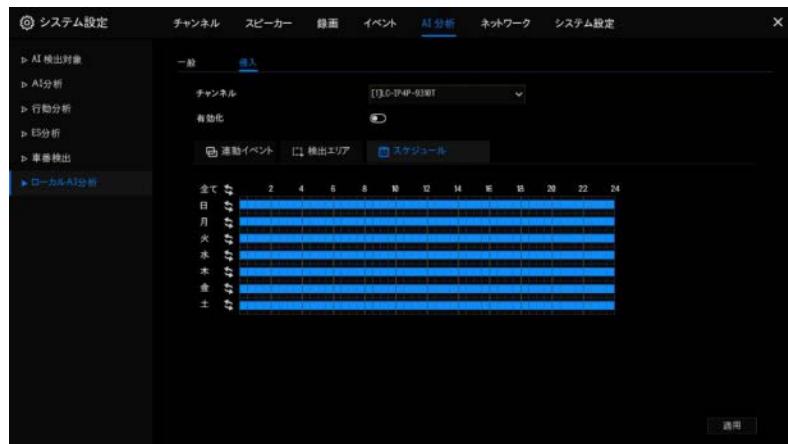
カーソルを描画インターフェースに移動し、クリックして点を生成し、カーソルを移動して線を描き、クリックして別の点を生成します。このようにして線を引き続け、任意の形状を形成し、右クリックして描画を終了します。

### NOTE

- 描画した線は他の線と交差することはできません。交差すると線描画は失敗します。
- 最大 8 辺の任意の図形を描画できます。

ドロップダウンリストからターゲット（人、車両、人または車両の両方）を選択します。

図 6-87 スケジュールの設定



**方法 1：**図 6-87 に示すように、マウスの左ボタンをクリックして、月曜日から日曜日の 0:00～24:00 の任意の時刻を選択します。

**方法 2 :** マウスの左ボタンを押したままドラッグし、マウスボタンを離して、月曜日から日曜日の 0:00~24:00 のスケジュールを選択します。

#### NOTE

- カーソルをドラッグして時刻を選択する場合、カーソルを時刻エリア外に移動したら時刻を選択できません。

**方法 3 :** スケジュールページの  をクリックして、1 日全体または 1 週間全体を選択します。

**スケジュールの削除 :** もう一度  をクリックするか、選択範囲を反転すると、選択したスケジュールが削除されます。

## 6.6 ネットワーク管理

ネットワーク管理画面で、ネットワークパラメーター、802.1X、DDNS、E メール、ポートマッピング、P2P、IP アドレスフィルタ、SNMP 3G/4G、PPPOE、ネットワークトラフィックを設定します。

### 操作説明

**ステップ 1 :** 「設定」 > 「ネットワーク」をクリックし、図 6-88 に示すネットワーク管理画面にアクセスします。

図 6-88 ネットワーク管理画面



表 6-14 ネットワーク

パラメーター	説明
DHCP	<p>DHCP 機能を有効にしてください。DHCP を有効にすると、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイは設定できなくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● DHCP が有効な場合、取得した情報は「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」ボックスに表示されます。</li> <li>● IP 情報を手動で設定する場合は、まず DHCP 機能を無効にしてください。</li> </ul> <p>PPPoE 接続が成功した場合、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DHCP は設定できなくなります。</p>
IP アドレス	IP アドレスを入力し、対応するサブネットマスクとデフォルトゲートウェイを設定します。
サブネットマスク	
デフォルトゲートウェイ	IP アドレスとデフォルトゲートウェイは同じネットワークセグメント内にある必要があります。
DNS を自動取得	<p>DNS アドレスを自動取得する機能を有効にします。</p> <p>ローカル DNS サーバーの IP アドレスがわかっている場合は、優先 DNS サーバーと代替 DNS サーバーを手動で入力できます。</p>
DNS 1	「DNS 1」ボックスに、DNS の IP アドレスを入力します。
代替 DNS サーバー	「代替 DNS サーバー」ボックスに、代替 DNS の IP アドレスを入力します。

### 6.6.1 ネットワーク

DHCP と DNS を手動または自動で設定します。

## 6.6.1.1 IPv4

### 操作手順

**ステップ1** : DHCP の横にある  をクリックして、IP アドレスの自動取得機能を有効または無効にします（NVR が接続されているルーターは DHCP 機能を備えている必要があります、ルーターが NVR に IP アドレスを割り当てます）。この機能はデフォルトでは無効になっています。

図 6-89 DHCP の有効化



**ステップ2** : この機能が無効になっている場合は、「IP」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」の横にある入力ボックスをクリックして、必要に応じてパラメーターを設定します。設定形式については、ルーターのネットワークを参照してください。

**ステップ3** : 「DNS を自動的に取得」の横にある  をクリックして、DNS アドレスの自動取得機能を有効または無効にします。この機能はデフォルトで有効になっています。

**ステップ4** : この機能が無効になっている場合は、「DNS1」（デフォルト：8.8.8.8）と「代替 DNS サーバー」（デフォルト：8.8.4.4）の横にある入力ボックスをクリックして、元のアドレスを削除し、新しいアドレスを入力します。

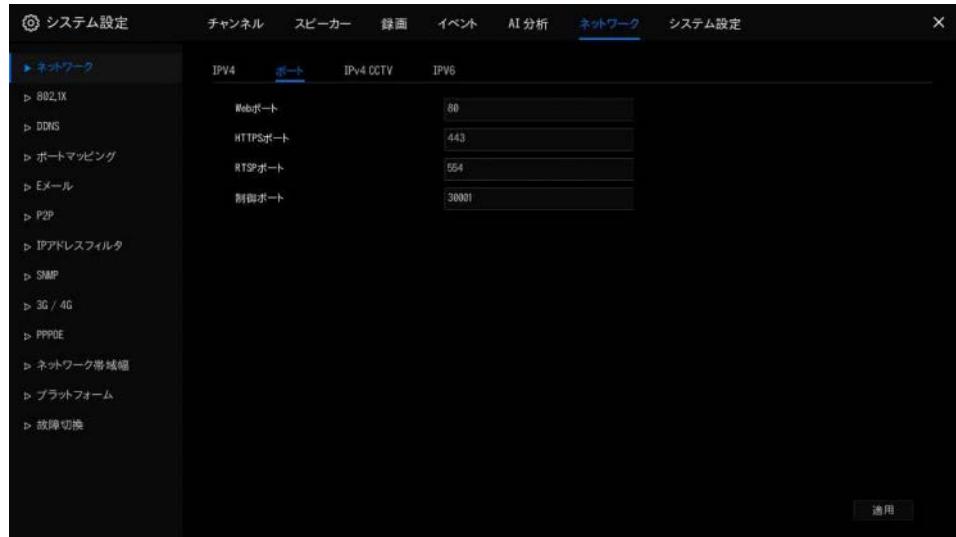
**ステップ5** : 「適用」をクリックして IP 設定を保存します。

### 6.6.1.2 ポート

#### 操作手順

ステップ 1：図 6-90 に示すように、「ポート」ページをクリックしてポート設定画面にアクセスします。

図 6-90 ポート設定画面



ステップ 2：HTTP ポート、HTTPS ポート、RTSP ポート、および制御ポートを設定します。ユーザーがこれらのポートを使用してログインし、ポートが変更された場合は、変更後のポートを入力する必要があります。

表 6-15 ポート

パラメーター	説明
HTTP ポート	デフォルト値は 80 に設定されています。任意の値を入力できます。 例えば 8080 などの別の値を入力する場合は、ブラウザでデバイスにログインする際に、IP アドレスの後に 8080 を入力してください。 例：http://192.168.0.121:8080。
HTTPS ポート	HTTPS 通信ポート。デフォルト値は 443 です。任意の値を入力してください。 例：https://192.168.0.121:443。
RTSP ポート	リアルタイムストリーミングプロトコル。デフォルト値は 554 です。任意の値を選択してください。 例：rtsp://192.168.0.121:554/4/1。
制御ポート	デフォルト値は 30001 です。任意の値を入力できます。NVR をスマートアプリまたは CMS プラットフォームに接続する場合、これらのシステムに入力するために制御ポートが必要です。

ステップ 3：「適用」をクリックしてポート設定を保存します。

### 6.6.1.3 IPv4 CCTV (一部モデルのみ)

POE 非対応デバイスには、WAN と LAN の 2 つのネットワークポートがあります。

LAN ポート経由で NVR に接続する場合、NVR の Web インターフェースにアクセスするには、CCTV の IPv4 アドレスを使用する必要があります。この方法は LAN アクセスのみに対応しており、インターネットアクセスには対応していません。

#### 操作手順

ステップ 1：図 6-91 に示すように、「IPv4 CCTV」ページをクリックして LAN 設定画面にアクセスします。

図 6-91 : IPv4 CCTV



ステップ 2：IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。

ステップ 3：適用をクリックして設定を保存します。

#### NOTE

NVR にカメラを追加できるように、WAN と LAN を異なるネットワークに接続できます。WAN は通常、インターネットに接続するために外部ネットワークに接続され、デフォルトゲートウェイとなります。LAN はカメラを追加するために内部ネットワークに接続します。

### 6.6.1.4 POE (一部モデルのみ)

#### 操作手順

ステップ 1：設定 > ネットワーク > ネットワークで POE をクリックし、図 6-92 に示す POE 設定画面にアクセスします。

図 6-92 POE 画面



**ステップ2** : POE カメラの自動管理が有効になっている場合、NVR は POE に接続されたカメラに IP アドレスを即座に割り当てます。

**ステップ3** : 実際の状況に応じて、長距離または近距離を選択できます。ネットワークケーブルが 100m を超える場合は、長距離を選択することをお勧めします。長距離は最大 250m までサポートされますが、このモードではブロードバンドが 100m から 10m に短縮されます。

**ステップ4** : 「適用」をクリックして POE カメラの IP アドレスを設定します。

### 6.6.1.5 IPV6

ユーザーのネットワークルーターが IPv6 に接続できる場合、ユーザーは IPv6 IP アドレスを使用して Web にアクセスできます。

図 6-93 IPV6



設定は IPv4 と同じですが、入力する IP アドレスが異なります。「`http://[fe80::21e:a4ff:fe00:6978]:port`」と入力し、[] は IPv6 IP アドレス、port はネットワークポート番号です。

### 6.6.2 802.1X

NVR の 802.1X は、802.1X インターフェースのみを提供し、クライアント側で動作します。ユーザーはスイッチに 802.1X 機能と RADIUS サーバーの設定を提供する必要があります。

#### 操作手順

**ステップ1** : 802.1X の横にある をクリックして、有効または無効にします。デフォルトでは無効になっています。

図 6-94 802.1X



**ステップ2** : 802.1X のユーザー名とパスワードを入力します。アカウントはユーザーが作成します。

**ステップ3** : 「適用」をクリックして設定を保存します。NVR を閲覧するユーザーは、認証用のアカウントを入力する必要があります。

### 6.6.3 DDNS

指定されたカメラがインターネットに接続され、ダイナミックドメインネームシステム (DDNS) にログインするためのユーザー名とパスワードがサーバーから取得されていることを確認してください。

#### 操作手順

**ステップ1** : 「設定」 > 「ネットワーク」で「DDNS」をクリックし、DDNS 画面にアクセスします。

**ステップ2** : 「有効」の横にある「有効」をクリックして、DDNS 機能を有効にします。図 6-95 に示すように、デフォルトでは無効になっています。

図 6-95 DDNS 設定画面



**ステップ3** : プロトコルのドロップダウンリストから必要な値を選択します。

**ステップ4** : ドメイン名を設定し、ユーザー名とパスワードを入力します。

**ステップ5** : 「テスト」をクリックしてドメイン名を確認します。

**ステップ6** : 「適用」をクリックして DDNS ネットワーク設定を保存します。

#### NOTE

外部ネットワークは、DDNS 設定で設定されたアドレスを介して NVR にアクセスできます。

### 6.6.4 ポートマッピング

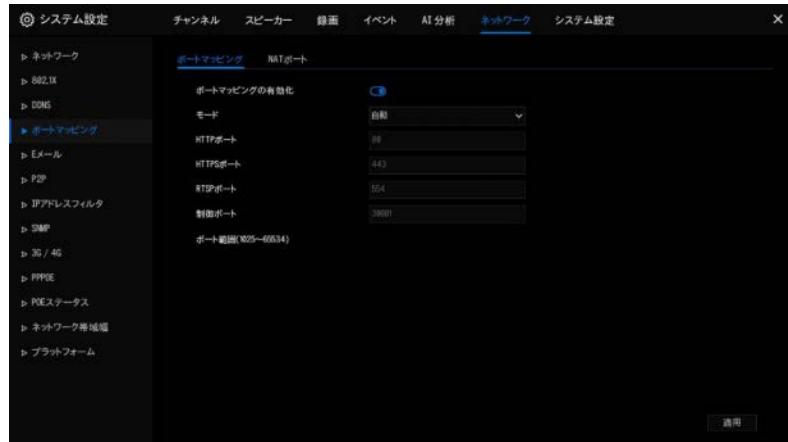
#### 6.6.4.1 ポートマッピング

ポートマッピングを設定すると、さまざまなポートから NVR にアクセスできるようになります。

## 操作手順

ステップ1：「設定」>「ネットワーク」で「ポートマッピング」をクリックし、図6-96に示すポートマッピング画面にアクセスします。

図6-96 ポートマッピング設定画面



ステップ2：UPnPの有効化タイプを選択します。

ステップ3：手動UPnP：HTTPポート、データポート、クライアントポートを手動で入力します。

表6-16 ポート

パラメーター	説明
HTTP ポート	デフォルト値は 80 に設定されています。実際の状況に応じて値を入力できます。 たとえば 70 などの別の値を入力した場合は、ブラウザでデバイスにログインするときに、IP アドレスの後に 70 を入力する必要があります。
HTTPS ポート	HTTPS 通信ポート。デフォルト値は 443 です。実際の状況に応じて値を入力してください。
RTSP ポート	リアルタイムストリーミングプロトコル。デフォルト値は 554 です。実際の状況に応じて値を入力できます。
制御ポート	デフォルト値は 30413 です。実際の状況に応じて値を入力できます。

ステップ4：Auto-UPnP：デバイスはポートを自動的に取得します。

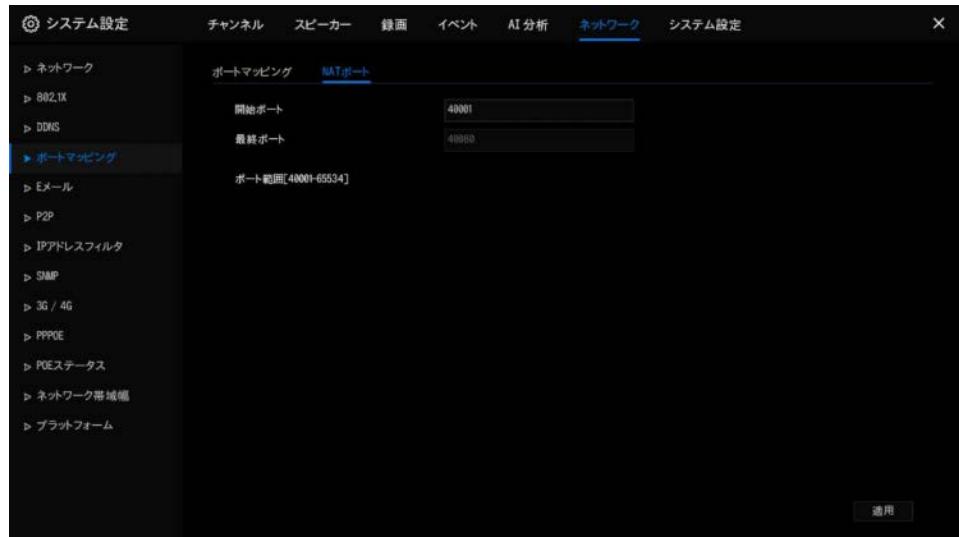
ステップ5：「適用」をクリックして設定を保存します。

### 6.6.4.2 NAT ポート

NAT ポート（ネットワークアドレス変換）。NAT ポートを介して NVR チャンネルにアクセスします。開始ポートを設定すると、

終了ポートが自動的に生成されます。Web インターフェースで アイコンをクリックしてチャンネルにアクセスすると、NAT ポートが表示されます。

図 6-97 NAT ポート



カメラの Web インターフェースにアクセスするには、IP アドレスとポート番号（例：http://192.168.0.229:40006/）を入力できます。

192.168.0.229:40006/asppage/common/login.asp?id=1&ret=1

## 6.6.5 E メール

SMTP（簡易メール転送プロトコル）機能が有効になっている場合、アラームが発生すると、デバイスは指定されたメールアドレスにアラーム情報を自動的に送信します。2 つのメールボックスを受信先として設定できます。

### 操作手順

ステップ 1：[設定] > [ネットワーク] で [E メール] をクリックし、図 6-98 に示す E メール画面にアクセスします。

ステップ 2：メールパラメーターを設定します。

図 6-98 E メール設定画面



図 6-99 メールサーバー-2



表 6-17 メールパラメーター

パラメーター	説明
SMTP サーバー	送信者のメールアカウントの SMTP サーバーのアドレスを入力してください。
SMTP サーバーポート	SMTP サーバーのポート番号を入力してください。デフォルト値は 25 です。実際の状況に応じて値を入力してください。
ユーザー名	送信者のメールアカウントのユーザー名とパスワードを入力してください。
パスワード	送信者のメールアカウントのユーザー名とパスワードを入力してください。
メール送信者	送信者のメールアカウントのメールアドレスを入力してください。
アラーム受信者	通知を受信する受信者のメールアドレスを入力してください。デバイスは最大 3 つのメール受信者をサポートします。
TLS 暗号化	暗号化タイプを選択します：TLS（デフォルト値）、StartTLS、およびオフ。 SMTP サーバーでサポートされている暗号化モードに基づいてパラメーターを設定します。
送信間隔（0～600 秒）	これは、システムが同じタイプのアラームイベントに対してメールを送信する間隔です。つまり、システムは頻繁なアラームイベントによって発生したメールは送信しません。 値の範囲は 0 ~ 600 です。0 は間隔がないことを意味します。
テスト	「テスト」をクリックして、メール送信機能をテストしてください。設定が正しければ、受信者のメールアカウントにメールが届きます。 テストを行う前に、「適用」をクリックして設定を保存してください。

**ステップ3**：「適用」をクリックして設定を保存します。

## 6.6.6 P2P

### 6.6.6.1 P2P

UUID コードを表示し、デバイスの P2P ステータスを設定します。

**操作手順**

**ステップ1**：設定 > ネットワークで P2P をクリックし、図 6-100 に示す P2P 画面にアクセスします。

図 6-100 P2P 画面



**ステップ2**： をクリックして P2P 機能を有効にします。

**ステップ3**：「適用」をクリックして P2P ネットワーク設定を保存するか、キャンセルをクリックして設定をキャンセルします。

**ステップ4**：スマホアプリをモバイル端末にインストールしたら、アプリを起動し、QR コードをスキャンして NVR を追加し、デバイスがオンラインのときにアクセスします。

### 6.6.6.2 Web NAT

この機能は、NVR への Web アクセスに使用します。

Web NAT は、URL と UUID を使用して Web インターフェースにログインします。

Web NAT を有効にすると、デバイスがオンラインのときに URL をコピーしてブラウザに入り、URL インターフェースにジャンプします。

図 6-101 Web NAT



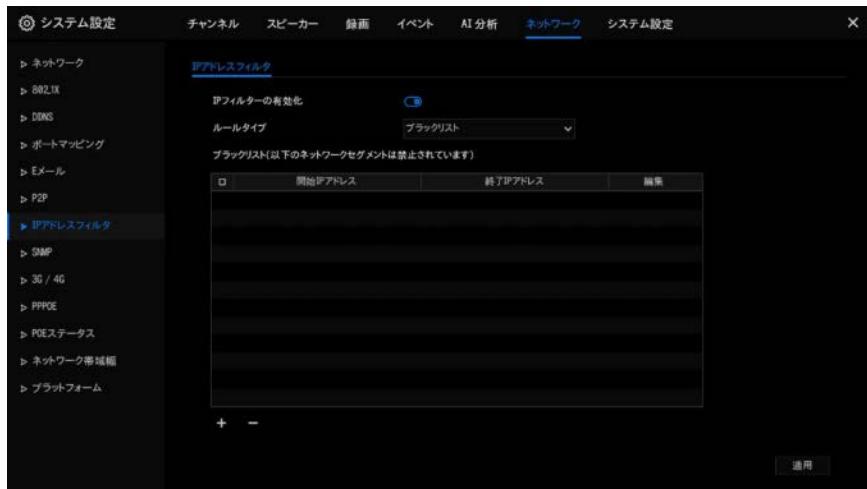
## 6.6.7 IP アドレスフィルタ

特定のネットワークセグメント内の IP アドレスを指定して、アクセスを許可または禁止します。

### 操作手順

ステップ1：[システム設定] > [ネットワーク]で「IP アドレスフィルタ」をクリックし、図 6-102 に示す IP アドレスフィルタ画面にアクセスします。

図 6-102 IP アドレスフィルタ設定画面



ステップ2：IP アドレスフィルタの横にある をクリックして、IP アドレスフィルタ機能を有効にします。

ステップ3：ブラックリストまたはホワイトリストのドロップダウンリストから選択します。

ステップ4：「+」をクリックしてブラックリストとホワイトリストを設定すると、図 6-103 に示す IP アドレスセグメント画面が表示されます。

図 6-103 IP アドレスセグメント画面



ステップ5：開始 IP アドレスと終了 IP アドレスを手動で入力します。

ステップ6：「OK」をクリックします。設定が保存されます。ブラックリストとホワイトリストに登録された IP セグメントは、ブラックリスト（ホワイトリスト）に表示されます。

### NOTE

- ブラックリスト：指定されたネットワークセグメント内の、許容されない、または信頼できないと見なされ、除外または回避する必要がある IP アドレスのリストです。
- ホワイトリスト：指定されたネットワークセグメント内の、許容される、または信頼できると見なされるアドレスのリストです。
- リストから名前を削除するには、リスト内の名前を選択し、「削除」をクリックします。
- リスト内の名前を編集するには、リスト内の名前を選択し、「編集」をクリックします。
- 使用できるルールタイプは 1 つだけで、最後に設定したルールタイプが有効です。

## 6.6.8 SNMP

インターフェースには、3つのバージョンの SNMP（簡易ネットワーク管理プロトコル）があります。

### 操作手順

**ステップ1：**ネットワーク管理画面の「設定システム」またはメニューで「IP アドレスフィルタ」をクリックし、「IP アドレスフィルタ」を選択して、図 6-104 に示す IP アドレスフィルタ画面にアクセスします。

図 6-104 SNMP 設定画面



図 6-105 SNMPV3



パラメーター	説明
SNMPV1	SNMP のバージョン。
SNMPV2C	SNMPV1 と SNMPV2C は、コミュニティを使用してマネージャーとエージェント間の信頼関係を確立します。エージェントは、書き込みコミュニティ、読み取りコミュニティ、トラップの 3 つのコミュニティ名をサポートします。
コミュニティ書き込み	書き込みコミュニティの名前。
コミュニティ読み取り	書き込みコミュニティのみがデータを変更できます。
トラップアドレス	読み取りコミュニティ名。

パラメーター	説明
トラップポート	書き込みコミュニティはデータの読み取りのみ可能です。
トラップコミュニティ	トラップの IP アドレス。
SNMPV3	トラップからのメッセージを受信する管理ポート。
セキュリティ名の読み取り	トラップのコミュニティ文字列。
セキュリティ名の書き込み	トラップコミュニティ文字列により、マネージャーはエージェントから非同期情報を受信できます。
セキュリティレベル	SNMP のバージョン。
認証アルゴリズム	SNMPv3 はコミュニティ文字列を使用しますが、SNMP マネージャーとエージェント間の安全な認証と通信を可能にします。
認証パスワード	読み取りセキュリティの名前。
暗号化アルゴリズム	書き込みセキュリティの名前。
暗号化パスワード	SNMP マネージャーとエージェント間のセキュリティレベルには、次の 3 つのレベルがあります。

**ステップ 2 :** SNMPV 1 の横にある  をクリックして機能を有効にします。インターフェースは図 6-106 に示されています。

図 6-106 : SNMPV 1/2 インターフェース

表 6-106 : SNMP パラメーター



**ステップ 3 :** プロトコルのパラメーターを入力します。

**ステップ 4 :** 設定を保存するには「適用」をクリックします。

## 6.6.9 : 3G/4G

モデムを使用して NVR をデータネットワークに接続できます。

### 操作手順

**ステップ 1 :** モデムを NVR に接続し、図 6-107 に示すように 3G/4G 機能を有効にします。

図 6-107 : 3G/4G 設定画面



**ステップ 2 :** 接続に成功したら、その他のパラメーターを設定します。

**ステップ 3 :** アクセスマードを選択します。デフォルトは自動です。自動、LTE、TD-SCDMA、WCDMA、GSM/GPRS の 5 つのモードから選択できます。

**ステップ 4 :** APN、ダイヤル番号、ユーザー名、パスワード、IP アドレスを入力します。自動モードでは、これらのパラメーターはすべて自動的に取得されます。

**ステップ 5 :** 「適用」をクリックして設定を保存します。

#### NOTE

- 3G/4G のアクセスマード（自動、LTE、TD-SCDMA、WCDMA、GSM/GPRS）を変更します。5 分以内にダイヤルできない場合は、モデムを再接続してください。
- 手動で他のモードに切り替える前に、関連するネットワーク（サービスプロバイダーによってパラメーターが異なります）とモデムの情報を十分に理解しておく必要があります。推奨モードは自動です。
- 3G/4G 機能を使用する場合は、PPPOE 機能を手動で閉じる必要があります。一度に使用できる機能は 1 つだけです。
- インターネットアクセスタイプが LTE (4G ネットワーク) の場合、番号、ユーザー名、パスワードを入力する必要はありません。

### 6.6.10 PPPOE

PPPOE (ポイントツーポイントプロトコルイーサネット)。図 6-108 に示すように、ユーザーは PPPOE を使用してネットワークに即座にアクセスできます。

図 6-108 PPPOE



ステップ 1 : PPPoE 機能を有効にします。

ステップ 2 : ユーザー名とパスワード（ネットワーク事業者から提供）を入力します。

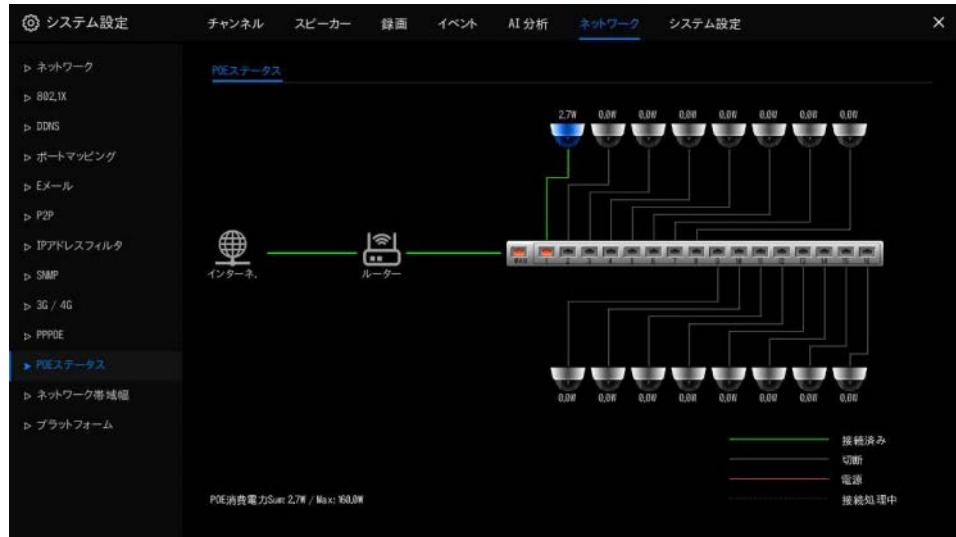
ステップ 3 : 「適用」をクリックして設定を保存すると、IP アドレスが自動的に取得されます。

ステップ 4 : ユーザーは IP アドレスを入力し、NVR の Web サイトに即座にアクセスします。

### 6.6.11 POE ステータス (一部モデルのみ)

図 6-109 に示すように、ユーザーは POE のステータスを確認できます。

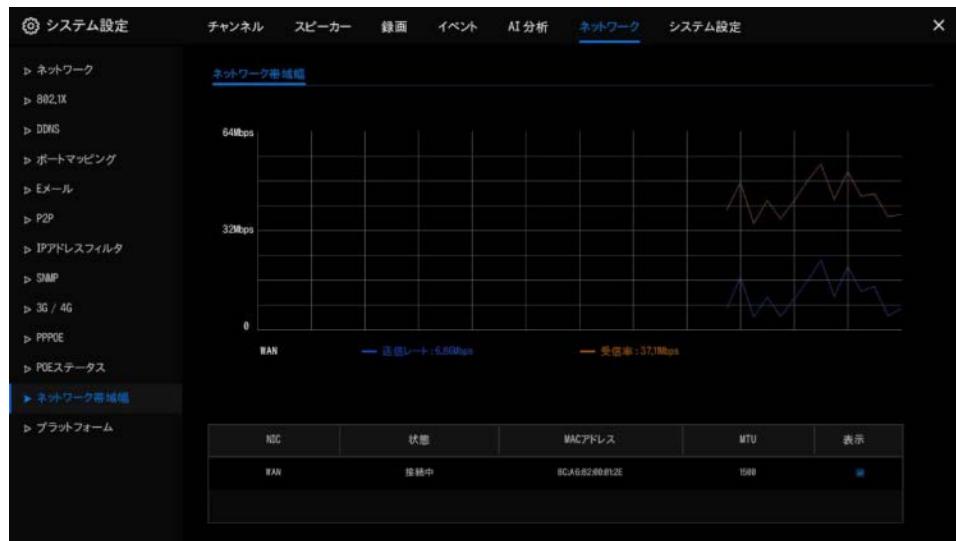
図 6-109 POE ステータス



### 6.6.12 ネットワーク帯域幅

図 6-110 に示すように、ネットワークトラフィックをすぐに確認できます。

図 6-110 ネットワーク帯域幅



送信レートと受信レートの 2 つのレートがあります。LAN のステータスはリストに表示されます。

## 6.6.13 プラットフォームアクセス

NVR とプラットフォームシステムが同じローカルネットワーク上にない場合は、NVR がプラットフォームシステムと同じ外部サーバーに接続されていることを確認してください。プラットフォーム用のサーバーを事前に構築しておく必要があります。プラットフォームのリモート IP/ポートと NVR は、ポートを外部ネットワークにマッピングします。

**ステップ 1 :** [システム設定] > [ネットワーク] で [プラットフォームアクセス] をクリックし、図 6-111 に示すように、[プラットフォームアクセス] ページにアクセスします。

図 6-111 [プラットフォームアクセス] ページ



**ステップ 2 :** パラメーターを入力します。[URL] と [ポート] は、プラットフォームサーバーの IP アドレスとポートです。

**ステップ 3 :** [名前] と [ポート] は、プラットフォームのログイン名とパスワードです。

**ステップ 4 :** NVR をプラットフォームに追加します。以下の情報を入力してください。

1 : IP/ID/ドメイン名は NVR のデバイス ID です。

図 6-112 IP/ID/ドメイン



2 : 接続モードは「デバイスのアクティブな登録」を選択してください。

図 6-113 : NVR をプラットフォームに接続



3 : プラットフォームの CMU、MDU、IAU サーバーは、事前に外部ネットワークのポートにマッピングされている必要があります。

図 6-114 URL アドレス/ポート

サーバー名: CMU_127.0.0.1	タイプ: CMU	IP/Port: 127.0.0.1:10086	起動開始時間: 18-12-2025 13:00:41
実行状態: オンライン	バージョン: V1.8.366.0.2.240.0_20251203	リモートIPポート:	オンライン時間: 32時間 31分 54秒
ログタイプ: エラー	P2Pステータス: オフライン	デバイス監視ポート: 17888	SSLポート: 15680
ドメイン: デフォルトドメイン	P2P UUID:	リモートデバイス監視ポート:	

ステップ5：アクセスを暗号化する場合は、「暗号化」を有効にします。

ステップ6：[適用]をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示され、設定が保存されます。

## 6.6.14 故障切換

すべての録画を正常に動作させたい場合は、NVR を冗長 NVR として設定します。プライマリ NVR が故障した場合、冗長 NVR が故障切換として動作を継続します。

ステップ1：[システム設定] > [ネットワーク] > [故障切換]を選択します。図 6-115 に示すように、[故障切換]ページが表示されます。

図 6-115 故障切換

**ステップ2 :** [プライマリ]モードを選択し、プライマリ NVR を展開して冗長 NVR パラメーター (WAN アドレス、ポート、ユーザー名、パスワード) を設定します。接続ステータスが「切断」 / 「接続タイムアウト」 / 「ユーザー名またはパスワードエラー」 / 「冗長 NVR は故障切換をサポートしていません」の場合、冗長 NVR は故障切換をサポートしていません。

図 6-116 冗長モード



表 6-19 プライマリ NVR パラメーター

パラメーター	説明
プライマリ NVR を有効にする	セキュリティのために冗長 NVR に接続するには有効にします。
冗長 NVR の WAN アドレス	
冗長 NVR のポート番号	
冗長 NVR のユーザー名	冗長 NVR のネットワーク情報。 冗長 NVR のチャンネル番号と HDD 番号は、プライマリ NVR より小さくすることはできません。
冗長 NVR のパスワード	
冗長 NVR のシリアル番号	
接続ステータス	切断されました / 接続がタイムアウトしました / ユーザー名またはパスワードエラーです / 冗長 NVR は故障切換をサポートしていません。

### NOTE

- 冗長 NVR のチャンネル番号と HDD 番号は、プライマリ NVR のチャンネル番号と HDD 番号より小さくすることはできません。
- プライマリ NVR と冗長 NVR の時刻は一致している必要があります。

## 6.7 システム管理

デバイス情報を表示し、システム設定の「一般情報」、「ユーザーアカウント」、「セキュリティセンター」、「レイアウト」、「ログ」、「メンテナンス」、「自動再起動」を設定します。

### 操作説明

システム設定画面で「情報」をクリックするか、システム設定画面内の任意の機能画面で「システム設定」ページをクリックすると、図 6-117 に示すシステム設定画面が表示されます。

図 6-117 システム設定画面



### 6.7.1 システム設定

図 6-118 に示すシステム設定画面で、デバイス ID、デバイス名、デバイスタイプ、型番、ファームウェアバージョン、カーネルバージョン、U-boot バージョン、HDD 容量、サポートチャンネル数、アラーム入力、アラーム出力、音声入力、音声出力を表示します。

図 6-118 システム設定画面



ネットワーク: ステータス、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、MAC アドレス、DHCP、優先 DNS サーバー、代替 DNS サーバー、総帯域幅、受信パケットなど（図 6-119 参照）。

図 6-119 ネットワーク画面

システム設定	ネットワーク	チャンネル	HDD	アラーム
状態		接続中		
IPアドレス		192.168.0.58		
サブネットマスク		255.255.255.0		
デフォルトゲートウェイ		192.168.0.1		
MACアドレス		8CA68200012E		
DHCPを有効にする		オフ		
DNS1		8.8.8.8		
代替DNSサーバー		8.8.4.4		
総帯域幅		100.00 Mbps		
受信パケット		40.92 Mbps		

チャンネル: チャンネル、名称、状態、ビデオ形式、解像度、ビットレート (kbps) など (図 6-120 参照)。

図 6-120 チャンネル画面

チャンネル	名称	状態	ビデオ形式	解像度	ビットレート(kbps)
CH1	LC-IP4P-838T	接続中	H.264/H.264	2592*1520/704*480	4096/1024
CH2	LC-IP8B-5810	接続中	H.264/H.264	2592*1944/704*480	4096/1024
CH3	LC-IP5B-4810B	接続中	H.264/H.264	2560*1440/704*480	4096/1024
CH4	LC-IP4D-6510	接続中	H.264/H.264	2592*1520/704*480	4096/1024
CH5	Channel05	接続中	H.264/H.264	2880*1620/704*480	4096/1024
CH6	Channel06	接続中	H.264/H.264	704*480/704*480	2000/1024
CH7	Device	接続中	H.264/H.264	2880*1620/1920*1080	4096/1024
CH8	Channel08	接続中	H.264/H.264	4000*3000/704*480	6144/1024

HDD: ディスク管理、容量、使用状況、シリアルナンバー、HDD 型番、状態など (図 6-121 参照)。

図 6-121 HDD 画面

ディスク管理	容量	使用済	シリアルナンバー	HDD型番	状態
Disk1	4 TB	3957 GB	WD-WX22D34D2HUV	WD WD43PURZ-74BWPy0	正常

アラーム：チャンネル、名称、モード、有効化、録画チャンネルなど（図 6-122 参照）。

図 6-122 アラーム画面

チャンネル	名称	モード	有効化	録画チャンネル
ローカル<-1	Sensor 1	N/O	オン	
ローカル<-2	Sensor 2	N/O	オン	
ローカル<-3	Sensor 3	N/O	オン	
ローカル<-4	Sensor 4	N/O	オン	
ローカル<-5	Sensor 5	N/O	オン	
ローカル<-6	Sensor 6	N/O	オン	
ローカル<-7	Sensor 7	N/O	オン	
ローカル<-8	Sensor 8	N/O	オン	
ローカル→1	クローズ			
ローカル→2	クローズ			

## 6.7.2 一般

### 6.7.2.1 システム

#### 操作手順

ステップ1：「システム設定」>「一般」で「システム設定」をクリックし、図 6-123 に示すシステム画面にアクセスします。

図 6-123 システム設定画面



ステップ2：選択したデバイスの名前を任意で入力します。

ステップ3：出力解像度のドロップダウンリストから適切な解像度を選択します。

ステップ4：「言語」ドロップダウンリストから言語を選択します。

ステップ5：温度単位を設定します。

ステップ6：「オリジナル比率」を有効にします。録画再生インターフェースは、元のアスペクト比でビデオを表示します。「オリジナル比率」を無効にすると、録画再生インターフェースは 16:9 のアスペクト比で映像を表示します。

## NOTE

NVRの言語は、英語、日本語をサポートしています。

図 6-124 オリジナル比率の無効化



図 6-125 オリジナル比率の有効化



ステップ7：設定を保存するには「適用」をクリックします。

### 6.7.2.2 日付と時刻

#### 操作手順

ステップ1：「システム設定」>「一般」>「日付」で、図 6-126 に示す日付と時刻の設定画面にアクセスします。

図 6-126 日付と時刻の設定画面



**ステップ2**：「日付形式」と「時刻形式」のドロップダウンリストから必要な形式を選択します。

**ステップ3**：「NTP同期」の横にある  をクリックして、時刻同期を無効にします。時刻同期はデフォルトで有効になっています。時刻は NTP と同期されます。

**ステップ4**：NTP 同期を無効にした後、システム時刻を手動で設定できます。

「日付」をクリックし、スクロールホイールを使用して年、月、日を選択します。

「時刻」をクリックし、スクロールホイールを使用して時、分、秒を選択します。

「時刻の変更」をクリックして、時刻設定を保存します。

表 6-20 日付と時刻のパラメーター

パラメーター	説明
日付形式	システムの日付形式を選択します。
時刻形式	時間の表示形式として、12 時間制または 24 時間制を選択します。
NTP を有効にする	NTP 機能を有効にして、デバイスの時間を NTP サーバーと同期します。  <b>NTP が有効になっている場合、デバイスの時刻はサーバーと自動的に同期されます。</b>
NTP 暗号化を有効にする	安全を保つために NTP を有効にします。
NTP サーバー	同期する NTP サーバーを選択してください。ネットワーク > アクセスプラットフォームインターフェースで SIRA を有効にすると、NTP サーバーは自動的に更新されます。
同期間隔（秒）	設定時刻を NTP サーバーと同期します。  <b>システム時刻を無作為に変更しないでください。録画したビデオを検索できなくなる可能性があります。システム時刻を変更する前に、録画期間を避けるか、録画を停止することをお勧めします。</b>
日付（時刻）	ユーザーが同期時間を有効にしていない場合は、日付（時刻）を手動で変更できます。

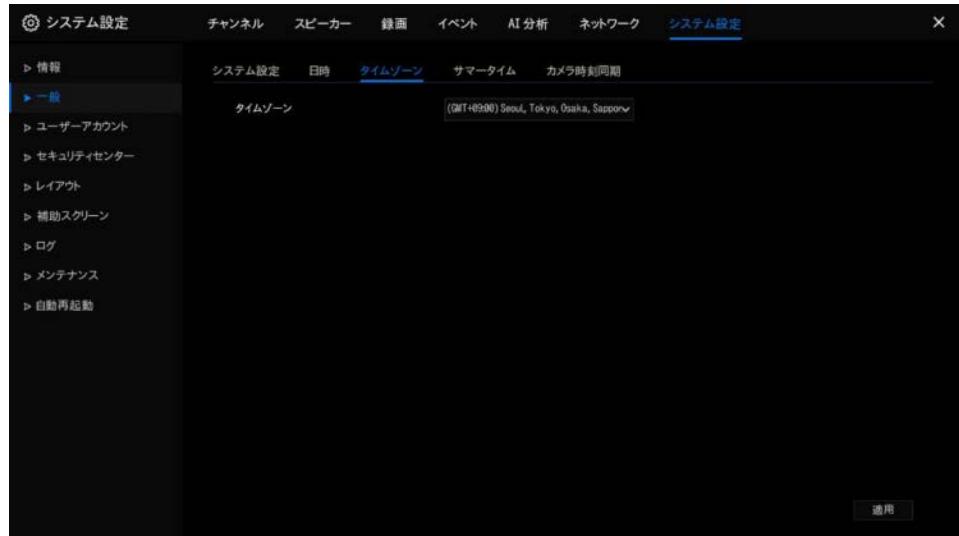
**ステップ1**：「適用」をクリックして設定を保存します

### 6.7.2.3 タイムゾーン

#### 操作手順

**ステップ1**：「システム設定」>「一般」>「タイムゾーン」で、図 6-127 に示すタイムゾーン設定画面にアクセスします。

図 6-127 タイムゾーン設定画面



ステップ2：「タイムゾーン」ドロップダウンリストから任意のタイムゾーンを選択します。

ステップ3：「適用」をクリックして設定を保存します。

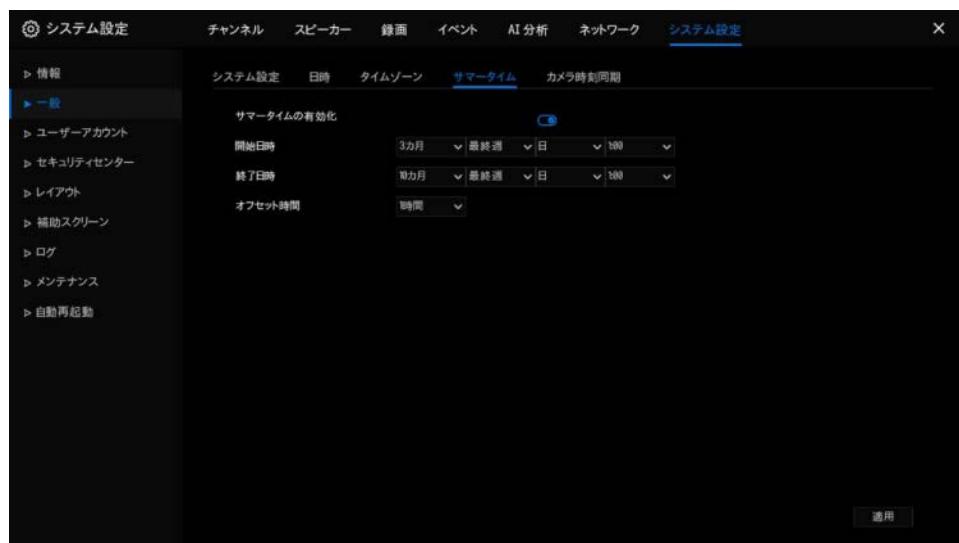
#### 6.7.2.4 サマータイム

サマータイムの開始時刻になると、デバイスの時刻は自動的に1時間進みます（オフセット時間）。サマータイムの終了時刻になると、デバイスの時刻は自動的に1時間戻ります。オフセット時間は、ローカルルールが異なる場合に変更される可能性があります。

##### 操作手順

ステップ1：「システム設定」>「一般」>「サマータイム」で、図 6-128 に示すサマータイム設定画面にアクセスします。

図 6-128 サマータイム設定画面



ステップ2：サマータイムの有効化の横にある をクリックして、サマータイムを有効にします。

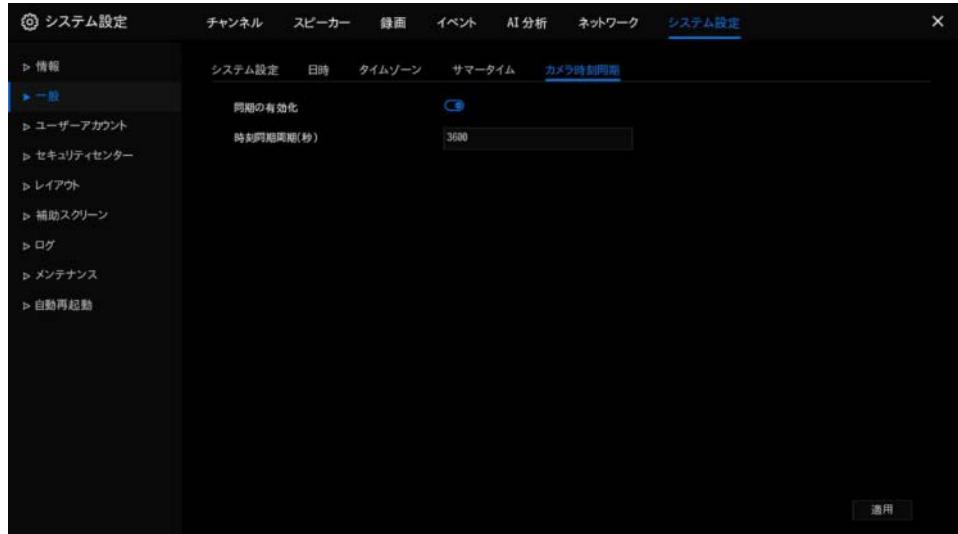
ステップ3：ローカルルールに基づき、ドロップダウンリストから開始時刻、終了時刻、オフセット時間をそれぞれ選択します。

ステップ4：「適用」をクリックして設定を保存します。

#### 6.7.2.5 カメラ時刻同期

「システム設定」>「一般」>「カメラ時刻同期」をクリックします。カメラ時刻同期を有効にすると、チャンネルに同期時刻が表示され、時刻同期周期を設定できます。

図 6-129 カメラ時刻同期



#### 6.7.3 ユーザーアカウント

ユーザー画面で、ユーザーと権限を追加、変更、削除します。管理者ユーザーは、異なるユーザーに権限を割り当てることができます。

##### 6.7.3.1 ユーザー

###### 操作手順

ステップ 1：図 6-130 に示すように、「システム設定」>「ユーザーアカウント>「ユーザー」で、ユーザー管理画面にアクセスします。

図 6-130 ユーザー管理画面



ステップ 2：ユーザーを追加または削除します。

###### ●ユーザーの追加

「追加」をクリックすると、図 6-131 に示す「ユーザーの追加」ダイアログボックスが表示されます。

図 6-131 ユーザー追加画面



ユーザー名、パスワード、パスワードの確認入力、グループの選択、パスワードリマインダーの変更、有効期限の設定を行います。

表 6-21 インターフェースパラメーターの追加

パラメーター	説明
ユーザー名	アカウントのユーザー名とパスワードを入力してください。 ユーザー名は以下の規則を満たす必要があります：以下の特殊文字のみサポートされます：!@#\$*+-=%&`()./:;,<>?^ ~[] パスワードの要件： <ul style="list-style-type: none"> <li>- パスワードは 8 文字以上 20 文字以下である必要があります</li> <li>- 大文字と小文字の両方を使用できます</li> <li>- 数字は少なくとも 1 つ使用する必要があります</li> <li>- 記号は -_@%^.~?#\$=+";,&amp; のみをサポートし、少なくとも 1 つ含める必要があります</li> <li>- 最初の文字は数字または文字である必要があります</li> <li>- スペースは使用できません</li> </ul>
パスワード	パスワードを再度入力してください。
パスワードの確認	
グループ	アカウントのグループを選択します。Super Admin 以外のグループには、管理者/オペレーター/メディアユーザーの 3 つがあります。 ユーザー権限は、グループの権限範囲内である必要があります。
パスワードの変更頻度	デバイスのセキュリティを保つために、パスワードを定期的に変更する設定ができます
パスワードの有効期限	ユーザーアカウントの有効期間を設定できるようにします。

ステップ 3：ドロップダウンリストボックスからグループを選択します。

ステップ 4：ドロップダウンリストボックスからパスワードリマインダーの変更値を選択します。

**ステップ 5**：有効期限を有効にして、新規ユーザーの権限時間を設定します。

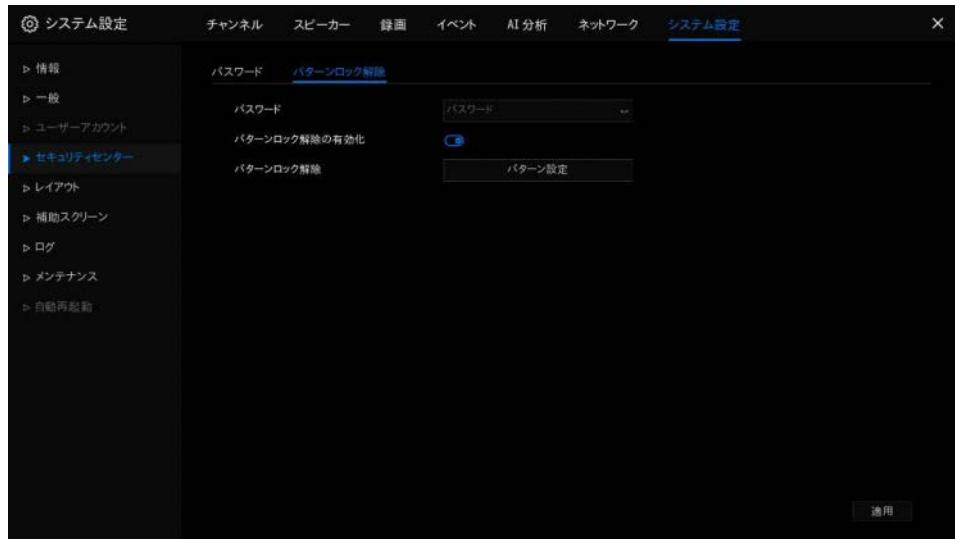
**ステップ 6**：ユーザー追加画面のリストで操作権限とチャンネルを選択します。

**ステップ 7**：「OK」をクリックします。ユーザーが設定されました。

#### NOTE

- デフォルトのユーザーは admin で、削除または変更できません。
- ユーザーリストからユーザーを選択し、 をクリックして編集するか、 をクリックしてユーザーを削除します。
- 一般ユーザーは、ログイン時にパターンロック解除を設定することもできます。

図 6-132 一般ユーザーがパターンロック解除を設定する際の画面



### 6.7.3.3 アプリ認証

ホワイトリストにセキュリティコードを追加します。このコードは、NVR を管理するためにモバイルアプリにログインする際、セキュリティのために設定したセキュリティコードを入力してください。

「設定」>「システム」>「ユーザー帳票」で「アプリ認証」をクリックすると、図 6-134 に示す「アプリ認証」画面が表示されます。

図 6-134 アプリ認証



最大 20 グループのセキュリティコードを追加でき、それぞれのメモを編集できます。

番号にチェックを入れ、「-」をクリックして番号を削除します。

「適用」をクリックして設定を保存します。

### 6.7.4 セキュリティセンター

#### 6.7.4.1 パスワード

##### 操作手順

ステップ 1：設定 > システム設定で「セキュリティセンター」をクリックし、図 6-135 に示すパスワード変更画面にアクセスします。

図 6-135 パスワード変更画面



ステップ 2：古いパスワードと新しいパスワードを入力し、確認のためにもう一度パスワードを再入力します。

##### NOTE

- パスワードには、少なくとも 2 種類の文字、記号、数字を含める必要があります。

- パスワードは 6~32 文字にしてください。
- 特殊文字 ( ! @#&\*+=-%&"`(),/.:;< >?^|~[]{} ) のみがサポートされています。

**ステップ 3** :「適用」をクリックして変更したパスワード設定を保存します。

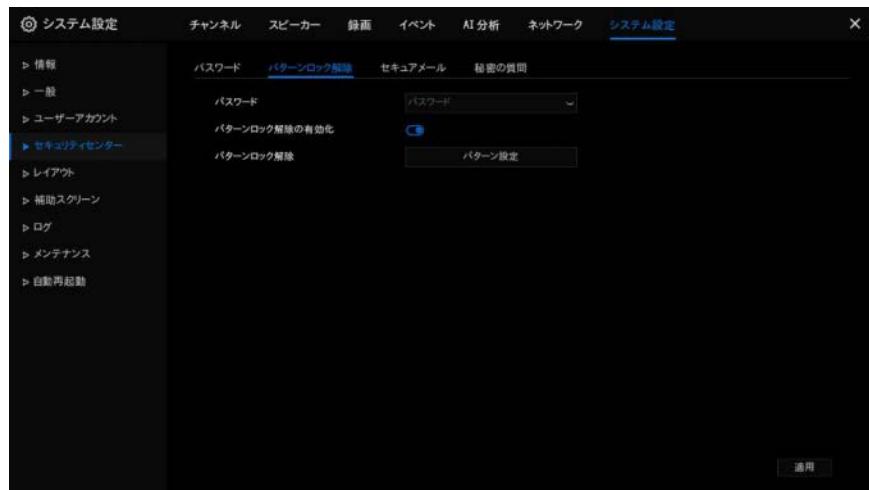
#### 6.7.4.2 パターンロック解除

一般ユーザーもパターンロック解除を設定してログオンできます。

##### 操作手順

**ステップ 1** :「設定」>「システム設定」で「セキュリティセンター」をクリックし、「パターンロック解除」を選択して、図 6-136 に示す変更済みパターンロック解除画面にアクセスします。

図 6-136 パターンロック解除画面



**ステップ 2** :パスワードを入力し、パターンロック解除を有効にします。

**ステップ 3** :「パターン設定」をクリックして、新しいロック解除パターンを設定します。

**ステップ 4** :パターンを描画した後、確認のためにパターンを再度描画するようにメッセージが表示されます。

**ステップ 5** :「OK」をクリックして、パターンロック解除を保存します。

### 6.7.4.3 セキュアメール

図 6-137 に示すように、新しいパスワードを作成するための確認コードを受信するメールアドレスを設定します。

図 6-137 セキュアメール



ステップ 1 : NVR のパスワードを入力します。

ステップ 2 : 確認コードを受け取るメールアドレスを設定します。

ステップ 3 : 「適用」をクリックして設定を保存します。

### 6.7.4.4 秘密の質問

図 6-137 に示すように、新しいパスワードを作成するための質問を設定します。

図 6-138 秘密の質問



ステップ 1 : NVR のパスワードを入力します。

ステップ 2 : ドロップダウンリストから質問を選択します。

ステップ 3 : 質問の回答を入力し、「適用」をクリックして設定を保存します。

## 6.7.5 レイアウト

表示画面の表示モードと切替時間を設定します。レイアウトは、複数の画面を自動で切り替えるように設定されています。

### 操作手順

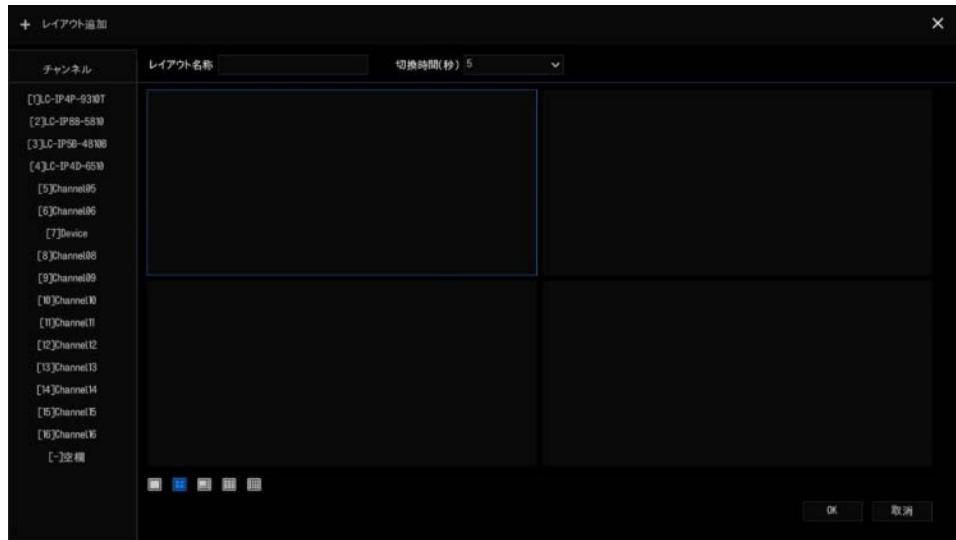
**ステップ 1 :** システム設定画面またはシステム管理画面のメニューから「レイアウト」をクリックし、「レイアウト」を選択して表示画面にアクセスします（図 6-139 を参照）。

図 6-139 オートシーケンス切り替え画面



**ステップ 2 :** 「+」をクリックして新しいレイアウトを追加します。デフォルトのレイアウトは、分割画面が 1 つです。

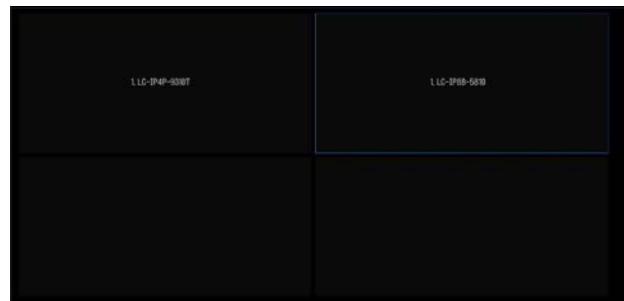
図 6-140 新しいレイアウトの追加



**ステップ 3 :** レイアウト名を入力し、「切換時間 (秒)」のドロップダウンリストから表示時間を選択します（表示画面は設定時間に従ってライブ映像をループ再生します）。

**ステップ 4 :** ページ下部で分割画面モードを選択します。チャンネル表示位置を設定するには、チャンネルを特定の位置にドラッグするか、位置を選択してからチャンネルをクリックします。分割画面では複数のチャンネルを再生できます。オートシーケンスとは、設定に従って再生する機能です。例えば、最初の分割画面は 2 ページ（チャンネル 1 と 2）に設定され、2 番目の分割画面は 1 ページ（チャンネル 3）に設定されています。オートシーケンスを有効にすると、チャンネル 1 とチャンネル 3 が表示され、次にチャンネル 2 とチャンネル 3 が表示されます。

図 6-141 オートシーケンス



ステップ 5：「適用」をクリックして表示時間設定を保存します。

NOTE

ユーザーは最大 16 個のレイアウトを追加できます。

### 6.7.6 補助スクリーン（一部モデルのみ）

NOTE

この機能は、8 チャンネル以上のデバイスでのみ使用できます。メイン画面は HDMI (HD-OUT 2) で接続され、補助スクリーンは VGA で接続されます。

#### 操作手順

ステップ 1：システム設定またはシステム管理画面のメニューで、「補助スクリーン」をクリックします。

ステップ 2：図 6-142 に示すように、補助スクリーンを有効にします。デバイスが再起動されます。

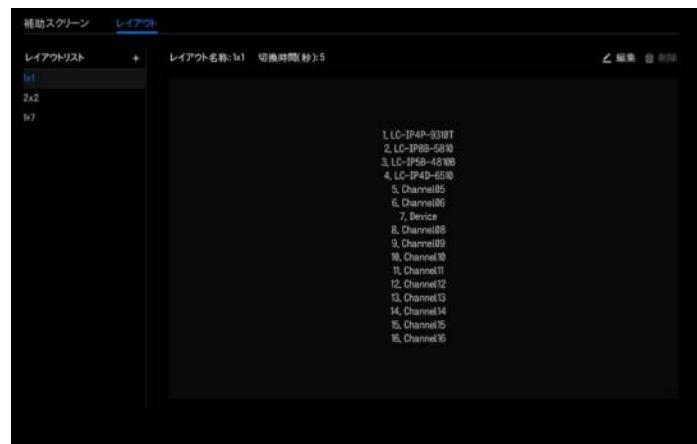
図 6-142：補助スクリーン



ステップ 3：出力解像度、デコード能力（メイン+補助）、レイアウトモード、表示チャンネルを設定します。

**ステップ4** : 図 6-143 に示すように、補助スクリーンのオートシーケンスを設定するためにツアーを有効にします。

図 6-143 : 補助スクリーンのオートシーケンス



**ステップ5** : 「適用」クリックして設定を保存します。

#### NOTE

- 補助スクリーンにはメイン画面とは異なるチャンネルが表示され、オートシーケンスを設定するとすべてのチャンネルが順に表示されます。
- 補助スクリーンには、設定が有効の場合は人数カウント情報が表示されます。

## 6.7.7 ログ

### 6.7.7.1 システムログ

ログ情報を検索し、ログ情報をエクスポートします。

#### NOTE

- システムパラメーターを変更する際は、電源を入れたままにしてください。すべての変更は3分間保存されます。電源を入れたままにしないと、設定が適用されない可能性があります。
- 操作ログとアラームログは、HDD が取り付けられている場合は HDD に保存されます。HDD が取り付けられていない場合、NVR は各ログ（操作ログとアラームログ）の直近ログを 500 件のみ保存し、その他のログは破棄されます。

### 操作手順

**ステップ1** : 「システム設定」>「ログ」で、図 6-144 に示すようにログ画面にアクセスします。

図 6-144 ログ画面

**ステップ2**：ログ画面で、ログの検索開始日、検索終了日、検索開始時刻、検索終了時刻を設定します。

**ステップ3**：ドロップダウンリストからログの種類を選択します。

**ステップ4**：ログを照会するには、「検索」をクリックします。

**ステップ5**：ログをフラッシュディスクにエクスポートするには、「エクスポート」をクリックします。

**ステップ6**：ログはフラッシュディスクとHDDに同時に保存できます。最新のログはフラッシュディスクに保存され、古いログはHDDに転送されます。

### 6.7.7.2 イベントログ

イベントログは、より詳細な種類で分類されており、絞込検索を行うことができます。操作方法はシステムログと同じです。

6.7.7.1章を参照してください。

図 6-145 イベントログ

ID	開始日時	チャンネル	ログの種類	情報
1	11/12/2025 14:09:04	チャンネル01	リンクロス	LC-IP4P-9310T
2	11/12/2025 14:09:06	チャンネル02	リンクロス	LC-IP8B-5810
3	11/12/2025 14:09:09	チャンネル01	モーション検出	LC-IP4P-9310T
4	11/12/2025 14:09:16	チャンネル02	リンクロス	LC-IP8B-5810
5	11/12/2025 14:09:16	チャンネル01	モーション検出	LC-IP4P-9310T
6	11/12/2025 14:09:34	チャンネル01	モーション検出	LC-IP4P-9310T
7	11/12/2025 14:09:31	チャンネル02	リンクロス	LC-IP8B-5810
8	11/12/2025 14:09:23	チャンネル01	モーション検出	LC-IP4P-9310T
9	11/12/2025 14:09:30	チャンネル01	モーション検出	LC-IP4P-9310T
10	11/12/2025 14:09:10	チャンネル02	リンクロス	LC-IP8B-5810
11	11/12/2025 14:07:58	チャンネル01	モーション検出	LC-IP4P-9310T
12	11/12/2025 14:07:54	チャンネル02	リンクロス	LC-IP8B-5810
13	11/12/2025 14:07:47	チャンネル01	モーション検出	LC-IP4P-9310T
14	11/12/2025 14:07:34	チャンネル01	モーション検出	LC-IP4P-9310T
15	11/12/2025 14:07:23	チャンネル01	モーション検出	LC-IP4P-9310T

### 6.7.8

## メンテナンス

### 操作手順

**ステップ1**：システム設定画面またはシステム管理画面のメニューから「メンテナンス」をクリックし、「メンテナンス」を選択してメンテナンス画面にアクセスします（図 6-146 を参照）。

図 6-146 メンテナンス画面

**ステップ2**：必要に応じて、「シャットダウン」、「再起動」、「ログアウト」、「システム終了」、「リセット」、「アップデート」のいずれかをクリックしてNVRを操作します。

**ステップ3**：「FWアップデート」をクリックして、ファームウェアをアップデートします。

図 6-147 ファームウェアアップデート



**ステップ4**：「設定インポート」または「設定エクスポート」をクリックすると、「設定をインポート/エクスポートしてもよろしいですか？」というメッセージが表示されます。フラッシュドライブが動作していることを確認してください。

**ステップ5**：画面にメッセージが表示されます。「OK」をクリックして選択を確定してください。

**ステップ6**：「設定のインポート」をクリックして、設定をフラッシュドライブにインポートします。

**ステップ7**：設定をインポートすると、デバイスが再起動します。

**ステップ8**：「設定のエクスポート」をクリックして、フラッシュドライブから設定をエクスポートします。

#### NOTE

- NVRのFWアップデートが完了すると、デバイスが再起動します。ファームウェアのアップデートには約5分程度かかり、その後自動的にログインインターフェースが表示されます。5分も待たずに完了したい場合は、ポップアップウインドウに「アップデート99%」と表示されたらF5キーを押してWebを更新し、ログインインターフェースに移動してください。
- ネットワークパケットキャプチャ：NVRをUSBメモリに接続し、ネットワークパケットキャプチャとパケットキャプチャの関連パラメーターを取得します。キャプチャされたデータはダウンロードして、デバイスの問題分析に使用できます。
- FWアップデート：アップデートしたいソフトウェアが保存されたUSBメモリをNVRに挿入し、ファイルを選択します。
- 実行ログの保存：実行ログをUSBメモリに保存します。

### 6.7.8.1 クラウドアップデート

NVR がインターネットに接続されている場合、ユーザーはインターネット経由でソフトウェアをアップデートできます。

「最新バージョンを確認」をクリックして最新バージョンを確認し、アップデートします。自動チェックを有効にすると、デバイスは毎週チェックを行います。

図 6-148 クラウドアップデート



#### NOTE

上記のプロセスを実行するには、デバイスがインターネットに接続されている必要があります。

### 6.7.9 自動再起動

#### 操作手順

ステップ 1：システム設定画面またはシステム管理画面のメニューから「自動再起動」をクリックし、メンテナンス画面にアクセスします（図 6-149 を参照）。

図 6-149 自動再起動画面



ステップ 2：自動再起動を有効にすると、再起動時間を図 6-149 の '再起動時間' ドロップダウンリストから設定できます。

ステップ 3：日、週、または月ごとに NVR を再起動します。

ステップ 4：ドロップダウンリストから再起動時間を選択します。NVR は設定された時間に再起動されます。

# 7 WEB クイックスタート

ブラウザベースの Web クライアントを使用して、ネットワークビデオレコーダーにリモートアクセスする方法について説明します。

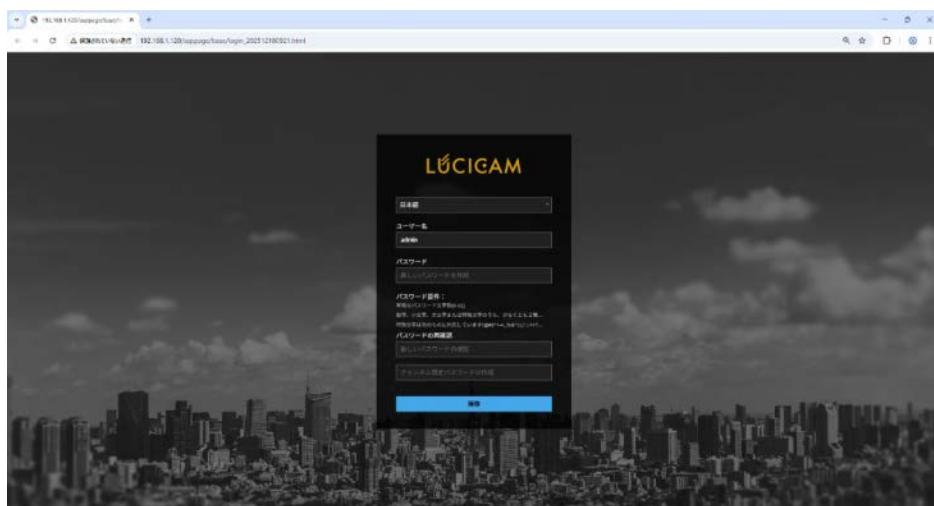
Web インターフェースの機能は UI システムと同じです。すべての機能については、第 6 章「UI システム設定」を参照してください。

## 7.1 アクティベーション

Chrome ブラウザを開き、アドレスボックスに NVR の IP アドレス（デフォルト値は 192.168.1.120）を入力し、Enter キーを押します。

UI インターフェースでパスワードを設定していない場合は、図 7-1 に示すように、デバイスを有効化する必要があります。

図 7-1 デバイスの有効化



ステップ 1：パスワードを設定し、確認のためにもう一度入力します。

ステップ 2：ログインするためのユーザー名とパスワードを入力します。

ステップ 3：パスワードを回復するには、E メールアドレスの設定、秘密の質問、QR コード認証の 3 つの方法があります。

図 7-2：パスワード回復用 E メールアドレス



ステップ 4：パスワード回復のための質問を設定します。

図 7-3 秘密の質問

The screenshot shows a dark-themed web page for LUCIGAM. At the top, there's a language selection dropdown set to '日本語'. Below it, a header says '← 秘密の質問（回復パスワード）'. There are three sections for secret questions:

- 秘密の質問 1**: Question is "あなたが好きな自動車のモデル名は？例クラウン". A dropdown menu shows "あなたの好きな自動車のモデル名は？例クラウン". An input field below it is empty.
- 秘密の質問 2**: Question is "あなたの好きなプロ野球のチーム名は？". A dropdown menu shows "あなたの好きなプロ野球のチーム名は？". An input field below it is empty.
- 秘密の質問 3**: Question is "あなたの好きな日本の都市名は？". A dropdown menu shows "あなたの好きな日本の都市名は？". An input field below it is empty.

At the bottom are two buttons: 'スキップする' (Skip) on the left and '完了' (Complete) on the right.

図 7-4 QR コードによるパスワード回復



#### NOTE

パスワード回復用 E メールアドレスまたは秘密の質問を設定していない場合は、この手順をスキップしてください。

## 7.2 ログインとログアウト

#### CAUTION

- Web インターフェースへのアクセスには、Firefox、Chrome、または Edge を使用できます。
- Windows 7/Windows 10 システムは Firefox/Chrome をサポートしていますが、XP システムはサポートしていません。
- ブラウザは 32 ビットシステムをサポートしています。

## ブラウザの説明 :

Chrome を使用してクライアントにアクセスするには、以下の手順に従ってブラウザで NPAPI を手動で有効にする必要があります。

- Chrome のアドレスバーに「chrome://flags/#enable-np」と入力します。
- 管理ページに移動します。
- Mac と Windows で NPAPI を有効にします。
- 「有効にする」をクリックします (NPAPI プラグインが有効になります)。
- Chrome を再起動します。

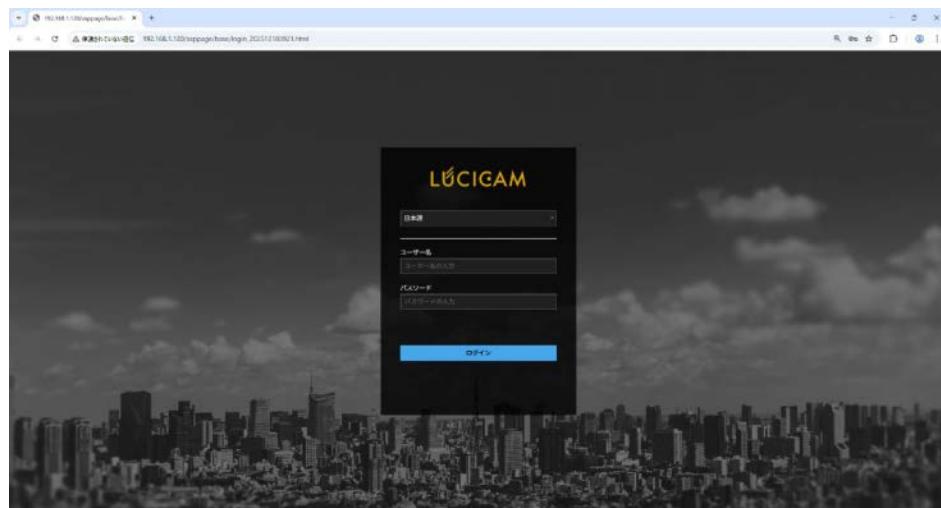
ここでは、Chrome をライブ映像閲覧の例として使用します。

## ログイン

**ステップ 1 :** Chrome ブラウザを開き、アドレスバーに NVR の IP アドレス（デフォルト値：192.168.1.120）を入力し、Enter キーを押します。

図 7-5 に示すように、ログインページが表示されます。

図 7-5 ログインページインターフェース



**ステップ 2 :** ユーザー名とパスワードを入力します。

### NOTE

- デフォルトのユーザー名は「admin」です。パスワードを 3 回以上間違えた場合は、5 分後に再度ログインしてください。
- ログインページでシステムの表示言語を変更できます。
- NVR に初めてログインすると、パスワード変更ページのポップアップウィンドウが表示されます。

**ステップ 3 :** 図 7-6 に示すように、「ログイン」をクリックしてホームページにアクセスします。

図 7-6 ホームページインターフェース 1

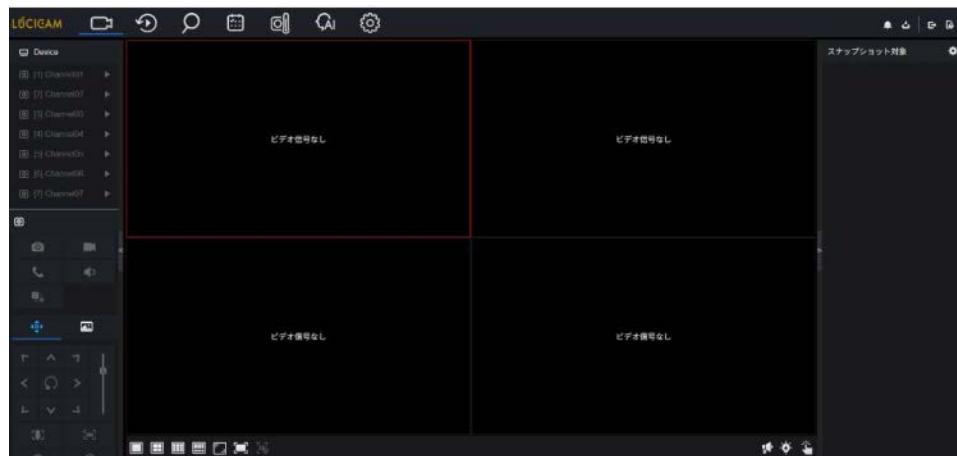
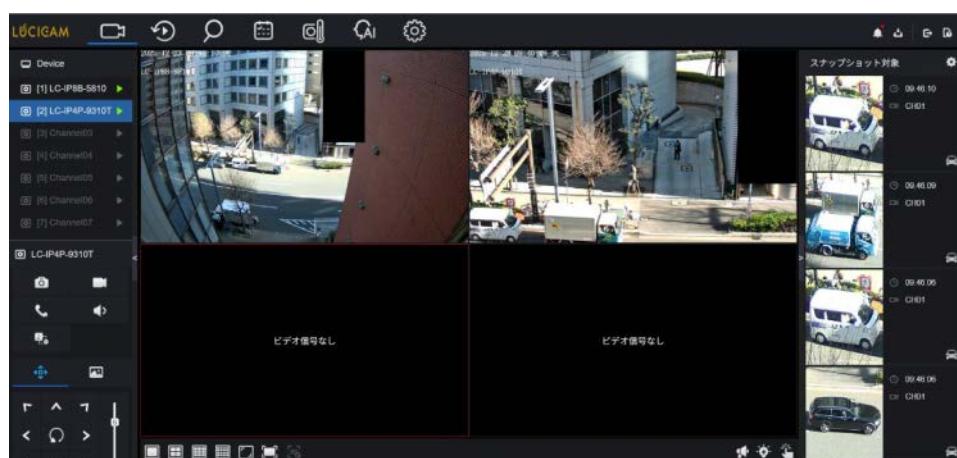


図 7-7 ホームページインターフェース 2



## ログアウト

システムからログアウトするには、ホームページの右上隅にある をクリックします。「終了しますか？」というポップアップアップメッセージが表示されます。「OK」をクリックすると、ログインページが表示されます。

## ホームページのレイアウト

NVR では、PC 上の Web インターフェースを使用して、ライブ映像の表示、再生、取得、画像パラメーターの設定、アクセス、設定、PTZ 制御などの機能を操作できます。図 5-16 はインターフェースの全体レイアウトを示しています。インターフェースの説明については、表 7-1 を参照してください。

図 7-8 ホーム画面のレイアウト

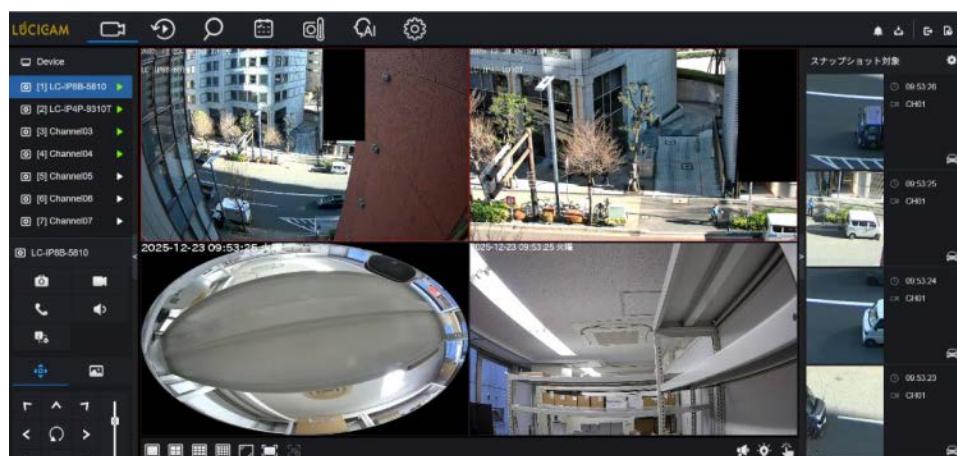


表 7-1 ホーム画面の説明

No.	機能	説明
1	機能ナビゲーションバー	機能ナビゲーションバーには、ライブビデオ、再生、イベント録画、出欠管理、サーマル、AI アプリケーション、システム設定が含まれます。
2	アラーム	<p> アラーム通知。ポップアップメッセージにチェックを入れることで、システムアラームとチャンネルアラームを監視できます。</p> <p> バックアップダウンロードリスト。</p> <p> ログアウト。「ログアウト」をクリックすると、現在のアカウントを終了し、ログインインターフェースに戻ることができます。</p> <p> ヘルプ。実行環境、プラグインのインストール、アクティベーションに関するヘルプ。</p>
3	デバイスのリスト	NVR のチャンネルと NVR によって管理されているチャンネルのリストを表示します。
4	チャンネル操作	<p>スナップショット、録画、ストリーム切り替え、音声 OFF/ON などの機能があります。</p> <p> PTZ 制御ボタン。 をクリックすると、PTZ 制御ボタンが表示されます。現在のチャンネルの PTZ 機器を制御できます。</p> <p>この機能は PTZ カメラでのみ使用できます。</p> <p> イメージ設定ボタン。 をクリックすると、イメージ設定ボタンが表示されます。明るさ、コントラスト、彩度、シャープネスなどの設定と調整できます。「詳細」をクリックすると、設定にアクセスできます。</p>
5	レイアウト	1 画面、4 画面、9 画面、16 画面を選択してレイアウトを切り替えます。

6	手動アラーム	外部アラーム装置を手動で OFF/ON が可能です。
7	ターゲットスナップショット	スナップショットはライブ映像に表示されます。図 7-11 に示すように、  をクリックして対象のスナップショットフィルターを設定できます。
8		 アナウンス。NVR に IP スピーカーを追加すると、ローカルの音声ファイルをアラームにアナウンスできます。  ライトの手動制御。フラッシュライト、赤青ライト、白色ライトに対応しています。カメラにライトが搭載されている場合は、ライトを手動で制御できます。  手動アラーム。外部アラーム装置を手動で起動および停止できます。

図 7-9 ヘルプ

- | 動作環境
- 対応Webブラウザ
 

ブラウザのバージョン: Edge ブラウザ、57 以降の Chrome バージョン、52 以降の Firefox バージョン、Opera バージョン 44 以降
  - 音声マイク機能について
 

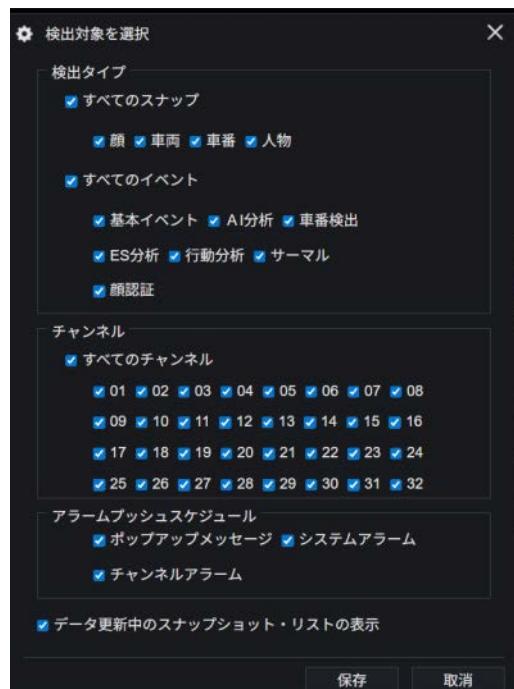
使用可能なマイクデバイスが PC と接続されていることを確認してください  
説明: HTTP 環境で Chrome ブラウザのみを設定し、HTTPS 環境ですべてのブラウザと互換性があります。  
HTTP 環境 Chrome InterCom ツールバーを開きます。

    1. アドレスバーに「chrome://flags/#unsafely-treat-insecure-origin-as-secure」を入力
    2. Insecure origins treated as secure を設定します。
    3. 入力ボックスにデバイスドメイン名を入力し、複数のデバイスに名称を付与、「分離例」http://192.168.0.123、http://192.168.0.123:8045'

図 7-10 アナウンス



図 7-11 スナップショットフィルター

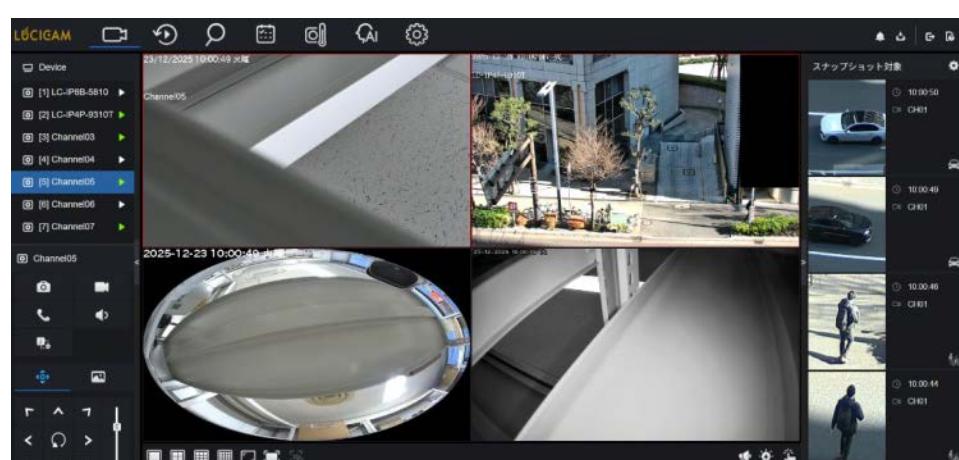


## 7.2.2 ライブビュー

### 説明

デバイスにログイン後、「ライブビュー」をクリックすると、図 7-12 に示すようにライブビューを視聴できます。

図 7-12 ライブビューインターフェース



## 7.2.3 チャンネル操作

### 説明

チャンネル操作には、スナップショット、録画、ストリーム切り替え、音声のオン/オフが含まれます。表 7-2 に各操作の説明を示します。

表 7-2 ホームページの説明

ボタン	ボタンの説明	操作方法
	スナップショット	ボタンをクリックして現在の画像のスナップショットを撮影します。
	録画	ボタンをクリックして録画を開始し、もう一度ボタンをクリックして録画を停止します。
	双方向音声	カメラのマイクの音量が大きい場合は、「双方向音声」をクリックして Web インターフェースでカメラと通信してください。Web インターフェースでインターフォン機能を事前に設定しておく必要があります（ヘルプを参照）。
	ストリームの切り替え	ボタンをクリックしてストリーム 1（メインストリーム）とストリーム 2（サブストリーム）を切り替えます。
	音声を有効/無効にします	ボタンをクリックして音声を有効にし、もう一度クリックして音声を無効にします。

## 7.2.4 PTZ 制御と設定

### 説明

PTZ 制御と設定機能は、PTZ カメラまたは外部 PTZ に接続されたカメラにのみ適用されます。

### PTZ 設定

PTZ カメラまたは PTZ に接続されたカメラが NVR チャンネルに追加されている場合、ユーザーはライブ映像閲覧時に PTZ の回転を制御して撮影角度を調整できます。



をクリックすると、図 7-13 に示す PTZ 操作および設定インターフェースが表示されます。表 7-3 に操作内容を示します。

図 7-13 PTZ 制御インターフェース

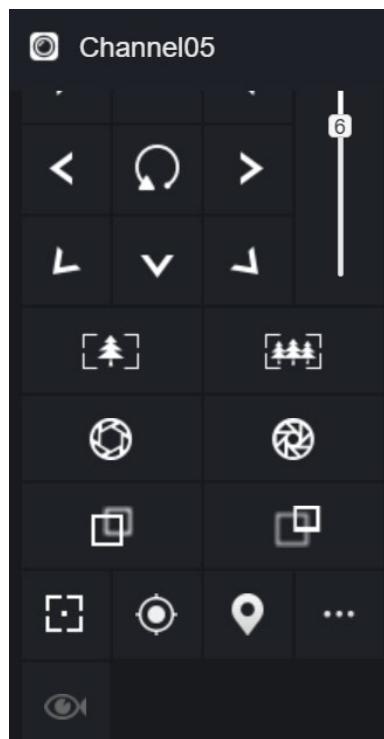


表 7-3 デバイスパラメーター

ボタン	ボタンの説明	操作方法
	方向キー	ボタンをクリックして、PTZ の全方向移動を制御します。
	スピードスライダー	スライダーをドラッグして、PTZ の回転速度の値を調整します。
	ズームイン	ボタンをクリックして焦点距離を調整します。
	ズームアウト	
	アイリス+	ボタンをクリックして絞りを調整します。
	アイリス-	
	遠距離フォーカス	ボタンをクリックして焦点距離を調整します。
	近距離フォーカス	

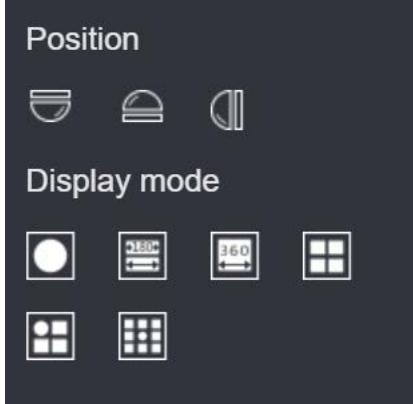
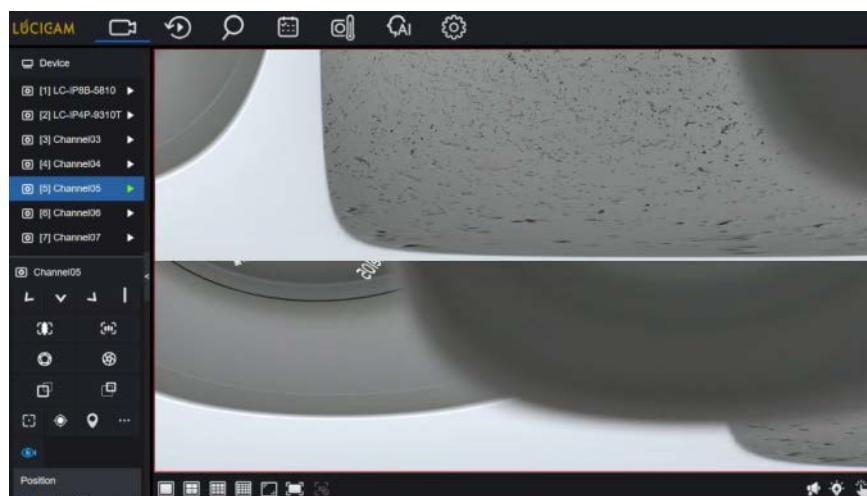
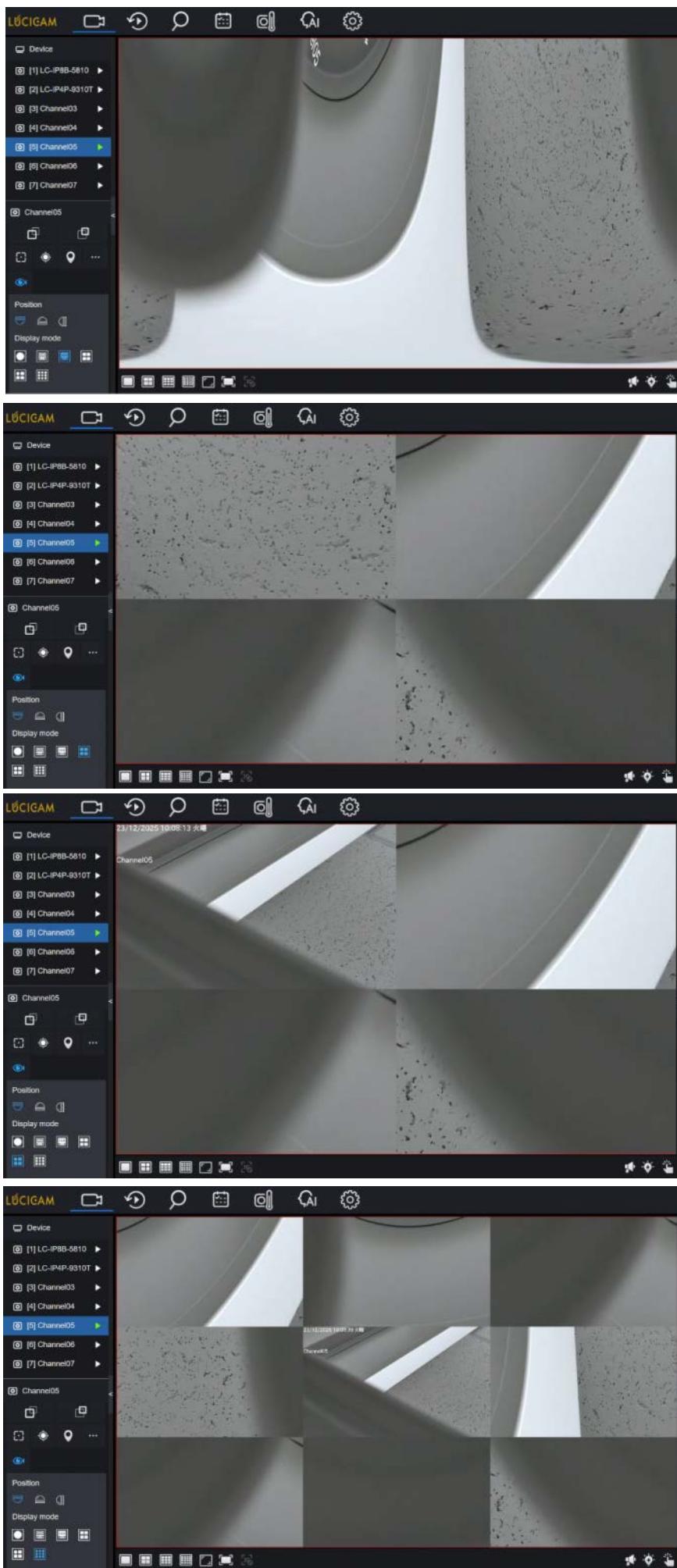
ボタン	ボタンの説明	操作方法	
	オートフォーカス	ボタンをクリックすると自動的にフォーカスされます。	
	ホームプリセット	N/A	
	プリセット	カメラがツアーを設定し、ボタンをクリックすると PTZ カメラが設定通りに回転します。	
	その他	その他の設定、スキャン、ツアー	
	フィッシュアイ	チャンネルが 1 画面モードで再生されている場合のみ、フィッシュアイは有効です。アイコンをクリックして、再生するモードを選択してください。	

図 7-14 フィッシュアイモード





## 7.2.5 イメージ設定

### 説明

イメージ設定では、シーン、明るさ、シャープネス、コントラスト、彩度を調整できます。イメージ設定にアクセスするには、図 7-15 に示すように  をクリックします。表 7-4 で操作について説明します。

図 7-15 イメージ設定インターフェース



表 7-4 イメージ設定パラメーター

ボタン	説明	使い方
	明るさ	ボタンをクリックして画像の明るさを調整します。
	シャープネス	ボタンをクリックして画像のシャープネスを調整します。
	コントラスト	ボタンをクリックして画像のコントラストを調整します。
	彩度	ボタンをクリックして画像の彩度を調整します。

「その他」をクリックすると、イメージ設定にアクセスできます。図 7-16 に示すように、詳細については 6.1.3 章の画像を参照してください。

図 7-16 イメージ設定インターフェース



## 7.2.6 レイアウト

ライブビューアインターフェースの左下隅 をクリックすると、左から右に 1 画面、4 画面、9 画面、16 画面のボタンが表示されます。チャンネル数が多いデバイスは、16 画面レイアウトをサポートできます。

## 7.3 再生

### 7.3.1 録画再生

録画再生とは、ローカル HDD に保存されている映像を再生することを指します。

#### 手順

**ステップ 1 :** 機能ナビゲーションバーで をクリックすると、図 7-17 に示すように、ビデオ再生インターフェースが表示されます。

図 7-17 録画再生



**ステップ 2 :** チャンネルを選択します。デバイスリストからデバイスをクリックします。選択されたデバイスには が表示されます。選択されていないデバイスには が表示されます。

**ステップ3**：左下のカレンダーから日付を選択します。上図のように、録画がある日付は色付きで表示されます。

**ステップ4**：スケジュール録画、マニュアル録画、アラーム録画など、録画の種類にチェックを入れます。

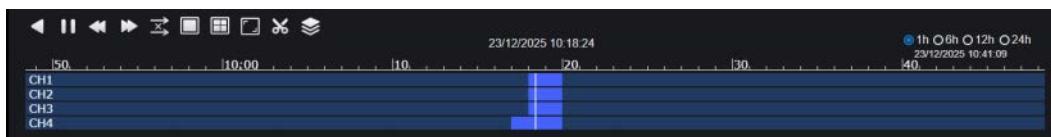
**ステップ5**：ビデオを表示します。

デバイスと日付を選択すると、映像の下部分に録画情報が表示されます。中央に表示される時間は再生中のビデオの時間を示します。青色の軸は録画映像が存在することを示し、灰色の軸は映像が存在しないことを示します。軸をドラッグすることによって、閲覧したい時刻の録画映像を素早く再生することができます。

**ステップ6**：録画映像を再生します。

デバイスと日付を選択すると、録画映像を再生できます。図7-18は、再生のコントロールバーを示しています。

図7-18 コントロールバー



逆再生

再生/一時停止

倍速

同期/非同期

異なるチャンネルを同期または非同期で再生するように設定できます。同期モードでは、選択したチャンネルが同期してビデオを再生します。非同期モードでは、ユーザーが異なる録画期間を再生します。

分割画面：1画面または4画面。

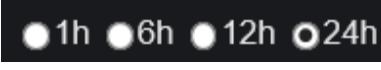
元のスケールを開く/元のスケールを閉じる。

バックアップ：アイコンをクリックして録画を開始し、タイムバーをドラッグして素早くバックアップします。もう一度クリックすると、バックアップが実行されます。

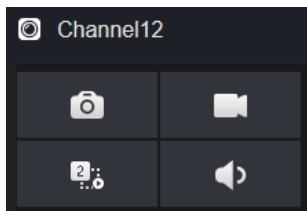
一括バックアップ：開始時刻と終了時刻を設定し、選択したチャンネルを一括で録画映像を保存することができます。

図7-19 バックアップ





タイムバー/間隔の種類。



ユーザーはライブ映像と同じように録画を操作できます。

## 7.4 アラーム検索

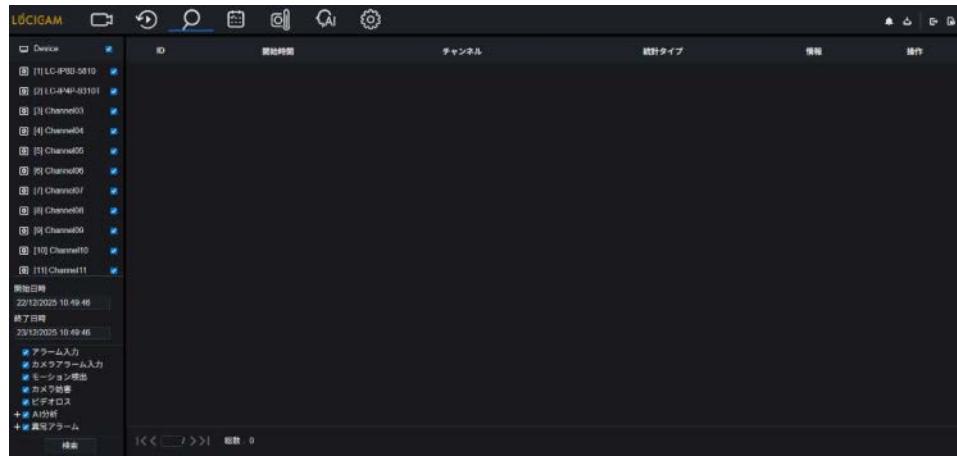
アラーム検索インターフェースでは、チャンネルアラームとシステムアラームを検索できます。

### 7.4.1 イベント録画

手順

**ステップ 1 :** 機能ナビゲーションバーを クリックすると、図 7-20 に示すようにイベント録画インターフェースが表示されます。

図 7-20 イベント録画インターフェース



**ステップ 2 :** 検索するアラームの種類を選択します。

**ステップ 3 :** 「検索」をクリックします。図 7-21 に示すように結果が表示されます。

図 7-21 アラームの結果

ID	開始時間	チャンネル	統計タイプ	機器	操作
1	23/12/2025 09:53:08	チャンネル01	ラインクロス	LC-IPB8-5810	
2	23/12/2025 09:53:58	チャンネル01	ラインクロス	LC-IPB8-5810	
3	23/12/2025 09:52:39	チャンネル01	ラインクロス	LC-IPB8-5810	
4	23/12/2025 09:52:15	チャンネル01	ラインクロス	LC-IPB8-5810	
5	23/12/2025 09:51:18	チャンネル01	ラインクロス	LC-IPB8-5810	
6	23/12/2025 09:51:02	チャンネル01	ラインクロス	LC-IPB8-5810	
7	23/12/2025 09:50:14	チャンネル01	ラインクロス	LC-IPB8-5810	
8	23/12/2025 09:49:58	チャンネル01	ラインクロス	LC-IPB8-5810	
9	23/12/2025 09:48:29	チャンネル02	ビデオロス	LC-IPB8-5810T	
10	23/12/2025 09:46:23	チャンネル01	ラインクロス	LC-IPB8-5810	
11	23/12/2025 09:46:02	チャンネル02	ビデオロス	LC-IPB8-5810T	
12	23/12/2025 09:46:39	チャンネル01	ラインクロス	LC-IPB8-5810	
13	23/12/2025 09:46:19	チャンネル01	ラインクロス	LC-IPB8-5810	
14	23/12/2025 09:46:06	チャンネル01	ラインクロス	LC-IPB8-5810	
15	23/12/2025 09:45:36	チャンネル01	ラインクロス	LC-IPB8-5810	
16	23/12/2025 09:47:44	チャンネル01	ラインクロス	LC-IPB8-5810	
17	23/12/2025 09:47:31	チャンネル01	ラインクロス	LC-IPB8-5810	
18	23/12/2025 09:47:12	チャンネル01	ラインクロス	LC-IPB8-5810	

## NOTE

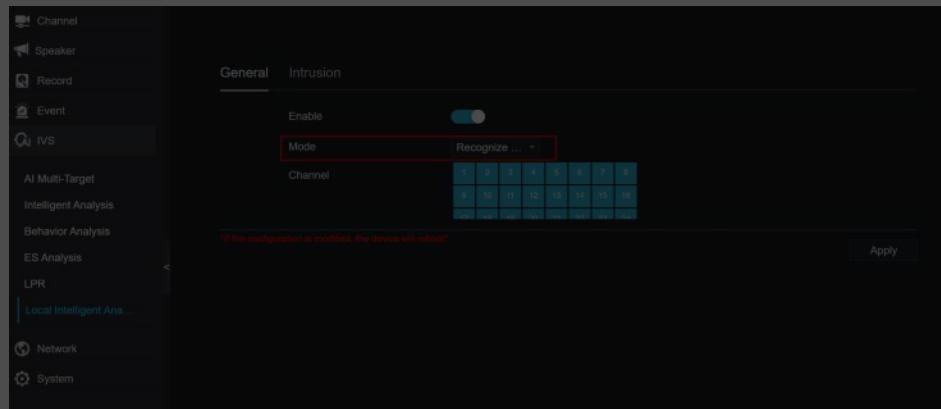
●アラームリストのページを選択するには、**|<< 1 / 6 >>|**をクリックします。

●各ページには 20 件のアラームメッセージが表示されます。

## 7.5 勤怠管理（一部モデルのみ）

一部のモデルでは、勤怠管理機能を使用するために、ローカルインテリジェント分析を「認識モード」に設定する必要があります。

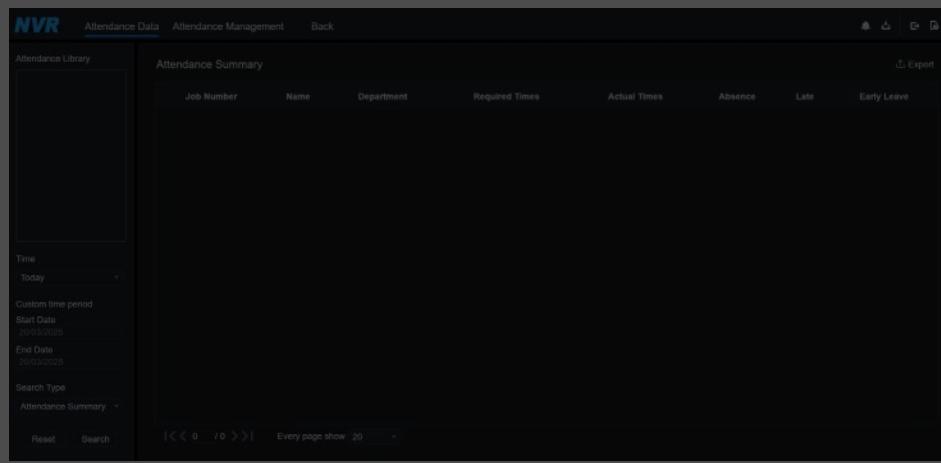
図 7-22 認識モード



### 7.5.1 勤怠データ

クリックすると、図 7-23 のように勤怠データが表示されます。

図 7-23 勤怠データ



### 操作手順

ステップ 1：勤怠ライブラリにチェックを入れます。

ステップ 2：今日、今週、今月、カスタム時間など、時間モードを選択します。

ステップ 3：勤怠サマリーや勤怠詳細などの検索タイプを選択します。

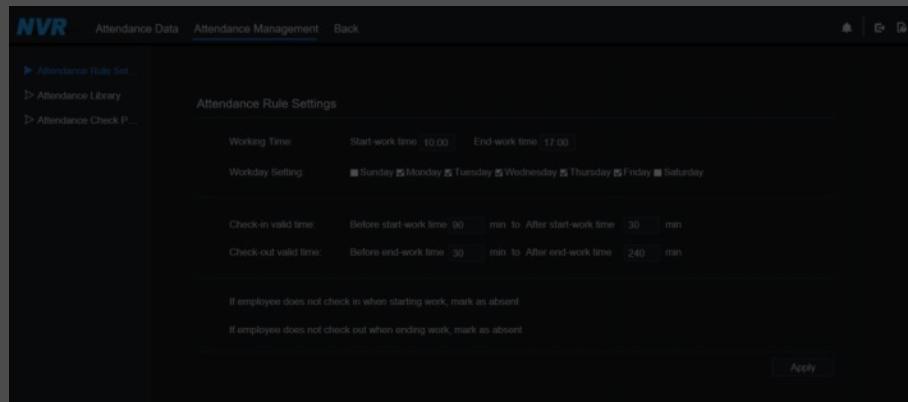
ステップ 4：検索をクリックします。結果がインターフェースに表示されます。

ステップ 5：エクスポートをクリックして、クエリ結果をエクスポートします。

## 7.5.2 勤怠管理

勤怠管理では、図 7-24 に示すように、ユーザーは勤怠ルール、ライブラリ、チェックポイントを設定できます。

図 7-24 : 勤怠ルールの設定



### 操作手順

ステップ 1：開始時刻と終了時刻を設定します。

ステップ 2：就業日を選択します。

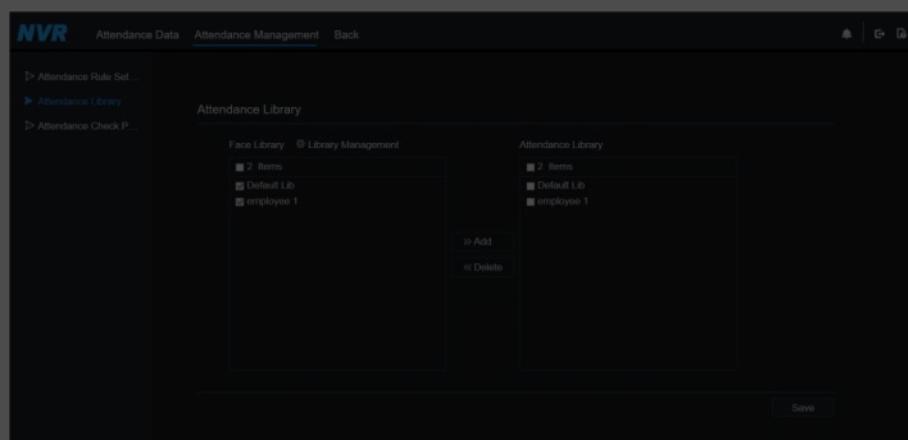
ステップ 3：チェックインとチェックアウトの有効時刻を設定します。

ステップ 4：保存をクリックして設定を保存します。  
**現在この機能は使えません**

### 勤怠ライブラリ

ステップ 1：勤怠ライブラリをクリックしてライブラリを追加します。出勤ライブラリは顔データベースを直接呼び出すことができます。

図 7-25 出勤ライブラリ



ステップ 2：ライブラリにチェックを入れ、「追加」をクリックして出勤ライブラリに追加します。ライブラリを変更する場合は、ライブラリインターフェースに入り、パラメーターを変更してください。

ステップ 3： Database management をクリックして顔データベース管理に入り、パラメーターを変更します。

ステップ 4：「保存」をクリックして設定を保存します。

## 出勤チェックポイントの設定 :

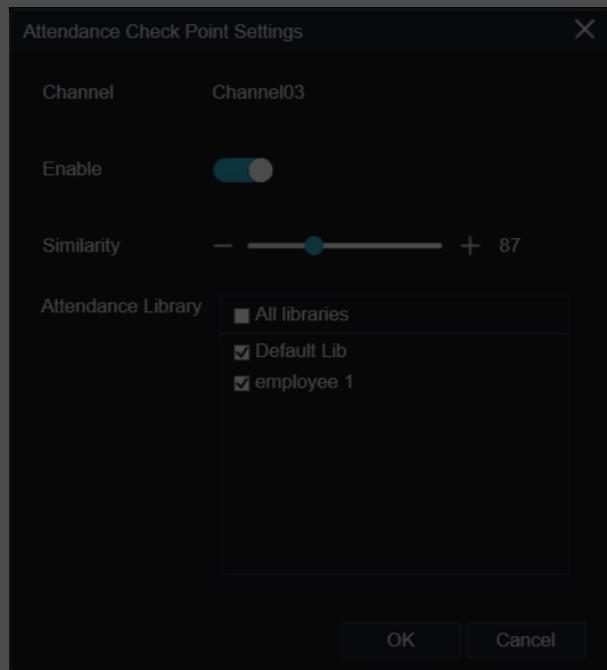
ステップ 1 : 図 7-26 に示すように、「出勤チェックポイント設定」をクリックしてポイントを設定します。

図 7-26 出勤チェックポイント設定

Channel	Attendance Library	Similarity	Enabled	Operate
Channel01	Default Lib	80%	Start	edit
Channel02	Default Lib	80%	Start	edit
Channel03	Default Lib; employee 1	87%	Start	edit
Channel04	Default Lib	80%	Start	edit

ステップ 2 : 図 7-27 に示すように、をクリックしてポイント設定を編集します。

図 7-27 チェックポイント



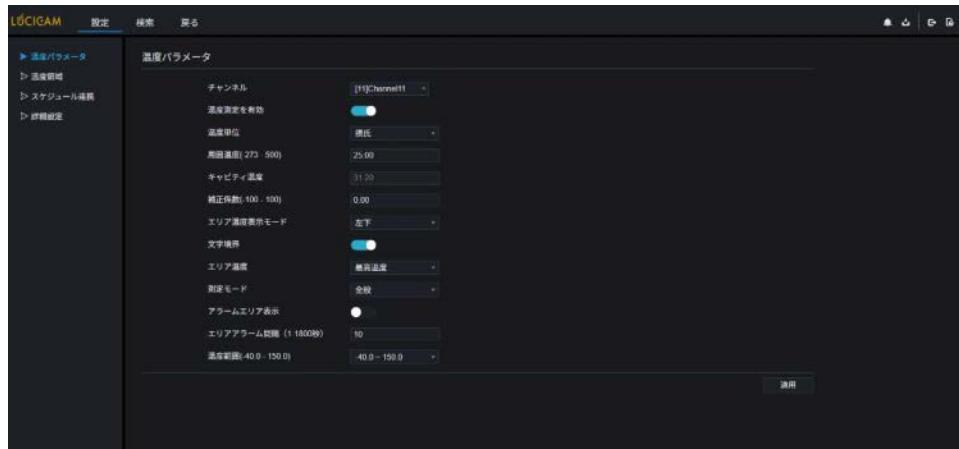
ステップ 3 : 機能を有効にし、類似度を設定し、ライブラリにチェックを入れます。すべての顔検出カメラでチェックポイントを設定できます。

ステップ 4 : 「OK」をクリックして設定を保存します。

## 7.6 サーマル

サーマルカメラチャンネルでは、図 7-28 に示すように、温度パラメーター、温度領域、スケジュール連携を設定し、サーマル画面で設定を進めます。

図 7-28 サーマル



詳細については、第 5.6 章「サーマル温度」を参照してください。

図 7-29 温度エリア



図 7-30 スケジュール連携

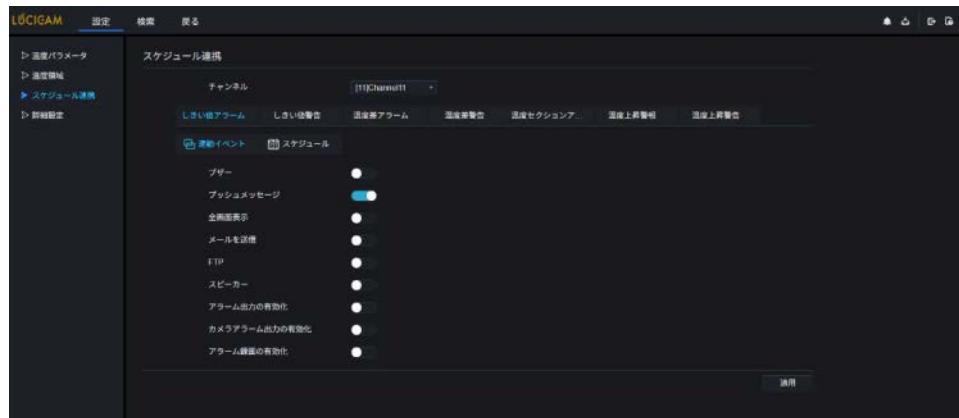
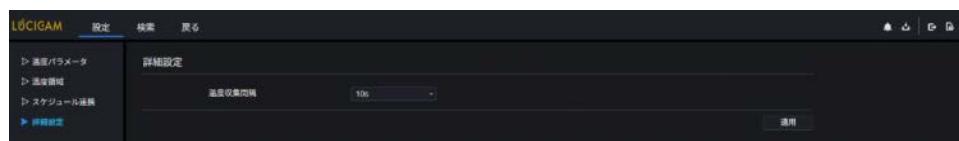


図 7-31 詳細設定



## 7.7 AI 應用（一部モデルのみ）

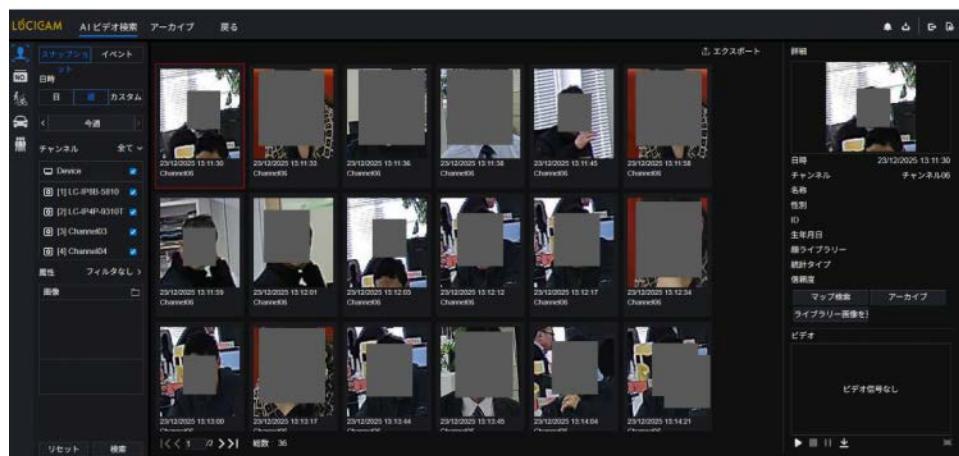
AI応用インターフェースでは、AIビデオ検索、アーカイブライブラリを設定できます。

### 7.7.1 AI ビデオ検索

AIビデオ検索インターフェースでは、人物の顔、全身、車両、人数カウントを検索できます。

#### 7.7.1.1 人物の顔検索

図 7-32 人物の顔検索



**ステップ 1:** AI ビデオ検索インターフェースで検索する人物の顔を選択します。

**ステップ2:**顔検出可能なカメラのチャンネルにチェックを入れ、検索開始時刻と検索終了時刻を設定します。

**ステップ3:** 条件（画像または特徴）を選択します。画像はファイルフォルダから選択できます。

**ステップ4:**「検索」をクリックして、スナップショットを検索します。

**ステップ 5：**結果がページ中央に表示されます。ページ右上にある画像と詳細情報をクリックします。

**ステップ 6:** 詳細情報を使用して、選択した顔で検索または顔ライブラリに追加することができます。

**ステップ7:** 再生ボタンをクリックすると、スナップショットが撮影された際の録画映像を再生します。

### 7.7.1.2 車両ナンバープレート検索

図 7-33 車両ナンバープレート検索

The screenshot shows a search results table titled "Search result". The columns are: Channel, Time, License Plate, License plate Image, License Plate Lbs, Expire date, and Operate. There are 19 rows of data. A large white watermark "現在この機能は使えません" (Currently, this function is not available) is overlaid across the center of the table.

Channel	Time	License Plate	License plate Image	License Plate Lbs	Expire date	Operate
Channel11	18/03/2025 03:06:27	RZ5615K	[Image]			+ ⊕ ↴
Channel11	18/03/2025 03:07:48	R092	[Image]			+ ⊕ ↴
Channel11	18/03/2025 03:07:51	N052	[Image]			+ ⊕ ↴
Channel11	18/03/2025 03:09:33	Z5330	[Image]			+ ⊕ ↴
Channel11	18/03/2025 03:09:33	R2F02	[Image]			+ ⊕ ↴
Channel11	18/03/2025 03:09:33	RZ558	[Image]			+ ⊕ ↴
Channel11	18/03/2025 03:10:41	RZ77	[Image]			+ ⊕ ↴
Channel11	18/03/2025 03:18:19	R29F	[Image]			+ ⊕ ↴
Channel11	18/03/2025 03:19:24	92758	[Image]			+ ⊕ ↴
Channel11	18/03/2025 03:19:47	Z49460	[Image]			+ ⊕ ↴
Channel11	18/03/2025 03:19:51	RZ62C	[Image]			+ ⊕ ↴
Channel11	18/03/2025 03:20:49	RZ46709	[Image]			+ ⊕ ↴

ステップ 1：スマート検索インターフェースで車両ナンバープレートを選択します。

ステップ 2：車両ナンバープレート認識カメラチャンネルにチェックを入れ、開始時間と終了時間を設定します。

ステップ 3：必要に応じてナンバープレートを入力します。

ステップ 4：「検索」をクリックして、ナンバープレートのスナップショットを検索します。

ステップ 5：結果がページに表示されます。「+」をクリックしてライブラリに追加します。

### 7.7.1.3 全身検索

図 7-34 全身検索

The screenshot shows the AI Video Search interface. On the left, there's a search bar with "日付" (Date), "チャンネル" (Channel), and "属性" (Attributes). Below it is a preview area showing a sequence of frames from Channel 01. On the right, there's a detailed search panel with fields for "日付" (Date), "チャンネル" (Channel), "性別" (Gender), "年齢" (Age), "メガネ" (Glasses), "帽子" (Hat), "マント" (Mantle), "衣装" (Clothing), "ズボン" (Pants), "足袋" (Tabi), and "ビデオ" (Video). The preview area shows a sequence of frames from Channel 01, and the detailed panel shows a specific frame from Channel 01 at 23/12/2025 10:20:00.

ステップ 1：AI ビデオ検索インターフェースで全身検索を選択します。

ステップ 2：チャンネルにチェックを入れ、検索開始時間と検索終了時間を設定します。

ステップ 3：任意で属性を選択します。

ステップ 4：「検索」をクリックし、スナップショットを検索します。

ステップ 5：結果がページ中央に表示されます。画像をクリックすると、ページ右上に詳細情報が表示されます。

ステップ 6：再生ボタンをクリックすると、スナップショットが撮影された際の録画映像を再生します。

#### 7.7.1.4 車両検索

図 7-35 車両検索



ステップ 1：スマート検索インターフェースで車両検索を選択します。

ステップ 2：AI 認識カメラチャンネルにチェックを入れ、開始時間と終了時間を設定します。

ステップ 3：色を選択します。

ステップ 4：「検索」をクリックし、人物の顔のスナップショットを検索します。

ステップ 5：結果がページ中央に表示されます。ページ右上にある画像と詳細情報をクリックしてください。

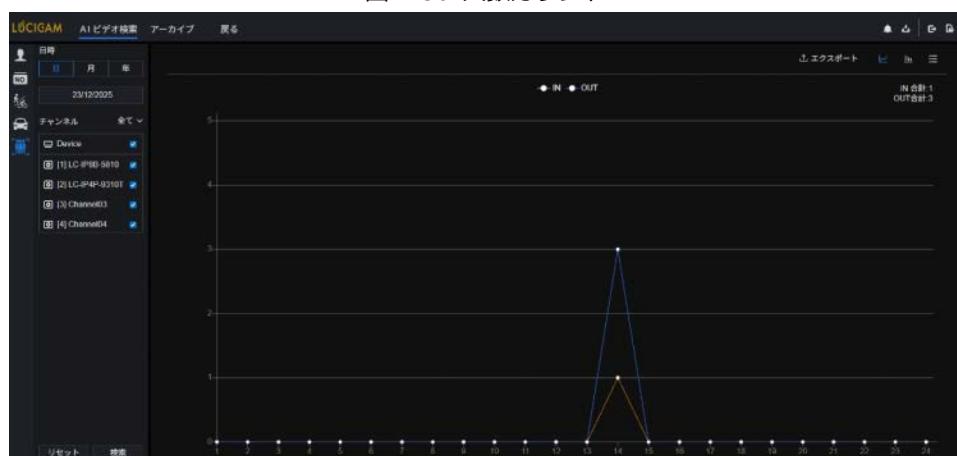
ステップ 6：ビデオの再生ボタンをクリックして、スナップショットの録画を再生します。

#### 7.7.1.5 人数カウント

AI マルチオブジェクト対象カメラを NVR に接続すると、NVR はカメラのデータを直接取得できます。統計の種類（日、月、年）を設定し、検索する時間を選択します。

結果は、図 7-36 に示すように、折れ線グラフ、ヒストограм、またはリストで表示できます。

図 7-36 人数カウント



#### 7.7.2 アーカイブ

アーカイブでは、顔ライブラリとナンバープレートライブラリを追加または編集できます。

### 7.7.2.1 顔ライブラリ

図 7-37 顔ライブラリ



「+」をクリックして顔ライブラリを追加します。

「追加」をクリックして登録する人物を追加します。

人物を削除するには、該当する人物にチェックを入れ、「削除」をクリックします。

人物を一括で追加するには、「インポート」をクリックします。

ライブラリ内のすべての人物をエクスポートするには、「エクスポート」をクリックします。

選択した人物を編集または削除するには、操作アイコンをクリックします。

### 7.7.2.2 ナンバープレートライブラリ

図 7-38 ナンバープレートライブラリ



「+」をクリックして、ナンバープレートライブラリを追加します。

「追加」をクリックして、プレートをライブラリに追加します。

プレートにチェックを入れ、「削除」をクリックして、ナンバープレートを削除します。

「インポート」をクリックして、ナンバープレートを一括で追加します。

「エクスポート」をクリックして、すべてのナンバープレートライブラリをエクスポートします。

操作アイコンをクリックして、選択したナンバープレートを編集または削除します。

# 8 システム設定

システム設定では、チャンネル、スピーカー、録画、イベント、AI 分析、ネットワーク、システム設定を確認できます。

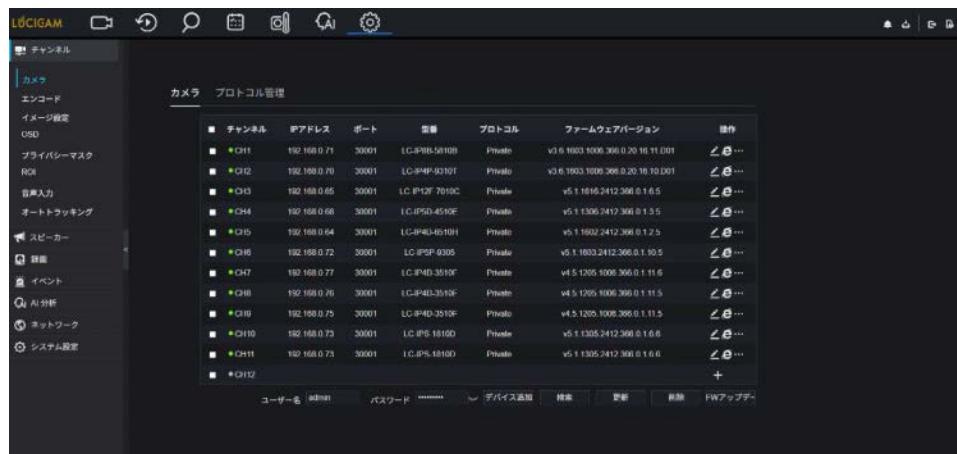
## 8.1 チャンネル

ユーザーは、カメラ、エンコード、イメージ設定、OSD、プライバシーゾーンに関するパラメーターを設定できます。

### 8.1.1 カメラ

ステップ 1：システム設定画面で、「チャンネル」>「カメラ」を選択し、図 8-1 に示すようにカメラインターフェースにアクセスします。

図 8-1 カメラインターフェース



ステップ 2：ユーザー名とパスワードを入力し、カメラをクリックして自動的に追加します。

ステップ 3：[検索] をクリックすると、図 8-2 に示すように、NVR と同じ LAN 上にあるカメラを検索します。カメラを選択し、ユーザー名とパスワードを入力して「追加」をクリックすると、新しいカメラが追加されます。

図 8-2 デバイス検索



ステップ 4：[戻る] をクリックすると、カメラインターフェースに戻ります。

ステップ 5：[更新] をクリックすると、カメラのステータスが更新されます。

ステップ 6：カメラを選択し、[削除] をクリックすると削除されます。

ステップ 7：[FWアップデート] をクリックすると、選択したすべてのカメラが更新されます。ソフトウェアを選択するためのポップアップウィンドウが表示されます。

ステップ 8：図 8-3 に示すように、デバイスパラメーターの情報を変更するには、 をクリックします。



図 8-3 : デバイスパラメーターの更新



ステップ 9 : 図 8-4 に示すように、カメラを手動で追加するには をクリックします。追加済みのチャンネルをクリックすると情報をコピーすることができます。

図 8-4 : デバイスの手動追加



ステップ 10 : をクリックしてすぐに Web にアクセスします。

- アップデート
- 再起動
- リセット
- IP変更

ステップ 11 : 図 のように、選択したカメラのアップデート、再起動、またはリセットするには をクリックします。「デバイスを再起動しますか?」「リセットしてよろしいですか」というポップアップメッセージがそれぞれ表示されます。

図 8-5 : IP アドレスの変更



## NOTE

- カメラがオンラインであることを示します。ユーザーはすぐにライブ映像を閲覧することができます。
- カメラがオフラインであることを示します。ネットワークに接続されていないか、パスワードが間違っている可能性があります。変更するには、デバイスの設定インターフェースにアクセスします。

### 8.1.1.1 : プロトコル管理

プロトコル管理を設定します。ユーザーは、異なるプロトコルのカメラを NVR に追加できます。

図 8-6 プロトコル管理



ステップ 1 : 「チャンネル」 > 「カメラ」 > 「RTSP 接続」 をクリックします。

ステップ 2 : ドロップダウンリストからカスタムプロトコルを選択します。16 種類のプロトコルを設定できます。

ステップ 3 : プロトコル名を入力します。

ステップ 4 : メインストリームとサブストリームにチェックを入れます。メインストリームは、ライブ映像の全画面に画像を表示します。サブストリームは、分割画面に画像を表示します。メインストリームのみにチェックを入れた場合、チャンネルは分割画面に画像を表示しません。

ステップ 5 : プロトコルの種類を選択します。デフォルト値は RTSP です。

ステップ 6 : IP カメラのポート番号を入力します。

ステップ 7 : カメラのメーカーによって指定されたパスを入力します。

ステップ 8 : 「適用」 をクリックして設定を保存します。

### 8.1.2 エンコード

ステップ 1 : システム設定画面で、「チャンネル」 > 「エンコード」 を選択し、エンコードインターフェースにアクセスします (図 8-7 を参照)。

図 8-7 エンコードインターフェース



**ステップ 2**：ドロップダウンリストからチャンネルを選択します。

**ステップ 3**：ドロップダウンリストから、ストリーム情報、音声エンコードタイプ、解像度、フレームレート、I フレーム間隔、ビットレート制御、ビットレートを選択します。

**ステップ 4**：設定をコピーする別のカメラを選択するには、**「コピー」** をクリックします。設定を保存するには、「適用」をクリックします。

### 8.1.3 画像

**ステップ 1**：システム設定画面で、「チャンネル」>「イメージ設定」を選択し、イメージ設定インターフェースにアクセスします（図 8-8 を参照）。

図 8-8 イメージ設定インターフェース



**ステップ 2**：ドロップダウンリストからチャンネルとシーンを選択します。画像のパラメーターを変更するには、「デバッグモード」を選択します。

**ステップ 3**：モード、画像、シーン、露出、ホワイトバランス、デイナイト、ノイズ削除、画像強調などのイメージ設定パラメーターを設定します。詳細については、IP カメラの画像設定を参照してください。

**ステップ 4**：画像設定をリセットするには **「工場出荷時の値」** をクリックします。設定を保存するには「適用」をクリックします。

#### NOTE

**明るさ**：画像全体の明るさを示します。値が大きいほど、画像は明るくなります。

**シャープネス**：画像の境界のシャープネスを示します。値が大きいほど、境界は鮮明になり、ノイズポイントの数が増えます。

**彩度**：画像の色の彩度を示します。値が大きいほど、画像はよりカラフルになります。

**コントラスト**：画像内の最も明るい白と最も暗い黒の間の異なる明るさレベルの測定値を示します。差の範囲が大きいほどコントラストは大きくなり、差の範囲が小さいほどコントラストは小さくなります。

**シーン**：屋内、屋外が含まれます。ミラーリングには、正常、水平、垂直、水平+垂直が含まれます。

**露出**：測定モード、露出モード、最大シャッタースピード、最大ゲインが含まれます。

**ホワイトバランス**：電球、蛍光灯、日光、影、手動などが含まれます。

**デイ/ナイト**：デイモード、ナイトモードの切り替えのほか、スケジュールを設定することができます。

**ノイズ削除**：2D NR と 3D NR が含まれます。

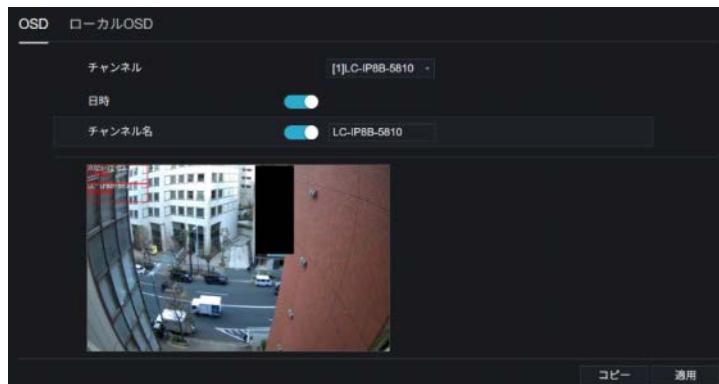
**画像補正**：WDR、HLC、BLC、曇り防止、手ぶれ補正が含まれます。

**ズームフォーカス**：ズームとフォーカスを設定できます。

## 8.1.4 OSD

**ステップ 1 :** システム設定画面で、「チャンネル」>「OSD」を選択し、図 8-9 に示す OSD インターフェースにアクセスします。

図 8-9 OSD インターフェース

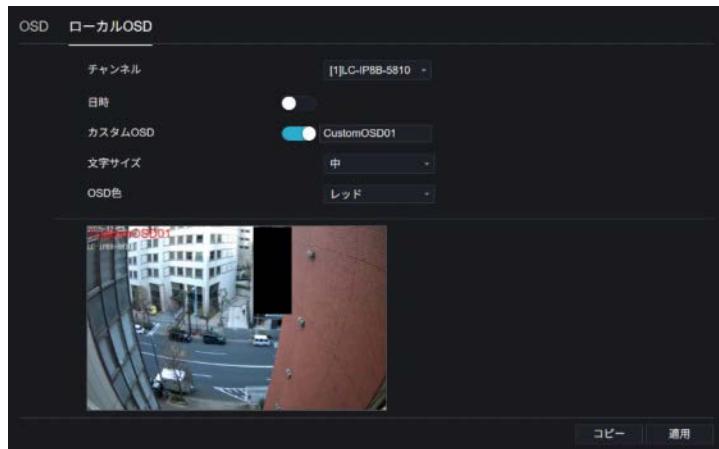


**ステップ 2 :** ドロップダウンリストからチャンネルを選択します。

**ステップ 3 :** 日時とチャンネル名を任意で有効にします。チャンネル名は任意の名称で設定することができます。チャンネル名または日付と時刻のアイコンをドラッグして移動し、場所を変更できます。

**ステップ 4 :** 設定をコピーする際は、他のカメラを選択して **「コピー」** をクリックします。「適用」をクリックして設定を保存します。

図 8-10 ローカル OSD



NVR 上のライブ映像のみ表示可能なカスタム OSD を設定できます。このローカル OSD は、録画映像には表示されません。

## 8.1.5 プライバシーマスク

**ステップ 1 :** システム設定画面で、「チャンネル」>「プライバシーマスク」を選択し、図 8-11 に示すプライバシーマスクインターフェースにアクセスします。

図 8-11 プライバシーマスクインターフェース



**ステップ 2 :** ドロップダウンリストからチャンネルを選択します。

**ステップ 3 :** マウスをドラッグして、プライバシーマスクを選択します。エリアは 4 つ未満で設定することが可能です。エリアをダブルクリックすると、プライバシーマスクが削除されます。

**ステップ 4 :** PTZ を使用して IP ドームカメラを調整できます。

**ステップ 5 :** 設定をコピーする他のカメラをクリックして **コピー** を選択します。「適用」をクリックして設定を保存します。

## 8.1.6 ROI

ROI (関心領域)。チャンネル、ストリーム、エリア ID を選択し、エリアを描画します。5 つのレベルから選択して設定します。エリア名を設定し、「適用」をクリックして設定を保存します。

図 8-12 ROI



## 8.1.7 音声（一部モデルのみ）

チャンネルの音声パラメーターを設定できます。音声入力、音声出力、音声ファイルです。詳細については、6.1.7 章「音声（一部モデルのみ）」を参照してください。

図 8-13 音声入力



図 8-14 音声出力



図 8-15 音声ファイル



## 8.1.8 オートトラッキング（一部モデルのみ）

この機能は PTZ カメラでのみ使用できます。PTZ 機能と連動します。

図 8-16 オートトラッキング



詳細については、UI 設定を参照してください。

## 8.2 スピーカー

スピーカーインターフェースでは、NVR に IP スピーカーを追加し、ローカル音声ファイルを管理できます。

詳細については、6.2 章「スピーカー」を参照してください。

### 8.2.1 スピーカー管理

図 8-17 スピーカー管理



### 8.2.2 ローカル音声ファイル

図 8-18 ローカル音声ファイル



## 8.3 録画

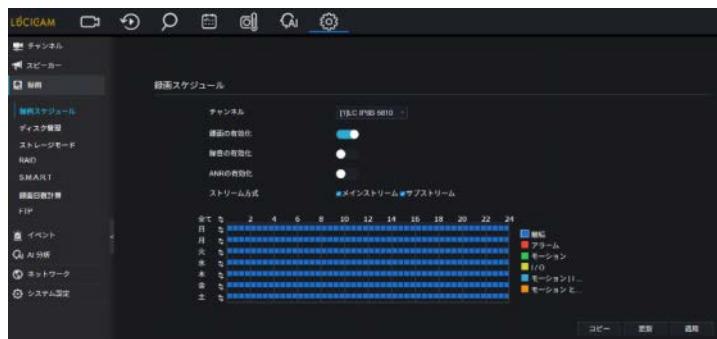
ストレージインターフェースでは、録画ポリシーを設定できます。

### 8.3.1 録画スケジュール

#### 手順

**ステップ1**：システム設定画面で、「録画」>「録画スケジュール」を選択し、図 8-19 に示す録画スケジュールインターフェースにアクセスします。

図 8-19 録画スケジュールインターフェース



**ステップ2**：チャンネルを選択します。

**ステップ3**：録画を有効にし、音声録音を有効にします。

**ステップ4**：ANR を有効にします。カメラが ANR をサポートしている場合、カメラが NVR から切断された場合でも、NVR はカメラに装着された SD カードから失われた録画データをコピーできます。

**ステップ5**：録画スケジュールを設定するには、マウスをドラッグしてエリアを選択するか、 をクリックして終日または週全体を選択します。1つずつクリックしてスケジュールを設定することも可能です。または、マウスカーソルをドラッグして選択します。HDD 容量を節約するために、アラーム録画を設定することもできます。

**ステップ6**： をクリックして以前の設定に戻ります。

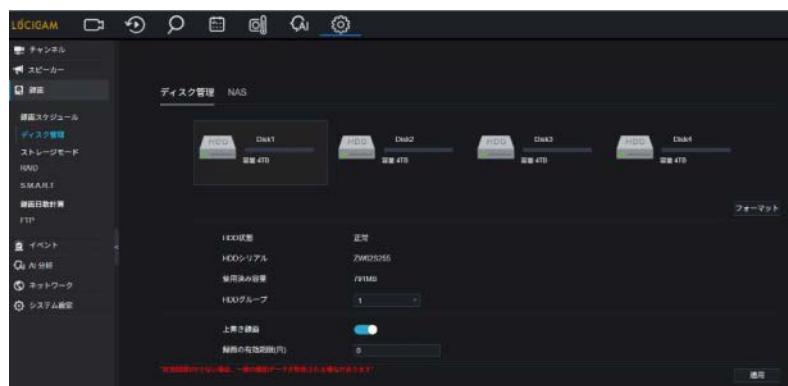
**ステップ7**：他のカメラを選択し をクリックして、設定をコピーします。「適用」をクリックして設定を保存します。

## 8.3.2 HDD

### 8.3.2.1 HDD

**ステップ1**：システム設定画面で、「録画」>「ディスク管理」を選択し、図 8-20 に示すディスク管理インターフェースにアクセスします。

図 8-20 ディスク管理インターフェース



**ステップ2**：HDD 容量、HDD 状態、HDD の SN コード、使用容量などの情報を確認できます。

**ステップ3 :** **フォーマット** をクリックするとすべての録画データを削除します。データを削除する前に、「ディスクをフォーマットしてもよろしいですか？すべての録画データは削除されます」というポップアップウィンドウが表示されます。削除するには

**OK** をクリックし、終了するには **取消** をクリックします。

**ステップ4 :** ドロップダウンリストから HDD グループを選択します。HDD グループは 4 つあります。

**ステップ5 :** 録画の上書きを有効にし、有効期限を設定します。(有効期限が 0 の場合、HDD がいっぱいになると録画が上書きされます。有効期限が 5 日間の場合、有効期限が過ぎると録画が上書きされます。)

**ステップ6 :** 録画の上書きが無効になっている場合は、有効期限を設定します。最大 90 日間です。

### 8.3.2.2 NAS

ユーザーが NAS アカウントをお持ちの場合、バックアップ録画を保存するためのネットワークハードディスクとして NAS を追加できます。

**ステップ1 :** システム設定画面で、「録画」>「ディスク管理」>「NAS」を選択し、NAS インターフェースにアクセスします。

**ステップ2 :** 「追加」をクリックして NAS アカウントを追加します。

図 8-21 NAS



**ステップ3 :** NAS アドレスを入力します。プロトコルはデフォルトで「NFS」です。匿名ログインを有効にすると、アカウントとパスワードは無効になります。有効でない場合は、アカウントとパスワードを入力してください。

**ステップ4 :** NAS パスを入力します。パスは NAS インターフェースで確認できます。

**ステップ5 :** 「テスト」をクリックしてパラメーターを確認し、テストに成功したら「OK」をクリックして設定を保存します。

### 8.3.3 ストレージモード

HDD 容量を効率的に使用するために、必要に応じてチャンネルを異なる HDD グループに分散します。

図 8-22 ストレージモード

グループ	HDD	チャンネル	使用済み容量	容量
1	Disk1,Disk2,Disk3,Disk4	1-32	2GB	16.0TB
2			0MB	0MB
3			0MB	0MB
4			0MB	0MB

#### 操作手順

**ステップ1 :** HDD グループを選択します。

ステップ2：HDD グループに記録するチャンネルを選択します。

ステップ3：「適用」をクリックして設定を保存します。

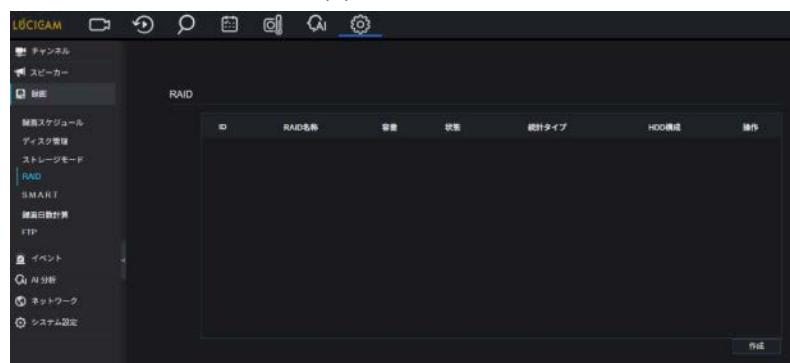
ステップ4：グループリストに詳細情報が表示されます。

### 8.3.4 RAID (一部モデルのみ)

#### NOTE

- HDD はエンタープライズレベルの HDD である必要があります。効率的な使用のため、同じ容量の HDD を選択することをお勧めします。RAID 0/1/5/6/10 をサポートしています。
- RAID5 の場合は、最小3台の HDD を作成できます。RAID6 の場合は、最小で4台の HDD を作成できます。RAID10 の場合は、最小で4台の HDD を作成できます。ホットスペア HDD を作成するには、より多くの HDD が必要になります。
- 効率的な使用のため、同じ容量の HDD を選択することをお勧めします。80T 未満の容量であれば RAID を構築できます。

図 8-23 RAID



#### 操作手順

ステップ1：RAID タイプを選択して RAID を作成します。



ステップ2：作成をクリックして、新しい RAID を作成する HDD を選択します。

ステップ3：RAID を構成する HDD の数のほかに予備の HDD を稼働させておき、HDD の故障に備えて自動バックアップを行うために「ホットスペア HDD」にチェックを入れます。

ステップ4：OK をクリックして操作を保存し、新しい RAID をフォーマットします。



ステップ5：「フォーマット」をクリックすると、  
システムはデータを消去しようと  
しています。RAID-md0を削除しま  
すか？

Yes

No

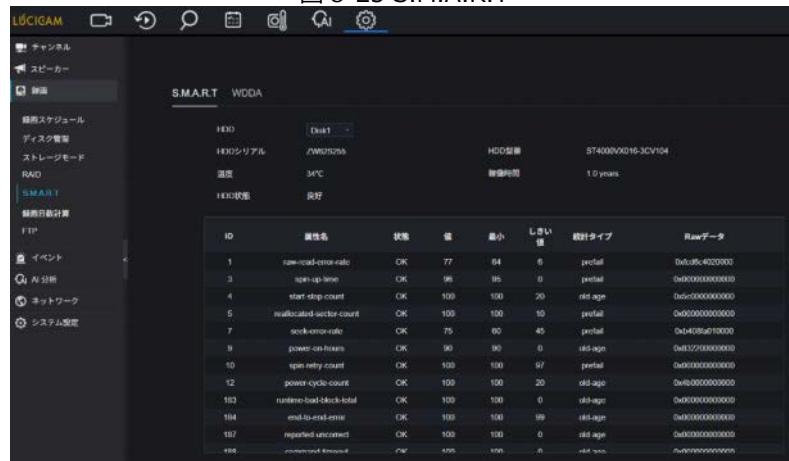
図 8-24 RAID の変更



### 8.3.5 S.M.A.R.T

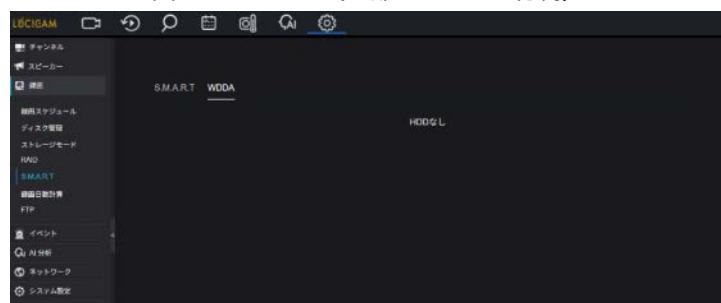
S.M.A.R.T は、自己監視、分析、レポート作成技術です。図 8-25 に示すように、ユーザーは HDD の状態を確認できます。

図 8-25 S.M.A.R.T



Western Digital の HDD は、図 8-26 に示すように、WDDA で確認できます。

図 8-26 WDDA (一部のモデルに付属)



### 8.3.6 録画日数計算

HDD の容量を計算するには、

図 8-27 録画日数計算



### 8.3.7 FTP

図 8-28 に示すように、アラーム情報を受信する FTP パスを設定します。詳細については、UI インターフェースのパラメーターを参照してください。

図 8-28 FTP



## 8.4 イベント

イベントインターフェースでは、一般設定、モーション検出、ビデオロス、アラーム入力、異常アラーム、アラーム出力を設定できます。詳細については、6.4 章「イベント管理」を参照してください。

### 8.4.1 一般

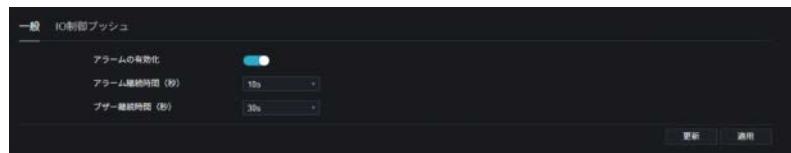
#### 8.4.1.1 一般

手順

ステップ 1：システム設定画面で、「アラーム」>「一般」を選択し、一般インターフェースにアクセスします。

ステップ 2：図 8-29 に示すように、アラームを有効にして、アラーム継続時間とブザーの継続時間を設定します。

図 8-29 一般インターフェース



ステップ 3：「適用」をクリックして設定を保存します。 更新 をクリックして前の設定に戻ります。

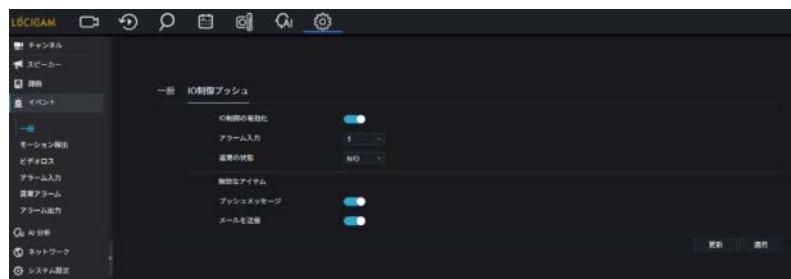
#### 8.4.1.2 IO 制御プッシュ

手順

ステップ 1：システム設定画面で、「アラーム」>「一般」>「IO 制御プッシュ」を選択し、一般インターフェースにアクセスします。

ステップ 2：図 8-30 に示すように、IO 制御プッシュを有効にします。

図 8-30 IO 制御プッシュインターフェース



ステップ 3：アラームを 1 つ選択し、モード（N/C、N/O）を選択します。

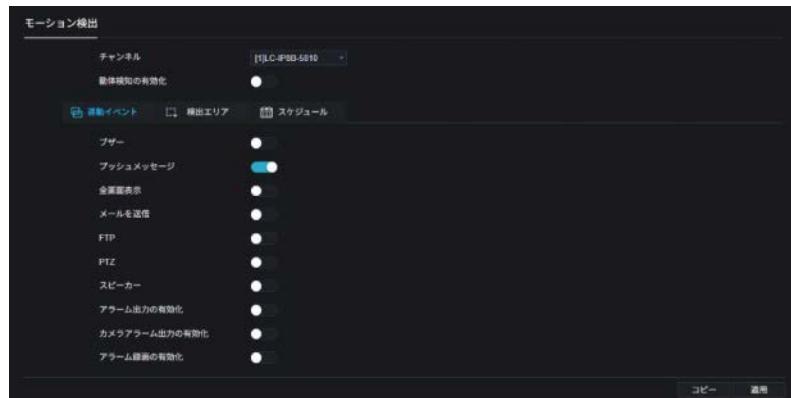
ステップ 4：無効にする項目にチェックを入れ（すべてのアラームプッシュメッセージに影響します）、設定を保存するには「適用」をクリックします。

#### 8.4.2 モーション検出

手順

ステップ 1：システム設定画面で、「アラーム」>「モーション検出」を選択し、図 8-31 に示すようにモーション検出インターフェースにアクセスします。

図 8-31 モーション検出インターフェース



ステップ 2：チャンネルのドロップダウンリストをクリックして、チャンネルを選択します。

ステップ 3：モーション検出アラームを有効にします。

**ステップ 4 :** 運動イベントを設定します。運動イベントには、ブザー、アプリへのプッシュメッセージ、モニターへのポップアップメッセージ、全画面表示、メール、FTP、アラーム出力（背面パネル）、チャンネルアラーム出力（カメラのポート）、アラーム録画が含まれます。

**ステップ 5 :** 「検出エリア」をクリックし、図 8-32 に示すようにモーション検出エリア設定にアクセスします。

図 8-32 モーション検出エリアインターフェース



1. マウスの左ボタンを押したままドラッグして、モーション検出エリアを描画します。
2. 「感度」の横にあるドロップダウンリストから、値を選択します。
3. 選択したエリアをダブルクリックして削除します。

**ステップ 6 :** 「スケジュール」をクリックしてスケジュール設定にアクセスし、マウスをドラッグして放し、月曜日から日曜日までの 00:00 から 24:00 の間でアラーム発生時刻を選択します。選択したエリアをクリックすると選択をキャンセルできます。

**ステップ 7 :** 「コピー」をクリックして他のカメラを選択し、設定をコピーします。「適用」をクリックして設定を保存します。

#### 8.4.3 ビデオロス

##### 手順

**ステップ 1 :** システム設定画面で、「アラーム」>「ビデオロス」を選択して、図 8-33 に示すビデオロスインターフェースにアクセスします。

図 8-33 ビデオロスインターフェース



**ステップ 2 :** ドロップダウンリストをクリックして、チャンネルを選択します。

**ステップ 3 :** ビデオロスマラームを有効にします。

**ステップ 4 :** 運動イベントとスケジュールの設定については、図 4-6 のモーション検出設定を参照してください。

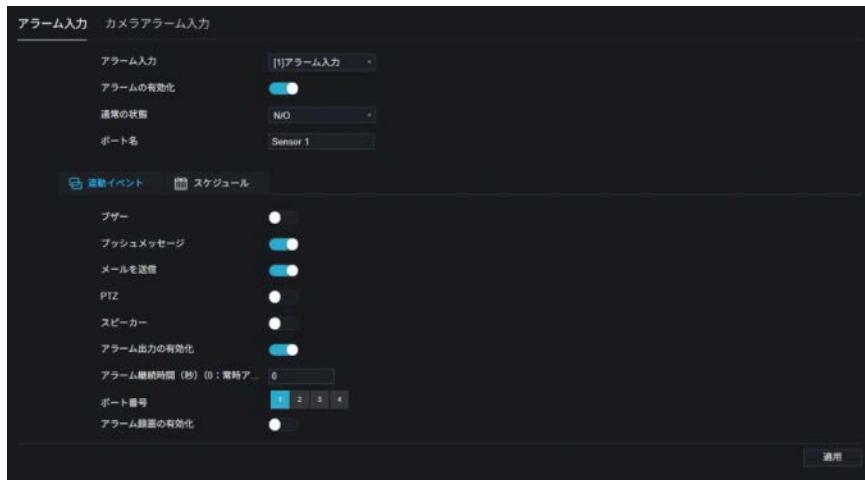
**ステップ 5 :** 「コピー」をクリックして他のカメラを選択し、設定をコピーします。「適用」をクリックして設定を保存します。

#### 8.4.4 アラーム入力

##### 手順

**ステップ 1：**システム設定画面で、「アラーム」>「アラーム入力」を選択し、図 8-34 に示すようにアラーム入力インターフェースにアクセスします。

図 8-34 アラーム入力インターフェース



**ステップ 2：**ドロップダウンリストをクリックして、アラーム入力を選択します。

**ステップ 3：**ボタンを有効にし、アラームの種類を選択します。

**ステップ 4：**名前を設定します。デフォルトは「Sensor 1」です。

**ステップ 5：**連動イベントとスケジュールの設定については、モーション検出設定を参照してください。

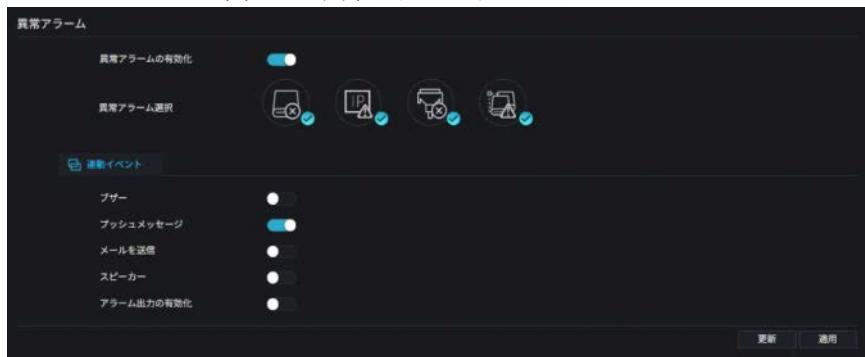
**ステップ 6：**「適用」をクリックして設定を保存します。

#### 8.4.5 異常アラーム

手順

**ステップ 1：**システム設定画面で、「アラーム」>「異常アラーム」を選択し、図 5-20 に示すように異常アラームインターフェースにアクセスします。

図 8-35 異常アラームインターフェース



**ステップ 2：**異常アラームの有効化ボタンをクリックし、アラームの種類にチェックを入れます。

**ステップ 3：**連動イベントとスケジュールの設定については、モーション検出設定を参照してください。

**ステップ 4：**「適用」をクリックして設定を保存します。

#### 8.4.6 アラーム出力

アラーム出力とカメラアラーム出力を設定します。

図 8-36 アラーム出力



図 8-37 カメラアラーム出力



## 8.5 AI 分析

AI 分析インターフェースでは、AI 検出対象、AI 分析、行動分析、ES 分析、顔認証、車番検出、ローカル AI 分析を設定できます。詳細については、6.5 章「AI 分析設定」を参照してください。

### 8.5.1 AI 検出対象

図 8-38 AI 検出対象



### 8.5.2 AI 分析（一部モデルのみ）

図 8-39 AI 分析インターフェース



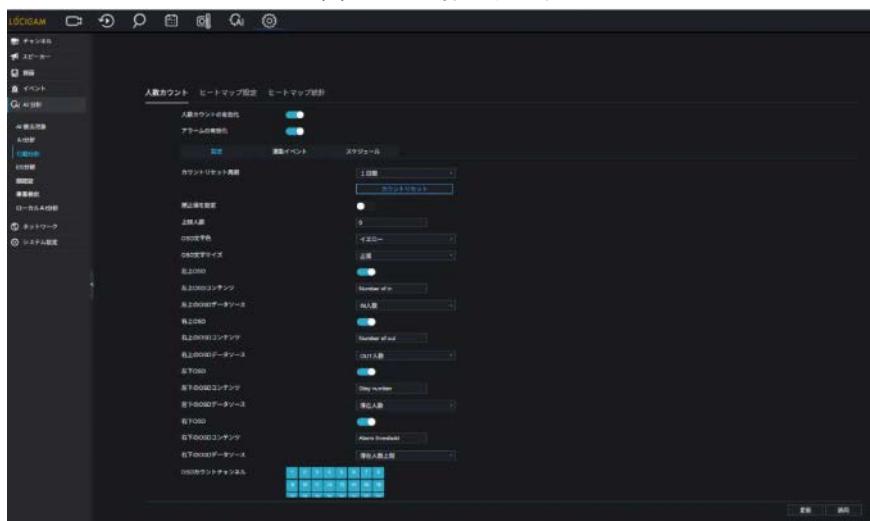
### 8.5.3 行動分析

行動分析インターフェースでは、NVR の人数カウントとヒートマップを設定できます。

詳細については、6.5.3章「行動分析」を参照してください。

### 8.5.3.1 人数カウント

図 8-40 人数カウント



### 8.5.3.2 ヒートマップ

図 8-41 ヒートマップインターフェース



図 8-42 ヒートマップ



### 8.5.4 ES 分析

ES 分析（環境安全分析）には、喫煙検出、火災検出、火災点検出が含まれます。これらの機能は一部の機種のみに適用されます。詳細については、6.5.4章「ES 分析」を参照してください。

## 8.5.5 顔認証

顔認証インターフェースでは、顔認証のアラーム設定と、顔の比較を行うライブラリ選択と類似度の設定ができます。

図 8-43 顔認証インターフェース

チャンネル	登録者検出	未登録者検出	類似度	操作
チャンネル01	Default Lib	Default Lib	80%	edit
チャンネル02	Default Lib	Default Lib	80%	edit
チャンネル03	Default Lib	Default Lib	80%	edit
チャンネル04	Default Lib	Default Lib	80%	edit
チャンネル05	Default Lib	Default Lib	80%	edit
チャンネル06	Default Lib	Default Lib	80%	edit
チャンネル07	Default Lib	Default Lib	80%	edit
チャンネル08	Default Lib	Default Lib	80%	edit
チャンネル09	Default Lib	Default Lib	80%	edit
チャンネル10	Default Lib	Default Lib	80%	edit
チャンネル11	Default Lib	Default Lib	80%	edit
チャンネル12	Default Lib	Default Lib	80%	edit

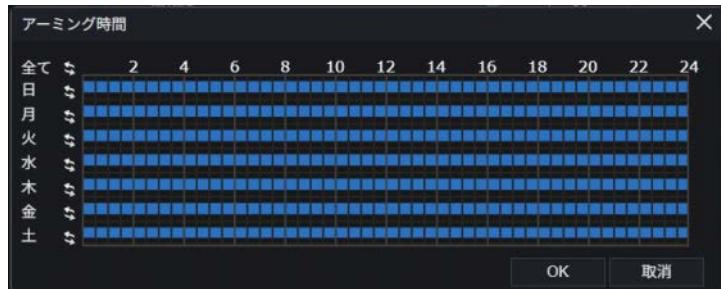
図 8-44 ストラテジー編集



図 8-45 連動イベント



図 8-46 アーミング時間



顔認証インターフェースでは、図 6-71 に示すように、類似度、比較結果の表示、顔ライブラリ、アラームの有効化、連動イベント、スケジュールなど、各チャネルのストラテジーを設定できます。

## 8.5.6 LPR

### 8.5.6.1 基本設定

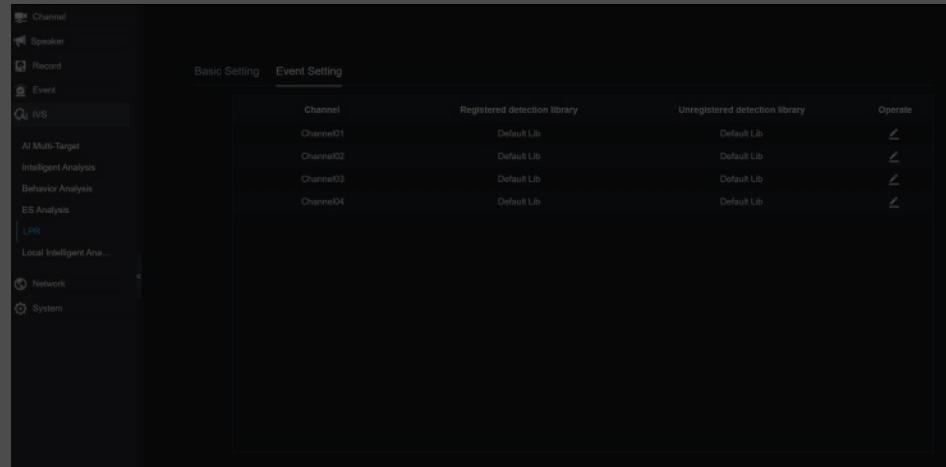
詳細については、6.5.6 章 LPR（ナンバープレート認識）を参照してください。

図 8-47 ライセンス比較

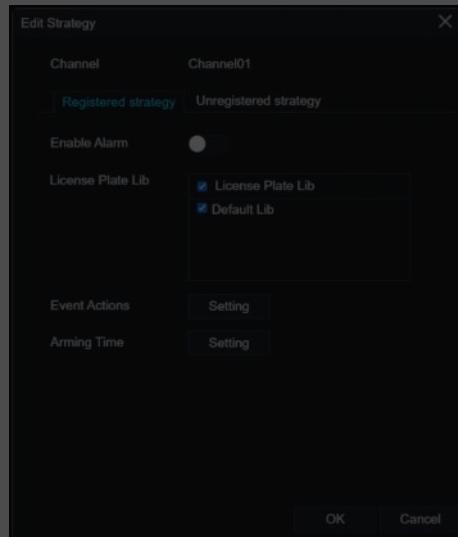


ナンバープレートインターフェースでは、図 8-47 に示すように、ナンバープレート認識カメラのチャンネルごとに、登録と登録解除、アラームの有効化、イベントアクション、スケジュールなどの戦略を設定できます。

図 8-48 イベント設定



現在この機能は使えません



はライブラリが削除されたことを意味します。

### 8.5.7 ローカル AI 分析

ローカル AI 分析インターフェースでは、モードを「検出モード」に設定し、侵入検知を有効にするチャンネルを 4 つ未満で選択することができます。選択するチャンネルデバイスは、AI マルチオブジェクト検出に対応しているカメラである必要があります。

図 8-50 ローカル AI 分析



モードが「認識モード」に設定されている場合、AI アイコン と勤怠アイコン がインターフェースの上部に表示されます。それ以外の場合は非表示になります。

図 8-51 侵入



## 8.6 ネットワーク

ユーザーは、ネットワーク、DDNS、Eメール、UPnP、P2P、IP フィルタ、802.1X、SNMP、Web モードを設定できます。

### 8.6.1 ネットワーク

手順

**ステップ 1：**システム設定画面で、「ネットワーク」>「ネットワーク」を選択し、ネットワークインターフェースにアクセスします（図 8-52 を参照）。

図 8-52 ネットワークインターフェース



**ステップ 2：**ドロップダウンリストからネットワークカードを選択します。図 8-53 に示すように、ネットワークカード I は LAN1、ネットワークカード II は LAN2 です。

図 8-53 ネットワークカード II



**ステップ 3：**IP の横にある をクリックして、IP アドレスの自動取得機能を有効または無効にします。この機能はデフォルトで有効になっています。

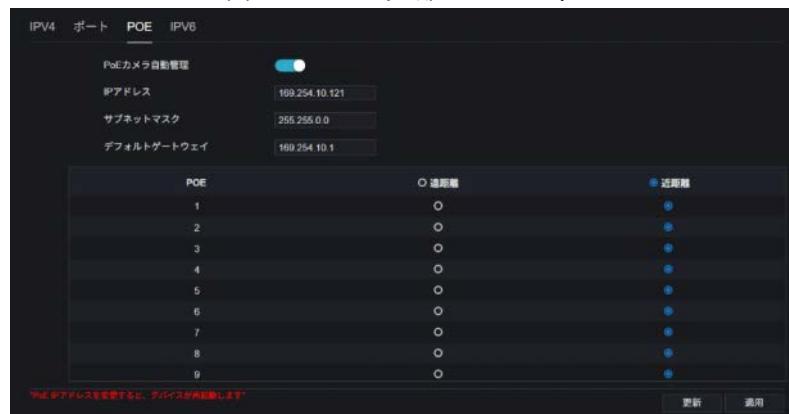
この機能が無効になっている場合は、「IP」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」の横にある入力ボックスをクリックして、必要に応じてパラメーターを設定します。

**ステップ 4 :** DNS アドレスの自動取得機能を有効または無効にするには、「DNS を自動的に取得」の横にある  をクリックします。この機能はデフォルトで有効になっています。

この機能が無効になっている場合は、「DNS1」と「DNS2」の横にある入力ボックスをクリックし、元のアドレスを削除して新しいアドレスを入力してください。

**ステップ 5 :** ポートと POE を手動で設定し、これらの情報を入力します。

図 8-54 POE (一部モデルのみ)



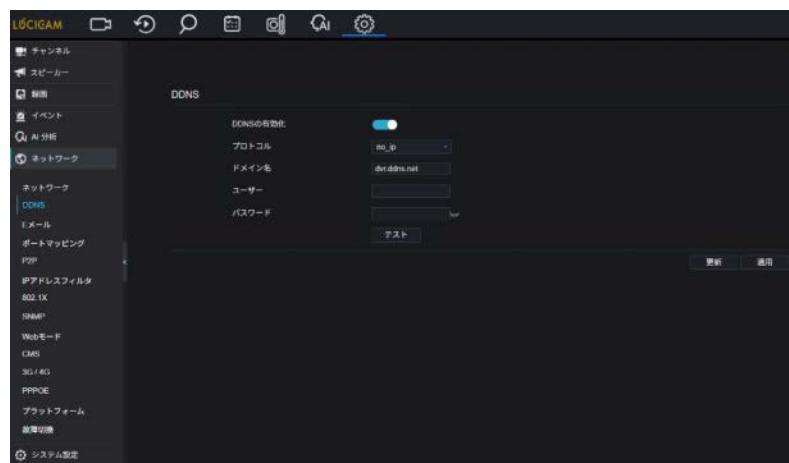
**ステップ 6 :**  をクリックして以前の設定を復元します。「適用」をクリックして設定を保存します。

## 8.6.2 DDNS

### 手順

**ステップ 1 :** ネットワークインターフェースで「DDNS」をクリックし、「ネットワーク」>「DDNS」を選択して、図 8-55 に示すように DDNS インターフェースにアクセスします。

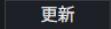
図 8-55 DDNS インターフェース



**ステップ 2 :** ボタンをクリックして DDNS 機能を有効にします。デフォルトは無効になっています。

**ステップ 3 :** プロトコルのドロップダウンリストから必要な値を選択します。

**ステップ 4 :** ドメイン名、ユーザー名、およびパスワードを設定します。

**ステップ 5 :**  をクリックして以前の設定を復元します。「適用」をクリックして設定を保存します。

### NOTE

外部ネットワークは、DDNS 設定で指定されたアドレスを使用して NVR にアクセスできます。

## 8.6.3 Eメール

### 手順

ステップ 1：ネットワークインターフェースで「Eメール」をクリックし、「ネットワーク」>「Eメール」を選択して Eメールインターフェースにアクセスします（図 8-56 を参照）。

図 8-56 Eメールインターフェース



ステップ 2：SMTP サーバーと SMTP サーバーポートを手動で設定します。

ステップ 3：Eメール送信者のメールアドレス、ユーザー名、パスワードを手動で設定します。

ステップ 4：アラームメッセージを受信するメールアドレスを設定します。

ステップ 5：パスワード取得用のメールアドレスを設定します。

ステップ 6：「SSL 暗号化」ドロップダウンリストをクリックして、暗号化を有効にします。

ステップ 7：[更新] をクリックして以前の設定を復元します。「適用」をクリックして設定を保存します。

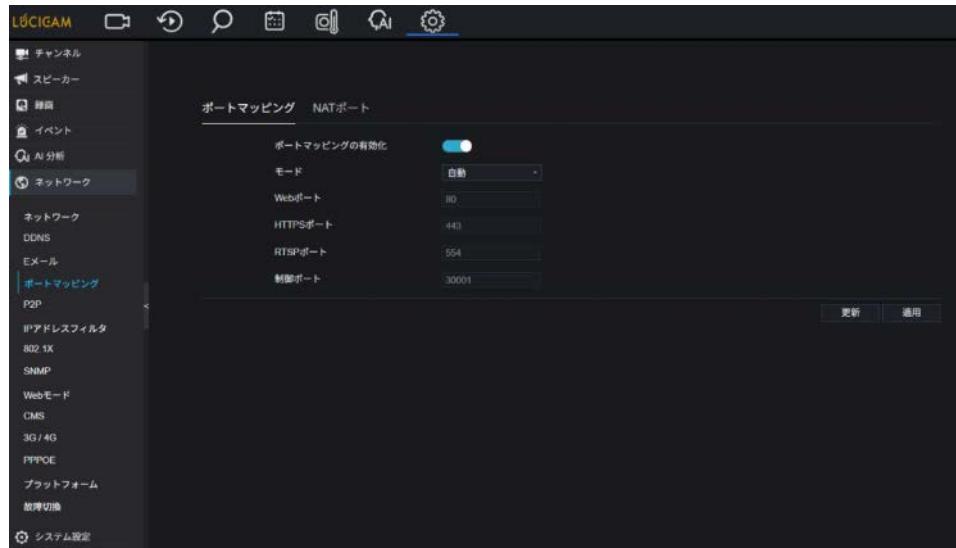
## 8.6.4 ポートマッピング

### 8.6.4.1 ポートマッピング

#### 手順

ステップ 1：ネットワークインターフェースで「ポートマッピング」をクリックし、「ネットワーク」>「ポートマッピング」を選択して UPnP インターフェースにアクセスします（図 8-57 を参照）。

図 8-57 ポートマッピングインターフェース



ステップ 2：UPnP から設定方法を選択し、ドロップダウンリストから有効にします。デフォルト値は自動です。

**ステップ 3** : UPnP を手動で設定した後、Web ポート、データポート、クライアントポートを手動で設定します。

**ステップ 4** : **更新** をクリックすると以前の設定が復元されます。「適用」をクリックすると設定が保存されます。

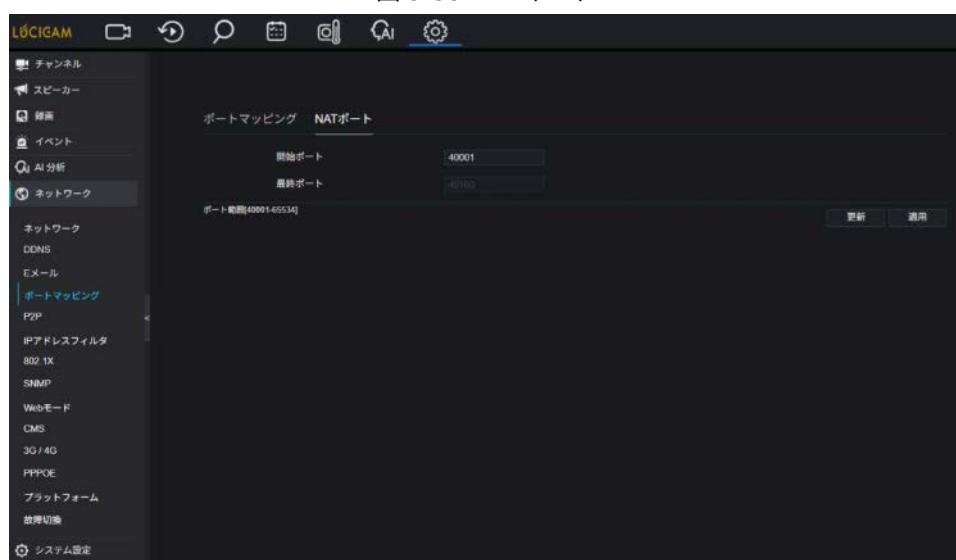
#### NOTE

- 自動：システムは UPnP を自動的に実行します。
- 手動：ポートはルーターによって割り当てられます。ルーターの設定に従ってポート番号を入力してください。

#### 8.6.4.2 NAT ポート

NAT（ネットワークアドレス変換）を使用すると、ユーザーは NAT ポートを使用してカメラの Web インターフェースを閲覧できます。カメラごとに 5 つのポートを割り当てることができます。開始ポートを入力すると、終了ポートが自動的に計算されます。

図 8-58 NAT ポート



ユーザーは、<http://IP アドレス:ポート番号>（例：<http://192.168.0.229:40006/>）を入力して、カメラの Web インターフェースにアクセスできます。

[192.168.0.229:40006/asppage/common/login.asp?id=1&ret=1](http://192.168.0.229:40006/asppage/common/login.asp?id=1&ret=1)

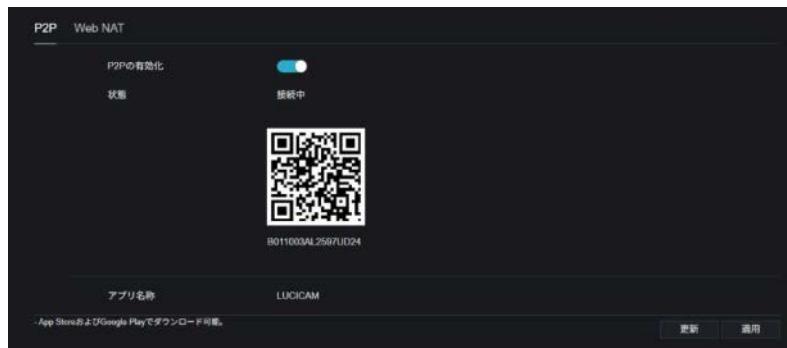
#### 8.6.5 P2P

##### 8.6.5.1 P2P

###### 手順

**ステップ 1** : ネットワークインターフェースで「P2P」をクリックし、「ネットワーク」>「P2P」を選択して P2P インターフェースにアクセスします（図 8-59 を参照）。

図 8-59 P2P インターフェース



**ステップ 2 :** P2P 機能を有効にするには、「有効」をクリックします。

**ステップ 3 :** 以前の設定に戻すには **更新** をクリックします。設定を保存するには「適用」をクリックします。

**ステップ 4 :** 遠隔アプリ LUCICAM をモバイル端末にインストールした後、アプリを起動し、UUID QR コードをスキャンして追加します。その後、デバイスがオンラインの状態で NVR にアクセスします。

### 8.6.5.2 Web NAT

Web NAT は、URL と UUID を使用して Web インターフェースにログインします。

Web NAT を有効にする必要があります。状態が「接続中」のときに、URL をコピーしてブラウザにアクセスすると、URL インターフェースにジャンプすることができます。

図 8-60 Web NAT

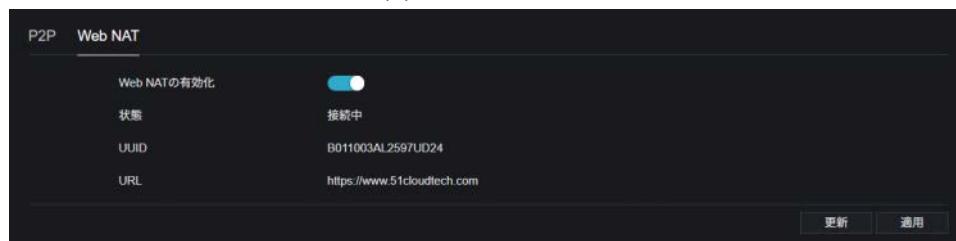
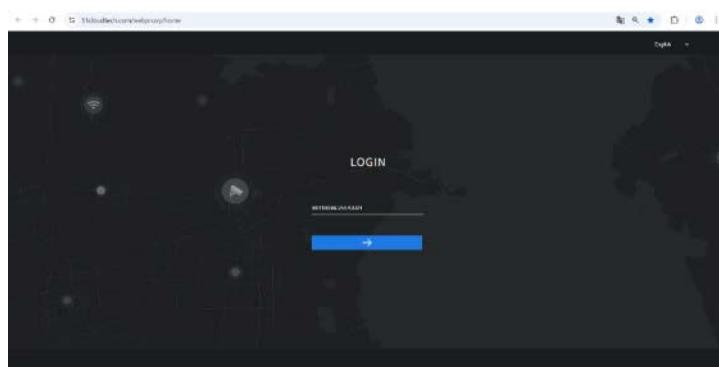


図 8-61 URL インターフェース



ログインインターフェースで NVR の UUID を入力し、「Enter」をクリックして NVR の Web インターフェースに入ります。

### 8.6.6 IP フィルタ

#### 手順

**ステップ 1 :** ネットワークインターフェースで「IP アドレスフィルタ」をクリックし、「ネットワーク」 > 「IP アドレスフィルタ」を選択して、図 8-62 に示すように IP アドレスフィルタインターフェースにアクセスします。

図 8-62 IP フィルタインターフェース

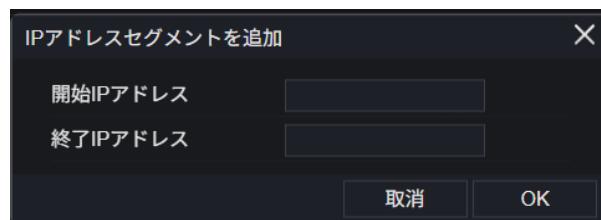


ステップ 2 : IP フィルタ機能を有効にするには、「有効」をクリックします。

ステップ 3 : ルールタイプのドロップダウンリストをクリックして、ブラックリストまたはホワイトリストを選択します。

ステップ 4 : 「+」をクリックし、6.7.5 に示すようにブラックリストまたはホワイトリストを設定するためのポップアップウインドウを表示します。リストを削除するには、「-」をクリックします。

図 8-63 : ブラックリストまたはホワイトリストインターフェース



ステップ 5 : 開始 IP と終了 IP を設定します。

ステップ 6 : 操作を取り消すには [ 取消 ] をクリックし、設定を保存するには [ OK ] をクリックします。

ステップ 7 : 以前の設定に戻すには [ 取消 ] をクリックします。設定を保存するには「適用」をクリックします。

#### NOTE

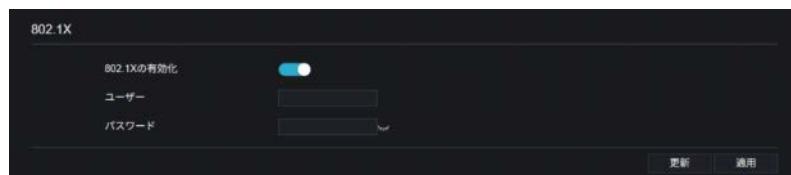
- ブラックリスト: 指定されたネットワークセグメント内のアクセスを禁止する IP アドレス。
- ホワイトリスト: 指定されたネットワークセグメント内のアクセスを許可する IP アドレス。
- リストから名前を選択し、「削除」をクリックすると、リストから名前が削除されます。
- リスト内の名前を選択し、「編集」をクリックすると、リスト内の名前が編集されます。
- 使用できるルールタイプは 1 つだけで、最後に設定したルールタイプが有効になります。

## 8.6.7 802.1X

### 手順

ステップ 1 : ネットワークインターフェースで「802.1X」をクリックします。802.1X インターフェースが表示されます。図 8-64 に示すように、ボタンを有効にします。

図 8-64 802.1X インターフェース



ステップ 2 : 802.1X 認証のユーザー名とパスワードを入力します。

ステップ 3 : [ 更新 ] をクリックすると以前の設定が復元されます。「適用」クリックすると設定が保存されます。

## 8.6.8 SNMP

### 手順

ステップ 1：ネットワークインターフェースで「SNMP」をクリックします。SNMP インターフェースが表示されます。図 8-65 に示すように、「SNMPV1」の横にあるボタンを有効にします。

図 8-65 SNMP インターフェース



ステップ 2：SNMP (Simple Network Management Protocol) の情報を入力します。SNMP には 3 つの機能があり、必要に応じて適用できます。

表 8-1 : SNMP パラメーター

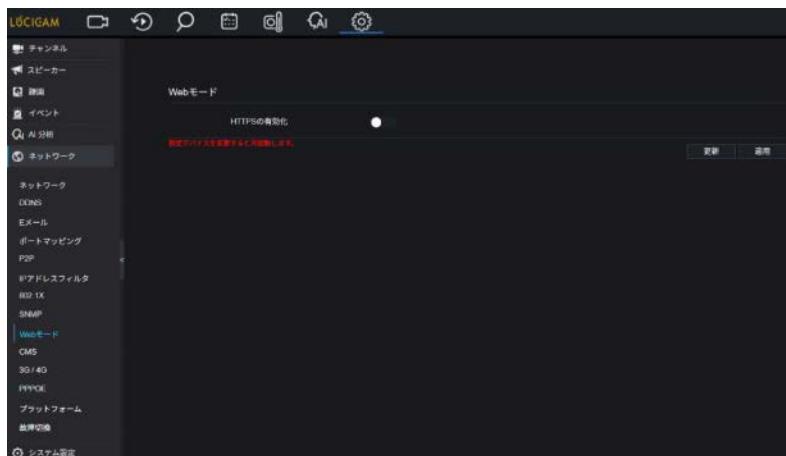
パラメーター	説明	設定
SMTP サーバーアドレス	SMTP サーバーの IP アドレス。	[設定方法] 手動で値を入力します。
SMTP サーバーポート	SMTP サーバーのポート番号。	[設定方法] 手動で値を入力します。 [デフォルト値] 25
ユーザー名	メール送信用メールボックスのユーザー名。	[設定方法] 手動で値を入力します。

パラメーター	説明	設定
パスワード	メールを送信するためのメールボックスのパスワード。	[設定方法] 手動で値を入力します。
送信者メールアドレス	メールを送信するためのメールボックス。	[設定方法] 手動で値を入力します。
受信者の E メールアドレス 1	(必須) 受信者 1 の電子メール アドレス。	【設定方法】 手動で値を入力します。
受信者の E メールアドレス 2	(オプション) 受信者 2 の電子メール アドレス。	
受信者の E メールアドレス 3	(オプション) 受信者 3 の電子メール アドレス。	
受信者の E メールアドレス 4	(オプション) 受信者 4 の電子メール アドレス。	
受信者の E メールアドレス 5	(オプション) 受信者 5 の電子メール アドレス。	
添付ファイルの画質	高画質の画像はより多くのストレージ容量を必要とします。サイトの要件に応じてこのパラメーターを設定してください。	N/A
転送モード	メールの暗号化モード。SMTP サーバーがサポートする暗号化モードに基づいてこのパラメーターを設定してください。	[設定方法] ドロップダウンリストボックスから値を選択します。  [デフォルト値] 暗号化なし

### 8.6.9 Web モード

**ステップ 1 :** ネットワークインターフェースで「Web モード」をクリックします。図 4-6 に示すように、Web モードインターフェースが表示されます。

図 8-66 Web モードインターフェース



**ステップ 2 :** HTTPS を有効にします。デバイスが再起動し、HTTPS セキュア通信が開始されます。

**ステップ 3 :** [更新] をクリックして以前の設定を復元します。「適用」をクリックして設定を保存します。

### 8.6.10 CMS

ユーザーが SIRA、ONVIF、または CGI 経由で NVR にアクセスする場合は、これらを有効にできます。SIRA を有効にすると、ONVIF は自動的に有効になります。NVR のセキュリティが低下するため、必ず確認を行ってください。

**SIRA :** サーバー（NVR）は時刻を同期し、アラーム情報をこのサーバーに送信します。

**ONVIF :** Open Network Video Interface Forum（オープン・ネットワーク・ビデオ・インターフェース・フォーラム）。ユーザーは ONVIF プロトコル経由で NVR にアクセスできます。

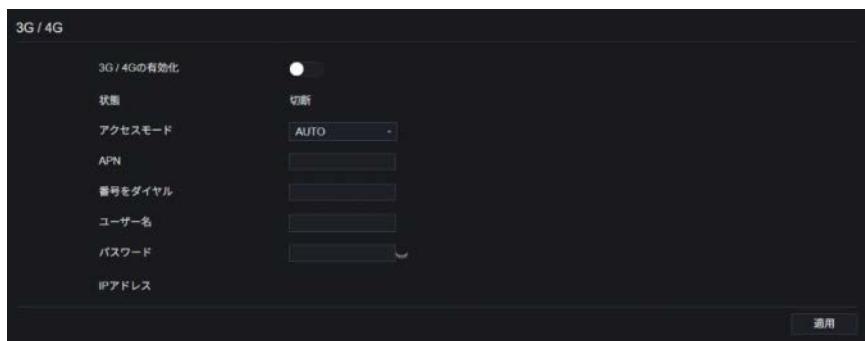
**CGI :** Common Gateway Interface（コモン・ゲートウェイ・インターフェース）。ユーザーは CGI コマンド経由で NVR にアクセスできます。

図 8-67 CMS



### 8.6.11 3G/4G

図 8-68 3G/4G



**ステップ 1 :** ユーザーはモデムを NVR に接続します。

**ステップ 2 :** 3G/4G を有効にします。

**ステップ 3 :** ステータスが「接続」になりましたら、アクセスモードを設定できます。「AUTO」を推奨します。

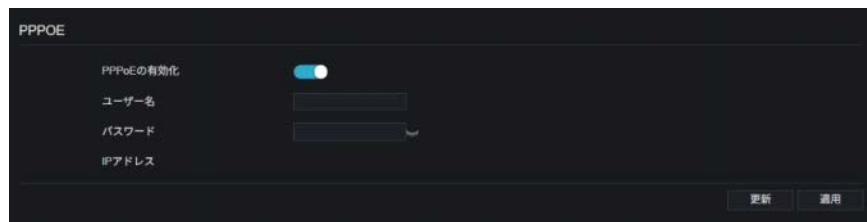
**ステップ 4 :** 別のアクセスモードを選択する場合は、パラメーターを正しく入力してください。

**ステップ 5 :** [更新] をクリックすると以前の設定が復元されます。「適用」をクリックすると設定が保存されます。

### 8.6.12 PPPOE

ユーザーは PPPOE 機能を使用して NVR を便利に管理できます。

図 8-69 PPPoE



ステップ 1 : PPPoE を有効にします。

ステップ 2 : ユーザー名とパスワードを入力します。

ステップ 3 : IP アドレスが自動的に取得されます。

ステップ 4 : **更新** をクリックすると以前の設定が復元されます。「適用」をクリックすると設定が保存されます。

ステップ 5 : ユーザーは IP アドレスを使用してすぐに NVR にアクセスできます。

### 8.6.13 POE ステータス (一部モデルのみ)

図 8-70 に示すように、POE ステータスを確認することができます。

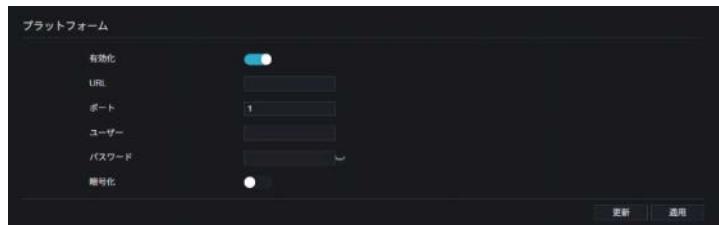
図 8-70 POE ステータス



### 8.6.14 プラットフォームアクセス

詳細については、UI インターフェースのパラメーター設定「6.6.13 プラットフォームアクセス」を参照してください。

図 8-71 プラットフォームアクセス



### 8.6.15 故障切換

すべての録画を正常に動作させたい場合は、NVR を冗長 NVR として設定します。プライマリ NVR が故障した場合、冗長 NVR は故障切換として動作を継続します。

詳細については、UI インターフェースのパラメーター設定「6.6.14 故障切換」を参照してください。

図 8-72 故障切換



## 8.7 システム

ユーザーは、情報、一般、ユーザー、パスワード、ログ、メンテナンス、自動再起動に関するパラメーターを設定できます。

### 8.7.1 デバイス情報

手順

ステップ 1：ナビゲーションバー をクリックすると、図 8-73 に示すデバイス情報インターフェースが表示されます。

図 8-73 デバイス情報インターフェース

システム設定		ネットワーク	チャンネル	HDD	アラーム
デバイスID	B011003AL2597UD24				
デバイス名	Device				
デバイスタイプ	NVR				
型番	LC-NV5032				
ファームウェアバージョン	v4.7.1610.0000.366.0.2.33.41				
U-bootバージョン	1808150E0329				
カーネルバージョン	190C0D0E3929				
搭載HDD台数	4				
サポートチャンネル数	32				
アラーム入力	16				
アラーム出力	4				
音声入力	1				
音声出力	1				

ステップ 2：表 8-2 に従ってデバイス名を設定します。

表 8-2 デバイスパラメーター

パラメーター	説明	設定
デバイス ID	プラットフォームは、デバイスを識別するために一意のデバイス識別子を使用します。	[設定方法] このパラメーターは変更できません。
デバイス名	デバイス名	[設定方法] システム設定 > 一般 デバイス名を変更します。
デバイスタイプ	N/A	[設定方法]
型番		これらのパラメーターは変更できません。
ファームウェアバージョン		
搭載 HDD 台数		
サポートチャンネル数		
アラーム入力		

パラメーター	説明	設定
アラーム出力		
音声入力		
音声出力		

図 8-74 ネットワーク

システム設定		ネットワーク	チャンネル	HDD	アラーム
<b>IPアドレス</b>					<b>IPv4 CCTV</b>
状態	接続中				
IPアドレス	192.168.0.59				192.168.99.121
サブネットマスク	255.255.255.0				255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.0.1				192.168.99.1
MACアドレス	8CA6:82:00:01:17				
DHCPを有効にする	オフ				
DNS 1	8.8.8.8				
代替DNSサーバー	8.8.4.4				
総帯域幅	1000.00 Mbps				

図 8-75 チャンネル

システム設定						ネットワーク	チャンネル	HDD	アラーム
チャンネル	名称	状態	ビデオ形式	解像度	ビットレート(kbps)				
CH1	LC-IP88-5810	接続中	H264/H264	2592*1520/1920*1080	6000/1024				
CH2	LC-IP4P-9310T	接続中	H264/H264	2592*1520/1920*1080	6000/1024				
CH3	Channel03	接続中	H264/H264	3000*3000/704*480	6000/1024				
CH4	Channel04	接続中	H264/H264	2560*1440/1920*1080	6000/1024				
CH5	Channel05	接続中	H264/H264	2592*1520/1920*1080	6000/1024				
CH6	Channel06	接続中	H264/H264	2880*1620/1920*1080	4096/1024				
CH7	Channel07	接続中	H264/H264	2560*1440/704*480	6000/1024				
CH8	Channel08	接続中	H264/H264	2560*1440/704*480	6000/1024				
CH9	Channel09	接続中	H264/H264	2560*1440/704*480	6000/1024				
CH10	Channel10	接続中	H264/H264	2880*1620/704*480	4096/1024				
CH11	Channel11	接続中	H264/H264	704*480/704*480	2000/1500				

図 8-76 HDD

システム設定						ネットワーク	チャンネル	HDD	アラーム
HDD	容量	使用済	シリアルナンバー	HDD型番	状態				
md0	16TB	39GB	xxxx	xxxx	正常				

図 8-77 アラーム

システム設定						ネットワーク	チャンネル	HDD	アラーム
チャンネル	名称	モード	有効化	録画チャンネル					
ローカル<1	Sensor 1	N/O	オン						
ローカル<2	Sensor 2	N/O	オン						
ローカル<3	Sensor 3	N/O	オン						
ローカル<4	Sensor 4	N/O	オン						
ローカル<5	Sensor 5	N/O	オン						
ローカル<6	Sensor 6	N/O	オン						
ローカル<7	Sensor 7	N/O	オン						
ローカル<8	Sensor 8	N/O	オン						
ローカル<9	Sensor 9	N/O	オン						
ローカル<10	Sensor 10	N/O	オン						
ローカル<11	Sensor 11	N/O	オン						
ローカル<12	Sensor 12	N/O	オン						
ローカル<13	Sensor 13	N/O	オン						

## 8.7.2 一般

システム設定、日付と時刻、タイムゾーン、およびサマータイムの一般インターフェースを設定できます。

### 手順

**ステップ 1：**システム設定画面で、「システム」>「一般」を選択し、図 8-78 に示す一般インターフェースにアクセスします。

図 8-78 基本設定インターフェース



**ステップ 2：**システムを設定します。

1. デバイス名を入力します。
2. ドロップダウンリストから出力解像度を選択します。
3. 「適用」クリックしてシステム設定を保存します。

**ステップ 3：**日付と時刻を設定します。

1. NTP サーバーから時刻を同期します。
2. 「NTP の有効化」ボタンをクリックして、時刻同期を有効にします。デフォルト設定は有効です。

図 8-79 システムインターフェース



3. ドロップダウンリストから NTP サーバー、日付形式、時刻形式を選択します。
4. 「適用」をクリックして日付と時刻の設定を保存します。デバイスの時刻は NTP サーバーの時刻と同期されます。
5. 図 8-80 に示すように、デバイスの時刻を手動で設定します。
6. 時刻同期を無効にするには、「NTP の有効化」ボタンをクリックします。

図 8-80 日付と時刻



#### ステップ4：タイムゾーンを設定します。

1. ドロップダウンリストから日付形式と時刻形式を選択します。
2. 「適用」をクリックしてデバイスの時刻設定を保存します。 [更新] をクリックすると前の設定に戻ります。

#### ステップ5：タイムゾーンを設定します。

「タイムゾーン」をクリックして、図 8-81 に示すようにタイムゾーン設定インターフェースに入ります。

図 8-81 タイムゾーンインターフェース



ドロップダウンリストからタイムゾーンを選択します。

「適用」クリックしてタイムゾーン設定を保存します。 [更新] をクリックすると前の設定に戻ります。

#### ステップ6：サマータイムを設定します。

1. 「サマータイム」をクリックしてサマータイム設定画面に入り、有効化ボタンをクリックしてサマータイムを有効にします（図 8-82 を参照）。デフォルトでは無効になっています。

図 8-82 サマータイム設定画面



ドロップダウンリストから開始時刻を選択します。

ドロップダウンリストから終了時刻を選択します。

ドロップダウンリストからオフセット時間を選択します。

図 8-83 カメラ時刻の同期



カメラ時刻の同期を有効にすると、NVR 管理対象のカメラが同時に表示されます。

チェックの頻度を設定します（最小 10 秒）。

ステップ 7：「適用」クリックしてサマータイム設定を保存します。[更新] をクリックして前の設定に戻ります。

### 8.7.3 ユーザーアカウント

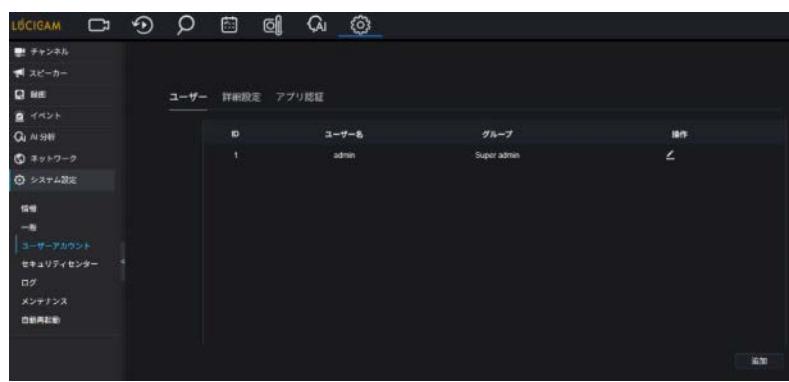
デバイスを管理するための新しいユーザーアカウントを作成できます。

#### 8.7.3.1 ユーザー追加

手順

ステップ 1：システム設定画面で、「システム」>「ユーザー」を選択し、ユーザーインターフェースにアクセスします（図 8-84 を参照）。

図 8-84 ユーザーインターフェース



ステップ 2：図 8-85 に示すように、「追加」をクリックして新しいユーザーを追加します。

図 8-85 ユーザー追加インターフェース



ステップ 3：ユーザー名、パスワード、パスワードの確認を入力します。

ステップ 4：グループを選択し、ドロップダウンリストからパスワードの変更頻度を設定します。

ステップ 5：ユーザーに権限を割り当てます。

ステップ 6：ユーザーの有効期限を設定します。

ステップ 7：操作可能なチャンネルを選択します。

ステップ 8：[OK] をクリックすると、「追加成功」というメッセージが表示されます。パスワードがリールを満たしていない場合は、[⚠️ パスワードが違います] と表示されます。

ステップ 9：[編集] をクリックしてユーザー情報を編集します。

**ステップ 10 :**  をクリックしてアカウントを削除します。  と表示されるので、  をクリックして削除します。

### 8.7.3.2 詳細設定

#### 手順

**ステップ 1 :** システム設定画面で、「システム」>「ユーザー」>「詳細設定」を選択し、表 6-3 に示すインターフェースにアクセスします。

図 8-86 詳細設定インターフェース



**ステップ 2 :** Super Admin 以外のユーザーが録画映像を再生する際に、2段階認証を設定できます。ユーザーは、録画再生時に認証のために Super Admin のユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

**ステップ 3 :** 「適用」をクリックして設定を保存します。  をクリックして前の設定に戻ります。

### 8.7.3.3 アプリ認証

ホワイトリストにセキュリティコードを設定することができます。ユーザーがスマートフォンアプリに NVR デバイスを登録する際に、合わせてセキュリティコードを入力する必要があります。

図 8-87 アプリ認証



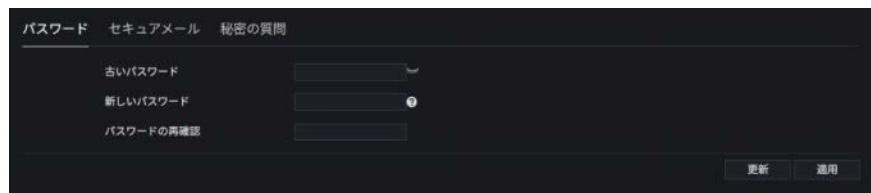
### 8.7.4 セキュリティセンター

#### 8.7.4.1 パスワード

#### 手順

**ステップ 1 :** システム設定画面で、「システム」>「セキュリティセンター」を選択し、図 8-88 に示すパスワードインターフェースにアクセスします。

図 8-88 パスワードインターフェース



ステップ 2：古いパスワードと新しいパスワードを入力し、確認のためにもう一度入力します。

ステップ 3：設定を保存するには「適用」をクリックします。前の設定に戻るには **更新** をクリックします。

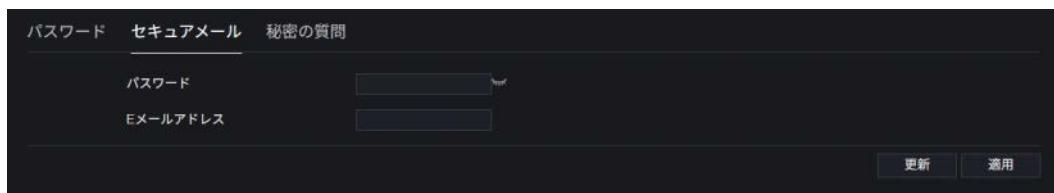
#### NOTE

- 有効なパスワードの範囲は 6~32 文字です。
- 少なくとも 2 種類の数字、小文字、大文字、または特殊文字を含めてください。
- サポートされている特殊文字は、!@#&\*+=-%&"`(),/.:;<>?^|~[{}]{}`のみです。

#### 8.7.4.2 セキュアメール

パスワードを忘れてしまった場合、登録済みのセキュアメールに NVR の認証コードを送信することができます。

図 8-89 セキュアメール



#### 8.7.4.3 秘密の質問

パスワードを忘れてしまった際に設定済みの「秘密の質問」に正しく答えた場合、パスワードを変更して NVR にログインすることができます。

図 8-90 秘密の質問



## 8.7.5 ログ

### 8.7.5.1 システムログ

#### 手順

ステップ 1：システム設定画面で、「システム」>「ログ」を選択し、図 8-91 に示すようにシステムログインターフェースにアクセスします。

図 8-91 システムログインターフェース

The screenshot shows the 'System Log' interface. On the left, there's a sidebar with various system settings like Channel, Speaker, Screen, Event, AI Analysis, Network, and System Settings. The 'System Settings' section is expanded, showing sub-options like General, User Account, Security Center, Log, Maintenance, and Auto Restart. The main area is titled 'System Log' and 'Event Log'. It has search and export buttons at the top. Below is a table with columns: ID, Start Time, Channel, Log Type, and Information. The table contains 13 log entries from December 23, 2025, at 17:18:13 to 17:29:40. The logs include various events such as Local UI logout, User Account creation, and system configuration changes.

ID	開始日時	チャンネル	ログの種類	情報
1	23/12/2025 17:18:13	-----	ログアウト	[admin] Local UI logout
2	23/12/2025 17:17:54	-----	ログイン	[admin] 192.168.100.21 login
3	23/12/2025 17:16:56	-----	ログアウト	[test] 192.168.100.21 logout
4	23/12/2025 17:14:30	-----	ログイン	[test] 192.168.100.21 login
5	23/12/2025 17:14:19	-----	ログアウト	[admin] 192.168.100.21 logout
6	23/12/2025 17:14:10	-----	設定変更	[admin] 192.168.100.21 User Account – User(add)
7	23/12/2025 17:13:40	-----	設定変更	[admin] 192.168.100.21 Adv.Setting [path:Enable.Login.Disabled,time:300000]
8	23/12/2025 17:10:40	-----	設定変更	[admin] Local UI System[Device.Output.resolution:1920x1080,japanese,Close,Original]
9	23/12/2025 17:10:40	-----	ログイン	[admin] 127.0.0.1 login
10	23/12/2025 17:08:18	-----	設定変更	[admin] 192.168.100.21 User Account – User(delete)
11	23/12/2025 17:06:17	-----	設定変更	[admin] 192.168.100.21 User Account – User(mod)
12	23/12/2025 17:06:07	-----	設定変更	[admin] 192.168.100.21 User Account – User(add)
13	23/12/2025 16:51:00	-----	-----	Logout[192.168.100.21,com.FUDA.Checkable.CMMIC,Disabled,CMMIC.Disabled]

ステップ 2：カレンダーから検索開始時刻と検索終了時刻を設定します。

ステップ 3：ドロップダウンからログの種類を選択します。リストに表示されます。

ステップ 4：「検索」をクリックしてログ情報を取得します。

ステップ 5：「エクスポート」をクリックしてログをエクスポートします。

### 8.7.5.2 イベントログ

#### 手順

ステップ 1：システム設定画面で、「システム」>「ログ」>「イベントログ」を選択し、ログインターフェースにアクセスします（図 8-92 を参照）。

図 8-92 イベントログインターフェース

The screenshot shows the 'Event Log' interface. The sidebar and layout are identical to the System Log interface. The main area is titled 'System Log' and 'Event Log'. It has search and export buttons at the top. Below is a table with columns: ID, Start Time, Channel, Log Type, and Information. The table contains 13 event entries from December 23, 2025, at 09:53:08 to 09:48:36. The events are mostly 'Line Cross' events involving channels J01 and J02, with some 'Video Cross' events.

ID	開始日時	チャンネル	ログの種類	情報
1	23/12/2025 09:53:08	チャンネルJ01	ラインクロス	LC-#P88-5810
2	23/12/2025 09:52:58	チャンネルJ01	ラインクロス	LC-#P88-5810
3	23/12/2025 09:52:39	チャンネルJ01	ラインクロス	LC-#P88-5810
4	23/12/2025 09:52:15	チャンネルJ01	ラインクロス	LC-#P88-5810
5	23/12/2025 09:51:18	チャンネルJ01	ラインクロス	LC-#P88-5810
6	23/12/2025 09:51:02	チャンネルJ01	ラインクロス	LC-#P88-5810
7	23/12/2025 09:50:14	チャンネルJ01	ラインクロス	LC-#P88-5810
8	23/12/2025 09:49:58	チャンネルJ01	ラインクロス	LC-#P88-5810
9	23/12/2025 09:49:29	チャンネルJ02	ビデオロス	LC-#P4P-9310T
10	23/12/2025 09:49:23	チャンネルJ01	ラインクロス	LC-#P88-5810
11	23/12/2025 09:49:02	チャンネルJ02	ビデオロス	LC-#P4P-9310T
12	23/12/2025 09:48:36	チャンネルJ01	ラインクロス	LC-#P88-5810
13	23/12/2025 09:48:10	-----	-----	-----

ステップ 2：カレンダーから検索開始時刻と検索終了時刻を設定します。

ステップ 3：ドロップダウンリストからイベントの種類を選択します。

**ステップ 4 :**「検索」をクリックしてログ情報を取得します。

**ステップ 5 :**「エクスポート」をクリックしてイベントログをエクスポートします。

## 8.7.6 メンテナンス

### 8.7.6.1 メンテナンス

#### 手順

**ステップ 1 :**システム設定画面で、「システム」>「メンテナンス」を選択し、メンテナンスインターフェースにアクセスします(図 8-93 を参照)。

図 8-93 メンテナンスインターフェース



**ステップ 2 :**「再起動」をクリックします。ポップアップメッセージが表示されたら、「OK」をクリックして再起動します。

**ステップ 3 :**「FW アップデート」をクリックします。特定の場所から更新したいファイルを選択します。

**ステップ 4 :**「リセット」をクリックすると、 ポップアップメッセージが表示され、「OK」をクリックしてリセットします。

### 8.7.6.2 クラウドアップデート

デバイスがオンラインで、クラウドサーバーに最新のソフトウェアがある場合は、「最新バージョンを確認」をクリックして最新のソフトウェアを確認し、「更新」をクリックして更新を開始します。

ユーザーは毎週同じ時間に自動チェックを設定できます。

# 現在この機能は使えません



## 8.7.7 自動再起動

#### 手順

**ステップ 1 :**「システム設定」画面で、「システム」>「自動再起動」を選択して自動再起動にアクセスし、図 8-95 に示す画面のように自動再起動を有効にします。

図 8-95 自動再起動



**ステップ 2 :** ドロップダウンリストから再起動時間の種類を選択します。

**ステップ 3 :** 「適用」をクリックして設定を保存します。  をクリックすると前の設定に戻ります。

## 9 HDD の互換性

下記の HDD は当社でテストおよび認定されています。

表 9-1 HDD 仕様

HDD	タイプ	モデル	容量	プラットフォームの検証
WD (Western Digital)	Monitoring-grade	WD221PURP	22TB	All platform
		WD10EJRX	1TB	
		WD30PURZ	3TB	
		WD20EJRX	2TB	
		WD121EJRX	12TB	
		WD82EJRX	8TB	
		WD60PURX	6TB	
		WD30PURX	3TB	
		WD40EJRX	4TB	
		WD10EZEX	1TB	
		WD30EURS	3TB	
		WD20EURS	2TB	
		WD40PURX	4TB	
		WD30EJRX	3TB	
		WD84EJRX	8TB	
		WD102EJRX	10TB	
		WD180EJRX	18TB	
		WD23PURZ	2TB	
		WD64PURZ	6TB	
		WD85PURZ	8TB	
		WD11PURZ	1TB	
		WD43PURZ	4TB	
		WD10PURZ	1TB	
		WD40PURZ	4TB	
		WD22PURZ	2TB	

			WD63PURZ	6TB
			WD84PURZ	8TB
			WD101PURP	10TB
Seagate	Monitoring-grade	ST3000VX010	3TB	
		ST2000VX008	2TB	
		ST4000VX000	4TB	
		ST8000VX0002	8TB	
		ST31000528AS	1TB	
		ST2000VX000	2TB	
		ST6000VX0001	6TB	
		ST1000VM002	1TB	
		ST1000VX005	1TB	
		ST2000VM005	3TB	
		ST3000VM006	3TB	
		ST3000VX009	3TB	
		ST4000VM004	4TB	
		ST4000VX007	4TB	
		ST8000VX004	4TB	
		ST10000VE0008	10TB	
Toshiba	Monitoring level grade	DT02ABA600VH	6TB	
		DT02ABA400V	4TB	
		HDKJB01QAA01	1TB	
		DT01ABA100V	1TB	
		HDWT720	2TB	
		HDWT860	4TB	
WD (Western Digital)	Enterprise-grade	WUS721010ALE6L4	10TB	
		HUS728T8TALE6L4	8TB	
		HUS722T2TALA604	2TB	
		HUS726T4TALEL	4TB	
Seagate	Enterprise-grade	ST2000NM000B	2TB	
		ST4000NM024B	4TB	
		ST8000NM017B	8TB	

	ST8000NM000A	8TB	
	ST10000NM017B	10TB	
	WUH721816ALE6L4	16TB	

1 時間あたりのチャンネルあたりのビデオ録画サイズ = ビットレート (kbps) \* 3600 / 1200 / 8 (M)

録画時間 = HDD の総容量 (M) / 1 時間あたりのチャンネルあたりのビデオ録画サイズ / チャンネル数 (H)